

航空保安大学校（本校）

Aeronautical Safety College

令和 2 年度 研修細目

Syllabuses 2020

本科

運航情報基礎

管制技術基礎

システム専門官基礎

管制官課程

令和 2 年 3 月 3 0 日制定

令和 2 年 4 月 1 日発行

国土交通省

航空保安大学校

目次

改正事項・理由・新旧比較

I. コース概要

II. 使用教科書一覧

III. カリキュラム一覧

IV. 研修内容

※ それぞれの項目は以下の順序で構成される。

1. 航空情報科 1 学年（5 2 期）
2. 航空情報科 2 学年（5 1 期）
3. 航空管制運航情報職員基礎研修（第 1 4 回 前期）
4. 航空管制運航情報職員基礎研修（第 1 3 回 後期）
5. 航空電子科 1 学年（5 2 期）
6. 航空電子科 2 学年（5 1 期）
7. 航空管制技術職員基礎研修
8. システム専門官基礎研修
9. 航空管制官基礎研修（1 3 2 期、1 3 3 期、1 3 4 期）

改正事項・理由・新旧比較

改正事項・理由・新旧比較

アンダーライン：改正部分

	旧 時限数	新 時限数	時限数 増減	内容	講師	教科書	実施 時期	備考（属性）
◇ 航空情報科								
1. 航空情報科1年生（52期）								
◆ 学科 / 専門科目								
1 ハードウェア概論 科目見直し	12.0	0.0	-12.0	廃止				
2 ソフトウェア概論 科目見直し	12.0	0.0	-12.0	廃止				
3 ITインフラ概論 科目見直し（ハードウェア概論・ソフトウェア概論）	0.0	24.0	24.0	新設				
4 情報システム概論 教科書見直し	21.0	21.0	0.0	変更				
5 運航情報基礎学1 教科書及び要点見直し	20.0	20.0	0.0	変更				
6 運航監視論 実績に基づき授業項目・要点構成を見直し。	12.0	12.0	0.0	変更				
7 航空通信業務論1 到達目標の表現および要点構成と時限数の見直し。	15.0	15.0	0.0	変更				
8 飛行場情報業務論 教科書名変更。	16.0	16.0	0.0	変更				
9 対空援助論1 到達目標の表現見直し	16.0	16.0	0.0	変更				
10 航空気象通報式 教科書、到達目標の表現見直し	30.0	30.0	0.0	変更				
11 航空灯火電気施設業務概論 誤記修正。	9.0	9.0	0.0	変更				
12 公務員教養 校内統一方針に基づき授業項目・要点構成と時限数見直し。	50.8	49.7	-1.1	変更				
13 科目演習 実績に基づき計画を見直し	45.0	46.0	1.0	変更				
学科 / 専門科目_小計	258.8	258.7	-0.1					
◆ 実技 / 情報実習								
14 運航情報基礎演習 科目見直し	20.0	0.0	-20.0	変更				
15 航空気象通報式演習 科目見直し	10.0	0.0	-10.0	変更				
16 運航援助演習1 科目見直し（運航情報基礎演習＋航空気象通報式演習）	0.0	30.0	30.0	変更				
実技_小計	30.0	30.0	0.0					
学科_実技_合計	288.8	288.7	-0.1					

改正事項・理由・新旧比較

アンダーライン：改正部分								
	旧 時限数	新 時限数	時限数 増減	内容	講師	教科書	実施 時期	備考（属性）
2. 航空情報科2年生（51期）								
◆ 学科 / 専門科目								
1 運航情報基礎学2	28.0	20.0	-8.0	変更				
授業項目として対空にかかる時限数を減じ、対空論2と業務英語に振り分け及び要点構成追記。								
2 許認可論	16.0	16.0	0.0	変更				
要点の表現見直し。								
3 危機管理論1	12.0	12.0	0.0	変更				
到達目標の表現および実績に基づき授業項目・要点構成見直し。								
4 危機管理論2	8.0	8.0	0.0	変更				
実績に基づき授業項目・要点構成見直し。								
5 航空通信業務論2	12.0	12.0	0.0	変更				
到達目標の表現見直し。								
6 飛行場情報業務論	38.0	38.0	0.0	変更				
教科書名変更。								
7 対空援助論2	17.0	19.0	2.0	変更				
教科書見直し。基礎学2から対空にかかる項目の時限数を移行。								
8 対空援助論3	8.0	8.0	0.0	変更				
教科書見直し。								
9 計器進入方式	12.0	12.0	0.0	変更				
到達目標の表現及び実績に基づき授業項目・要点構成を見直す。								
10 業務用英語	12.0	18.0	6.0	変更				
基礎学2から対空にかかる項目の時限数を移行。								
11 安全（SMS）	6.0	6.0	0.0	変更				
教科書見直し。								
12 公務員教養	74.0	78.2	4.2	変更				
校内統一方針に基づき授業項目・要点構成見直し。								
13 科目演習	52.0	48.0	-4.0	変更				
実績に基づき計画を見直し。								
学科 / 専門科目_小計	295.0	295.2	0.2					
◆ 実技 / 情報実習								
14 運航援助演習	80.0	0.0	-80.0	変更				
科目名見直し（運航援助演習2へ）。								
15 運航援助演習2	0.0	84.0	84.0	変更				
運航援助演習にATIS履修のための時間を増やし、科目名見直し。								
16 飛行場対空援助演習	80.0	60.0	-20.0	変更				
他飛行場援助演習切り出しのため到達目標、授業項目・要点構成見直し。								
17 他飛行場援助演習	0.0	20.0	20.0	新設				
飛行場対空援助演習から科目を新設し時限数を移行。								
18 総合実習	34.0	30.0	-4.0	変更				
実習内容を見直し時限数見直し。								
実技 / 情報実習_小計	194.0	194.0	0.0					
学科_実技_合計	489.0	489.2	0.2					

改正事項・理由・新旧比較

アンダーライン：改正部分

	旧 時限数	新 時限数	時限数 増減	内容	講師	教科書	実施 時期	備考（属性）
◇ 航空情報科								
3. 航空管制運航情報職員基礎研修（第14回 前期）								
◆ 学科 / 専門科目								
1 運航監視論 実績に基づき授業項目・要点構成を見直し。	12.0	12.0	0.0	変更				
2 危機管理論1 到達目標の表現および実績に基づき授業項目・要点構成見直し。	12.0	12.0	0.0	変更				
3 航空気象通報式1 教科書見直し。	12.0	12.0	0.0	変更				
4 運航情報業務概論2 教科書見直し。	6.0	6.0	0.0	変更				
学科 / 専門科目_小計	42.0	42.0	0.0					
◆ 実技 / 運航情報実習								
6 データ通信操作演習1 実績に基づき時限数見直し。	10.0	6.0	-4.0	変更				
7 運航情報基礎演習 運航援助演習に時限数移行。	6.0	0.0	-6.0	変更				
8 運航援助演習 運基演から時限数を移行し、到達目標及び授業項目と要点を見直し、ATISの内容を加えた。	45.0	55.0	10.0	変更				
実技 / 運航情報実習_小計	61.0	61.0	0.0					
学科_実技_合計	103.0	103.0	0.0					

改正事項・理由・新旧比較

アンダーライン：改正部分

	旧 時限数	新 時限数	時限数 増減	内容	講師	教科書	実施 時期	備考（属性）
4. 航空管制運航情報職員基礎研修（第13回 後期）								
◆ 学科 / 専門科目								
1 危機管理論2 実績に基づき授業項目・要点構成見直し。	8.0	8.0	0.0	変更				
2 対空援助論2 対空の履修強化のため新設。	0.0	8.0	8.0	新設				
3 業務用英語 研修内容を見直し、時限数を変更。	32.0	24.0	-8.0	変更				
学科 / 専門科目_小計	40.0	40.0	0.0					
◆ 実技 / 運航情報実習								
4 データ通信2 実績に基づき時限数見直し	10.0	<u>6.0</u>	-4.0	変更				
5 飛行場対空援助演習 他飛行場援助演習切り出しのため到達目標、授業項目・要点構成見直し。	63.0	49.0	-14.0	変更				
6 他飛行場援助演習 飛行場対空援助演習から科目を新設し時限数を移行。	0.0	14.0	14.0	変更				
7 科目演習 研修内容を見直し、スポット端末操作強化のため時限数を増加。	13.0	17.0	4.0	変更				
実技 / ○○実習_小計	86.0	86.0	0.0					
学科_実技_合計	126.0	126.0	0.0					

改正事項・理由・新旧比較

アンダーライン：改正部分								
	旧 時限数	新 時限数	時限数 増減	内容	講師	教科書	実施 時期	備考（属性）
◇ 航空電子科								
5. 航空電子科1年生（52期）								
◆ 学科 / 一般教養科目								
1 社会教養 一般教養強化のため科目を新設	0.0	12.0	12.0	新規				
2 数学 社会教養新設のための時限数確保	36.0	30.0	-6.0	変更				
3 物理学 社会教養新設のための時限数確保	36.0	30.0	-6.0	変更				
学科 / 一般教養科目_小計	72.0	72.0	0.0					
◆ 学科 / 専門科目								
4 校務情報システム概論 Word/PowerPoint演習内容を強化	8.0	14.0	6.0	変更				
5 応用数学 数学の時限数減による調整	27.0	33.0	6.0	変更				
6 物理学Ⅱ 物理学の時限数減による調整	0.0	6.0	6.0	新規				
7 公務員教養 授業内要の見直し	49.8	49.7	-0.1	変更				
8 科目演習（学科） 授業内要の見直し	62.3	49.0	-13.3	変更				
学科 / 専門科目_小計	147.1	151.7	4.6					
◆ 実技 / 電子実習								
9 情報リテラシー 教科書の見直し	11.0	11.0	0.0			一部削除		
実技 / 電子実習_小計	11.0	11.0	0.0					
学科_実技_合計	230.1	234.7	4.6					
学科_実技_合計（時間）	383.5	391.2	7.7					

改正事項・理由・新旧比較

アンダーライン：改正部分								
	旧 時限数	新 時限数	時限数 増減	内容	講師	教科書	実施 時期	備考（属性）
6. 航空電子科2年生（51期）								
◆ 学科 / 外国語科目								
1 英語RⅡ 授業内容・教科書の追加	30.0	30.0	0.0	変更		追加		
学科 / 外国語科目_小計	30.0	30.0	0.0					
◆ 学科 / 専門科目								
2 無線機器学 1年次2年次の時限数配分を変更	67.0	43.0	-24.0	変更				全時限数91時限は変更なし
3 空中線理論及び電波伝搬 1年次から2年次への渡り科目へ変更	0.0	47.0	47.0	新規				全時限数87時限は変更なし
4 無線工学演習Ⅱ（工学A・B） 演習に工学Bの内容を追加	15.0	30.0	15.0	変更				旧科目名：無線工学演習Ⅱ（工学A）
5 コンピュータシステム基礎Ⅱ 2年次から1年次の科目へ	22.0	0.0	-22.0	削除				
6 情報処理ネットワーク理論・演習 教科書を追加	28.0	28.0	0.0			追加		
7 航空機概論 2年次から1年次の科目へ	18.0	0.0	-18.0	削除				
8 航空衛星システム概論 カリキュラム移行期年度終了に伴う科目の復帰	0.0	10.0	10.0	新規				
9 公務員教養 授業内容の見直し	67.7	67.6	-0.1	変更				
10 科目演習（学科） 授業内容内要の見直し	28.0	24.0	-4.0	変更				
学科 / 専門科目_小計	245.7	249.6	3.9					
学科_実技_合計	275.7	279.6	3.9					
学科_実技_合計（時間）	459.5	466.0	6.5					

改正事項・理由・新旧比較

アンダーライン：改正部分

	旧 時限数	新 時限数	時限数 増減	内容	講師	教科書	実施 時期	備考（属性）
◇ 航空電子科								
7. 航空管制技術職員基礎研修								
◆ 学科 / 専門科目								
1 航空無線概論 授業内容の見直し	13.0	12.0	-1.0	変更				
2 管制情報処理システム基礎理論 授業内容の強化	10.0	11.0	1.0	変更				
3 管制技術業務概論 平成31年度大型連休に対応するための5限目の活用廃止	6.1	6.0	-0.1	変更				
4 保健体育 平成31年度大型連休に対応するための5限目の活用廃止	2.0	3.0	1.0	変更				
5 公務員教養 授業内容の見直し	22.7	23.3	0.6	変更				
6 科目演習（学科） 平成31年度大型連休に対応するための5限目の活用廃止	5.6	9.4	3.8	変更				
学科 / 専門科目_小計	59.4	64.7	5.3					
◆ 実技 / 管制技術実習								
7 情報処理装置実技 教科書の追加	5.0	5.0	0.0			追加		
9 科目演習（実技） 平成31年度大型連休に対応するための5限目の活用廃止	4.1	4.4	0.3	変更				
実技 / 管制技術実習_小計	9.1	9.4	0.3					
学科_実技_合計	68.5	74.1	5.6					
学科_実技_合計（時間）	114.2	123.5	9.3					

改正事項・理由・新旧比較

アンダーライン：改正部分								
	旧 時限数	新 時限数	時限数 増減	内容	講師	教科書	実施 時期	備考（属性）
◇ 航空電子科								
8. システム専門官基礎研修								
◆ 学科 / 専門科目								
1 情報学概論 要点構成見直し	18.0	18.0	0.0	変更				
2 確率・統計概論 要点構成見直し	18.0	18.0	0.0	変更				
3 OSコマンドラインプログラミング 要点構成見直し	8.0	8.0	0.0	変更				
4 リレーショナルデータベース概論 教科書の変更	18.0	18.0	0.0	変更		変更		
5 システム機能設計 位置づけおよび受講の前提条件の表現見直し	14.0	14.0	0.0	変更				
6 システム実装設計 受講の前提条件の表現見直し	14.0	14.0	0.0	変更				
7 業務分析手法の基礎 受講の前提条件の表現見直し	28.0	28.0	0.0	変更				
8 知的財産権の法律と実務 受講の前提条件の表現見直し	12.0	12.0	0.0	変更				
9 情報セキュリティ概論 教科書最新版に変更および受講の前提条件の表現見直し	12.0	12.0	0.0	変更				
10 システム開発プロジェクト基礎 要点構成見直し	22.0	22.0	0.0	変更				
11 プロジェクトマネジメント理論 受講の前提条件および要点構成見直し	20.0	20.0	0.0	変更				
12 システム開発マネジメント 受講の前提条件、到達目標および要点構成見直し	20.0	20.0	0.0	変更				
13 ネットワーク理論 要点構成見直し	32.0	32.0	0.0	変更				
14 ソフトウェア工学 到達目標および要点構成見直し	16.0	16.0	0.0	変更				
15 システム運用方法論 要点構成見直し	10.0	10.0	0.0	変更				
16 運航情報業務論 使用教室及び使用機材等追加、受講の前提条件見直し	14.0	14.0	0.0	変更				
17 航空管制業務論 教科書の変更、使用教室及び使用機材等追加、受講の前提条件見直し	14.0	14.0	0.0	変更		変更		
18 管制情報処理システム概論 教科書の変更	16.0	16.0	0.0	変更		変更		
19 管制情報処理システム研究 教科書の変更	30.0	30.0	0.0	変更		変更		
20 先端システム工学 到達目標表現見直し	14.0	14.0	0.0	変更				
学科 / 一般教養科目_小計	350.0	350.0	0.0					
◆ 実技 / 専門科目								
21 プログラム開発基礎演習 教科書の追加	18.0	18.0	0.0			追加		
22 C言語プログラミング演習 到達目標および要点構成見直し	12.0	12.0	0.0	変更				
23 オブジェクト指向プログラミング演習 到達目標および要点構成見直し	12.0	12.0	0.0	変更				
24 航空交通管制情報処理システム開発演習 受講の前提条件および要点構成見直し	30.0	30.0	0.0	変更				
学科 / 専門科目_小計	72.0	72.0	0.0					
学科_実技_合計	422.0	422.0	0.0					
学科_実技_合計（時間）	703.3	703.3	0.0					

改正事項・理由・新旧比較

アンダーライン：改正部分								
	旧 時限数	新 時限数	時限数 増減	内容	講師	教科書	実施 時期	備考（属性）
◇ 航空管制科								
1. 航空管制官課程 132期、133期、134期								
◆ 学科 / 外国語科目								
1 実用英語 位置づけ、到達目標修正	8.0	8.0	0.0	変更				
2 航空英語 到達目標修正	30.0	30.0	0.0	変更				
学科 / 一般教養科目_小計	38.0	38.0	0.0					
◆ 学科 / 専門科目								
3 航空交通業務概論	7.0	7.0	0.0					
4 航空管制概論 教科書追加	8.0	8.0	0.0	変更				
5 飛行場管制論 TAPS操作のため	28.0	28.0	0.0	変更				
6 進入管制論 教科書表記統一	28.0	28.0	0.0	変更				
7 ターミナル・レーダー管制論 教科書表記統一	28.0	28.0	0.0	変更				
8 航空路管制論 新システム対応のため時間増	28.0	30.0	2.0	追加				
9 国際航空法規 到達目標表記変更	10.0	10.0	0.0	変更				
10 国内航空法規 授業項目順序等変更	13.0	13.0	0.0	変更				
11 航空気象通報式 前提条件と到達目標の記入位置修正	8.0	8.0	0.0	修正				
12 航空レーダー概論 授業内容の見直しにより、時間短縮	7.0	6.0	-1.0	修正				
13 管制システム概論 使用教室、機材等追加	5.0	5.0	0.0	追加				
14 空域・経路・航空情報概論 空域・経路概論と航空情報概論を統合して時間配分の見直し	5.0	9.0	4.0	修正				
15 ATM概論 評価追加	5.0	5.0	0.0	追加				
16 空域・経路概論 空域・経路概論と航空情報概論を統合のため廃止	5.0	0.0	-5.0	統合				
17 TRM基礎	8.0	8.0	0.0					
18 SMS	4.0	4.0	0.0					
19 運航情報業務概論	6.0	6.0	0.0					
20 航空無線施設概論	8.0	8.0	0.0					
21 航空灯火電気施設業務概論 時限数見直し、変更	6.0	6.0	0.0	修正				
22 ヒューマンファクター	6.0	6.0	0.0					
23 航空機概論	12.0	12.0	0.0					
24 航空航法	9.0	9.0	0.0					
25 航空気象学	9.0	9.0	0.0					
26 保健体育	8.0	8.0	0.0					
27 電波法規	15.0	15.0	0.0					
28 無線工学	14.0	14.0	0.0					
29 科目演習（学科） 消火防災訓練を公務員教養より移動	24.0	26.0	2.0	追加				

改正事項・理由・新旧比較

アンダーライン：改正部分								
	旧 時限数	新 時限数	時限数 増減	内容	講師	教科書	実施 時期	備考（属性）
30 公務員教養 消火防災訓練を科目演習（学科）へ移動、特別講義時限減のため	43.3	40.3	-3.0	修正				
学科 / 専門科目_小計	357.3	356.3	-1.0					
◆ 実技 / 管制実習								
31 飛行管制方式 要点の順番変更	52.0	52.0	0.0	変更				
32 進入管制方式 表記の変更	30.0	30.0	0.0	変更				
33 ターミナルレーダー管制方式 教科書表記統一	50.0	50.0	0.0	変更				
34 航空路管制方式 教科書表記統一	52.0	52.0	0.0	変更				
35 電気通信術 文言統一	2.0	2.0	0.0	修正				
36 総合実習 教科書表記統一	25.0	25.0	0.0	変更				
37 科目演習（実技）	8.0	8.0	0.0					
実技 / 管制実習_小計	219.0	219.0	0.0					
学科_実技_合計	614.3	613.3	-1.0					
学科_実技_合計（時間）	1023.8	1022.2	-1.7					

I . コース概要

1. 航空情報科1学年(52期)コース概要 / 2. 航空情報科2学年(51期)コース概要

本科(航空情報科)

コース名称	略称	研修時間数	科目の種類 ※数字は時間数				
1学年(52期)	情1	1,560時間 (1年)	一般教養 195	外国語 180	保健体育 45	専門科目 1,027	情報実習 113
2学年(51期)	情2	1,560時間 (1年)	一般教養 -	外国語 180	保健体育 45	専門科目 822	情報実習 513
コース目的							
航空保安業務に携わる国家公務員(国土交通技官)として、自立して業務を遂行するために必要な行政の基礎及び教養を身につける。 2年間で、航空保安職員として必要な教養及び運航情報業務及び管制通信業務に係る基礎知識・技術等を修得し、その後の専門研修が円滑に実施できるレベルに到達する。							
修了時の到達目標							
○運航情報業務 【運航援助業務】 ・運航監視を行いながら、飛行計画の受理・審査及びATS通報を取り扱うことができる。捜索救難やイレギュラー運航発生時に、初期対応を行える。 ・航空情報の解説、整理、提供ができる。また、簡易な内容の航空情報発行依頼及び発行処理ができる。 ・受信した気象情報をもとにATIS情報を作成することができる。また、ATIS情報を口頭で提供することができる。 【飛行場情報業務】 ・航空機の駐機スポットアサインを行える。制限区域内で事案が発生した時の対応を説明できる。制限表面の作図を行い、障害物の判定ができる。 【対空援助業務】 ・飛行場対空援助局及び他飛行場援助局(2サイト1卓)において同時に存在する着陸・出発・通過のいずれか3機に対し、基本的な情報提供及び管制通報の中継を行える。 ・広域対空援助局において、航空機からの位置通報及び到着時刻の通報、民間訓練試験空域の使用に関する通報、気象情報に係る基本的な内容の通信を取扱うことができる。 ○管制通信業務(国際対空通信業務) ・国際対空通信局において、航空機の位置通報、管制通報、気象情報に係る基本的な内容の通信を取り扱うことができる。							
取得する資格等							
航空無線通信士 (在学中の受験により取得) ※1年次に【無線従事者養成課程(航空無線通信士)】を含む 航空管制運航情報職員基礎試験合格証明書 (2学年修了時に取得) 航空交通管制通信職員基礎試験合格証明書 (2学年修了時に取得)							

3. 航空管制運航情報職員基礎研修(第14回前期)コース概要

航空管制運航情報職員基礎研修(前期)

コース名称	略称	研修時間数	科目の種類 ※数字は時間数				
航空管制運航情報職員 基礎研修 第14回 前期	情前	520時間 (3ヶ月)	一般教養	外国語	保健体育	専門科目	運航情報実習
			-	60	-	310	150
コース目的							
航空保安業務に携わる国家公務員(国土交通技官)として、自立して業務を遂行するために必要な行政の基礎及び教養を修得する。 3ヶ月で、航空保安職員として必要な教養及び運航情報業務のうち運航援助業務に係る基礎知識・技術等を修得し、その後の専門研修が円滑に実施できるレベルに到達する。							
修了時の到達目標							
○運航情報業務 【運航援助業務】 ・運航監視を行いながら、飛行計画の受理・審査及びATS通報を取り扱うことができる。搜索救難やイレギュラー運航発生時に、初期対応を行える。 ・航空情報の解説、整理、提供ができる。また、簡易な内容の航空情報発行依頼及び発行処理ができる。 ・受信した気象情報をもとにATIS情報を作成することができる。また、ATIS情報を口頭で提供することができる。							
取得する資格等							
航空管制運航情報職員基礎試験合格証明書（修了時に取得） 注:運航援助業務に係る部分のみ							

4. 航空管制運航情報職員基礎研修(第13回後期)コース概要

航空管制運航情報職員基礎研修(後期)

コース名称	略称	研修時間数	科目の種類 ※数字は時間数				
航空管制運航情報職員 基礎研修 第13回 後期	情後	845時間 (4ヶ月)	一般教養	外国語	保健体育	専門科目	情報実習
			-	90	-	535	220
コース目的							
航空保安業務に携わる国家公務員(国土交通技官)として、自立して業務を遂行するために必要な行政の基礎及び教養を修得する。 7ヶ月で、航空保安職員として必要な教養及び運航情報業務のうち対空援助業務に係る基礎知識・技術等を修得し、その後の専門研修が円滑に実施できるレベルに到達する。							
修了時の到達目標							
○運航情報業務 【対空援助業務】 ・飛行場対空援助局及び他飛行場援助局(2サイト1卓)において同時に存在する着陸・出発・通過のいずれか3機に対し、基本的な情報提供及び管制通報の中継を行える。 広域対空援助局において、航空機からの位置通報及び到着時刻の通報、民間訓練試験空域の使用に関する通報、気象情報に係る基本的な内容の通信を取扱うことができる。							
取得する資格等							
航空管制運航情報職員基礎試験合格証明書 (修了時に取得)							

5. 航空電子科1学年（52期）コース概要／6. 航空電子科2学年（51期）コース概要

本科(航空電子科)

コース名称	略称	研修時間数	科目の種類 ※数字は時間数				
1学年(52期)	電1	1,560時間 (1年)	一般教養 195	外国語 135	保健体育 45	専門科目 1,030	電子実習 155
2学年(51期)	電2	1,560時間 (1年)	一般教養 -	外国語 140	保健体育 45	専門科目 1,085	電子実習 290
コース目的							
航空保安業務に携わる国家公務員(国土交通技官)として、自立して業務を遂行するために必要な行政の基礎及び教養を修得する。 2年間で、航空保安職員として必要な教養及びシステム管理業務及び航空保安無線施設等の技術的操作業務に係る基礎知識・技術等を修得し、その後の専門研修が円滑に実施できるレベルに到達する							
修了時の到達目標							
○航空管制技術業務 ・航空管制技術官の業務を理解し、説明できる。 ・航空管制情報処理システムの仕組み、およびその運用を理解し、説明できる。 ○システム管理業務 及び 航空保安無線施設等の技術的操作業務 ・航空管制サービスに必要な情報処理システムを安全に維持するために必要な知識、技能の基礎、および心構えを身につける。 ・航空管制技術官の所掌する航空通信装置・航法装置・監視装置について、原理や装置構成及び機能を説明することができる。 ・手順書を確認しながら各装置の基本的な操作及び点検ができる。 ・各装置の操作及び点検結果から、それら装置の状態を把握できる。 ・各操作及び点検が運用に与える影響について説明することができる。							
取得する資格等							
第二級陸上無線技術士（在学中の受験により取得）必須 第一級陸上無線技術士（在学中の受験により取得） 航空管制技術職員基礎試験合格証明書（2学年修了時に取得）							

7. 航空管制技術職員基礎研修 コース概要

航空管制技術職員基礎研修

コース名称	略称	研修時間数	科目の種類 ※数字は時間数				
航空管制技術職員 基礎研修	技基	388時間 (3ヶ月)	一般教養 －	外国語 －	保健体育 －	専門科目 258	管制技術実習 130
コース目的							
航空保安業務に携わる国家公務員(国土交通技官)として、自立して業務を遂行するために必要な行政の基礎及び教養を修得する。 3ヶ月で、航空保安職員として必要な教養及びシステム管理業務及び航空保安無線施設等の技術的操作業務に係る基礎知識・技術等を修得し、その後の専門研修が円滑に実施できるレベルに到達する							
修了時の到達目標							
○航空管制技術業務 ・航空管制技術官の業務の概要を理解し、説明できる。 ・航空管制情報処理システムの概要を理解し、説明できる。 ○システム管理業務 及び 航空保安無線施設等の技術的操作業務 ・航空管制サービスに必要な情報処理システムの基礎知識を身につける。 ・航空管制技術官の所掌する航空通信装置・航法装置・監視装置について、装置構成及び機能の概要を説明することができる。 ・手順書を確認しながら各装置の基本的な操作及び点検ができる。 ・各装置の操作及び点検結果から、それら装置の状態を把握できる。 ・各操作及び点検が運用に与える影響について説明することができる。							
取得する資格等							
航空交通管制技術職員基礎試験合格証明書（修了時に取得）							

8. システム専門官基礎研修 コース概要

システム専門官基礎研修

コース名称	略称	研修時間数	科目の種類 ※数字は時間数				
システム専門官 基礎研修	シ専	1,125時間 (9ヶ月)	一般教養 －	外国語 －	保健体育 －	専門科目 905	情報処理実習 220
コース目的							
航空保安業務に携わる国家公務員(国土交通技官)として、自立して業務を遂行するために必要な行政の基礎及び教養を修得する。 9ヶ月で、航空保安業務における航空交通管制情報処理システム関連の企画、立案、開発、維持に関する技術面、運用面のテクニカルスキル・コンセプチュアルスキル・ヒューマンスキルに係る基礎知識を習得する。							
修了時の到達目標							
○システム企画・開発業務およびシステム関連業務 当該業務共通のコンピテンシーである、学科「航空業務安全学」および実技「航空交通管制情報処理システム開発演習」の到達目標を達成する 【航空業務安全学】 事故やインシデントに対し、ヒューマンファクターの見地から、安全についての取り組む姿勢を育み、また日常の業務の積み重ねにより安全を醸成していくことを理解し説明できる。 【航空交通管制情報処理システム開発演習】 各開発工程で必要なプロジェクトマネジメントを行い、成果物の納入、納入過程についての説明ができる。							
取得する資格等							
航空交通管制情報処理システム基礎試験合格証明書（修了時に取得）							

9. 航空管制官基礎研修(132期、133期、134期)コース概要

管制官課程

コース名称	略称	研修時間数	科目の種類 ※数字は時間数				
航空管制官基礎研修 (132期、133期、134期)	管制	1,020時間 (8ヶ月)	一般教養 -	外国語 63	保健体育 -	専門科目 594	管制実習 363
コース目的							
航空保安業務に携わる国家公務員(国土交通技官)として、自立して業務を遂行するために必要な行政の基礎及び教養を修得する。 8ヶ月で、航空保安職員として必要な教養及び航空管制業務に係る基礎知識・技術等を修得し、その後の専門研修が円滑に実施できるレベルに到達する							
修了時の到達目標							
○航空管制業務 【飛行場管制業務】 ・管制圏を飛行する出発機と到着機に対し、後方乱気流管制方式を適用して管制できる。さらに、関連機の交通情報を提供できる。 【進入管制業務】 ・進入管制区を飛行するIFR出発機と、進入管制区に高度逆順で入域する複数のIFR到着機を、レーダーを使用せずに、中間待機経路を使用して管制できる。 【ターミナル・レーダー管制業務】 ・進入管制区を飛行する出発機と到着機を、レーダーを使用して管制できる。 【航空路管制業務】 ・巡航機、到着機、出発機に対し、レーダーを使用して管制できる。出発機に対し、管制承認を発出できる。							
取得する資格等							
航空無線通信士（在学中の受験により取得）※【無線従事者養成課程(航空無線通信士)】を含む 航空交通管制職員基礎試験合格証明書（修了時に取得）							

II. 使用教科書一覽

1. 航空情報科 1 年生（5 2 期）

（教科書一覧表）

科 目	使 用 教 科 書	出 版 社 等	形態
心理学	図説教養心理学	ナカニシヤ出版	貸与
法 学	現代法学入門	有斐閣	貸与
	行政法	有斐閣	貸与
	民事法入門	有斐閣	貸与
	デイリー六法	三省堂	貸与
数 学	科学技術者のための基礎数学	裳華房	貸与
	統計学入門	コピー	支給
物理学	科学者と技術者のための物理学 I A	学術図書出版社	貸与
社会教養			資料配付
英語 A 1（情報）	AVIATION ENGLISH	コピー	支給
英語 B（情報）	Journey to Success Departing for a Higher Score on the TOEIC Test	桐原書店	貸与
英会話 C 1	ENGLISH CONVERSATION (GRADE1)	コピー	支給
	WORLD VIEW 3	ピアソンロングマン	貸与
英会話 L 1	ENGLISH CONVERSATION (GRADE1)	コピー	支給
英会話 S 1	ENGLISH CONVERSATION (GRADE1)	コピー	支給
航空航法	百万分の一航空路図	日本水路協会	都度貸出
航空気象学	世界で一番わかりやすい航空気象	成山堂書店	貸与
航空機概論	航空実用ハンドブック	朝日ソノラマ	貸与
ITインフラ概論	いちばんやさしいITパスポート絶対合格の教科書	SBクリエイティブ株式会社	貸与
	絵で見てわかるITインフラの仕組み	翔泳社	貸与
情報システム概論			資料配付
ヒューマンファクター 1	ヒューマンエラー	丸善(株)	貸与
国内航空法規 （航空法）	航空六法	鳳文書林	支給
	A I M－ J	日本航空機操縦士協会	支給
	数字でみる航空	航空振興財団	貸与
国内航空法規 （空港法）	航空六法	鳳文書林	支給
	A I M－ J	日本航空機操縦士協会	支給
	数字でみる航空	航空振興財団	貸与
国際航空法規	I C A O 概論	航空交通管制協会	貸与
電波法規	法規（航空無線通信士）	情報通信振興会	貸与
運航情報業務概論	運航情報業務概論	印刷	支給
	航空六法	鳳文書林	支給
	航空保安業務の概要	印刷	支給
運航情報基礎学 1	航空保安業務処理規程 第 1	印刷	支給
飛行計画論	航空保安業務処理規程 第 4	印刷	支給
	航空六法	鳳文書林	支給
	E N R C 1－ 2、 3	航空振興財団	貸与
運航監視論	航空保安業務処理規程 第 4	印刷	支給
	航空六法	鳳文書林	支給
	航空保安業務の概要	印刷	支給
航空通信業務論 1	航空保安業務処理規程 第 4	印刷	支給
	運航情報業務概論	印刷	支給
	航空保安業務の概要	印刷	支給

1. 航空情報科 1 年生（5 2 期）

（教科書一覧表）

科 目	使 用 教 科 書	出 版 社 等	形態
航空情報業務論	航空保安業務処理規程 第 4 第 4 の 2	印刷	支給
	運航情報業務概論	印刷	支給
	A I M－ J	日本航空機操縦士協会	支給
	A I P J A P A N	コピー	支給
飛行場情報業務論	空港の管理と運用	航空振興財団	貸与
	陸上空港の施設の設置基準・同解説	港湾空港建設技術サービスセンター	貸与
	航空六法	鳳文書林	支給
	A I M－ J	日本航空機操縦士協会	支給
	航空保安業務の概要	印刷	支給
	A I P J A P A N	コピー	支給
対空援助論 1	航空保安業務処理規程 第 4	印刷	支給
	航空六法	鳳文書林	支給
	A I M－ J	日本航空機操縦士協会	支給
航空気象通報式	航空気象通報式（第 3 版）	コピー	支給
	新しい航空気象	日本気象協会	貸与
	世界で一番わかりやすい航空気象	成山堂書店	貸与
	航空保安業務処理規程 第 4	印刷	支給
	航空気象通報式入門	コピー	支給
航空無線通信用英語	英語（航空無線通信士）	情報通信振興会	貸与
航空管制概論	改訂版 航空管制入門	航空交通管制協会	貸与
	航空管制のはなし	成山堂書店	貸与
	E N R C 1－2、3	航空振興財団	貸与
	A I M－ J	日本航空機操縦士協会	支給
無線工学	無線工学（航空無線通信士）	情報通信振興会	貸与
航空無線施設概論	航空電子入門	日本航空技術協会	貸与
	無線工学（航空無線通信士）	情報通信振興会	貸与
	航空保安業務の概要	印刷	支給
航空灯火電気施設業務概論	航空灯火電気施設業務概論	コピー	支給
校務情報システム概論			資料配付
公務員教養			資料配付
情報リテラシ 1	よくわかるMicrosoft Office Word2016基礎	F O M出版	貸与
	よくわかるMicrosoft Office Excel2016基礎	F O M出版	貸与
	よくわかるMicrosoft Office Powerpoint2016	F O M出版	貸与
電気通信術			資料配付
データ通信操作演習			資料配付
運航援助演習 1	航空気象通報式（第 3 版）	コピー	支給
	航空保安業務処理規程 第 4 第 4 の 2	印刷	支給

2. 航空情報科 2 年生 (5 1 期)

(教科書一覧表)

科 目	使 用 教 科 書	出 版 社 等	形態
英語 A 2 (情報)	AVIATION ENGLISH	コピー	支給
英会話 C 2	ENGLISH CONVERSATION (GRADE2)	コピー	支給
	WORLD VIEW 4	ピアソンロングマン	貸与
	SUMMIT 2	ピアソンロングマン	貸与
英会話 L 2	ENGLISH CONVERSATION (GRADE2)	コピー	支給
	WORLD VIEW 4	ピアソンロングマン	貸与
	SUMMIT 2	ピアソンロングマン	貸与
英会話 S 2	ENGLISH CONVERSATION (GRADE2)	コピー	支給
	SUMMIT 2	ピアソンロングマン	貸与
Cプログラミング座学	新訂 新C言語入門 スーパービギナー編	ソフトバンク	貸与
Cプログラミング応用	新訂 新C言語入門 スーパービギナー編	ソフトバンク	貸与
ネットワーク応用	ネットワークの基本が丸ごとわかる本	朝アスキー	貸与
	HTML/XHTML&スタイルシート レッスンブック	ソシム(株)	貸与
ヒューマンファクター 2	ヒューマンエラーの科学	麗澤大学出版	貸与
航空機の運航 1			資料配付
航空機の運航 2			資料配付
航空機の運航 3			資料配付
ヘリコプター概論	航空工学講座 1 1 ヘリコプター	日本航空技術協会	貸与
	図解ヘリコプター入門	日本航空技術協会	貸与
運航情報基礎学 2	航空保安業務処理規程 第 4	印刷	支給
許認可論	航空保安業務処理規程 第 4	印刷	支給
	航空六法	鳳文書林	支給
危機管理論 1	航空保安業務処理規程 第 2 第 2 の 2 第 2 の 3	コピー	支給
	航空六法	鳳文書林	支給
危機管理論 2	航空保安業務処理規程 第 2 第 2 の 2 第 2 の 3	コピー	支給
	航空六法	鳳文書林	支給
航空通信業務論 2	航空保安業務処理規程 第 4	印刷	支給
航空情報運用論	航空保安業務処理規程 第 4 第 4 の 2	印刷	支給
	A I M - J	日本航空機操縦士協会	支給
	A I P J A P A N	コピー	支給
運航監督概論	航空保安業務処理規程 第 4	印刷	支給
	航空六法	鳳文書林	支給
飛行場情報運用論	航空保安業務処理規程 第 4 第 4 の 2 第 1 0 第 1 1	印刷	支給
	陸上空港の施設の設置基準・同解説	港湾空港建設技術サービスセンター	貸与
	航空六法	鳳文書林	支給
対空援助論 2	航空保安業務処理規程 第 4	印刷	支給
	航空保安業務処理規程 第 5	印刷	支給
	飛行場対空援助演習	コピー	支給
対空援助論 3	航空保安業務処理規程 第 4	印刷	支給
管制通信論	航空保安業務処理規程 第 8	コピー	支給

2. 航空情報科 2 年生（5 1 期）

（教科書一覧表）

科 目	使 用 教 科 書	出 版 社 等	形態
計器進入方式	飛行方式設計入門	鳳文書林	貸与
	RNAV方式の設計と原理	鳳文書林	貸与
	ENRC1-2、3	航空振興財団	支給
業務用英語	航空保安業務処理規程 第4	印刷	支給
	航空保安業務処理規程 第5	印刷	支給
	航空保安業務処理規程 第8	印刷	支給
飛行場管制論	航空保安業務処理規程 第5	印刷	支給
	航空六法	鳳文書林	支給
	AIM-J	日本航空機操縦士協会	支給
進入管制論	航空保安業務処理規程 第5	印刷	支給
航空路管制論	航空保安業務処理規程 第5	印刷	支給
レーダー管制論	航空保安業務処理規程 第5	印刷	支給
航空交通管理論	航空保安業務処理規程 第5	印刷	支給
	ENRC1-2、3	航空振興財団	支給
安全（SMS）	航空保安業務安全管理規程	コピー	支給
公務員教養			資料配付
情報リテラシー2	よくわかるMicrosoft Office Access2016基礎	FOM出版	貸与
運航援助演習	航空保安業務処理規程 第4 第4の2	印刷	支給
	航空保安業務処理規程 第2 第2の2	コピー	支給
	航空六法	鳳文書林	支給
	区分航空図 中部近畿（JAPA-504）	日本航空機操縦士協会	支給
	区分航空図 中国四国（JAPA-505）	日本航空機操縦士協会	支給
	区分航空図 九州（JAPA-506）	日本航空機操縦士協会	支給
	ENRC1-2、3	航空振興財団	支給
航空情報演習	航空保安業務処理規程 第4 第4の2	印刷	支給
	AIP JAPAN	コピー	支給
飛行場情報演習	航空保安業務処理規程 第4 第4の2	印刷	支給
	スポット管理システムテキスト	コピー	都度貸出
飛行場対空援助演習	航空保安業務処理規程 第4	印刷	支給
	航空保安業務処理規程 第5	印刷	支給
他飛行場援助演習	航空保安業務処理規程 第4	印刷	支給
	航空保安業務処理規程 第5	印刷	支給
広域対空援助演習	航空保安業務処理規程 第4	印刷	支給
	広域対空援助演習	コピー	支給
	ENRC1-2、3	航空振興財団	支給
	AIM-J	日本航空機操縦士協会	支給
	区分航空図 中部近畿（JAPA-504）	日本航空機操縦士協会	支給
	区分航空図 中国四国（JAPA-505）	日本航空機操縦士協会	支給
管制通信演習	航空保安業務処理規程 第8	コピー	支給

3. 航空管制運航情報職員基礎研修（第14回 前期）

（教科書一覧表）

科 目	使 用 教 科 書	出 版 社 等	形態
英語 1	BASIC ENGLISH	コピー	貸与
	AVIATION ENGLISH	コピー	貸与
航空気象学 1	世界で一番わかりやすい航空気象	成山堂書店	貸与
航空航法 1	百万分の一航空路図	日本水路協会	都度貸出
航空機概論 1			資料配付
国内航空法規 1	航空六法	鳳文書林	支給
	A I M－J	日本航空機操縦士協会	支給
	数字で見る航空	航空振興財団	貸与
国際航空法規 1	I C A O 概論	航空交通管制協会	貸与
飛行計画論	航空保安業務処理規程 第4	印刷	支給
	航空六法	鳳文書林	支給
	E R C 1－2、3	航空振興財団	支給
運航監視論	航空保安業務処理規程 第4	印刷	支給
	航空六法	鳳文書林	支給
	航空保安業務の概要	印刷	支給
危機管理論 1	航空保安業務処理規程 第2 第2の2 第2の3	コピー	支給
	航空六法	鳳文書林	支給
航空通信業務論 1	航空保安業務処理規程 第4	印刷	支給
	運航情報業務概論	印刷	支給
航空情報業務論	航空保安業務処理規程 第4 第4の2	印刷	支給
	運航情報業務概論	印刷	支給
	A I M－J	日本航空機操縦士協会	支給
	A I P J A P A N	コピー	支給
航空情報運用論	航空保安業務処理規程 第4 第4の2	印刷	支給
	A I M－J	日本航空機操縦士協会	支給
	A I P J A P A N	コピー	支給
航空気象通報式 1	航空気象通報式（第3版）	コピー	支給
	新しい航空気象	日本気象協会	貸与
	航空保安業務処理規程 第4	印刷	支給
	航空気象通報式入門	コピー	支給
航空無線施設概論 1	航空保安業務の概要	印刷	支給
	A I M－J	日本航空機操縦士協会	支給
航空灯火電気施設業務概論	航空灯火電気施設業務概論	コピー	支給
運航情報業務概論 1	運航情報業務概論	印刷	支給
運航情報業務概論 2	航空六法	鳳文書林	支給
	航空保安業務処理規程 第4	印刷	支給
	運航情報業務概論	印刷	支給
公務員教養			資料配付
データ通信操作演習 1			資料配付

3. 航空管制運航情報職員基礎研修（第14回 前期）

（教科書一覧表）

科 目	使 用 教 科 書	出 版 社 等	形態
運航援助演習	航空保安業務処理規程 第4 第4の2	印刷	支給
	航空保安業務処理規程 第2 第2の2 第2の3	コピー	支給
	航空六法	鳳文書林	支給
	区分航空図 中部近畿（JAPA-504）	日本航空機操縦士協会	支給
	区分航空図 中国四国（JAPA-505）	日本航空機操縦士協会	支給
	区分航空図 九州（JAPA-506）	日本航空機操縦士協会	支給
	ENRC 1-2、3	航空振興財団	支給
	A I M-J	日本航空機操縦士協会	支給
航空情報演習	航空保安業務処理規程 第4 第4の2	印刷	支給
	A I P J A P A N	コピー	支給

4. 航空管制運航情報職員基礎研修（第13回 後期）

（教科書一覧表）

科 目	使 用 教 科 書	出 版 社 等	形態
英語 2			資料配付
英語 3	BASIC ENGLISH	コピー	貸与済
	AVIATION ENGLISH	コピー	貸与済
航空気象学 2	世界で一番わかりやすい航空気象	成山堂書店	貸与
航空航法 2	百万分の一航空路図	日本水路協会	都度貸出
航空機概論 2			資料配付
ヒューマンファクター	ヒューマンエラーの科学	麗澤大学出版	貸与
運航監督概論	航空保安業務処理規程 第4	印刷	支給済
	航空六法	鳳文書林	支給済
許認可論	航空保安業務処理規程 第4	印刷	支給済
	航空六法	鳳文書林	支給済
危機管理論 2	航空保安業務処理規程 第2 第2の2 第2の3	コピー	支給済
	航空六法	鳳文書林	支給済
航空通信業務論 2	航空保安業務処理規程 第4	印刷	支給済
	航空保安業務の概要	印刷	支給済
対空援助論 2	航空保安業務処理規程 第4	印刷	支給済
	航空保安業務処理規程 第5	印刷	支給
業務用英語	航空保安業務処理規程 第4	印刷	支給済
	航空保安業務処理規程 第5	印刷	支給
飛行場管制論	航空保安業務処理規程 第5	印刷	支給
	航空六法	鳳文書林	支給済
	A I M－J	日本航空機操縦士協会	支給済
進入管制論	航空保安業務処理規程 第5	印刷	支給
航空路管制論	航空保安業務処理規程 第5	印刷	支給
レーダー管制論	航空保安業務処理規程 第5	印刷	支給
航空交通管理論	航空保安業務処理規程 第5	印刷	支給
	E N R C 1－2、3	航空振興財団	支給
航空無線施設概論 2	航空保安業務の概要	印刷	支給済
	A I M－J	日本航空機操縦士協会	支給済
公務員教養			資料配付
データ通信操作演習 2			資料配付
飛行場対空援助演習	航空保安業務処理規程 第4	印刷	支給済
	航空保安業務処理規程 第5	印刷	支給
他飛行場援助演習	航空保安業務処理規程 第4	印刷	支給済
	航空保安業務処理規程 第5	印刷	支給
広域対空援助演習	航空保安業務処理規程 第4	印刷	支給済
	広域対空援助演習	コピー	支給
	E N R C 1－2、3	航空振興財団	支給
	A I M－J	日本航空機操縦士協会	支給済
	区分航空図 中部近畿（JAPA-504）	日本航空機操縦士協会	支給済
	区分航空図 中国四国（JAPA-505）	日本航空機操縦士協会	支給済

5. 航空電子科 1 年生 (5 2 期)

(教科書一覧表)

科 目	使 用 教 科 書	出 版 社 等	形態
心理学	図説教養心理学	ナカニシヤ出版	貸与
法学	現代法学入門 (第4版)	有斐閣	支給
	行政法 (第6版)	有斐閣	支給
	民法入門 (第5版)	有斐閣	支給
	デイリー六法2020(令和元年版)	有斐閣	支給
数学	科学技術者のための基礎数学(新版)	裳華房	貸与
	講師作成資料	コピー	支給
物理学	物理学基礎	学術図書出版社	貸与
英語 R I	Styling Corporate Messages 世界で活躍する日本の企業	成美堂	貸与
英語 G I	English Grammar for Reading Comprehension	朝日出版社	貸与
	ICAO抜粋資料	コピー	支給
英語 C I	TOP NOTCH	Pearson	貸与
	People, Places, and Things1	Oxford	貸与
校務情報システム概論	教官作成資料	コピー	支給
応用数学	なっとくするフーリエ変換	講談社	貸与
	なっとくする統計	講談社	貸与
	科学技術者のための基礎数学(新版)	裳華房	貸与
	講師作成資料	コピー	支給
物理学Ⅱ	物理学基礎	学術図書出版社	貸与
電気回路学	専修学校教科書シリーズ1 電気回路(1)	コロナ社	貸与
	専修学校教科書シリーズ2 電気回路(2)	コロナ社	貸与
電気磁気学	専修学校教科書シリーズ5 電磁気学	コロナ社	貸与
無線工学概論	無線工学 航空無線通信士用	(財)情報通信振興会	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
半導体・電子管	専修学校教科書シリーズ3 電子回路(1) アナログ編	コロナ社	貸与
	1・2陸技受験教室(1) 無線工学の基礎 第2版	東京電機大学出版局	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
アナログ電子回路	専修学校教科書シリーズ3 電子回路(1) アナログ編	コロナ社	貸与
	1・2陸技受験教室(1) 無線工学の基礎 第2版	東京電機大学出版局	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
デジタル電子回路	専修学校教科書シリーズ4 電子回路(2) デジタル編	コロナ社	貸与
	1・2陸技受験教室(1) 無線工学の基礎 第2版	東京電機大学出版局	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
無線工学演習Ⅰ(基礎)	国試問題解答集 一陸	(財)情報通信振興会	貸与
	国試問題解答集 二陸	(財)情報通信振興会	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
無線機器学 (渡り科目)	無線通信機器	日本理工出版	貸与
	国試問題解答集 一陸	(財)情報通信振興会	貸与
	国試問題解答集 二陸	(財)情報通信振興会	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
空中線理論及び電波伝搬	1・2陸技受験教室(3) 無線工学B (第2版)	東京電機大学出版局	貸与
	1陸技無線工学B アンテナと電波伝搬完全マスター	(財)情報通信振興会	貸与
	教官作成資料	コピー	支給

5. 航空電子科 1 年生（5 2 期）

（教科書一覧表）

科 目	使 用 教 科 書	出 版 社 等	形態
コンピュータシステム基礎 I	コンピュータシステムの基礎（第 1 6 版）	iTEC情報処理技術者教育センター	貸与
	C プログラミング入門以前	毎日コミュニケーションズ	貸与
	教官作成資料	コピー	貸与
コンピュータシステム基礎 II	ゼロからわかるUNIX基礎講座	技術評論社	貸与
	新C言語入門スーパービギナー編	ソフトバンク	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
情報通信理論	コンピュータシステムの基礎（第 1 6 版）	iTEC情報処理技術者教育センター	貸与
	わかりやすいデータ通信	オーム社	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
電波法規	電波法要説（第9版）	(財)情報通信振興会	貸与
	国試問題解答集 一陸	(財)情報通信振興会	貸与
	国試問題解答集 二陸	(財)情報通信振興会	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
管制概論 I	航空管制のはなし（7訂版）	交通研究協会	貸与
	EN-ROUTE CHART 1-2（2020年3月）	総合印刷（株）キンコー	貸与
	EN-ROUTE CHART 3（2020年3月）	総合印刷（株）キンコー	貸与
運航情報業務概論	航空法（令和元年版）	鳳文書林	貸与
	運航情報業務概論	印刷（航空保安大学校）	貸与
飛行場概論	空港の管理と運用	(財)航空振興財団	貸与
	空港のはなし（2訂版）	交通研究協会	貸与
	数字でみる航空（2019年）	空港振興・環境整備支援機構	貸与
	A I M－J（2020年前期版）	(社)日本航空機操縦士協会	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
CNS／ATM概論 I・ CNS／ATM概論 II	航空保安業務の概要2019	航空局交通管制部	貸与
	A I M－J（2020年前期版）	(社)日本航空機操縦士協会	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
	航空管制のはなし（第7版）	交通研究協会	貸与
	EN-ROUTE CHART 1-2（2020年3月）	総合印刷（株）キンコー	貸与
	EN-ROUTE CHART 3（2020年3月）	総合印刷（株）キンコー	貸与
	運航情報業務概論	印刷（航空保安大学校）	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
ヒューマンファクター I	ヒューマンエラー（第2版）	丸善（株）	貸与
航空機概論	航空実用ハンドブック（新版）	朝日ソノラマ	貸与
公務員教養	講師作成資料	コピー	支給
科目演習	教官作成資料	コピー	支給
情報リテラシー	例題30+演習問題70でしっかり学ぶ Excel標準テキスト 基礎編 Windows 10/Office2016対応版	技術評論社	貸与
電気電子計測	専修学校教科書シリーズ 6 電子計測	コロナ社	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
電子基礎実験（I）	教官作成資料	コピー	支給

6. 航空電子科 2 年生 (5 1 期)

(教科書一覧表)

科 目	使 用 教 科 書	出 版 社 等	形態
英語 R II	MAKING SENSE OF THE WORLD 現代世界を理解するための視点	成美堂	貸与
英語 G II	English Grammar for Reading Comprehension	朝日出版社	貸与
英語 C II	TOP NOTCH2	Pearson	貸与
	People, Places, and Things2	Oxford	貸与
国際航空法規(英語)	教官作成資料	コピー	支給
無線機器学	無線通信機器	日本理工出版	貸与
	国試問題解答集 一陸	(財)情報通信振興会	貸与
	国試問題解答集 二陸	(財)情報通信振興会	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
空中線理論及び電波伝搬	1・2 陸技受験教室 (3) 無線工学 B (第2版)	東京電機大学出版局	貸与
	1陸技無線工学B アンテナと電波伝搬完全マスター	(財)情報通信振興会	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
無線工学演習 II (工学 A・B)	国試問題解答集 一陸	(財)情報通信振興会	貸与
	国試問題解答集 二陸	(財)情報通信振興会	貸与
情報ネットワーク理論・演習	マスタリング TCP/IP 入門編第 5 版	オーム社	貸与
	3分間ネットワーク基礎講座	技術評論社	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
国内航空法規	航空法 (平成30年度版)	鳳文書林	貸与
	航空保安業務従事者のための航空法の変遷 (第5版)	(財)航空交通管制協会	貸与
国際航空法規 (概要)	I C A O 概論 (第12版)	(財)航空交通管制協会	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
航空気象概論	航空気象入門	(社)日本航空技術協会	貸与
	ずっと知りたかった飛行機の事情	東京堂出版	貸与
	AIM-J (2019年前期版)	(社)日本航空機操縦士協会	支給
管制概論 II	航空管制のはなし (7訂版)	交通研究協会	貸与
	EN-ROUTE CHART 1-2 (2019年3月)	総合印刷 (株) キンコー	支給
	EN-ROUTE CHART 3 (2019年3月)	総合印刷 (株) キンコー	支給
	管制方式基準	教官作成資料	支給
	AIM-J (2019年前期版)	日本航空機操縦士協会	支給
航空灯火電気施設業務概論	教官作成資料 (航空灯火・電気施設業務技術概論)	コピー	貸与
航空交通管制情報処理システム概論	AIM-J (2019年前期版)	(社)日本航空機操縦士協会	支給
	専門用語集 (CNS/A TM用語) (第4版)	(財)航空保安無線システム協会	貸与
	EN-ROUTE CHART 1-2 (2019年3月)	総合印刷 (株) キンコー	支給
	EN-ROUTE CHART 3 (2019年3月)	総合印刷 (株) キンコー	支給
	航空保安業務の概要2019	航空局管交通管制部	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
航空通信システム理論	航空通信システム基礎理論	(財)航空振興財団	貸与
	デジタル伝送・交換技術 (教官作成教材)	コピー	支給
	CNS/A TM基礎	印刷 (航空保安大学校)	貸与
	専門用語集 (CNS/A TM用語) (第4版)	(財)航空保安無線システム協会	貸与

6. 航空電子科 2 年生 (5 1 期)

(教科書一覧表)

科 目	使 用 教 科 書	出 版 社 等	形態
航法システム理論	V O R 基礎理論	(財)航空振興財団	貸与
	タカン基礎理論	(財)航空振興財団	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
着陸システム理論	I L S 基礎理論	(財)航空振興財団	貸与
	AIM-J(2019年前期版)	(社)日本航空機操縦士協会	支給
	教官作成資料	コピー	支給
監視システム理論	一次レーダー基礎理論	(財)航空振興財団	貸与
	二次レーダー基礎理論	(財)航空振興財団	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
C N S / A T M 総合	教官作成資料	コピー	支給
管制技術業務論	教官作成資料	コピー	支給
O R M 概論	教官作成資料	コピー	支給
飛行検査概論	教官作成資料 (飛行検査の概要)	コピー	支給
信頼性技術理論	おはなし信頼性	(財)日本規格協会	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
ヒューマンファクターⅡ	ヒューマンエラーの科学	麗澤大学出版会	貸与
安全管理論	教官作成資料	コピー	支給
航空衛星システム概論	教官作成資料	コピー	支給
公務員教養	講師作成資料	コピー	支給
科目演習	30時間でマスター プレゼンテーション+powerpoint2016	実教出版	貸与
	理系の作文技術	中公新書	貸与
電子基礎実験(Ⅱ)	教官作成資料	コピー	支給
	1・2 陸技受験教室(3)無線工学B(第2版)	東京電機大学出版局	貸与
	専修学校教科書シリーズ2 電気回路(2)	コロナ社	貸与
	専修学校教科書シリーズ3 電子回路(1)	コロナ社	貸与
	専修学校教科書シリーズ4 電子回路(2)	コロナ社	貸与
情報処理実技	マスタリングTCP/IP入門編第5版	オーム社	貸与
	ゼロからわかるUNIX基礎講座	技術評論社	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
Linux基礎実技	ゼロからわかるUNIX基礎講座	技術評論社	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
プログラミング実習	新C言語入門スーパービギナー編	ソフトバンク	貸与
	教育版EV3・C言語生徒用授業ガイド	株式会社アフレル	貸与
	新C言語入門シニア編	ソフトバンク	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
航空通信システム実技	教官作成資料	コピー	支給
航法システム実技	教官作成資料	コピー	支給
着陸システム実技	教官作成資料	コピー	支給
監視システム実技	教官作成資料	コピー	支給

7. 航空管制技術職員基礎研修

(教科書一覧表)

科 目	使 用 教 科 書	出 版 社 等	形態
航空無線概論	航空無線工学概論	鳳文書林	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
情報処理基礎	マスタリングTCP/IP入門編第5版	オーム社	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
航空法概論	航空法（平成29年改訂新版）	鳳文書林	貸与
	ICAO概論（第12版）	(財)航空交通管制協会	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
管制概論	航空管制のはなし（7訂版）	交通研究協会	貸与
	EN-ROUTE CHART 1-2（2018年3月）	(財)航空振興財団	支給
	EN-ROUTE CHART 3（2018年3月）	(財)航空振興財団	支給
運航情報業務概論	航空法（平成29年改訂新版）	鳳文書林	貸与
	運航情報業務概論	印刷（航空保安大学校）	貸与
航空灯火電気施設業務概論	航空灯火電気施設業務概論（教官作成資料）	コピー	支給
CNS/ATM基礎	航空保安業務の概要2019	航空局交通管制部	貸与
	AIM-J（2020年前期版）	(社)日本航空機操縦士協会	支給
	航空管制のはなし（7訂版）	交通研究協会	貸与
	運航情報業務概論	印刷（航空保安大学校）	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
管制情報処理システム概論	AIM-J（2020年前期版）	(社)日本航空機操縦士協会	支給
	航空保安業務の概要2019	航空局交通管制部	貸与
	EN-ROUTE CHART 1-2（2018年3月）	(財)航空振興財団	支給
	EN-ROUTE CHART 3（2018年3月）	(財)航空振興財団	支給
	教官作成資料(航空交通管制情報処理システム概論)	コピー	支給
	専門用語集（CNS/ATM用語）（第4版）	(財)航空保安無線システム協会	貸与
通信装置基礎理論	航空通信システム基礎理論	(財)航空振興財団	貸与
航法装置基礎理論	VOR基礎理論	(財)航空振興財団	貸与
	タカン基礎理論	(財)航空振興財団	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
着陸装置基礎理論	ILS基礎理論	(財)航空振興財団	貸与
	AIM-J（2020年前期版）	(社)日本航空機操縦士協会	支給
	教官作成資料	コピー	支給
監視装置基礎理論	一次レーダー基礎理論	(財)航空振興財団	貸与
	二次レーダー基礎理論	(財)航空振興財団	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
管制技術業務概論	航空保安業務の概要2019	航空局交通管制部	貸与
	数字でみる航空（2019年）	空港振興・環境整備支援機構	支給
	教官作成資料	コピー	支給
安全管理概論	教官作成資料	コピー	支給

7. 航空管制技術職員基礎研修

(教科書一覧表)

科 目	使 用 教 科 書	出 版 社 等	形態
公務員教養	講師作成資料	コピー	支給
情報処理装置実技	ゼロからわかるUNIX基礎講座	技術評論社	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
電気電子計測基礎	専修学校教科書シリーズ6 電子計測	コロナ社	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
通信装置実技	航空通信システム基礎理論	(財)航空振興財団	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
航法装置実技	VOR基礎理論	(財)航空振興財団	貸与
	タカン基礎理論	(財)航空振興財団	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
着陸装置実技	ILS基礎理論	(財)航空振興財団	貸与
	AIM-J (2020年前期版)	(社)日本航空機操縦士協会	支給
	数字でみる航空 (2019年)	空港振興・環境整備支援機構	支給
	教官作成資料	コピー	支給
監視装置実技	一次レーダー基礎理論	(財)航空振興財団	貸与
	二次レーダー基礎理論	(財)航空振興財団	貸与
	教官作成資料	コピー	支給

8. システム専門官基礎研修

(教科書一覧表)

科 目	使 用 教 科 書	出 版 社 等	形態
情報数学	新C言語入門シニア編	SBクリエイティブ	貸与
	新・明解C言語によるアルゴリズムとデータ構造	SBクリエイティブ	貸与
	情報処理技術者必携 情報数学入門	共立出版	貸与
情報と符号化	新C言語入門シニア編	SBクリエイティブ	貸与
	やり直しのための工業数学 情報基礎、誤り訂正符号、暗号 改訂新版 情報通信編	CQ出版社	貸与
情報学概論	教官作成資料	コピー	支給
確率・統計概論	統計学入門 (東京大学教養学部統計学教室編集)	東京大学出版	貸与
ITとデータ分析	Excelで学ぶ統計解析入門 Excel2016/2013対応版	オーム社	貸与
OSコマンドラインプログラミング	入門UNIXシェルスクリプティング	SBクリエイティブ	貸与
プログラム開発基礎	なぜ、あなたはJavaでオブジェクト指向開発ができないのか	技術評論社	貸与
	スッキリわかるJava入門 第2版	インプレス	貸与
	スッキリわかるサーブレット&JSP入門	インプレス	貸与
	JUnit実践入門	技術評論社	貸与
	GitHub実践入門	技術評論社	貸与
リレーショナルデータベース概論	データベース設計・構築[基礎+実践] マスターテキスト	技術評論社	貸与
	絵で見てわかるシステム構築のためのOracle設計	翔泳社	貸与
	オラクルマスター教科書 Bronze Oracle Database 12c SQL基礎	翔泳社	貸与
	オラクルマスター教科書 Bronze Oracle Database DBA12c	翔泳社	貸与
システム機能設計	システム開発のすべて	日本実業出版社	貸与
	図解でわかるソフトウェア開発のすべて	日本実業出版社	貸与
システム実装設計	入門UML2.0	オライリー・ジャパン	貸与
	演習で身につくソフトウェア設計入門	エヌ・ティ・エス	貸与
業務分析手法の基礎	SCRUM BOOT CAMP THE BOOK	翔泳社	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
信頼性設計概論	教官作成資料	コピー	支給
ヒューマンインタフェース概論	教官作成資料	コピー	支給
知的財産権の法律と実務	『知的財産法入門 第2版』茶園成樹編	有斐閣	貸与
情報論理と法体系	インターネットの光と影 (Ver.6)	北大路書房	貸与
システム監査と内部統制	現代の実践的内部監査 第5版	同文館出版	貸与
情報セキュリティ概論	情報セキュリティ教本 組織の情報セキュリティ対策実践の手引き 改訂版	実教出版	貸与
	情報セキュリティ白書(最新版)	独立行政法人情報処理推進機構(IPA)	支給
	教官作成資料	コピー	支給
システム開発基礎	これ一冊でわかるSEの大常識	日刊工業新聞社	貸与
	SEのためのプロジェクト管理心得ノート	日刊工業新聞社	貸与
	システム開発のすべて	日本実業出版社	貸与
	図解でわかるソフトウェア開発のすべて	日本実業出版社	貸与
プロジェクトマネジメント理論	プロジェクトマネジメント標準PMBOK入門 PMBOK第6版対応版	オーム社	支給
	教官作成資料	コピー	支給
システム開発マネジメント	教官作成資料	コピー	支給
ネットワーク理論	マスタリングTCP/IP 入門編 第5版	オーム社	貸与
	Cisco CCENT/CCNA ICND1編	インプレス	支給
	教官作成資料	コピー	支給

8. システム専門官基礎研修

(教科書一覧表)

科 目	使 用 教 科 書	出 版 社 等	形態
ソフトウェア工学	ソフトウェア工学入門	サイエンス社	貸与
	リファクタリング 既存のコードを安全に改善する新装版	オーム社	貸与
システム運用方法論	ITIL入門－ITサービスマネジメントの仕組みと活用	ソーテック社	貸与
運航情報業務論	教官作成資料	コピー	支給
航空管制業務論	航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程	鳳文書林出版販売	貸与
	AIM－JAPAN	日本航空機操縦士協会	支給
	EN-ROUTE CHART	エスエルエスクリエーション	支給
航空業務安全学	組織事故	日科技連出版社	貸与
	事故は、なぜ繰り返されるのか ヒューマンファクターの分析 第2版	中央労働災害防止協会	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
管制情報処理システム 概論	EN-ROUTE CHART	エスエルエスクリエーション	支給
	AIM－JAPAN	日本航空機操縦士協会	支給
	航空保安業務の概要(最新版)	航空局管制保安部	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
管制情報処理システム 研究	EN-ROUTE CHART	エスエルエスクリエーション	支給
	AIM－JAPAN	日本航空機操縦士協会	支給
	航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程	鳳文書林出版販売	貸与
	管制方式基準	鳳文書林出版販売	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
先端システム工学	教官作成資料	コピー	支給
公務員教養	教官作成資料	コピー	支給
科目研修(学科)	教官作成資料	コピー	支給
プログラム開発基礎演習	スッキリわかるサードプレット&JSP入門	インプレス	貸与
	JUnit実践入門	技術評論社	貸与
	GitHub実践入門	技術評論社	貸与
	改訂新版java script本格入門	技術評論社	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
Cプログラミング演習	新C言語入門シニア編	SBクリエイティブ	貸与
オブジェクト指向 プログラミング演習	基礎からのJava 改訂版	SBクリエイティブ	貸与
航空交通管制情報処理 システム開発演習	Jenkins実践入門	技術評論社	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
ネットワーク演習	マスタリングTCP/IP 入門編 第5版	オーム社	貸与
	マスタリングTCP/IP ルーティング編	オーム社	貸与
	Cisco CCENT/CCNA ICND1編	インプレス	支給
	Cisco CCNA ICND2編	インプレス	貸与
	Cisco CCNP SWITCH	インプレス	貸与
	Cisco CCNP ROUTE	インプレス	貸与
	教官作成資料	コピー	支給
科目演習(実技)	教官作成資料	コピー	支給

9. 航空管制官課程 132期、133期、134期

(教科書一覧表)

科 目	使 用 教 科 書	出 版 社 等	形態
実用英語	AVIATION ENGLISH	コピー	支給
航空英語	業務英語	印刷	支給
	航空無線通信士用標準教科書「英語」	情報通信振興会	貸与
航空交通業務概論	航空保安業務の概要	印刷	支給
	航空六法	鳳文書林	支給
	航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程	印刷	支給
航空管制概論	航空管制のはなし	成山堂書店	貸与
	飛行機がわかる	技術評論社	貸与
	航空用語辞典	鳳文書林	貸与
	航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程	印刷	支給
	航空六法	鳳文書林	支給
	航空路誌	航空振興財団	貸与
	航空保安業務の概要	印刷	支給
飛行場管制論, 進入管制論, 航空路管制論, ターミナル レーダー管制論	航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程	印刷	支給
	航空管制実習要領	印刷	支給
	航空路誌	航空振興財団	貸与
	EN-ROUTE CHART	エスエルエスクリエーション	支給
	AIM-J	日本航空機操縦士会	支給
国際航空法規	ICAO概論	航空交通管制協会	貸与
	国際民間航空条約第2付属書	印刷	貸与
	国際民間航空条約第11付属書	印刷	貸与
国内航空法規	航空六法	鳳文書林	支給
	航空保安業務従事者のための航空法の変遷	航空交通管制協会	貸与
	操縦者用航空法	鳳文書林	貸与
	航空関係告示集	鳳文書林	貸与
	国内航空法	印刷	貸与
	AIM-J	日本航空機操縦士会	支給
航空気象通報式	航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程	印刷	支給
	航空気象通報式	印刷	支給
	航空気象通報式の解説	印刷	支給
レーダー概論	航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程	印刷	支給
	レーダー概論	印刷	支給
管制システム概論	飛行計画情報処理システム操作要領書	航空局	貸与
	航空保安業務の概要	印刷	支給
空域・経路・航空情報 概論	航空路誌	航空振興財団	貸与
	飛行方式設定基準	印刷	貸与
	航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程	印刷	支給
	航空六法	鳳文書林	支給
A T M概論	新CNS/ATM基礎	印刷	貸与
	ATM ハンドブック	印刷	支給
	EN-ROUTE CHART	エスエルエスクリエーション	支給
	航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程	印刷	支給
運航情報業務概論	運航情報業務概論	印刷	支給
	航空六法	鳳文書林	支給
	航空保安業務の概要	印刷	支給

9. 航空管制官課程 132期、133期、134期

(教科書一覧表)

科 目	使 用 教 科 書	出 版 社 等	形態
航空無線施設概論	航空電子入門	日本航空技術協会	貸与
	航空保安業務の概要	印刷	支給
	AIM-J	日本航空機操縦士会	支給
航空灯火概論	航空灯火電気施設業務概論	コピー	支給
安全 (ヒューマンファクター)	失敗のメカニズム	日本出版サービス	貸与
航空機概論	航空実用ハンドブック	朝日ソノラマ	貸与
航空航法	百万分の一航空路図 Nr8700	日本水路協会	貸与
	空中航法	コピー	支給
航空気象学	世界で一番わかりやすい航空気象	成山堂書店	貸与
電波法規	航空無線通信士用標準教科書「法規」	情報通信振興会	貸与
無線工学	航空無線通信士用標準教科書「無線工学」	情報通信振興会	貸与
飛行場管制方式	航空管制実習要領－Ⅱ	航空保安大学校	支給
	航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程	航空保安大学校	支給
	AIM-J	日本航空機操縦士会	支給
進入管制方式	航空管制実習要領－Ⅱ	航空保安大学校	支給
	航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程	航空保安大学校	支給
	AIM-J	日本航空機操縦士会	支給
ターミナル・ レーダー管制方式	航空管制実習要領－Ⅱ	航空保安大学校	支給
	航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程	航空保安大学校	支給
	AIM-J	日本航空機操縦士会	支給
航空路管制方式	航空管制実習要領－Ⅰ	航空保安大学校	支給
	航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程	航空保安大学校	支給
	EN-ROUTE CHART	エスエルエスクリーション	支給
	AIM-J	日本航空機操縦士会	支給
総合実習	航空管制実習要領	航空保安大学校	支給
	航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程	航空保安大学校	支給
	AIM-J	日本航空機操縦士会	支給

使用教科書は研修期間中、本校から貸与又は支給します。

【貸与教科書に係る注意事項】

貸与教科書は「貸与教科書等管理簿」により管理し、研修修了(又は当該科目終了)時に返却(紛失・汚損の場合は自己負担にて弁償)して頂きますので、大切に扱って下さい。

また返却後は次期研修生に貸与されますので、原則として教科書内への書き込みは禁止です。

Ⅲ. カリキュラム一覧

1. 航空情報科1学年(52期)

(カリキュラム一覧・科目略語・目次)

科 目	略 語	時 限 数	時 間 数	頁	備 考
(1) 一般教養科目					
心理学	心理学	18.0	30.0	情1ー 1	本科1年合同
法学	法学	27.0	45.0	情1ー 2	本科1年合同
数学	数学	30.0	50.0	情1ー 4	
物理学	物理学	30.0	50.0	情1ー 5	
社会教養	社会教養	12.0	20.0	情1ー 6	
(1)小計		117.0	195.0		
(2) 外国語科目					
英語A1(情報)	英語A1	18.0	30.0	情1ー 7	
英語B (情報)	英語B	18.0	30.0	情1ー 8	
英会話C1(2クラス)	C1	24.0	40.0	情1ー 9	
英会話L1	L1	24.0	40.0	情1ー 10	
英会話S1	S1	24.0	40.0	情1ー 11	
(2)小計		108.0	180.0		
(3) 保健体育科目					
保健体育		27.0	45.0	情1ー 12	
(3)小計		27.0	45.0		
(4) 専門科目					
航空航法	航法	36.0	60.0	情1ー 13	
航空気象学	気象学	32.0	53.3	情1ー 15	
航空機概論	航空機	36.0	60.0	情1ー 17	
ITインフラ概論	IT概	24.0	40.0	情1ー 19	
情報システム概論	シス概	21.0	35.0	情1ー 20	
ヒューマンファクター1	HF1	6.0	10.0	情1ー 21	本科1年合同
国内航空法規(航空法)	航空法	68.0	113.3	情1ー 22	
国内航空法規(空港法)	空港法	12.0	20.0	情1ー 24	
国際航空法規	国際法	21.0	35.0	情1ー 25	
電波法規	電波法	15.0	25.0	情1ー 26	
運航情報業務概論	運情概	12.0	20.0	情1ー 28	
運航情報基礎学1	基礎学1	20.0	33.3	情1ー 29	
飛行計画論	FPL論	20.0	33.3	情1ー 30	
運航監視論	運監論	12.0	20.0	情1ー 31	
航空通信業務論1	通信論1	15.0	25.0	情1ー 32	
航空情報業務論	情報論	14.0	23.3	情1ー 33	
飛行場情報業務論	飛情論	16.0	26.7	情1ー 34	
対空援助論1	対空論1	16.0	26.7	情1ー 35	
航空気象通報式	通報式	30.0	50.0	情1ー 36	
航空無線通信用英語	航通英	36.0	60.0	情1ー 38	
航空管制概論	管概	9.0	15.0	情1ー 39	
無線工学	無工	14.0	23.3	情1ー 41	
航空無線施設概論	航無概	24.0	40.0	情1ー 43	
航空灯火電気施設業務概論	航灯概	9.0	15.0	情1ー 45	
校務情報システム概論	校情概	3.0	5.0	情1ー 46	
公務員教養	公務教養	49.7	82.8	情1ー 47	
科目演習(学科)	科目演習	46.0	76.7	情1ー 48	
(4)小計		616.7	1027.8		
学科計		868.7	1447.8		

1. 航空情報科1学年(52期)

(カリキュラム一覧・科目略語・目次)

科 目	略 語	時 限 数	時 間 数	頁	備 考
(5) 実技(情報実習)					
情報リテラシー1	情リ1	13.0	21.7	情1－ 49	
電気通信術	通信術	3.0	5.0	情1－ 50	
データ通信操作演習	デ通信	20.0	33.3	情1－ 51	
運航援助演習1	運航演1	30.0	50.0	情1－ 52	
科目演習(実技)	科目演習	2.0	3.3	情1－ 53	
(5)小計		68.0	113.3		
実技計		68.0	113.3		
航空情報科1学年	合計	936.7	1561.2		

2. 航空情報科2学年(51期)

(カリキュラム一覧・科目略語・目次)

科 目	略 語	時 限 数	時 間 数	頁	備 考
(1) 外国語科目					
英語A2(情報)	英語A2	46.0	76.7	情2ー 1	
英会話C2(2クラス)	C2	21.0	35.0	情2ー 2	
英会話L2	L2	21.0	35.0	情2ー 3	
英会話S2	S2	20.0	33.3	情2ー 4	
(1)小計		108.0	180.0		
(2) 保健体育科目					
保健体育	体育	27.0	45.0	情2ー 5	
(2)小計		27.0	45.0		
(3) 専門科目					
Cプログラミング座学	Cプロ座	10.0	16.7	情2ー 6	本科2年合同
Cプログラミング応用	Cプロ応	25.0	41.7	情2ー 7	
ネットワーク応用	ネット応	15.0	25.0	情2ー 8	
ヒューマンファクター2	HF2	9.0	15.0	情2ー 9	
航空機の運航1	航空運1	12.0	20.0	情2ー 10	
航空機の運航2	航空運2	18.0	30.0	情2ー 11	
航空機の運航3	航空機3	6.0	10.0	情2ー 12	
ヘリコプター概論	ヘリ概	12.0	20.0	情2ー 13	
運航情報基礎学2	基礎学2	20.0	33.3	情2ー 14	
許認可論	許可論	16.0	26.7	情2ー 15	
危機管理論1	危機論1	12.0	20.0	情2ー 16	
危機管理論2	危機論2	8.0	13.3	情2ー 17	
航空通信業務論2	通信論2	12.0	20.0	情2ー 18	
航空情報運用論	情運論	10.0	16.7	情2ー 19	
運航監督概論	監督論	10.0	16.7	情2ー 20	
飛行場情報運用論	飛運論	38.0	63.3	情2ー 21	
対空援助論2	対空論2	19.0	31.7	情2ー 23	
対空援助論3	対空論3	8.0	13.3	情2ー 24	
管制通信論	管通論	18.0	30.0	情2ー 25	
計器進入方式	進入方式	23.0	38.3	情2ー 26	
業務用英語	業英	18.0	30.0	情2ー 28	
飛行場管制論	飛管論	10.0	16.7	情2ー 29	
進入管制論	進管論	10.0	16.7	情2ー 32	
航空路管制論	航管論	10.0	16.7	情2ー 34	
レーダー管制論	レ管論	10.0	16.7	情2ー 36	
航空交通管理論	ATM論	3.0	5.0	情2ー 38	
安全(SMS)	SMS	6.0	10.0	情2ー 39	
公務員教養	公務教養	78.2	130.3	情2ー 40	
科目演習(学科)	科目演習	48.0	80.0	情2ー 41	
(3)小計		494.2	823.7		
学科計		629.2	1048.7		

2. 航空情報科2学年(51期)

(カリキュラム一覧・科目略語・目次)

科 目	略 語	時 限 数	時 間 数	頁	備 考
(4) 実技(情報実習)					
情報リテラシー2	情リ2	8.0	13.3	情2ー 42	
運航援助演習2	運航演2	84.0	140.0	情2ー 43	
航空情報演習	情報演	24.0	40.0	情2ー 45	
飛行場情報演習	飛情演	24.0	40.0	情2ー 46	
飛行場対空援助演習	飛対演	60.0	100.0	情2ー 47	
他飛行場援助演習	RAG演	20.0	33.3	情2ー 48	
広域対空援助演習	広域演	24.0	40.0	情2ー 49	
管制通信演習	管通演	24.0	40.0	情2ー 50	
総合実習	総合実習	30.0	50.0	情2ー 51	
科目演習(実技)	科目演習	10.0	16.7	情2ー 52	
(4)小計		308.0	513.3		
実技計		308.0	513.3		
航空情報科2学年	合計	937.2	1562.0		

3. 航空管制運航情報職員基礎研修(第14回 前期)

(カリキュラム一覧・科目略語・目次)

科 目	略 語	時 限 数	時 間 数	頁	備 考
(1) 外国語科目					
英語1	英語1	36.0	60.0	情前－ 1	
(1)小計		36.0	60.0		
(2) 専門科目					
航空気象学1	気象学1	6.0	10.0	情前－ 2	
航空航法1	航法1	12.0	20.0	情前－ 3	
航空機概論1	航空機1	6.0	10.0	情前－ 5	
国内航空法規1	国内法1	28.0	46.7	情前－ 6	
国際航空法規1	国際法1	8.0	13.3	情前－ 8	
飛行計画論	FPL論	20.0	33.3	情前－ 9	
運航監視論	運監論	12.0	20.0	情前－ 10	
危機管理論1	危機論	12.0	20.0	情前－ 11	
航空通信業務論1	通信論1	17.0	28.3	情前－ 12	
航空情報業務論	情報論	14.0	23.3	情前－ 13	
航空情報運用論	情運論	4.0	6.7	情前－ 14	
航空気象通報式1	通報式1	12.0	20.0	情前－ 15	
航空無線施設概論1	航無概1	6.0	10.0	情前－ 17	
航空灯火電気施設業務概論	航灯概	6.0	10.0	情前－ 18	
運航情報業務概論1	運情概1	6.0	10.0	情前－ 19	
運航情報業務概論2	運情概2	6.0	10.0	情前－ 20	
公務員教養	公務教養	11.8	19.7	情前－ 21	
科目演習(学科)	科目演習	1.0	1.7	情前－ 22	
(2)小計		187.8	313.0		
学科計		223.8	373.0		
(3) 実技					
データ通信操作演習1	デ通信1	6.0	10.0	情前－ 23	
運航援助演習	運航演	55.0	91.7	情前－ 24	
航空情報演習	情報演	18.0	30.0	情前－ 26	
科目演習(実技)	科目演習	11.1	18.5	情前－ 27	
(3)小計		90.1	150.2		
実技計		90.1	150.2		
運航情報職員基礎研修(前期)	合計	313.9	523.2		

4. 航空管制運航情報職員基礎研修(第13回 後期)

(カリキュラム一覧・科目略語・目次)

科 目	略 語	時 限 数	時 間 数	頁	備 考
(1) 外国語科目					
英語2	英語2	30.0	50.0	情後－ 1	
英語3	英語3	24.0	40.0	情後－ 2	
(1)小計		54.0	90.0		
(2) 専門科目					
航空気象学2	気象学2	6.0	10.0	情後－ 3	
航空航法2	航法2	12.0	20.0	情後－ 4	
航空機概論2	航空機2	6.0	10.0	情後－ 5	
ヒューマンファクター	HF	9.0	15.0	情後－ 6	
運航監督概論	監督論	10.0	16.7	情後－ 7	
許可論	許可論	16.0	26.7	情後－ 8	
危機管理論2	危機論	8.0	13.3	情後－ 9	
航空通信業務論2	通信論2	6.0	10.0	情後－ 10	
対空援助論2	対空論2	8.0	13.3	情後－ 11	
業務用英語	業英	24.0	40.0	情後－ 12	
飛行場管制論	飛管論	10.0	16.7	情後－ 13	
進入管制論	進管論	10.0	16.7	情後－ 16	
航空路管制論	航管論	10.0	16.7	情後－ 18	
レーダー管制論	レ管論	10.0	16.7	情後－ 20	
航空交通管理論	ATM論	3.0	5.0	情後－ 22	
航空無線施設概論2	航無概2	9.0	15.0	情後－ 23	
公務員教養	公務教養	12.7	21.2	情後－ 24	
科目演習(学科)	科目演習	2.0	3.3	情後－ 25	
岩沼研修センター		151.2	252.0		
(2)小計		322.9	538.2		
学科計		376.9	628.2		
(3) 実技(運航情報実習)					
データ通信操作演習2	デ通信2	6.0	10.0	情後－ 26	
飛行場対空援助演習	飛対演	49.0	81.7	情後－ 27	
他飛行場援助演習	RAG演	14.0	23.3	情後－ 28	
広域対空援助演習	広域演	22.0	36.7	情後－ 29	
科目演習(実技)	科目演習	17.0	28.3	情後－ 30	
岩沼研修センター		24.3	40.5		
(3)小計		132.3	220.5		
実技計		132.3	220.5		
運航情報職員基礎研修(後期)	合計	509.2	848.7		

5. 航空電子科1年生(52期)

(カリキュラム一覧・科目略語・目次)

科 目	略 語	時 限 数	時 間 数	頁	備 考
(1) 学科(一般教養科目)					
心理学	心理学	18.0	30.0	電1ー 1	本科1年合同
法学	法学	27.0	45.0	電1ー 2	本科1年合同
数学	数学	30.0	50.0	電1ー 4	
物理学	物理学	30.0	50.0	電1ー 5	
社会教養		12.0	20.0	電1ー 7	
(1)小計		117.0	195.0		
(2) 学科(外国語科目)					
英語R I	英語R I	30.0	50.0	電1ー 8	
英語G I	英語G I	24.0	40.0	電1ー 9	
英語C I	英語C I	27.0	45.0	電1ー 10	
(2)小計		81.0	135.0		
(3) 学科(保健体育科目)					
保健体育	体育	27.0	45.0	電1ー 11	合同 (メンタルヘルスを含む)
(3)小計		27.0	45.0		
(4) 学科(専門科目)					
校務情報システム概論	校情概	14.0	23.3	電1ー 12	
応用数学	応用数学	33.0	55.0	電1ー 13	
物理学Ⅱ	物理学Ⅱ	6.0	10.0	電1ー 14	
電気回路学	電気回路	45.0	75.0	電1ー 15	
電磁気学	電磁気	45.0	75.0	電1ー 17	
無線工学概論	無工概	22.0	36.7	電1ー 19	
半導体・電子管	半導体	16.0	26.7	電1ー 20	
アナログ電子回路	アナ電	36.0	60.0	電1ー 21	
ディジタル電子回路	デジ電	16.0	26.7	電1ー 22	
無線工学演習Ⅰ(基礎)	無工演習Ⅰ	20.0	33.3	電1ー 23	
無線機器学	無線機器	48.0	80.0	電1ー 24	全91単位
空中線理論及び電波伝搬	空中線	40.0	66.7	電1ー 28	全87単位
コンピュータシステム基礎Ⅰ	コン基礎Ⅰ	22.0	36.7	電1ー 30	
コンピュータシステム基礎Ⅱ	コン基礎Ⅱ	22.0	36.7	電1ー 32	
情報通信理論	情通理論	24.0	40.0	電1ー 33	
電波法規	電波法	33.0	55.0	電1ー 34	
管制概論Ⅰ	管概Ⅰ	7.0	11.7	電1ー 36	
運航情報業務概論	運情概	9.0	15.0	電1ー 38	
飛行場概論	飛概	8.0	13.3	電1ー 39	
CNS/ATM 概論Ⅰ	CNS概Ⅰ	13.0	21.7	電1ー 40	
CNS/ATM 概論Ⅱ	CNS概Ⅱ	21.0	35.0	電1ー 41	
ヒューマンファクターⅠ	HFⅠ	6.0	10.0	電1ー 42	本科1年合同
航空機概論	航空機	18.0	30.0	電1ー 43	
公務員教養	公務教養	49.7	82.8	電1ー 45	
科目演習(学科)	科目演習	49.0	81.7	電1ー 46	
(4)小計		622.7	1,037.8		
学科計		847.7	1,412.8		

5. 航空電子科1年生(52期)

(カリキュラム一覧・科目略語・目次)

科 目	略 語	時限数	時 間 数	頁	備 考
(5) 実技(電子実習)					
情報リテラシー	情リ	11.0	18.3	電1－ 47	
電気電子計測	電子計測	42.0	70.0	電1－ 48	
電子基礎実験Ⅰ	電子実験Ⅰ	33.0	55.0	電1－ 51	
科目演習(実技)	科目演習	7.0	11.7	電1－ 52	
(5)小計		93.0	155.0		
実技計		93.0	155.0		
航空電子科1年生(52期) 合計		940.7	1,567.8		

6. 航空電子科2年生(51期)

(カリキュラム一覧・科目略語・目次)

科 目	略 語	時限数	時 間 数	頁	備 考
(1) 学科(外国語科目)					
英語RⅡ	英語RⅡ	30.0	50.0	電2ー 1	
英語GⅡ	英語GⅡ	15.0	25.0	電2ー 2	
英語CⅡ	英語CⅡ	27.0	45.0	電2ー 3	
国際航空法規(英語)	国際法英	12.0	20.0	電2ー 4	
(1)小計		84.0	140.0		
(2) 学科(保健体育科目)					
保健体育	体育	27.0	45.0	電2ー 5	合同
(2)小計		27.0	45.0		(メンタルヘルスを含む)
(3) 学科(専門科目)					
無線機器学	無線機器	43.0	71.7	電2ー 6	全91時限
空中線理論及び電波伝搬	空中線	47.0	78.3	電2ー 10	全87時限
無線工学演習Ⅱ(工学A・B)	無工演習Ⅱ	30.0	50.0	電2ー 12	
情報ネットワーク理論・演習	情ネ	28.0	46.7	電2ー 13	
国内航空法規	国内法	12.0	20.0	電2ー 15	
国際航空法規(概要)	国際法概	6.0	10.0	電2ー 17	
航空気象概論	気象概論	9.0	15.0	電2ー 18	
管制概論Ⅱ	管概Ⅱ	10.0	16.7	電2ー 19	
航空灯火電気施設業務概論	灯電概	18.0	30.0	電2ー 21	
航空交通管制情報処理システム概論	管シ概	47.0	78.3	電2ー 23	
航空通信システム理論	通信理論	36.0	60.0	電2ー 25	
航法システム理論	航法理論	44.0	73.3	電2ー 26	
着陸システム理論	着陸理論	30.0	50.0	電2ー 28	
監視システム理論	監視理論	49.0	81.7	電2ー 29	
CNS/ATM総合	CNS総	36.0	60.0	電2ー 31	
管制技術業務論	管技業務	54.0	90.0	電2ー 32	
ORM概論	ORM	16.0	26.7	電2ー 34	
飛行検査概論	飛行検査	8.0	13.3	電2ー 35	
信頼性技術理論	信頼性	12.0	20.0	電2ー 36	
ヒューマンファクターⅡ	HFⅡ	9.0	15.0	電2ー 37	
安全管理論	安全管理	10.0	16.7	電2ー 39	
航空衛星システム概論	衛星概論	10.0	16.7	電2ー 40	
公務員教養	公務教養	67.6	112.7	電2ー 41	
科目演習(学科)	科目演習	23.0	38.3	電2ー 42	
(3)小計		654.6	1,091.0		
学科計		765.6	1,276.0		

6. 航空電子科2年生(51期)

(カリキュラム一覧・科目略語・目次)

科 目	略 語	時限数	時 間 数	頁	備 考
(4) 実技(電子実習)					
電子基礎実験Ⅱ	電子実験Ⅱ	28.0	46.7	電2ー 43	
情報処理実技	情報実技	18.0	30.0	電2ー 44	
Linux基礎実技	Linux	10.0	16.7	電2ー 45	
プログラミング実習	プロ実	20.0	33.3	電2ー 46	
航空通信システム実技	通信実技	24.0	40.0	電2ー 47	
航法システム実技	航法実技	24.0	40.0	電2ー 48	
着陸システム実技	着陸実技	24.0	40.0	電2ー 49	
監視システム実技	監視実技	24.0	40.0	電2ー 50	
科目演習(実技)	科目演習	2.0	3.3	電2ー 51	
(4)小計		174.0	290.0		
実技計		174.0	290.0		
航空電子科2年生(51期) 合計		939.6	1,566.0		

7. 航空管制技術職員基礎研修

(カリキュラム一覧・科目略語・目次)

科 目	略 語	時 限 数	時 間 数	頁	備 考
(1) 学科(専門科目)					
航空無線概論	航無概	12.0	20.0	技基－ 1	
情報処理基礎	情処基礎	10.0	16.7	技基－ 2	
航空法概論	航空法規	6.0	10.0	技基－ 3	
管制概論	管制概論	7.0	11.7	技基－ 4	
運航情報業務概論	運情概論	6.0	10.0	技基－ 5	
航空灯火電気施設業務概論	灯火電気	5.0	8.3	技基－ 6	
CNS／ATM基礎	CNS基礎	13.0	21.7	技基－ 7	
管制情報処理システム基礎理論	管情シス	11.0	18.3	技基－ 8	
通信装置基礎理論	通信理論	9.0	15.0	技基－ 9	
航法装置基礎理論	航法理論	12.0	20.0	技基－ 10	
着陸装置基礎理論	着陸理論	9.0	15.0	技基－ 11	
監視装置基礎理論	監視理論	13.0	21.7	技基－ 12	
管制技術業務概論	管技概論	6.0	10.0	技基－ 13	
安全管理概論	安全概論	6.0	10.0	技基－ 14	
保健体育	体育	3.0	5.0	技基－ 15	
公務員教養	公務教養	23.3	38.8	技基－ 16	
科目演習(学科)	科目演習	9.4	15.7	技基－ 17	
(1)小計		160.7	267.8		
学科計		160.7	267.8		
(2) 実技(管制技術実習)					
電気電子計測基礎	計測基礎	5.0	8.3	技基－ 18	
情報処理装置実技	情報実技	5.0	8.3	技基－ 19	
通信装置実技	通信実技	16.0	26.7	技基－ 20	
航法装置実技	航法実技	16.0	26.7	技基－ 21	
着陸装置実技	着陸実技	16.0	26.7	技基－ 22	
監視装置実技	監視実技	16.0	26.7	技基－ 23	
科目演習(実技)	科目演習	4.4	7.3	技基－ 24	
(2)小計		78.4	130.7		
実技計		78.4	130.7		
航空管制技術職員基礎研修 合計		239.1	398.5		

8. システム専門官基礎研修

(カリキュラム一覧・科目略語・目次)

科 目	略 語	時限数	時間数	頁	備 考
(1) 学科(専門科目)					
情報数学	情報数学	24.0	40.0	シ専ー 1	
情報と符号化	符号化	24.0	40.0	シ専ー 2	
情報学概論	情報学	18.0	30.0	シ専ー 3	
確率・統計概論	確率統計	18.0	30.0	シ専ー 4	
ITとデータ分析	データ分析	10.0	16.7	シ専ー 5	
OSコマンドラインプログラミング	OSCプロ	8.0	13.3	シ専ー 6	
プログラム開発基礎	プロ基礎	28.0	46.7	シ専ー 7	
リレーショナルデータベース概論	RDB概	18.0	30.0	シ専ー 8	
システム機能設計	シ機設計	14.0	23.3	シ専ー 9	
システム実装設計	シ実設計	24.0	40.0	シ専ー 10	
業務分析手法の基礎	業務分析	28.0	46.7	シ専ー 11	
信頼性設計概論	信頼性概	10.0	16.7	シ専ー 12	
ヒューマンインタフェース概論	HMI概	6.0	10.0	シ専ー 13	
知的財産権の法律と実務	知的財産	12.0	20.0	シ専ー 14	
情報倫理と法体系	情報倫理	12.0	20.0	シ専ー 15	
システム監査と内部統制	内部統制	12.0	20.0	シ専ー 16	
情報セキュリティ概論	セキュ概	12.0	20.0	シ専ー 17	
システム開発プロジェクト基礎	SPJ基礎	22.0	36.7	シ専ー 18	
プロジェクトマネジメント理論	プロマネ	20.0	33.3	シ専ー 19	
システム開発マネジメント	シスマネ	20.0	33.3	シ専ー 20	
ネットワーク理論	ネット理論	32.0	53.3	シ専ー 21	
ソフトウェア工学	ソフト工学	16.0	26.7	シ専ー 22	
システム運用方法論	シス運用	10.0	16.7	シ専ー 23	
運航情報業務論	運情論	8.0	13.3	シ専ー 24	
航空管制業務論	管制論	18.0	30.0	シ専ー 25	
航空業務安全学	安全学	18.0	30.0	シ専ー 26	
管制情報処理システム概論	管シ概要	16.0	26.7	シ専ー 27	
管制情報処理システム研究	管シ研究	30.0	50.0	シ専ー 28	
保健体育	体育	14.0	23.3	シ専ー 29	
先端システム工学	先端工学	14.0	23.3	シ専ー 30	
公務員教養	公務教養	4.0	6.7	シ専ー 31	
科目演習(学科)	科目演習	23.4	39.0	シ専ー 32	
(1)小計		543.4	905.7		
学科計		543.4	905.7		
(2) 実技(情報処理実習)					
プログラム開発基礎演習	プロ演習	18.0	30.0	シ専ー 33	
C言語プログラミング演習	C演習	12.0	20.0	シ専ー 34	
オブジェクト指向プログラミング演習	オブ演習	18.0	30.0	シ専ー 35	
航空交通管制情報処理システム開発演習	開発演習	30.0	50.0	シ専ー 36	
ネットワーク演習	ネット演習	30.0	50.0	シ専ー 37	
研究時間	研究時間	22.0	36.7	シ専ー 38	
科目演習(実技)	科目演習	2.0	3.3	シ専ー 39	
(2)小計		132.0	130.0		
実技計		132.0	220.0		
システム専門官基礎研修 合計		675.4	1,125.7		

9. 航空管制官課程 132期、133期、134期

(カリキュラム一覧・科目略語・目次)

科 目	略 語	時限数	時 間 数	頁	備 考
(1) 学科(外国語科目)					
実用英語	実用英語	8.0	13.3	管制－ 1	
航空英語	航空英語	30.0	50.0	管制－ 2	
(1)小計		38.0	63.3		
(2) 学科(専門科目)					
航空交通業務概論	航交概	7.0	11.7	管制－ 3	
航空管制概論	管概	8.0	13.3	管制－ 4	
飛行場管制論	飛管論	28.0	46.7	管制－ 5	
進入管制論	進管論	28.0	46.7	管制－ 9	
ターミナル・レーダー管制論	TR論	28.0	46.7	管制－ 12	
航空路管制論	航管論	30.0	50.0	管制－ 16	
国際航空法規	国際法	10.0	16.7	管制－ 19	
国内航空法規	国内法	13.0	21.7	管制－ 22	
航空気象通報式	通報式	8.0	13.3	管制－ 24	
航空レーダー概論	レ概	6.0	10.0	管制－ 26	
管制システム概論	シス概	5.0	8.3	管制－ 28	
空域・経路・航空情報概論	空情概	9.0	15.0	管制－ 30	
ATM概論	ATM概	5.0	8.3	管制－ 31	
TRM基礎	TRM	8.0	13.3	管制－ 33	
SMS	SMS	4.0	6.7	管制－ 34	
運航情報業務概論	運情概	6.0	10.0	管制－ 35	
航空無線施設概論	航無概	8.0	13.3	管制－ 36	
航空灯火電気施設業務概論	航灯概	6.0	10.0	管制－ 38	
安全(ヒューマンファクター)	HF	6.0	10.0	管制－ 39	
航空機概論	航空機	12.0	20.0	管制－ 40	
航空航法	航法	9.0	15.0	管制－ 42	
航空気象学	気象学	9.0	15.0	管制－ 44	
保健体育	保健体育	8.0	13.3	管制－ 46	
電波法規	電波法	15.0	25.0	管制－ 47	
無線工学	無線工学	14.0	23.3	管制－ 49	
科目演習(学科)	科目演習	26.0	43.3	管制－ 51	
公務員教養	公務教養	40.3	67.2	管制－ 52	
(2)小計		356.3	593.8		
学科計		394.3	657.2		
(3) 実技(管制実習)					
飛行場管制方式	TWR	52.0	86.7	管制－ 53	
進入管制方式	APP	30.0	50.0	管制－ 55	
ターミナル・レーダー管制方式	TR	50.0	83.3	管制－ 56	
航空路管制方式	ACC	52.0	86.7	管制－ 57	
電気通信術	通信術	2.0	3.3	管制－ 59	
総合実習	FFT	25.0	41.7	管制－ 60	
科目演習(実技)	科目演習	8.0	13.3	管制－ 61	
(3)小計		219.0	365.0		
実技計		219.0	365.0		
航空管制官課程 132期、133期、134期	合計	613.3	1,022.2		

IV. 研修内容

IV. 研修内容

1. 航空情報科 1 学年（5 2 期）

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
心理学	心理学	学科	一般教養科目	特任教官	18
教科書			使用教室	使用機材等	
図説教養心理学			合同教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
専門科目を履修するに必要な基本事項を学習する。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
職場における良好な人間関係の構築手法の手段として心理学の基礎概念を把握し、集団における人間とその認知・行動の過程を説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 性 格	(1) 性格とは (2) 性格の検査法 (3) 性格変化の要因		2.0		
2. 知 覚	(1) 視覚の生理的メカニズム・色 (2) 図と地、錯覚と恒常性		2.0		
3. 学 習	(1) 条件づけ (2) 効果の法則、フィードバック		2.0		
4. 記憶	(1) 短期記憶と長期記憶 (2) 知識とその運用		2.0		
5. 対人認知	(1) 対人コミュニケーションの諸相 (2) 対人認知の変容 (3) 対人関係の発展と解消		2.0		
6. 集 団	(1) 同調、集団凝集性 (2) リーダーシップ		1.0		
7. 注意と パフォーマンス	(1) 自動的処理と制御的処理 (2) 熟達化		1.0		
8. 精神的健康	(1) ストレス、コーピング (2) 幸福感		2.0		
9. 自己意識と 動機づけ	(1) 欲求の階層、自尊感情 (2) エゴ・アイデンティティ(自我同一性) (3) 青年期の心理と発達		2.0		
10. 心理療法	(1) 認知行動療法、来談者中心療法 (2) 内観療法、森田療法		1.0		
11. 評 価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
法学	法学	学科	一般教養科目	特任教官	27
教科書			使用教室	使用機材等	
現代法学入門、行政法、民事法入門、デイリー六法			合同教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
専門科目を履修するに必要な基本事項を学習する。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
基本的な知識を身につけた上で、法および行政法について概要を説明できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 法学について	法を考えるにあたっての実践的態度を養う (1) 社会と法と法学 (2) 法とは (3) 法の発展と社会の発展 (4) 法の解釈 (5) 法の基本原理 (6) 法と権利・義務 (7) 法解釈上の諸問題		6.0		
2. 憲 法	憲法の基本原理を理解させる (1) 憲法の法源と解釈運用 (2) 国民の権利と義務 (3) 憲法と行政手続		2.0		
3. 民 法	(1) 民法総則 ア. 民法の地位及び基本原理 イ. 権利主体 ウ. 権利の客体 エ. 法律行為 オ. 時効 (2) 物権 ア. 占有権 イ. 所有権 ウ. 担保物件 (3) 債権 ア. 債権の効力 イ. 契約 ウ. 事務管理・不当利得 エ. 不法行為		6.0		

法学

授業項目	要点	時限	備考
4. 行 政 法	行政法の基礎的概念及び基本原理を実証的素材に即して理解させ、公務員としての思考の指針を与える。 (1) 行政法の意義及び特質 (2) 行政法の基礎規律 (3) 行政立法 (4) 行政行為 (5) 行政強制 (6) 行政指導 (7) 国家補償、損害賠償 (8) 行政組織・機関 (9) 公務員	10.0	
5. 国 際 法	国際法の必要性、権利義務について概要を述べ、国際民間航空条約を概観する。 (1) 国際法の必要性、権利義務 (2) 国際民間航空条約	2.0	
6. 評 価		1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
数学	数学	学科	一般教養科目	特任教官	30
教科書			使用教室	使用機材等	
科学技術者のための基礎数学 統計学入門			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
専門科目を履修するに必要な基本事項を学習する。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
代数・幾何について高校数学の重点を復習した上で、専門科目理解に足る微積分の基本事項、初歩的な統計学を習得する。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 代数・幾何	代数・幾何について重点事項の復習 (1) 不等式 (2) 関数(指数関数・対数関数) (3) 三角関数・三角方程式 (4) 空間におけるベクトル (5) ベクトルとその応用 (6) ベクトル内積			9.0	
2. 微 積 分	専門科目の履修に必要な微積分に関する基本事項の修得 (1) 色々な関数 (2) 数列と極限 (3) 区分求積 (4) 微分係数 (5) 微分と積分の逆関数 (6) 微分法の応用 (7) 積分法の応用 (8) 色々な関数Ⅱ (9) いくつかの発展・詳論			10.0	
3. 統計学	初歩的な統計学の習得 (1) データの整理と表現 (2) 初等的な確率論 (3) 確立分布、二項分布、正規分布 (4) 無作為抽出と標本分布 (5) 推定、仮説と検定、相関と線形回帰			10.0	
4. 評 価				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
物理学	物理学	学科	一般教養科目	特任教官	30
教科書			使用教室	使用機材等	
科学者と技術者のための物理学ⅠA			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
専門科目を履修するに必要な基本事項を学習する。					
受講の前提条件					
数学 履修					
到達目標					
専門科目理解に足るものとして、力と運動、弾性と流体にかかる知識を習得する。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 力 と 運 動	(1) 物理学と測定 (2) ベクトル(ベクトルの時間微分、スカラー積) (3) 1次元の運動 (4) 2次元の運動 (5) 運動の法則 (6) 円運動とニュートンの法則 (7) 仕事とエネルギー (仕事、位置のエネルギー、運動のエネルギー) (8) ポテンシャルエネルギーとエネルギー保存則 (9) 運動量と衝突 (10) 固定軸のまわりの剛力の運動			25.0	
2. 弾性と流体	(1) 弾性 ア. 応力と外力 イ. 応力とひずみ (2) 静止した流体 パスカルの原理、アルキメデスの原理、表面張力 (3) 運動する流体 ア. 流線と定常な流れ イ. ベルヌーイの原理 ウ. 流体の粘性 エ. 流体中を動く物体のうける抵抗 (粘性抵抗、慣性抵抗)			4.0	
3. 評 価				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
社会教養	社会教養	学科	一般教養科目	特任教官	12
教科書			使用教室	使用機材等	
なし			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
専門科目を履修するに必要な基本事項を学習する。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
社会人としての基本的なビジネスマナーを習得する。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 社会人教育	ビジネスマナー (1) 社会人としての心構え (2) 何がビジネスマナーなのか (3) なぜマナーが必要なのか		2.0		
	ロールプレイ (1) 敬語、挨拶 (2) 受命・報告・相談 (3) 話し方、聴き方 (4) 電話対応		9.0		
			1.0		
2. 評価					

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
英語A1(情報)	英語A1	学科	外国語科目	特任教官	18
教科書			使用教室	使用機材等	
AVIATION ENGLISH			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
平易な英語で書かれた航空分野を題材にした教材により、航空分野の英語表現に慣れるとともに、航空英語の語彙を身に付ける。 To familiarize aviation related topics and expressions written in plain English.					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
航空無線通信における航空英語を学習する。 To undrestand aviation English in aeronautical radio communications.					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空英語 Aviation English	(1)知識、専門語彙 平易な英語で書かれた航空英語の教材を使い音読練習を行う。何度も読み内容を覚えてしまう位に練習する。 (2)表現力、理解力 教科書を見ずに思い出しながら再生する練習を行う。ただし丸暗記ではなく、覚えている内容から自分で作文するようなつもりで再生する。このような練習を通じて、表現力の向上を目指す。 (3)リスニング 音声の付いているレッスンでは音声と同じようなリズムで音読する練習をする。自然なリズムに慣れることで英語を聞くときのコツを習得する。		17.0	レベル4	
2. 評価 Evaluation			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
英語B(情報)	英語B	学科	外国語科目	特任教官	18
教科書			使用教室	使用機材等	
Journey to Success Departing for a Higher Score on the TOEIC Test			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
英語でコミュニケーションを行うための基礎文法を学習する。 Stuedents will learn basic English grammer and expressions					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
英語でコミュニケーションを行うための基礎的な英文の読解及び作文ができる。 Students are able to have reading and writing ability about basic English texts.					
	要点		時限	備考	
1. 中級英語 Intermediate English class for Reading, Writing and Grammer	(1)読解力、理解力、語彙の向上 一般航空英語についての基礎を幅広く習得する。航空に関する事項を幅広く扱い、基礎的な航空語彙、言い回しを習得する。		17.0	レベル4	
2. 評価 Evaluation			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
英会話C1	C1	学科	外国語科目	特任教官	24
教科書			使用教室	使用機材等	
ENGLISH CONVERSATION (GRADE1) WORLD VIEW 3			自教室および 第2統合実習室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
レベル別にコミュニケーションに重点を置いた授業を受けることにより、英語での表現力・意思疎通する能力を伸ばす。 To enhance our own abilities to express and communicate in English by communication-focused lessons categorized by level.					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
英会話を行う能力を向上させる。 To improve skills in English conversation					
授業項目	要点		時限	備考	
1. レベル分け試験	英語での表現力・意思疎通する能力を測定する。		2.0	2クラス分割のため	
2. 英会話 English Communication	(1)会話力と理解力の向上 ペアや小さなグループで行うロールプレイ練習や発話練習を通じて、自分の言いたいことを言えるようになる力を養う。 (2)コミュニケーション力 テキストを順番に読み合うだけでなく、自ら意思疎通しなくてはならない状況で会話練習を行う。 (3)発音、リスニング、英語でコミュニケーションを行う環境 ネイティブスピーカーが授業を行い、英語でコミュニケーションをする環境を作る。授業を通じてネイティブの発音や話し方に慣れる。		21.0	レベル4	
3. 評価 Evaluation			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
英会話L1	L1	学科	外国語科目	特任教官	24
教科書			使用教室	使用機材等	
ENGLISH CONVERSATION (GRADE1)			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
リスニングに重点をおいた授業により英会話の能力を高める。 To enhance our own abilities to communicate in English by listening-focused lessons categorized by level.					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
リスニング力の強化により英会話を行う能力を向上させる。 To improve skills in English conversation by listening					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 英会話 English Listening	(1)理解力の向上 リスニング練習を通じて英語理解力を訓練する。多少わからない単語があっても内容を推測する力を養う。 (2)発音、リズム、リスニング 音が弱くなったり繋がったりする英語の音声的特長に慣れる練習を行う。リスニング力向上のため、英語のリズムを意識した音読練習を行う。 (3)英語でコミュニケーションを行う環境 必要な場合を除き極力英語で授業を行い、英語でコミュニケーションを行う環境に慣れさせる。		23.0	レベル4	
2. 評価 Evaluation			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
英会話S1	S1	学科	外国語科目	特任教官	24
教科書			使用教室	使用機材等	
ENGLISH CONVERSATION (GRADE1)			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
コミュニケーション、リスニングの教科書の内容を練習することを通して理解を深める。 To enhance our understanding of Communication and Listening					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
英語によるコミュニケーション能力、リスニング能力を向上させる。 To improve skills in English communication and listening					
授業項目	要点			時限	備考
1. 英会話 English supplement	(1)理解の確認 コミュニケーション、リスニングで習得する 内容の予習・復習を行うことにより、理解を 深め確実な知識にする。 (2)文構造力の向上 文法を理解することにより、コミュニケーション、 リスニングで習得した知識を確実なものにす (3)英語でコミュニケーションを行う環境 アクティビティーや練習を行うときは英語のみ で行う。			23.0	レベル4
2. 評 価 Evaluation				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
保健体育	保健体育	学科	保健体育科目	特任教官	27
教科書			使用教室	使用機材等	
なし			体育館 グラウンド テニスコート	□校務情報システム	
位置づけ					
運動についての科学的理解に基づき、合理的な練習によって運動技能を高め、体力の向上を図る。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 体育理論と 体育実技	(1)生理、力学、心理から見た運動の特性を 習得する。 1) 運動の生理 2) 運動の力学 3) 運動の心理 4) 生活と運動 5) 体育レクリエーション (2)筋力、持久力、柔軟性等の運動能力を 高め、心身の調和的な発達を図るとともに 球技を通して公正な態度を養う。 1) 体操 ア. 徒手 イ. 床運動(マット使用) 2) 器械体操 ア. 跳び箱 3) 競技 ア. 持久走 4) 球技(基礎・応用・チームプレー) ア. ソフトボール イ. バレーボール ウ. サッカー エ. バスケットボール オ. テニス カ. バドミントン キ. 卓球 ク. スポレック ケ. ピロポロ コ. キンボール サ. アルティメット シ. タグラグビー		24.0		
2. メンタルヘルス	ストレス等適切に対応できるような知識 を習得する。 (1)メンタルヘルス (2)ストレスマネジメント		1.0		
3. 体育大会	「職種間連携強化推進」活動の一環として、 職種・科を超えた大会		2.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空航法	航法	学科	専門科目	特任教官	36
教科書			使用教室	使用機材等	
百万分の一航空路図			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空航法全般に係る基本的な内容(航空航法の概要及び種類、航法計算等)を把握する。 航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空航法) 航空交通管制通信職員基礎試験科目。(航空航法)					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
航空交通業務の遂行に必要とされる航空航法の基礎知識を習得する。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空航法の概要	(1) 航法の目的 (2) 航法の3段階 (3) 航法の種類		2.0		
2. 航空航法の基本	(1) 地球について (2) 時について (3) 方位、航路、航跡、針路、距離		4.0		
3. 航 空 図	(1) 地図の種類 (2) 地図の投影法 (3) 航空図使用上の注意 (4) 白図の作り方		4.0		
4. 航法用基本計器	(1) コンパス (2) 速度計 (3) 高度計 (4) 大気温度計		3.0		
5. 航法計算と 作図法	(1) 風向三角形 (2) TH,TAS,WIND から DRIFT, GS を求める (3) TC,TAS,WIND から WCA, GS を求める (4) 航法計算盤により DRIFT, GS, WCA を求める (5) 飛行中コースから離れた時の修正 (6) エアプロットと推定位置 (7) エアプロットと測定位置		5.0		
6. 位置の決定	(1) 位置線:位置線の種類 (2) 位置線の利用法(目視及び電波による)		4.0		

航空航法

授業項目	要点	時限	備考
7. フライトプラン	(1) プランニングデータとその見方 (2) 航路と距離の求め方 (3) TAS と燃料消費量と航空機重量との関係 (4) 上昇と降下 (5) ハイスピードクルーズとロングレンジ クルーズ (6) 予備燃料の内訳 (7) 自重:運航重量、離陸重量、着陸重量 (8) 上昇終了地点と降下開始地点 (9) 上昇率と降下率 (10) フライトプランの作成	6.0	
8. 最大進出点、 ETP, 会合点	(1) 行動半径 PNR:PSR (2) 代替空港 (3) ETP (4) 会合法	3.0	
9. 最近のジェット 旅客機による 航法	(1) 上昇率、降下率、速度調整 (2) VOR/DMEの利用 (3) 慣性航法 (4) RNAV	3.0	
10. 評 価		2.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空気象学	気象学	学科	専門科目	特任教官	32
教科書			使用教室	使用機材等	
世界で一番わかりやすい航空気象			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空機の運航に影響を与える航空気象全般に係る基本的な内容を把握する。 航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空気象) 航空交通管制通信職員基礎試験科目。(航空気象)					
受講の前提条件					
物理学 履修					
到達目標					
航空交通業務遂行上必要な航空気象の基礎を理解することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空と気象	(1) 航空機と大気 (2) 飛行への気象要素の影響		1.0		
2. 大気	(1) 太陽と地球 (2) 大気の構造 (3) 大気の安定性 (4) 断熱図		2.0		
3. 気温	(1) 温度と熱 (2) 気温 (3) 地上気温と航空機の運航		2.0		
4. 気圧	(1) 気圧と高度 (2) 標準大気 (3) 気圧高度計		2.0		
5. 風	(1) 空気の動き (2) 風向と風速 (3) 航空機と風		1.5		
6. 水分	(1) 大気中の水分 (2) 雲(種類、雲量、雲底、観測) (3) 霧(発生、消滅、種類) (4) 着氷		2.5		
7. 天気と大気現象	(1) 天気 (2) 大気現象 (3) 積乱雲 (4) 雷雲(雷、雷雨) (5) ダウンバースト、マイクロバースト、山岳波 (6) 気流		1.5		

航空気象学

授業項目	要点	時限	備考
8. 視程	(1) 視程 (2) 卓越視程 (3) 滑走路視距離 (4) 視程の観測 (5) 視程と航空機の運航	2.0	
9. 気象観測	(1) 一般気象観測 (2) 航空気象観測 (3) 高層気象観測その他	1.0	
10. 気団と前線	(1) 気団の発生と分類 (2) 気団の変質 (3) 前線の定義 (4) 前線の種類と特徴	2.0	
11. 高気圧、低気圧、 台風	(1) 高気圧 (2) 低気圧 (3) 温帯低気圧 (4) 熱帯低気圧 (5) 台風	3.0	
12. 天気図	(1) 天気図の種類 (2) 天気図の見方 (3) 航空気象資料 (4) 航空気象情報	6.0	
13. 予報	(1) 予報の手法 (2) 予想天気図とその見方	2.0	
14. 航空気象通報	(1) 観測値の通報(METAR、SPECI) (2) 情報の通報(予報、警報)現象	1.5	
15. 評価		2.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空機概論	航空機	学科	専門科目	特任教官	36
教科書			使用教室	使用機材等	
航空実用ハンドブック			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空機の種類・構造、航空計器及び運航規程に係る概要を把握する。 航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空機概論) 航空交通管制通信職員基礎試験科目。(航空機概論)					
受講の前提条件					
物理学 履修					
到達目標					
航空機の飛行原理、性能、その限界等の基礎知識を習得し、航空交通業務における航空機の運航特性等を理解する事ができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空機の歴史	(1) 航空機の発達と経緯		1.0		
2. 飛 行 原 理	(1) 翼の基本的性質 (2) 動的空気力 (3) 揚力 (4) 抗力 (5) スロットルレバーと操縦桿		2.0		
3. 飛行機のしくみ	(1) 飛行機の種類 (2) 主翼の働き (3) 高揚力装置 (4) 尾翼の役目 (5) 胴体の役目 (6) 動力 (7) 降着装置 (8) 操縦装置		2.0		
4. 飛行機の釣合、安定、操縦	(1) 風圧中心と空力中心 (2) 釣合いと安定の条件 (3) 昇降舵のはたらき (4) 飛行機の3つの軸 (5) 垂直尾翼と方向性安定 (6) 上反角効果 (7) 補助翼のはたらき		4.0		
5. 飛行機の性能	(1) 離陸 (2) 上昇 (3) 最大速度 (4) 航続性能 (5) 進入と着陸		4.0		

航空機概論

授業項目	要点	時限	備考
6. 飛行機の種類	(1) 亜音速 (2) 遷音速と超音速	2.0	
7. 飛行機の動力及び推進装置	(1) プロペラ (2) ピストンエンジン (3) タービンエンジン	4.0	
8. 飛行機の動力装置と燃料系統	(1) エンジン艀装 (2) 燃料系統	2.0	
9. 飛行機の脚	(1) 脚の型式 (2) 緩衝装置	2.0	
10. 飛行機の操縦系統	(1) 人力操縦方式 (2) 機力操縦方式 (3) 自動操縦	3.0	
11. 飛行機の油圧系統	(1) 油圧の原理 (2) 航空機における油圧作動装置	3.0	
12. 現代航空機の種類及び性能	(1) 大型旅客機の性能 (2) 中・小型機の性能	2.0	
13. 回転翼航空機	(1) 回転翼航空機の飛行原理 (2) 回転翼航空機の特徴	3.0	
14. 評価		2.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
ITインフラ概論	IT概	学科	専門科目	特任教官	24
教科書			使用教室	使用機材等	
・いちばんやさしいITパスポート絶対合格の教科書 ・絵で見てわかるITインフラの仕組み			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
IT関連で使用する一般的な基礎知識及びITインフラの概念、役割を学習する。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
IT関連で使用する一般的な用語の意味、機能役割の概要及びITインフラの基本的な仕組みを習得する。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. コンピューターの基本事項	(1)テクノロジー系 ア. 基礎理論、 イ. アルゴリズムとプログラミング ウ. コンピュータ構成要素、システム構成要素 エ. ソフトウェア、ハードウェア オ. ヒューマンインタフェース カ. マルチメディア キ. データベース ク. ネットワーク コ. セキュリティ (2)マネジメント系 ア. システム開発技術 イ. ソフトウェア開発管理技術 ウ. プロジェクトマネジメント エ. サービスマネジメント		16.0		
2. ITインフラの仕組み	(1)インフラアーキテクチャについて ア. アーキテクチャとは何か イ. アーキテクチャの構成考え方 (2)3層型アーキテクチャの基本 ア. 3階層システムの概念 (3)耐障害性、冗長化 ア. 耐障害性、冗長性とは何か イ. 耐障害性、冗長性の役割		7.0		
3. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
情報システム概論	シス概	学科	専門科目	特任教官	21
教科書			使用教室		使用機材等
教官作成資料			第1統合実習室 等		☒ 校務情報システム
位置づけ					
システム設計・開発及びプロジェクトマネジメントとは何か概念を理解及び基本的な考え方を学習する。					
受講の前提条件					
ITインフラ概論 履修					
到達目標					
システム設計・概要の意義・位置づけ及びプロジェクトマネジメントの概要・意義を習得する。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. ソフトウェア 開発管理技術	(1)ソフトウェア開発管理の基礎 ア. ソフトウェア開発管理の基礎知識 イ. ソフトウェア開発とは何か ウ. ソフトウェア開発の手法 エ. 開発上の問題・管理方法 (2)品質保証と品質管理 ア. 品質管理とは何か イ. 品質管理とは手法 (3)リスク予測と進捗管理教科書 ア. リスク予測とは何か イ. リスクの種類 ウ. 進捗管理の考え方		16.0		
2. システム設計 ・開発工程	(1)システム設計・開発工程 ア. システム設計とは何か イ. 内部設計とは何か ウ. 外部設計とは何か エ. プロジェクトマネジメントとは何か		4.0		
3. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
ヒューマンファクター1	HF1	学科	専門科目	特任教官	6
教科書			使用教室	使用機材等	
ヒューマンエラー			合同教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
ヒューマンファクターに関する基礎的な知識と技術を学び、ヒューマンエラーをなくする手法を説明することができる。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
ヒューマンファクターに関する基礎的な知識と技術を学び、ヒューマンエラーをなくする手法を理解する事ができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. ヒューマンエラー	(1) 事故とヒューマンエラー (2) ヒューマンエラーはなぜ起こる？ (3) 人間の仕組みとヒューマンエラーのタイプ		2.0		
2. 人間の能力	(1) 人間の能力と「使いやすい機器」 (2) 能力と限界と特性 (3) 状況認識		2.0		
3. エラーの防止	(1) 意志不疎通で起こるエラー (2) よい人間関係 (3) ヒューマンエラーを防止していくために		1.0		
4. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
国内航空法規 (航空法)	航空法	学科	専門科目	航空情報科教官	68
教科書			使用教室	使用機材等	
航空六法 AIM-J 数字で見る航空			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空法規) 航空交通管制通信職員基礎試験科目。(航空法規)					
受講の前提条件					
法学 履修					
到達目標					
航空管制運航情報業務及び航空管制通信業務に必要な航空法規全般(空港法を除く)にわたる基礎知識を習得する。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 総 則	(1) 航空法の概要 (2) 航空法の沿革 (3) 航空法の目的 (4) 航空法の及ぶ範囲 (5) 関連法規類 (6) 定義		6.0		
2. 登 録	(1) 登録の概要 (2) 登録により発生する法律上の効果 (3) 登録の種類 (4) 国籍、登録記号の表示		3.0		
3. 航空機の安全性	(1) 航空機の安全性を図るための証明 (2) 諸検査、確認 (3) 耐空類別・運用限界 (4) 飛行規程、耐空性審査要領		6.0		
4. 航空従事者	(1) 技能証明の資格及び限定 (2) 技能証明の要件 (3) 業務範囲 (4) 身体検査・計器飛行証明・操縦教育証明 (5) 航空英語能力証明 (6) 操縦練習・計器飛行等の練習 (7) 航空従事者の養成施設		8.0		
5. 航空路、飛行場 及び航空保安 施設	(1) 航空路、飛行場、航空保安施設の種類の (2) 飛行場設置の申請から供用開始までの 手続 (3) 物件の制限 (4) 飛行場の設置・管理基準 (5) 禁止行為 (6) 航空保安無線施設の設置・管理基準 (7) 航空灯火の設置・管理基準 (8) 航空障害灯、昼間障害標識の設置・管理基 (9) 使用料金 (10)国土交通大臣が設置する空港の管理		15.0		

国内航空法規(航空法)

授業項目	要点	時限	備考
6. 航空機の運航	(1) 国籍等の表示 (2) 航空機に備え付ける書類 (3) 航空機の航行の安全を確保するための装置 (4) 救急用具・燃料・灯火 (5) 航空機乗組員 (6) 機長の業務 (7) 運航管理者 (8) 特殊運航許可 (9) 巡航高度 (10) 航空交通の管理・指示 (11) 空域規制 (12) 飛行計画及び承認 (13) 到着の通知 (14) 情報の提供 (15) 日米安保条約 (16) 自衛隊法	18.0	
7. 航空運送事業等	(1) 航空運送事業 (2) 運航管理施設等の検査 (3) 運航規程等の認可 (4) 事業計画・運航計画の変更 (5) 混雑飛行場に係る特例 (6) 事業改善命令 (7) 航空機使用事業	4.0	
8. 外国航空機	(1) 外国航空機の航行・国内使用 (2) 外国人国際航空運送事業	4.0	
9. 雑 則	(1) 報告徴収及び立入検査 (2) 職権の委任	2.0	
10. 評 価		2.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
国内航空法規 (空港法)	空港法	学科	専門科目	航空情報科教官	12
教科書			使用教室	使用機材等	
航空六法 法改正論点集 数字で見る航空			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空法規) 航空交通管制通信職員基礎試験科目。(航空法規)					
受講の前提条件					
授業項目「6. 空港管理規則」:国内航空法規(航空法)履修					
到達目標					
航空管制運航情報業務及び航空管制通信業務に必要な空港法関連規全般にわたる基礎知識を習得する。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 総則	(1) 空港法改正の概要 (2) 空港法の目的 (3) 定義 (4) 空港設置管理に関する基本方針 (5) 関連法規類			2.0	
2. 空港管理者	(1) 拠点空港の設置及び管理者 (2) 重要空港の設置及び管理者			2.0	
3. 工事負担	(1) 国及び都道府県の負担配分等			1.0	
4. 空港の管理	(1) 空港供用規程 (2) 協議会 (3) 空港機能施設事業者			2.0	
5. 雑則	(1) 認可等の条件 (2) 報告徴収及び立入検査 (3) 指導等			1.0	
6. 空港管理規則	(1) 目的 (2) 入場の制限又は禁止 (3) 施設の使用 (4) 検査の実施の指示 (5) 着陸料等・構内営業 (6) 車両の使用及び取扱 (7) 禁止行為・事故報告・給油作業等 (8) 検査・報告の徴収・承認の取消			3.0	
7. 評価				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
国際航空法規	国際法	学科	専門科目	航空情報科教官	21
教科書			使用教室	使用機材等	
ICAO概論			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空法規) 航空交通管制通信職員基礎試験科目。(航空法規)					
受講の前提条件					
法学 履修					
到達目標					
運航情報業務及び航空管制通信業務に必要な国際航空法規及びICAOに関する基礎知識を理解することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 国際航空の成り立ち	(1) 国際航空の歴史と条約 (2) 国際的機関の設立		1.0		
2. 国際民間航空条約及び付属書	(1) 条約の構成及び内容 ア. 条約の基本的考え方 イ. 条約の適用 ウ. 各種規則 エ. 国際標準及び勧告方式 (2) 付属書の種類と概要 (3) 付属書の構成及び規定の種別		13.0		
3. 国際民間航空機関(ICAO)	(1) ICAOの目的と構成 (2) 航空会議と部会会議 (3) 地域航空計画(ANP)		6.0		
4. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
電波法規	電波法	学科	専門科目	航空情報科教官	15
教科書			使用教室	使用機材等	
法規(航空無線通信士)			自教室または 合同教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
無線従事者(航空無線通信士)養成課程					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
電波法及びこれに基づく命令、並びに国際電気通信連合憲章、国際電気通信条約、同付属書無線通信規則、電気通信規則及び国際民間航空条約(電波に関する規定に限る。)の概要が理解できる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 総 則	(1) 電波法の目的 (2) 電波法令の概要 (3) 用語の定義 (4) 総務大臣の権限の委任			2.0	
2. 無線局の免許	(1) 無線局の開設 (2) 免許の有効期間及び再免許 (3) 免許状記載事項及びその変更等 (4) 免許の承継 (5) 免許の特例等 (6) 無線局の廃止等と措置			1.0	
3. 無線設備	(1) 電波の質 (2) 電波の型式の表示等 (3) 送信装置 (4) 受信設備 (5) 送受信空中線(型式及び構成等) (6) 安全施設(高圧電気に対する安全施設) (7) 保護装置(電源回路の遮断等の保護装置) (8) 周波数測定装置の備付け (9) 航空機用救命無線機 (10)有効通達距離 (11)衛星通信設備 (12)無線航行設備 (13)型式検定合格機器の備付け			2.0	
4. 無線従事者	(1) 資格制度(主任無線従事者等) (2) 無線設備の操作及び監督の範囲 (3) 無線従事者の免許 (4) 免許証の携帯義務 (5) 免許証の訂正、再交付又は返納			1.0	

電波法規

授業項目	要点	時限	備考
5. 運用	(1) 通 則 (2) 一般通信方法 (3) 航空移動業務 (4) 航空移動業務の無線局の通信方法 (5) 遭難通信 (6) 緊急通信 (7) 安全通信 (8) 特別業務の通信 (9) 航空無線航行業務の通信方法 (10) 非常通信及び非常の場合の無線通信	3.0	
6. 業務書類	(1) 時計の備付け及び照合の義務 (2) 無線検査簿の様式及び保存期間 (3) 無線業務日誌の記載事項及び保存期間 (4) 免許状(証票) (5) 法及びこれに基づく命令の収録等	1.0	
7. 監 督	(1) 電波の発射の停止 (2) 無線局の検査 (3) 無線局の免許の取消し、運用停止又は運用制限 (4) 無線従事者の免許の取消し又は従事停止 (5) 遭難通信を行った場合等の報告	1.0	
8. 罰則等	(1) 手数料の納付 (2) 電波利用料制度 (3) 罰 則	1.0	
9. 関係法令	(1) 電気通信事業法及びこれに基づく命令の関係規定の概要	1.0	
10. 国際法規	(1) 国際電気通信条約の概要 (2) 無線通信規則の概要 (3) 国際電気通信規則の概要 (4) 国際民間航空条約の概要	2.0	
11. 評 価	次の試験を以って評価 「無線従事者(航空無線通信士)養成課程 修了試験」		

[illegible]

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
運航情報基礎学1	基礎学1	学科	専門科目	航空情報科教官	20
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第1			教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空法規、運航管理論、航空情報業務、飛行場の概要、航空通信規則、英語)					
受講の前提条件					
授業項目「2. 飛行計画」: 飛行計画論、運航監視論 履修					
到達目標					
各専門科目に関連する基礎的な知識を定着させることで、それぞれの科目を横断的に理解し、説明することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 基本知識の習得	(1)電気通信術で使用する用語 (2)空港名、所在地 (3)管轄区域 (4)組織規則 (5)航空情報用略語 (6)航空機の型式 (7)UTCとJST			10.0	
2. 飛行計画	(1) 飛行計画書への書き取り、内容確認			6.0	
3. 総則	航空保安業務処理規程 第1 総則			2.0	
4. 評価				2.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
飛行計画論	FPL論	学科	専門科目	航空情報科教官	20
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4 航空六法 ENRC 1-2,3			LL教室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(運航管理論、航空情報業務) 航空交通管制通信職員基礎試験科目。(航空情報業務)					
受講の前提条件					
運航情報業務概論 履修					
到達目標					
航空機の運航の種類および飛行計画について理解し、説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 運航管理規則	(1) 運航の種類 (2) 局地飛行区域の設定		1.0		
2. 飛行計画の記入	(1) 飛行計画の記入・通報要領		14.0		
3. 飛行計画の審査	(1) 飛行計画の受理 (2) 内容審査 (3) 定期便の遅延 (4) 飛行計画受理者の指定 (5) 飛行計画書の保存 (6) 飛行場管制所への連絡		3.0		
4. 運航記録	(1) 運航記録原簿 (2) 運航記録原簿の記入要領 (3) 各項目の記入要領 (4) 記載事項の変更 (5) 特定空港 (6) 航空保安業務時間外の離着陸		1.0		
5. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
運航監視論	運監論	学科	専門科目	航空情報科教官	12
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4 航空六法 航空保安業務の概要			LL教室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(運航管理論、航空情報業務) 航空管制通信職員基礎試験科目。(航空情報業務)					
受講の前提条件					
航空通信業務論1、飛行計画論 履修					
到達目標					
運航監視機関及び運航監視の方法を理解し、説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 概要	運航管理の概要		0.5		
2. 運航の監視	(1) 運航監視の方法 (2) 異常運航の監視 (3) 運航監視機関		5.5		
3. 航空交通業務 通報 (ATS通報)	(1)一般(ATS通報の種類・構成) (2)ATS MSGの処理方法 (3)ATS MSGの表示、構成及びその通報例 (4)本文の構成、記入要領及びその通報例		1.0		
4. 宛先	送付アドレス		4.0		
5. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空通信業務論1	通信論1	学科	専門科目	航空情報科教官	15
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4 運航情報業務概論 航空保安業務の概要			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空情報管理論、航空通信規則) 航空交通管制通信職員基礎試験科目。(航空通信規則、航空情報業務)					
受講の前提条件					
運航情報業務概論 履修					
到達目標					
国内航空通信業務の遂行に必要な情報交換の仕組み並びに情報の種類・管理等に関する基礎知識及び統合管制情報処理システムの概要について理解し、説明することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 航空通信	(1) 一般情報通信知識 (2) 情報通信の変遷 (3) 航空保安業務の変遷 (4) 航空固定通信ネットワークの概念 (5) 地点略号(国内)			2.0	
2. 国内航空通信 手続	(1) 航空通信業務 (2) 通報およびデータの種類 (3) 航空通信手続			7.0	
3. 統合管制情報 処理システム の概要	(1) システムの役割 (2) システム構成 (3) ネットワーク構成 (4) FACEの役割 (5) データベース (6) FO管理の役割 (7) 関係システム (システム概要、インターフェイス)			4.0	
4. 国際航空通信 手続	(1) AFTNの概念			1.0	
5. 評 価				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空情報業務論	情報論	学科	専門科目	航空情報科教官	14
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4 第4の2 運航情報業務概論 AIM-J AIP JAPAN			LL教室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空情報管理論、航空情報業務、航空通信規則)					
受講の前提条件					
運航情報業務概論 履修					
到達目標					
航空情報にかかる規程類を理解し、航空情報の発行の流れを把握する。また、航空情報の抽出を行い解読ができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 航空情報	(1) 目的 (2) 定義 (3) 業務所掌			1.0	
2. 航空情報の形式	(1) 航空路誌 (2) 航空路誌改訂版 (3) 航空路誌補足版 (4) ノータム (5) 航空情報サーキュラー (6) チェックリスト (7) 飛行前情報ブリテン (8) 電子地形・障害物データ			4.0	
3. 航空情報の提供	(1) 基本的なノータムの解読			3.0	
4. エアラック	(1) エアラック方式 (2) エアラック事項			2.0	
5. AIS WEB	(1) AIS WEBの利用方法			1.0	
6. 規定類	(1) 航空情報業務に関する規定の概要			1.0	
7. 評価				2.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
飛行場情報業務論	飛情論	学科	専門科目	航空情報科教官	16
教科書			使用教室	使用機材等	
空港の管理と運用 陸上空港の施設の設置基準・同解説 航空六法 AIM-J 航空保安業務の概要 AIP JAPAN			LL教室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(飛行場の概要)					
受講の前提条件					
運航情報業務概論 履修					
到達目標					
飛行場の管理責任及び基本施設について理解し説明することができる					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 飛行場の概要	(1) 飛行場の意義 (2) 飛行場の種類と飛行場外離着陸場		2.5		
2. 飛行場の管理	(1) 管理責任 (2) 運用時間 (3) 使用料金 (4) 管理体制		2.0		
3. 飛行場の施設	(1) 基本施設 ア. 着陸帯 イ. 滑走路 ウ. 誘導路 エ. エプロン (2) 飛行場標識 (3) 飛行場灯火 (4) その他の施設		9.0		
4. 制限表面	(1) 制限表面の概要		1.0		
5. 航空機騒音	(1) 航空機騒音対策		0.5		
6. 評 価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
対空援助論1	対空論1	学科	専門科目	航空情報科教官	16
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4 航空六法 AIM-J			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空通信規則、航空路通信組織) 航空交通管制通信職員基礎試験科目。(航空通信規則、航空路通信組織)					
受講の前提条件					
運航情報業務概論、国内航空法規(航空法)、国際航空法規 履修					
到達目標					
対空援助業務において情報提供に使用する用語や通信手続き等について理解し、状況に応じて定められた用語を使用することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 対空援助業務全般	(1) 対空援助業務の概要 (2) 飛行場対空援助業務の概要 (3) 他飛行場援助業務の概要 (4) 試験規則及び技能証明			2.0	
2. 通則	(1) 目的 (2) 定義 (3) 記録 (4) 通信の確保と録音 (5) 一般通信手続 (6) 飛行情報の取扱 (7) 管制通報の取扱 (8) 緊急な事態等に関する措置 (9) 機器の点検 (10) 協定、調整要領及び運用要領の制定 (11) 標準場周経路			12.0	
3. 符号及び略号	(1) 航空機運航機関(国内)の無線電話呼出			1.0	
4. 評価				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空気象通報式	通報式	学科	専門科目	航空情報科教官	30
教科書			使用教室	使用機材等	
航空気象通報式(第3版) 新しい航空気象 世界で一番わかりやすい航空気象 航空保安業務処理規程 第4 航空気象通報式入門			自教室 第2統合実習室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空気象、運航援助情報業務の実技) 航空交通管制通信職員基礎試験科目。(航空気象、気象通報の読解)					
受講の前提条件					
気象学 履修					
到達目標					
・METAR、SPECI、TAFなどの航空気象通報式を理解し、読み上げることができる。 ・気象ブリーフィングで使用される地上天気図、高層天気図などを理解し、説明することができる。 ・SIGMET情報、飛行場警報、その他航空地方気象台が発表する気象情報の内容を説明することができる。 ・ATISの放送に必要な情報について理解し、説明することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 気象情報	気象情報提供の根拠			0.5	
2. 気象観測	気象観測の方法			1.0	
3. 各通報形式	(1) 定時飛行場実況気象通報式 (2) 特別飛行場実況気象通報式 (3) 航空気象観測所気象報(SCAN) (4) 運航用飛行場予報気象通報式 (5) 自動飛行場実況気象通報(METAR AUTO) (6) 国内記事			12.0	
4. 特別観測	特別観測の実施基準			2.0	
5. 飛行場予報	(1) 運航用飛行場予報(TAF) (2) 着陸用飛行場予報(TREND) (3) 離陸用飛行場予報 (4) TAF、TRENDの変化基準			2.0	
6. 空域気象情報	(1) シグメット情報(SIGMET) (2) 航空路火山灰情報(VAA)			1.0	
7. 機上気象観測	(1) AIREP (2) PIREP			1.0	

航空気象通報式

授業項目	要点	時限	備考
8. 飛行場警報	飛行場警報の種類と発表の基準	1.0	
9. 航空気象図表	航空気象官署において交付される航空気象図表の種類と利用可能な情報	0.5	
10. 天気図の解読	(1) 地上天気図 (2) 高層天気図 (3) 国内悪天解析図・国内悪天予想図 (4) 台風進路予報図	2.0	
11. 管制機関等による情報提供	二分間平均風向風速値及びRVR数値、 低層WIND SHEAR/MICROBURSTの情報提供	1.0	
12. 放送業務	(1) ATIS情報の準備 (2) 情報提供要領 (3) 空地データリンクによる送信 (4) 機器障害時の対応	3.0	
13. 航空気象サービス	空港気象情報表示装置(MetAir端末)の利用方法	1.0	
14. 評価		2.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空無線通信用英語	航通英	学科	専門科目	特任教官	36
教科書			使用教室	使用機材等	
英語(航空無線通信士)			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
無線従事者(航空無線通信士)養成課程					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
文書を適当に理解するために必要な英文和訳及び適当に意思を表明するために必要な和文英訳ができる。 口頭により適当に意思を表明するに足る英会話ができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 英文和訳及び和文英訳	(1) 航空移動業務に関する基本的事項 ア. 航空用語 イ. 航空施設 ウ. 航空気象 (2) 重要無線通信の取り扱いに関する事項 ア. 遭難通信 イ. 緊急通信 ウ. 安全通信 (3) 航空交通管制業務に関する事項 ア. 航空路管制業務 イ. 飛行場管制業務 ウ. 進入管制業務 エ. ターミナル・レーダー管制業務 オ. 着陸誘導管制業務 (4) その他航空機の運航に関する事項			14.0	
2. 英会話	(1) 航空移動業務に関する基本事項18 (2) 重要無線通信の取り扱いに関する事項 (3) 航空交通管制業務に関する事項 (4) その他航空機の運航に関する事項			22.0	
3. 評価	次の試験を以って評価 「無線従事者(航空無線通信士)養成課程修了試験」				

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空管制概論	管概	学科	専門科目	航空管制科教官	9
教科書			使用教室	使用機材等	
改訂版 航空管制入門 航空管制のはなし ENRC1－2、3 AIM－J			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制業務の概要を理解する。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
航空管制業務がどのように行われているか、その業務の規則や、運用方法の概要を説明できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空管制とは	(1) 航空管制の歴史 (2) 航空管制のあらまし ア. 航空交通業務と航空交通管制業務 イ. 航空交通管制業務の種類 (3) 空域について ア. 管制空域 イ. 非管制空域 (4) 空の道について ア. 航空路 イ. 標準計器出発方式 ウ. 標準到着経路 エ. トランジションルート オ. 待機経路		0.5		
2. 飛行の種類と基準	(1) 有視界飛行方式 (2) 計器飛行方式 (3) 特別有視界飛行方式 (4) 衝突の回避 (5) 最低安全高度 (6) 速度制限 (7) 飛行計画 (8) 飛行場付近の飛行 (9) 場周経路 (10) 最低気象条件 (11) 最低高度 (12) 巡航高度 (13) 高度計規正 (14) 位置通報 (15) 待機 (16) 計器進入 (17) 進入復行		3.0		

航空管制概論

授業項目	要点	時限	備考
3. 管制業務の運用	(1) 業務内容及び管制間隔の概略 ア. 航空路管制 イ. 飛行場管制 ウ. 進入管制 エ. ターミナルレーダー管制 オ. 着陸誘導管制	3.0	
4. 管制用語	(1) 周波数 (2) 文字の送信 (3) 数等の送信 (4) 基本管制用語 (5) 計器飛行管制方式の用語 (6) 飛行場管制の用語 (7) レーダー管制の用語	1.0	
5. 航空管制機器	(1) 管制卓の構成及び各機能 (2) レーダー ア. レーダーの種類 イ. 一次レーダーと二次レーダー (3) ターミナルレーダー情報処理システム (4) 飛行情報管理処理システム (5) 航空路レーダー情報処理システム	0.5	
6. 評 価		1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
無線工学	無工	学科	専門科目	航空電子科教官	14
教科書			使用教室	使用機材等	
無線工学(航空無線通信士)			自教室または 合同教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
無線従事者(航空無線通信士)養成課程					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
無線設備並びに空中線系等の理論、構造、機能、保守及び運用の基礎が説明できる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 電気と磁気	(1) 静電気 (2) 導体、不導体及び半導体 (3) 静磁気 (4) 電流の磁気作用			1.0	
2. 電気回路	(1) 電流、電圧及び電力 (2) 直流及び交流 (3) オームの法則と抵抗の接続			1.0	
3. 半導体及び電子管	(1) 半導体 (2) ダイオード (3) トランジスタ (4) 集積回路 (5) 電子管			1.0	
4. 電子回路	(1) 増幅回路 (2) 発振回路 (3) 変調回路 (4) 復調回路			1.5	
5. 無線通信の基礎	(1) 電波の発生と波長・周波数 (2) 無線電話の概要			0.3	
6. DSB無線電話装置	(1) 装置の構成 (2) DSB送信機 (3) DSB受信機 (4) 航空局用VHF送受信装置 (5) 航空機局用VHF送受信装置			1.25	
7. SSB無線電話	(1) 装置の構成 (2) SSB送信機 (3) SSB受信機			0.5	

無線工学

授業項目	要点	時限	備考
8. FM無線電話装置	(1) 概要 (2) 装置の構成	0.25	
9. レーダー	(1) レーダーの概念 (2) レーダーの性能 (3) レーダーの誤差 (4) 構成及び各部の動作 (5) ドップラナビゲータ (6) 航空機用気象レーダー (7) 航空管制用各種レーダー (8) 航空交通管制用トランスポンダ (9) ACAS(航空機衝突防止装置)	2.0	
10. 無線航法装置	(1) VOR(超短波全方向無線標識) (2) DME(距離測定装置) (3) ILS(計器着陸装置) (4) GPS/GNSS	2.0	
11. その他の装置	(1) 航空機用救命無線機 (2) インマルサット航空衛星通信装置 (3) 空地データリンクシステム	0.5	
12. 電源	(1) 電源の種類 (2) 電源供給方式 (3) 整流器 (4) 電池	0.5	
13. アンテナ及び給電線	(1) アンテナの基礎 (2) 接地(アース) (3) 各種アンテナ (4) 給電線及びコネクタ (5) 整合	1.0	
14. 電波伝搬と混信	(1) 電波の伝わり方 (2) 各周波数帯の伝搬 (3) 混信等 (4) 混変調及び相互変調妨害 (5) 混信等への対策	1.0	
15. 測定、点検及び保守	(1) 測定法 (2) 各種測定器 (3) 定期点検 (4) 日常点検 (5) 航空局用VHF送受信装置の点検	0.3	
16. 評価	次の試験を以って評価 「無線従事者(航空無線通信士)養成課程 修了試験」		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空無線施設概論	航無概	学科	専門科目	航空電子科教官	24
教科書			使用教室	使用機材等	
航空電子入門 無線工学(航空無線通信士) 航空保安業務の概要			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空保安施設の概要) 航空交通管制通信職員基礎試験科目。(航空保安施設の概要)					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
航空機の航行に必要な航行援助施設について、その原理、性能、利用の方法及び利用上の特長を説明できる。					
授業項目	要点			時限	備考
I. 概 説	(1) 航空保安施設の種類及び定義 (2)電波及び無線機器の基礎知識			2.0	
II. 通信関連施設					
1. RCAG／RAG	(1) RCAG (2) RAG			1.0	
2. 航空移動 衛星通信 (AMSS)	(1)インマルサット (2)AES, GES (3)従来の通信 (4)通信の基礎			2.0	
III. 航法関連施設					
1. VOR	(1) 原 理 (2) 周波数等 (3) 識別符号 (4) 種 類 (5) VOR地上局 (6) VOR機上局 (7) VORによる航法 (8) 受信可能範囲			2.0	
2. TACAN/DME	(1) 原 理 (2) 周波数等 (3) 識別符号			2.0	
3. ILS	(1) 原 理 (2) カテゴリー (3) 構 成 (4) 地上施設 (5) 機上施設 (6) SSPの概要			2.0	

航空無線施設概論

授業項目	要点	時限	備考
4. GNSS	(1)GNSSの概要 (2)従来の航法 (3)WGS-84 (地球モデル・回転楕円体、ジオイド) (4)GPS (5)補強システム	3.0	
IV. 広域航法			
1. RNAV	(1)広域航法とは (2)RNAVの原理 (3)RNAVとRNP	2.0	
2. 機上装置	(1) 飛行管理システム(FMS) (2) 慣性航法システム (3) 電波高度計 (4) TCAS/ACAS	2.0	
V. 監視関連施設			
1. レーダー	(1) 原 理 (2) 周波数等 (3) 動 作 (4) ASR (5) PAR (6) ARSR、ORSR (7) ASDE (8) 機上気象レーダー (9) SSR(ATCRBS) (10)SSRモードS (11)ADS-B (12)MLAT (13)WAM	5.0	
VI. 評 価		1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空灯火電気施設業務概論	航灯概	学科	専門科目	特別研修科 教官 (灯電担当)	9
教科書			使用教室	使用機材等	
航空灯火電気施設業務概論			自教室 航空灯火・電気技術実習室	☒ 校務情報システム ☒ 飛行場模型 ☒ 灯器 ☒ 受配電設備	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空保安施設の概要) 航空交通管制通信職員基礎試験科目。(航空保安施設の概要)					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
航空管制運航情報業務及び航空交通管制通信業務に必要な航空灯火電気施設の航空灯火種類、電源種別及び航空灯火・電気技術官の業務概要を説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空灯火電気施設業務	(1) 航空灯火電気施設業務とは (2) 航空灯火・電気技術官の業務		0.7		
2. 航空保安用電源システム	(1) 航空保安用電源システムとは ア. 役割 イ. 電源種別		0.3		
3. 航空灯火	(1) 航空灯火とは (2) 種類 (3) ガイダンス手法 (4) 飛行場灯火 ア. 位置表示灯火 イ. 進入灯火 ウ. 滑走路灯火 エ. 地上走行用灯火 オ. その他灯火 カ. 高カテゴリー灯火		6.1		
4. 昼間障害標識	(5) 航空障害灯 (1) 昼間障害標識とは (2) 種類 (3) 設置基準		0.3		
5. 運用基準	(1) 運用の方法(概要) (2) 運用停止のための調整 (3) ノータム事項の通報		0.6	第7航空灯火電気施設業務 処理規程(Ⅲ)運用基準 1 運用の方法 は除く。	
6. 飛行検査	航空灯火の検査		0.3		
7. 評価			0.7		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
校務情報システム概論	校情概	学科	専門科目	教務課	3
教科書			使用教室	使用機材等	
なし			第1統合実習室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
公務員として必要な情報セキュリティポリシーについて学習するとともに、航空保安大学校での研修期間中に使用するIT教育システムについての概要と操作方法について習得し、IT教育システムを使用した演習を実施する。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
航空保安大学校での研修期間中に使用するIT教育システムについての概要と操作方法について説明できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 校務情報システム の概要と操作	(1) 校務情報システムの概要を学習する ア. 校務情報システムの目的と種類		3.0	0.5時限	
	(2) 情報セキュリティポリシーを学習する ア. 国土交通省情報セキュリティポリシー 関係規則等			0.5時限	
	(3) 校務情報システム操作概要を学習する ア. 統合システム実習室等の各種IT教育 システムの操作			2時限	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
公務員教養	公務教養	学科	専門科目	有識者・幹部等 総務課・教務課 航空情報科教官	49.7
教科書			使用教室	使用機材等	
なし			自教室 等	☑校務情報システム	
位置づけ					
公務員の使命と教養、特別講義、校外研修等多角的な研修を実施し、航空保安業務に携わる国家公務員としての人間形成を図る。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 公務員の使命と教養	(1) 公務員教育		8.0	1.0時限×8	
	(2) 公務員教育課題討議(30分×12回)		3.6	0.3時限×12	
2. 校長訓話	(1) 校長訓話(30分×4回)		1.2		
3. 特別講義	(1) 専門教養		3.0	3時限 有識者等	
	(2)一般教養(30分×5回、内1回ダイレクトーク)		1.5	0.3時限×5 幹部等	
4. 校外研修	(1) 現場学習		8.6	4.3時限×2	
5. 空の日・オープンキャンパス (7月)	(1) オープンキャンパス(4時限+30分)		7.1	4.3時限	
	(2) オープンキャンパス前日準備(1時限+30分)			1.3時限	
	(3) オープンキャンパス実行委員会(30分×5回)			1.5時限	
6. オープンキャンパス (3月)	(1) オープンキャンパス(4時限+30分)		7.1	4.3時限	
	(2) オープンキャンパス前日準備(1時限+30分)			1.3時限	
	(3) オープンキャンパス実行委員会(30分×5回)			1.5時限	
7. 体育交流 (5月)	(1) 体育交流(2時限+30分)		3.2	2.3時限	
	(2) 体育交流実行委員会(30分×3回)			0.9時限	
8. 体育大会 (10月)	(1) 体育大会(保健体育科目に引続き5限目で30分)		1.2	0.3時限	
	(2) 体育大会実行委員会(30分×3回)			0.9時限	
9. 体育交流 (2月)	(1) 体育交流(2時限+30分)		3.2	2.3時限	
	(2) 体育交流実行委員会(30分×3回)			0.9時限	
10. 消火防災訓練	(1) 消火防災訓練(5月／12月)		2.0	1時限×2	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
科目演習(学科)	科目演習	学科	専門科目	航空情報科教官 特任教官	46
教科書			使用教室	使用機材等	
なし			自教室 等	☑校務情報システム	
位置づけ					
補講及び自主的な研修等により学科の研修効果を高める。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 無線従事者試験	(1) 航空無線通信士の資格試験受験		4.0	情報科合同	
2. 学習交流	(1)実習交流参加(管制官実習受講) (2)実習交流参加(電子科実習受講)		4.0		
3. 特別講義	(1)ITサービスマネジメント(Ⅰ)		2.0		
4. クラス ミーティング			11.0		
5. 補講・ 自主研修等	(1) IT教育システムの活用による演習 (2) 補講 (3)その他		25.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
情報リテラシー1	情リ1	実技	情報実習	特任教官	13
教科書			使用教室	使用機材等	
よくわかるMicrosoft Word2016基礎 よくわかるMicrosoft Excel2016基礎 よくわかるMicrosoft Powerpoint2016			第1統合実習室 等	☑校務情報システム	
位置づけ					
プレゼンテーションにPCを活用する手法を学ぶ。					
受講の前提条件					
校務情報システム概論 履修					
到達目標					
代表的なソフトウェアの機能を理解し基本操作ができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. PC利用技術	(1) PC入門 ア. Windowsとは イ. 基本操作をマスターする ウ. 複数のプログラムを同時に実行する エ. ファイルを管理する オ. Microsoft Office2007の基本操作		2.0		
	(2) プレゼンテーション ア. Power Pointの基礎知識 イ. プレゼンテーションの作成 ウ. プレースホルダと文字の編集 エ. 図やオブジェクトの編集 オ. 図形の作成と編集 カ. 特殊効果(アニメーション)とスライドのデザイン設計 キ. プレゼンテーションをサポートする機能		10.0		
2. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
電気通信術	通信術	実技	情報実習	航空情報科教官	3
教科書			使用教室	使用機材等	
なし			自教室または 合同教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
無線従事者(航空無線通信士)養成課程					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
1分間50字の速度で欧文(無線局運用規則別表第5号の欧文通話表によるものをいう。)による送話及び受話ができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 送受信方法解説	(1) 電波法令に規定されている送信方法の解説 (2) 筆記受信要領		1.0		
2. 送受信練習	欧文の送受信練習(50字／分)		2.0		
3. 評価	次の試験を以って評価 「無線従事者(航空無線通信士)養成課程 修了試験」				

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
データ通信操作演習	デ通信	実技	情報実習	航空情報科教官	20
教科書			使用教室	使用機材等	
なし			第2統合実習室 等	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(対空援助業務の実技、航空管制運航情報業務用機器の操作) 航空交通管制通信職員基礎試験科目。(管制通信実技) 第2学年における運航援助演習、管制通信演習、広域対空援助演習に先立ち、キーボードを使ったデータ入力に関する 基本操作を習得させる。					
受講の前提条件					
校務情報システム概論 履修					
到達目標					
正確度98%以上、30単語／分(英数字入力)の速度で1500文字程度の業務用英語を入力することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 基本操作説明	(1) 指の分担及びガイドキー (2) 正しい姿勢 (3) キーの打ち方及びリズム (4) タッチタイピング			1.0	
2. 操作訓練	タイピングソフトによる訓練			18.0	
3. 評価				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
運航援助演習1	運航演1	実技	情報実習	航空情報科教官	30
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4、第4の2 航空気象通報式(第3版)			自教室、 運航援助情報実習室	☑校務情報システム 訓練用運航情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空管制運航情報業務用機器の操作、航空気象、運航援助情報業務の実技)					
受講の前提条件					
飛行計画論、運航監視論、航空気象通報式、データ通信操作演習 履修					
到達目標					
運航情報提供システムにおける空港端末の基本操作ができる。 ATS機能を使用し、飛行計画の入力、運航監視の概要の説明ができる。 航空気象通報式を、口頭により読み上げることができる。 放送に必要な情報を送信要領のとおり作成し、読み上げ送信することができる。 ATIS機能を使用してATISを作成することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 運航情報基本 操作	(1) 端末の基本操作 (2) 中継機能 ア. 通報発信 イ. 送受信情報抽出 (3) ATS機能 ア. FPL イ. 運航監視 ウ. 運航計画・事業計画 エ. 固定データ参照 (4) AIS機能 ア. ノータム抽出 イ. CNS/ATM-DB照会 ウ. 雪氷状況調査入力 (5) 気象機能 (6) PKG機能 (7) グラフィック機能			7.0	
2. ATS機能に 係る応用操作	(1)運航監視の実施 (2)飛行計画書の入力、送付 (3)ATS通報の送付、解読			12.0	
3. ブリーフィング	ブリーフィングの実施方法			2.0	
4. ATIS(放送業務)	(1)情報の準備 (2)情報提供要領 (3)送信演習(口頭読み上げ) (4)ATISの作成手順及び送信手順			5.0	
5. 評価				4.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
科目演習(実技)	科目演習	実技	情報実習	航空情報科教官	2
教科書			使用教室	使用機材等	
なし			自教室 等	☒ 校務情報システム	
位置づけ					
補講及び自主的な研修等により実技の研修効果を高める。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 補講・自主研修	(1) 実習室利用による演習 (2) IT教育システムの活用による演習 (3) 補講 (4) その他		2.0		

IV. 研修内容

2. 航空情報科2学年（51期）

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
英語A2	英語A2	学科	外国語科目	特任教官	46
教科書			使用教室	使用機材等	
AVIATION ENGLISH			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
英語で書かれた航空分野を題材にした教材により、航空分野の英語表現に慣れるとともに、航空英語の語彙を身に付ける。 To familiarize aviation related topics and expressions written in English and build up vocabulary.					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修(特に英語A1)					
到達目標					
航空分野の英語を題材に航空英語の表現力・会話力を向上させる。 To improve our own abilities to express and speak about aviation field in English.					
授業項目	要点			時限	備考
1. 航空英語 Aviation English	(1)知識、専門語彙 平易な英語で書かれた航空英語の教材を使い音読練習を行う。何度も読み内容を覚えてしまう位に練習する。 (2)表現力、理解力 教科書を見ずに思い出しながら再生する練習を行う。ただし丸暗記ではなく、覚えている内容から自分で作文するようつもりで再生する。このような練習を通じて、表現力の向上を目指す。 (3)リスニング 音声の付いているレッスンでは音声と同じようなリズムで音読する練習をする。自然なリズムに慣れることで英語を聞くときのコツを習得する。 (4)ディスカッション、説明力 航空分野の話題について議論することを通じて、日常的な会話以外の会話に慣れる。簡単に言えないことについて説明できるような力を養う。			44.0	レベル4
2. 評価 Evaluation				2.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
英会話C2	C2	学科	外国語科目	特任教官	21
教科書			使用教室	使用機材等	
ENGLISH CONVERSATION (GRADE2) WORLD VIEW 4 SUMMIT 2			自教室および 第2統合実習室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
レベル別にコミュニケーションに重点を置いた授業により、1年次よりも複雑な話題、状況について英語での表現力・意思疎通する力を伸ばす。 To enhance abilities to express and communicate about more complex subjects and/or situations than the first year in English by communication-focused lessons categorized by level.					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修(特に英会話C1)					
到達目標					
英会話能力を更に向上させる。 To improve skills in English conversation					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 英会話 English Communication	(1)発音、リスニング、英語でコミュニケーションを行う環境 ネイティブスピーカーが授業を行い、英語でコミュニケーションをする環境を作る。授業を通じてネイティブの発音や話し方に慣れる。 (2)会話力と理解力の向上 ペアや小さなグループで行うロールプレイ練習や発話練習を通じて、自分の言いたいことを言えるようになる力を養う。航空分野の話題についても学習する。 (3)コミュニケーション力 テキストを順番に読み合うだけでなく、自ら意思疎通しなくてはならない状況で会話練習を行う。わからない単語があっても説明することによりコミュニケーションを達成する力を養う。		20.0	レベル4	
2. 評価 Evaluation			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
英会話L2	L2	学科	外国語科目	特任教官	21
教科書			使用教室	使用機材等	
ENGLISH CONVERSATION (GRADE2) WORLD VIEW 4 SUMMIT 2			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
リスニングに重点を置いた授業により英会話の練習を行う。 To enhance students' abilities to communicate in English by listening focused lessons categorized by level.					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修(特に英会話L1)					
到達目標					
リスニング能力の強化により英会話能力を更に向上させる。 To improve skills in English conversation by listening					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 英会話 English Listening	(1)発音、リスニング、英語でコミュニケーションを行う環境 ネイティブスピーカーの授業により、英語でコミュニケーションを行う環境を作る。授業を通じてネイティブの発音や話し方に慣れる。 (2)理解力の向上 リスニング練習を通じて英語理解力を訓練する。航空分野の話題も学習する。多少わからない単語があっても内容を推測する力を養う。		20.0	レベル4	
2. 評価 Evaluation			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
英会話S2	S2	学科	外国語科目	特任教官	20
教科書			使用教室	使用機材等	
ENGLISH CONVERSATION (GRADE2) SUMMIT 2			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
コミュニケーション、リスニングの教科書の内容を練習することを通して理解を深める。 To enhance our understanding of communication and listening by using textbook.					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修(特に英会話S1)					
到達目標					
英語によるコミュニケーション能力、リスニング能力を更に向上させる To improve skills in English communication and listening					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 英会話 English Supplement	(1)理解の確認 コミュニケーション、リスニングで習得する 内容の予習・復習を行うことにより、理解を 深め確実な知識にする。 (2)文構造力の向上 文法を理解することにより、コミュニケーション リスニングで習得した知識を確実なもの にする。 (3)英語でコミュニケーションを行う環境 アクティビティーや練習を行うときは英語のみ で行う。		19.0	レベル4	
2. 評価 Evaluation			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
保健体育	体育	学科	保健体育科目	特任教官	27
教科書			使用教室	使用機材等	
なし			体育館 グラウンド テニスコート	□校務情報システム	
位置づけ					
運動についての科学的理解に基づき、合理的な練習によって運動技能を高め、体力の向上を図る。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 体育理論と 体育実技	(1) 生理、力学、心理から見た運動の特性を 習得する。 1) 運動の生理 2) 運動の力学 3) 運動の心理 4) 生活と運動 5) 体育レクリエーション (2) 筋力、持久力、柔軟性等の運動能力を 高め、心身の調和的な発達を図るとともに 球技を通して公正な態度を養う。 1) 体操 ア. 徒手 イ. 床運動(マット使用) 2) 器械体操 ア. 跳び箱 3) 競技 ア. 持久走 4) 球技(基礎・応用・チームプレー) ア. ソフトボール イ. バレーボール ウ. サッカー エ. バスケットボール オ. テニス カ. バドミントン キ. 卓球 ク. スポレック ケ. ピロポロ コ. キンボール サ. アルティメット シ. タグラグビー		24.0		
2. メンタルヘルス	ストレス等適切に対応できるような知識 を習得する。 (1) メンタルヘルス (2) ストレスマネジメント		1.0		
3. 体育大会	「職種間連携強化推進」活動の一環として、 職種・科を超えた大会		2.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
Cプログラミング座学	Cプロ座	学科	専門科目	特任教官	10
教科書			使用教室	使用機材等	
新C言語入門 スーパービギナー編			第1統合実習室 等	☑校務情報システム	
位置づけ					
特定のプログラム言語を通じて、プログラムやアルゴリズムの概念を理解する。					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修(特に情報システム概論)					
到達目標					
C言語を用いてプログラム作成に必要なデータ構造やアルゴリズムの概要を説明できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 基礎知識	(1)オペレーティング・システム (2)プログラム作成手順		2.0		
2. アルゴリズム	(1)アルゴリズムとは (2)構造化プログラミング		2.0		
3. C言語	(1)整列のアルゴリズム (2)検索のアルゴリズム (3)文字列操作のアルゴリズム (4)ファイル処理のアルゴリズム (5)その他のアルゴリズム		5.0		
4. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
Cプログラミング応用	Cプロ応	学科	専門科目	特任教官	25
教科書			使用教室	使用機材等	
新C言語入門 スーパービギナー編			第1統合実習室 等	☑校務情報システム	
位置づけ					
特定のプログラム言語を通じて、プログラム設計の概要を理解する。					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修 Cプログラミング座学 履修					
到達目標					
C言語を用いて簡単なプログラムを作成することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. プログラム設計	(1)チャート等によるアルゴリズム表現 (2)サブルーチン (3)プログラムの構造 (4)データファイルの構造		3.0		
2. プログラム作成	(1)計算処理のプログラム作成 (2)検索処理のプログラム作成		10.0 10.0		
3. 評価			2.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
ネットワーク応用	ネット応	学科	専門科目	特任教官	15
教科書			使用教室	使用機材等	
ネットワークの基本が丸ごとわかる本 HTML/XHTML&スタイルシート レッスンブック			第1統合実習室 等	☑校務情報システム	
位置づけ					
ネットワークの基本的な考え方を理解する。					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修(特に情報システム概論)					
到達目標					
ワールド・ワイド・ウェブに関する基礎を理解し、さらに、ネットワーク構成機器や通信プロトコルについての基礎が説明できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. インターネットの概要	(1)インターネットの概要 (2)インターネットのセキュリティ技術 (3)インターネットの各種サービス (4)インターネットの活用		3.0		
2. WWWの概要	(1)WWWの仕組みと動作 (2)WWWの利点と問題点		2.0		
3. TCP／IPの概要	(1)IPプロトコル基礎知識 (2)IPアドレス基礎知識 (3)トランスポート層の役割 (4)通信サービス(アプリケーションプロトコル) ・DNS ・SMTP		6.0		
4. ローカルエリアネットワーク(LAN)	(1)ローカルエリアネットワーク ・LANの伝送技術 ・LANの規格		3.0		
5. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
ヒューマンファクター2	HF2	学科	専門科目	特任教官	9
教科書			使用教室	使用機材等	
ヒューマンエラーの科学			合同教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
安全意識の向上とその手法を理解する。					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修(特に心理学、ヒューマンファクター1)					
到達目標					
ヒューマンファクターに関する基礎概念を把握するとともに、日常の航空保安業務における安全意識の向上及びその実践方法を説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. ヒューマンファクターとは何か	(1) 定義 (2) 航空におけるヒューマンファクター (3) 事故要因としてのヒューマンファクター		1.0		
2. 人間の強さと弱さ	(1) 人間(脳)の特性 (2) 能力と限界 (3) 能力阻害要因 (4) 行動パターン		1.0		
3. ヒューマンエラー	(1) 人間のエラーの定義 (2) 分類 (3) エラー誘発要因 (4) 組織エラー		2.0		
4. コンピュータと人間	(1) コンピュータの長所と短所 (2) 人間の長所と短所 (3) 自動化システムにおけるコンピュータと人間の役割分担(ヒューマンセンタースシステムの必要性) (4) HMI		1.0		
5. ヒューマンエラー	(1) 分析モデルと分析手法 (2) 分析実習		2.0		
6. 安全への取り組み	(1) 安全情報の活用 (2) ハインリッヒの法則 (3) 危険因子の検出と予防安全 (4) 安全文化		1.0		
7. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空機の運航1	航空運1	学科	専門科目	特任教官	12
教科書			使用教室	使用機材等	
なし			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空機に搭載しているシステムや航空機の運航の方式について、その基礎を理解する。					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修(特に航空航法、航空機概論)					
到達目標					
運航情報業務を実施する際に必要な航空機のシステム、運航方法等についての基礎的な機能・業務概要が説明できる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 航空機のシステム	(1) 機体、操縦系統 (2) 油圧 (3) 発動機 (4) 計器 (5) FMS (6) 航法、通信機器			7.0	
2. 運航方式	(1) RNAV (2) RNP10 (3) ETOPS (4) CATⅡ／Ⅲ進入			4.0	
3. 評価				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空機の運航2	航空運2	学科	専門科目	特任教官	18
教科書			使用教室	使用機材等	
なし			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
運航者により実施されている運航管理の基礎を理解する。					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修(特に航空航法、航空機概論)					
到達目標					
運航情報業務を実施するにあたり、運航者側の業務概要が説明できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 運航規程	(1) 規程体系 (2) オペレーションマニュアル (3) AIRCRAFT OPERATING MANUAL		3.0		
2. 運航管理	(1) 運航管理者 (2) 運航管理業務 (3) 飛行計画 (4) 重量重心 (5) 搭載燃料 (6) 離着陸性能の算出 (7) 最低気象条件 (8) 乗務員編成、乗務割		11.0		
3. 性能	(1) 運用限界 (2) 離着陸性能		3.0		
4. 評 価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空機の運航3	航空運3	学科	専門科目	特任教官	6
教科書			使用教室	使用機材等	
なし			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
飛行場において実施されている航空機の運航に関する諸業務の基礎を理解する。					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修(特に飛行場情報業務論)					
到達目標					
飛行場情報業務を行うにあたり、必要な関係機関の業務概要が説明できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 雪氷運航	(1) 離着陸時の地上走行 (2) 防除氷剤 (3) 防除氷剤散布後の運航(60分ルール等)		1.0		
2. 危険物輸送	(1) 関係法規 (2) 輸送禁止品 (3) 危険物搭載		1.5		
3. グランド ハンドリング	(1) グランドハンドリング作業 (2) ULD、GSE (3) トーイング		1.5		
4. ランプ内 安全管理	(1) ランプ内安全対策 (2) ランプ内事故事例		0.5		
5. 航空燃料	(1) 航空燃料及び潤滑油の種類及び規格 (2) 給油エリアと消防法 (3) 航空燃料及び潤滑油流出時の処理		1.0		
6. 評 価			0.5		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
ヘリコプター概論	ヘリ概	学科	専門科目	特任教官	12
教科書			使用教室	使用機材等	
航空工学講座11 ヘリコプター 図解 ヘリコプター入門			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
回転翼航空機の構造、特性および運航についての基礎を理解する。					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修(特に航空機概論)					
到達目標					
運航情報業務を行うにあたり、必要なヘリコプターの運航についての運航性能・業務概要が説明できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. ヘリコプターの構造	(1) ヘリコプターの種類 (2) 飛行原理 (3) 操縦系統 (4) 発動機 (5) ローターシステム (6) 特殊装備		5.0		
2. ヘリコプターの特性	(1) 性能及び限界 (2) 地面効果 (3) オートローテーション		2.0		
3. 運航方式	(1) 離着陸方式 (2) TA級運航 (3) ヘリコプターの利用分野 (4) 許可業務との関係		4.0		
4. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
運航情報基礎学2	基礎学2	学科	専門科目	航空情報科教官	20
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空法規、運航管理論、航空情報業務、飛行場の概要、航空通信規則、英語)					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修 (特に国内航空法規(航空法)、国内航空法規(空港法)、国際航空法規、飛行計画論、運航監視論、航空機概論、対空援助論1) 管制通信論、計器進入方式、対空援助論2 履修					
到達目標					
一年次で学んだ専門科目を定着させ、各演習で使用する基礎知識を事前に再確認することで、演習科目を効率よく習得することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 基本知識の確認	(1)空港名、所在地 (2)管轄区域 (3)組織規則 (4)航空情報用略語 (5)航空機の型式 (6)UTCとJST		10.0		
2. 総則	航空保安業務処理規程 第4 総則と通則		2.0		
3. 飛行計画	(1) 飛行計画書への書き取り、内容確認		6.0		
4. 評価			2.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
許認可論	許可論	学科	専門科目	航空情報科教官	16
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4 航空六法			LL教室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空法規・運航管理論・航空情報業務)					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修(特に国内航空法規(航空法))					
到達目標					
航空法の規定により受理した申請及び届出の取扱い基準を説明できる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 概要	(1) 許認可の種類 (2) 職権の委任 (3) 自衛隊の使用する航空機に係る適用の特例及び適用除外 (4) 地位協定の実施に伴う航空法の特例			2.0	
2. 各種許可及び受	(1) 航空交通管制用自動応答装置の装備義務解除の許可 (2) 無線電話の装備義務解除の許可 (3) 場外離着陸場における離着陸の許可 (4) 最低安全高度以下の飛行の許可 (5) 航空交通管制圏等における制限速度を超える速度での飛行の許可 (6) 物件投下の届出 (7) 航空機の試験をする飛行の許可 (8) 操縦練習飛行等の許可 (9) 飛行の禁止空域における飛行の許可 (10) 飛行に影響を及ぼす恐れのある行為の許可及び通報			12.0	
3. 評価				2.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
危機管理論1	危機論1	学科	専門科目	航空情報科教官	12
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第2、2の2、2の3 航空六法			LL教室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(運航管理論・航空情報業務・捜索救難論) 航空交通管制通信職員基礎試験科目。(航空情報業務)					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修 (特に国内航空法規(航空法)、国内航空法規(空港法)、国際航空法規、運航監視論、航空機概論、運航情報基礎学1.) 運航情報基礎学2 履修					
到達目標					
航空事故、重大インシデント、イレギュラー運航の定義及び業務の流れを説明できる。 航空機の捜索救難業務の措置基準及び業務の流れを説明できる。 航空機不法奪取事件等の範囲及び地方事務所における業務の流れを説明できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 運輸安全委員会	(1)運輸安全委員会設置法		1.0		
2. 航空事故等	(1)事故・重大インシデント・イレギュラー運航の定義 (2)航空保安業務処理規程第2		7.0		
3. 捜索救難	(1)航空保安業務処理規程第2の2 (2)航空機の捜索救難に関する協定 (3)航空機の捜索救難に関する実施細目		2.0		
4. 不法奪取事件等	(1)航空保安業務処理規程第2の3		1.0		
5. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
危機管理論2	危機論2	学科	専門科目	航空情報科教官	8
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第2、2の2、2の3 航空六法			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(運航管理論・航空情報業務・搜索救難論) 航空交通管制通信職員基礎試験科目。(航空情報業務)					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修 危機管理論1 履修					
到達目標					
危機管理に関する第一報を受けた際の情報収集及び取扱い方法について説明できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 搜索救難業務	(1)搜索救難業務の概要 (2)到着遅れ (3)ELT (4)未確認情報		5.0		
2. イレギュラー運	(1)イレギュラー運航報告書の作成		1.0		
3. 危機管理処理要	(1)危機管理事案及び報告先		1.0		
4. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空通信業務論2	通信論2	学科	専門科目	航空情報科教官	12
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空情報管理論、航空通信規則) 航空交通管制通信職員基礎試験科目。(航空通信規則、航空情報業務)					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修(特に航空通信業務論1)					
到達目標					
国際航空通信業務の遂行に必要な情報交換の仕組み並びに情報の種類・管理等に関する基礎知識及びFACEの役割及びデータベースの管理方法の概要について理解し、説明することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 航空通信	(1) 航空固定通信ネットワークの詳細 (2) AFTNの概念 (3) 通報の種類 (4) AFTNにおける通信手続 (5) AMHS (6) 地点略号(国際)			6.0	
2. 統合管制情報処理システム	(1) FACEの詳細 (2)データベース管理 (3)接続他システムとの詳細			4.0	
3. 将来の航空通信	(1) 世界的規模の情報ネットワーク			1.0	
4. 評価				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空情報運用論	情運論	学科	専門科目	航空情報科教官	10
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4 第4の2 AIM-J AIP JAPAN			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空情報管理論、航空情報業務、航空通信規則) 航空交通管制通信職員基礎試験科目。(航空通信規則、航空情報業務)					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修(特に航空情報業務論、航空管制概論、航空無線施設概論、航空灯火電気施設業務概論、航空気象通報式演習)					
到達目標					
航空情報に関する規定類を理解し、航空情報の解説、説明ができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 航空情報の提供	(1) サマライズ (2) チェックリスト			4.0	
2. 東京国際 ノータム事務所	(1) 航空情報センターの概要 (2) 業務内容			2.0	
3. データの流れ	(1) 国内ノータム (2) 国際ノータム			1.0	
4. 規定類	(1) 航空情報発行手続要領 (2) 航空路誌掲載情報指針			1.0	
5. 評価				2.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
運航監督概論	監督論	学科	専門科目	航空情報科教官	10
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4 航空六法			LL教室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(運航管理論、航空情報業務)					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修					
到達目標					
航空運送事業者等と航空局との関わりを理解し、事業許可及び運航規程について説明できる。 航空局が実施する立入検査についての概要が説明できる。 発着調整の方法を理解し説明することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 航空運送事業等	(1)航空運送事業及び航空機使用事業 (2)事業許可 (3)運航規程等 (4)運航管理施設等の検査			5.0	
2. 立入検査	(1)安全監査立入検査 (2)ランプインスペクション			1.0	
3. 発着調整	(1)発着調整の方法 (2)臨時便に関する処理 (3)運航状況の把握及び監視			2.0	
4. 評価				2.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
飛行場情報運用論	飛運論	学科	専門科目	航空情報科教官	38
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4 第4の2 第10 第11 陸上空港の施設の設置基準・同解説 航空六法			LL教室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(飛行場の概要)					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修(特に飛行場情報業務論、航空灯火電気施設業務概論、航空気象通報式演習)					
到達目標					
航空機移動区域の点検及びエプロンの運用、制限区域内立入り等、飛行場の安全運用に関する業務に係る基礎知識を習得し、説明することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 制限区域立入及び車両使用の取り扱い	(1) 立入及び車両使用の制限 (2) 立入の取り扱い (3) 車両使用の取り扱い (4) 亡失 (5) 返納 (6) 取消等 (7) 自転車の使用 (8) 安全講習会の実施			7.0	
2. 制限区域等の安全点検と運航制限	(1) 定時点検 (2) 臨時点検 (3) 点検要領 (4) 異常があった場合の措置 (5) 雪氷調査			6.0	
3. 工事作業のための制限区域立入等の取扱い	(1) 航空情報の発行 (2) 工事関係者の制限区域立ち入りに必要な (3) 事故発生時の措置			3.0	
4. エプロンの運用	(1) エプロンの管理 (2) 航空機の誘導			3.0	
5. エプロン等の安全管理	(1) ジェットブラスト等の安全対策 (2) 航空機給油作業における安全対策 (3) 制限区域内で発生した事故の対応			3.0	
6. 制限区域車両運転の取扱い及び運転規則	(1) 車両運転の制限 (2) 運転許可 (3) 車両運転規則			3.0	

飛行場情報運用論

授業項目	要点	時限	備考
7. 野生動物と航空機衝突防止	(1) 野生動物と航空機の衝突防止対策の重要性 (2) 野生動物と航空機の衝突防止対策の責任 (3) 野生動物衝突防止計画の策定と実行 (4) 野生動物と航空機の衝突防の危険性の評価 (5) 野生動物衝突防止対策の実施 (6) 野生動物衝突防止対策の再検証 (7) 野生動物衝突の報告と滑走路点検 (8) 空港鳥衝突防止連絡協議会の設置 (9) 鳥衝突防止対策検討会への協力 (10) 鳥排除の要請 (11) 鳥衝突防止担当職員の教育・訓練 (12) 関係法令の順守	3.0	
8. 航行不能航空機の撤去	(1) 撤去作業の実施者 (2) 撤去作業計画の作成 (3) 撤去作業調整者の指名 (4) 撤去作業の実施に際して取るべき措置 (5) 機材・要員及び施設の把握	2.0	
9. 低視程時における飛行場の運用	(1) 低視程時における車両運転 (2) ILS制限区域の保護 (3) 低視程時における航空機の車両による誘	2.0	
10. トータルマネジメント業務	(1) トータルマネジメント業務 (2) トータルマネジメント業務と運航情報官以外の者が行う業務との関係 (3) 飛行場の運用に必要な情報の収集、管理及び提供 (4) 夜間、早朝、休日等の担当部署が不在となる時間帯に、飛行場の運用に影響を及ぼす事案が発生した場合における関係部署との連絡、調整等の初動対応。 (5) 飛行場の運用に密接に関係し、かつ、複数の部署にまたがる案件について総合窓口 (6) 危機管理事案発生時における情報の収集、管理及び提供 (7) 危機管理事案発生時における空港長又は担当部署の支援 (8) 要領の策定	2.0	
11. 安全管理システム	(1) 飛行場証明とICAOの要求 (2) 飛行場証明制度と安全管理システム	1.0	
12. 評価		3.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
対空援助論2	対空論2	学科	専門科目	航空情報科教官	19
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4 飛行場対空援助演習シナリオ			自教室または 第一飛行場管制実習室	☑校務情報システム 飛行場対空援助シミュレータ	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空通信規則、航空路通信組織)					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修 計器進入方式 履修					
到達目標					
飛行場対空援助演習において提供する情報の種類・根拠を理解し、演習で取り扱う飛行の種類に適合した用語・機器を使用することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 飛行場対空援助	(1) 適用、目的 (2) 通信の類別及び優先順位 (3) 資料及び情報の準備 (4) 提供する情報 (5) 情報提供要領 (6) ATS通報の取扱 (7) 進入及び出発の方法に係る要求の処理 (8) 視認している航空機との通信設定ができない場合の措置 (9) 通信の終了時期 (10) 閉局手続 (11) 消火救難に関する措置 (12) 飛行場灯火運用方法 (13) APDUの運用 (14) 通信の記録 FLIGHT INFORMATION SHEETの記入要領 (15) 業務の引継 (16) 業務の始業点検 (17) TRAFFIC INFORMATION LOG			12.0	
2. 他飛行場援助	(1) 適用、目的 (2) 規程の準用 (3) 提供する情報 (4) 情報提供要領 (5) ATS通報の取扱 (6) 消火救難に関する措置 (7) 他飛行場援助業務用TV装置の運用			2.0	
3. 交信例	(1) 実習装置を使用し航空機への飛行開始から終了までの交信例の解説 (2) 実習装置を使用し航空機への情報提供例の解説			2.0	
4. 評価				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
対空援助論3	対空論3	学科	専門科目	航空情報科教官	8
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4 AIM-J			自教室 LL教室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空通信規則、航空路通信組織)					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修(特に対空援助論1、運航情報基礎演習、航空気象通報式演習) 対空援助論2 履修					
到達目標					
広域対空援助業務において提供する情報の種類・内容・必要性を説明するとともに、通信用語を使用して航空機に提供できる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 広域対空援助	(1) 適用、目的 (2) 通信の類別及び優先順位 (3) 資料及び情報の準備 (4) 情報の交換 (5) 提供する情報 (6) 情報提供要領 (7) 気象レーダーエコー情報の取扱 (8) PIREPの取扱 (9) その他の飛行の安全に関する通信の取扱 (10) 業務の引継 (11) 情報の送信方法			7.0	
2. 評 価				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
管制通信論	管通論	学科	専門科目	航空情報科教官	18.0
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第8			自教室 LL教室等 対空援助実習室	校務情報システム 訓練用広域・国際管制通信卓 訓練用運航情報システム	
位置づけ					
航空交通管制通信職員基礎試験科目。(航空通信規則、航空路通信組織)					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修(特に対空援助論1、データ通信操作演習)					
到達目標					
管制通信演習において提供する情報の種類・根拠を理解し、演習で取り扱う飛行の種類に適合した用語・機器を使用することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 総則	(1) 試験規則及び技能証明 (2) 目的及び適用		0.5		
2. 世界主要航空路区域	(1) 世界主要航空路区域の概要 (2) 使用周波数と略号		0.5		
3. 国際対空通信業務	(1) 通則 (2) 通信の類別及び優先順位 (3) 資料及び情報の準備 (4) 管制通報の取扱い (5) 提供する情報 (6) SIGMET情報の提供要領 (7) ネットワークを構成する局の運用の原則 (8) 飛行中に1ネットワークから他のネットワークに移行する航空機局の取扱い (9) AFTN通信局経由航空機局あて通報の取扱い (10) 通信設定の援助 (11) SELCAL手続き (12) 通信の記録		11.0		
4. 符号及び略号	(1) 航空機運航機関の無線電話呼出符号及び電話略号		1.0		
5. 洋上空域	(1) 洋上航空路及び位置通報点 (2) 運航方式 (3) 通信要領		4.0		
6. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
計器進入方式	進入方式	学科	専門科目	航空情報科教官	23
教科書			使用教室	使用機材等	
飛行方式設計入門 RNAV方式の設計と原理 ENRC1－2、3			自教室 LL教室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
実技科目である飛行場対空援助演習開始に先立ち、取り扱う管制通報の内容を理解する。 運航援助情報専門研修に先立ち、専門試験学科科目「出発方式及び進入方式」の基礎知識を習得する。					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修(特に対空援助論1、飛行計画論、航空気象通報式演習)					
到達目標					
AIPに公示された計器進入方式、最低気象条件及び計器出発方式について、飛行方式設定基準に基づいて設計されていることを理解し、記載されている内容を説明することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 計器飛行方式の飛行計画経路	(1) ATSルート (2) ENRCの地図記号 (3) ATS空域			3.0	
2. 飛行方式設定基準	(1) 法的根拠 (2) 一般基準 ア. 障害物を勘案すべき区域 イ. 最小障害物間隔 (3) RNAVの概念			1.0	
3. 進入方式等の枠組み (既存方式)	(1) 進入方式 ア. 進入方式の種類・分類 イ. 進入方式のセグメント ウ. 非精密進入 エ. 精密進入 オ. 周回進入 カ. 待機方式 キ. 最低扇形別高度 (2) 出発方式 ア. 出発方式の種類・分類 イ. 障害物識別表面及び方式設計勾配			5.0	
4. RNAV/衛星を用いた方式の理解	(1) RNAVの原理 (2) PBNの概念と航法仕様 (3) RNAV進入方式 (4) RNAV出発方式			5.0	

計器進入方式

授業項目	要点	時限	備考
5. 最低気象条件	(1) 最低気象条件とは (2) 着陸の最低気象条件 (3) 離陸の最低気象条件 (4) 代替飛行場としての最低気象条件	4.0	
6. 説明資料作成 発表	(1) 進入・出発方式の読解 AIPのチャート解説資料作成 (2) 発表	4.0	
7. 評価		1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
業務用英語 TECHNICAL ENGLISH	業英	学科	専門科目	航空情報科教官	18
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4 航空保安業務処理規程 第5 航空保安業務処理規程 第8			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(英語) 航空交通管制通信職員基礎試験科目。(英語)					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修(特に国際航空法規、対空援助論1) 英語A2、英会話S2、英会話L2、英会話C2、管制通信論、対空援助論2 履修					
到達目標					
運航情報業務の遂行に必要な英語の単語、用語、読解及び作文の能力を高める。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 単語、専門用語	(1)運航情報業務の遂行に必要な英語の 単語・用語			7.0	レベル4
2. 英文解釈	(1) ICAO文書の読解 (2) 航空路誌の読解 (3)電文の読解			4.0	
3. 通信で使用する 用語	(1) 対空援助業務と国際対空通信業務に かかる航空用語による意思疎通 (2) 対空援助業務と国際対空通信業務に かかる緊急事態			6.0	
4. 評価				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
飛行場管制論	飛管論	学科	専門科目	航空管制科教官	10
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第5 航空六法 AIM-J			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空管制概論) 航空交通管制通信職員基礎試験科目。(航空交通管制業務の概要)					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修(特に航空管制概論)					
到達目標					
飛行場管制業務で使用する基本規程、用語を習得し、運航情報業務に活用できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
I. 総 則 1. 目的及び適用 2. 定 義 3. 通 則 4. 気象情報 5. 電話通信	(1) 目 的 (2) 適 用 飛行場管制業務に係る事項 (1) 業務量 (2) 業務の優先順位 (3) 航空機の取扱順位 (4) 管制承認及び管制許可の発出 (5) 管制用語 (6) 管制機関等との連絡 (7) 編隊飛行 (8) 飛行検査 (9) 迅速な行動を必要とする場合 (1) 気象情報の提供 (2) RVR値の通報 (1) 試験電波の発射 (2) 通信の類別 (3) 通信の優先順位 (4) 文字の通話表 (5) 数の送信 (6) 数等の確認 (7) 無線呼出符号 (8) 管制席等の名称 (9) 航空機型式 (10) 送信要領 (11) 通信の設定 (12) 試験通信 (13) 通信の移管 (14) 通信の内容 (15) 聴守の中断 (16) 通信の中継		3.0		

飛行場管制論

授業項目	要点	時限	備考
Ⅱ. 飛行場管制方式		3.5	
1. 通 則	(1) 適 用 (2) 走行地域における指示 (3) 滑走路の使用 (4) 閉鎖滑走路における離着陸 (5) ローアプローチ及びタッチアンドゴー (6) 滑走路の選定		
2. 管制許可	(1) 離陸許可 (2) 着陸許可 (3) 復行の指示 (4) 離着陸許可発出時期 (5) 計器気象状態の場合の措置 (6) インターセクション・デパーチャー (7) 管制圏通過の許可		
3. 管制間隔	(1) 適 用 (2) 同一滑走路における間隔 (3) 交差滑走路における間隔 (4) ヘリコプターの間隔 (5) 間隔の短縮 (6) インターセクション・デパーチャーの間隔		
4. 地上滑走 及び出発	(1) 地上走行に関する指示 (2) 航空機の位置の確認 (3) 出発遅延に関する情報 (4) 出発機に対する情報及び指示 (5) 気象情報の通報 (6) 管制承認の伝達 (7) 離陸準備完了の通報 (8) 使用周波数 (9) 滑走路における待機 (10) 滑走路手前における待機 (11) 間隔設定 (12) 離陸許可の取消し (13) 離陸時刻の通報		
5. 到着機	(1) 到着機に対する情報及び指示 (2) 位置通報の要求 (3) 間隔設定 (4) 飛行の制限 (5) VFR機の空中待機 (6) 脚の点検 (7) 着陸後の指示 (8) 360度直上進入		
6. 可視信号	(1) 適 用 (2) 注意信号 (3) 航空機からの応答		
7. 情報の提供	(1) 交通情報 (2) 飛行場の状態に関する情報 (3) 航空機の異常状態に関する情報		
8. 飛行場灯火	(1) 通 則 (2) 細 則		
Ⅲ. 後方乱気流関連 管制方式		1.0	
1. 通 則	(1) 適 用 (2) 航空機の後方乱気流区分 (3) タッチアンドゴーまたはローアプローチ (4) 離陸時及び地上滑走時の取扱い方法		
2. 情報提供	(1) 適 用		

飛行場管制論

授業項目	要点	時限	備考
IV. 緊急方式		1.5	
1. 通 則	(1) 適 用 (2) 情報の収集		
2. 緊急業務	(1) 措置基準 (2) 他の航空機に対する通報 (3) 消火救難機関に対する通報		
3. 管制方式	(1) 優先的取扱 (2) 患者輸送機等 (3) ミニマムフューエルを通報した航空機		
V. 評 価		1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
進入管制論	進管論	学科	専門科目	航空管制科教官	10
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第5			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空管制概論) 航空交通管制通信職員基礎試験科目。(航空交通管制業務の概要)					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修(特に航空管制概論)					
到達目標					
進入管制業務で使用する基本規程、用語を習得し、運航情報業務に活用できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
I. 総 則			2.0		
1. 目的及び適用	(1) 目 的 (2) 適 用				
2. 定 義	定義のうち、進入管制業務に係る事項				
3. 通 則	(1) 業務移管 (2) ATIS機関への通報 (3) 航空機に対する情報の提供 (4) ATISの中断又は終了				
II. 計器飛行管制方式			5.0		
1. 管制承認等	(1) SID又はトランジションの指示 (2) 法第94条ただし書の許可				
2. 管制間隔	(1) 出発機間の初期間隔 (2) 到着機と出発機との間隔 (3) 目視間隔				
3. 特別有視界 飛行方式	(1) 適 用 (2) 管制間隔				
4. 出発機	(1) 出発制限の方法				
5. 待機機	(1) 待機指示 (2) 待機不要の場合の措置 (3) 目視地点における待機 (4) 待機経路からの逸脱				
6. 到着機	(1) 到着情報 (2) 進入フィックスへの承認 (3) 到着機に対する情報等 (4) 気象情報の通報 (5) 進入を継続するための最低気象条件 未満の場合の措置 (6) 進入許可 (7) 周回進入 (8) 目視進入 (9) 時差進入 (10) 模擬計器進入				

進入管制論

授業項目	要点	時限	備考
7. 特別管制空域	(1) 法第94条の2第1項ただし書の許可		
Ⅲ. 後方乱気流関連 管制方式			
1. レーダーを 用いない場合	(1) 到着機間の間隔 (2) 隣接空港の航空交通に対する管制間隔 (3) 時差進入の間隔	1.0	
Ⅳ. 緊急方式		1.0	
1. 緊急業務	(1) 他の航空機に対する通報		
2. 管制方式	(1) 優先的取扱 (2) 交通制限 (3) 交通制限の解除 (4) 一方送信 (5) ミニマムフューエルを通報した航空機		
Ⅴ. 評 価		1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空路管制論	航管論	学科	専門科目	航空管制科教官	10
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第5			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空管制概論) 航空交通管制通信職員基礎試験科目。(航空交通管制業務の概要)					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修(特に航空管制概論)					
到達目標					
航空路管制業務で使用する基本規程、用語を習得し、運航情報業務に活用できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
I. 細 則 1. 目的および適用	(1) 目 的 (2) 適 用		0.5		
2. 定 義	定義のうち、航空路管制業務に係る事項				
II. 計器飛行管制方式 1. 管制承認等	(1) 管制承認 (2) 管制承認および一般情報の中継 (3) 管制承認限界点 (4) SID及びトランジションの指示 (5) 飛行経路の承認 (6) 高度の承認、指定、制限 (7) 管制承認の変更 (8) 高度変更が承認できない場合の措置 (9) 高度の確認 (10) 有視界気象状態を維持して行なう飛行 (11) 法第94条ただし書の許可 (12) 制限区域		6.0		
2. 管制間隔	(1) 適 用 (2) 垂直間隔 (3) 縦間隔 (4) 横間隔				
3. 出発機	(1) 出発に係る指示 (2) 出発制限の方法 (3) 連絡調整 (4) 複合飛行方式				
4. 巡航機	(1) 移管情報 (2) 変更情報 (3) 連絡調整 (4) 位置通報				
5. 待機機	(1) 待機指示 (2) 待機不要の場合の措置 (3) 待機フィックス以遠への管制承認 (4) 30分以上の遅延				

航空路管制論

授業項目	要点	時限	備考
6. 到着機	(1) 到着情報 (2) 通信の移管	1.5	
7. 特別管制空域	(1) 法第94条の2第1項ただし書の許可		
8. 洋上管制	(1) 適用 (2) 垂直間隔 (3) 縦間隔 (4) 横間隔 (5) PACOTS、RNP10		
Ⅲ. 緊急方式			
1. 通 則	(1) 適用 (2) 情報の収集		
2. 緊急業務	(1) 措置基準 (2) 通報内容 (3) 作 図 (4) 他の航空機に対する通報	1.0	
3. 管制方式	(1) 優先的取扱 (2) 交通制限 (3) 一方送信 (4) 搜索救難機 (5) 患者輸送機 (6) その他		
Ⅳ. その他			
1. 通 則	(1) 業務移管 (2) 業務に使用する時間 (3) 許可又は不許可に係る用語 (4) 無線施設の異常報告受領時の措置		
2. 気象情報	(1) 悪気象空域の回避 (2) 気象情報の要求		
3. 高度計規正值	(1) 高度計規正值の入手 (2) 観測地点名の通報 (3) 規正值の提供	1.0	
4. 特殊飛行	(1) ALTRV		
Ⅴ. 評 価		1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
レーダー管制論	レ管論	学科	専門科目	航空管制科教官	10
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第5			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空管制概論) 航空交通管制通信職員基礎試験科目。(航空交通管制業務の概要)					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修(特に航空管制概論)					
到達目標					
航空交通業務に必要なレーダー管制で使用する基本規程、用語を習得し、運航情報業務に活用できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
I. レーダー概論 1. レーダーの基礎	(1) レーダーの原理及び沿革 (2) レーダーの基本回路 (3) レーダー付属回路及び機器		3.0		
2. レーダー運用上の特性及び限界	(1) レーダー運用特性 (2) レーダー運用上の限界				
3. 航空管制用レーダー機器	(1) 空港搜索レーダー(ASR) (2) 精測進入レーダー(PAR) (3) 空港面探知レーダー(ASDE) (4) 航空路監視レーダー(ARSR/ORSR) (5) 二次搜索レーダー(SSR) (6) レーダー情報処理システム(ARTS及びRDP) (7) 空港用航空機位置表示装置(APDU)				
II. レーダー管制方式 1. 総 則	(1) 目的及び適用 (2) 定 義 定義のうち、レーダー管制業務に係る事項		6.0		
2. レーダー識別	(1) レーダー識別の方法及び維持 (2) レーダー識別に係る通報 (3) レーダー業務の終了の通報等				
3. レーダー誘導及びレーダー移送	(1) 最低誘導高度 (2) レーダー誘導の範囲、方法及び終了等 (3) レーダー移送及び継受の方法等				
4. 管制間隔	(1) ターゲットの間隔側点等 (2) レーダー間隔その他				

レーダー管制論

授業項目	要点	時限	備考
5. 出発機、到着機 及び速度調整	(1) 出発機 (2) 到着機と速度調整	1.0	
6. レーダー進入	(1) 搜索レーダー進入 (2) 精測レーダー進入(GCA)		
7. 補足業務	(1) レーダー交通情報等		
Ⅲ. 評 価			

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空交通管理論	ATM論	学科	専門科目	航空管制科教官	3
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第5 ENRC1－2、3			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空管制概論) 航空交通管制通信職員基礎試験科目。(航空交通管制業務の概要)					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修(特に航空管制概論)					
到達目標					
航空交通管理に使用する基本規程、用語を習得し、運航情報業務に活用できる。					
授業項目	要点			時限	備考
I. 総 則	(1) 目的及び適用 (2) 定義 (航空交通管理にかかる事項) (3) 関係機関との調整等			0.5	
II. 容量管理	(1) 管制処理容量 (2) 適正交通容量値			0.5	
III. 航空交通流管理	(1) 飛行計画経路の管理及び調整 (2) 管制承認及び管制指示 (3) 交通流制御			1.0	
IV. 空域管理	(1) PACOTSの設定 (2) 民間訓練試験空域管理方式 (3) 国の航空機による空域使用調整 (4) フライトレベル290以上の空域における 飛行に関する調整			0.5	
V. 評 価				0.5	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
安全(SMS)	SMS	学科	専門科目	航空情報科教官	6
教科書			使用教室	使用機材等	
なし			LL教室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
ICAO ANNEX19に規定されている安全管理システム(SMS)の概念を理解する。					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修 飛行場情報運用論 履修					
到達目標					
ICAO ANNEX19に規定されている安全管理システム(SMS)の概念及び航空保安業務安全管理規程の概要を説明することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 航空保安業務安全管理システム	(1) 航空交通業務に関する「安全管理制度」			1.5	
	(2) 航空保安業務安全管理規程			1.5	
	(3) 不安全な要因とリスク分析手法について			1.8	
	(4) ケーススタディー			1.0	
	運航情報業務に係る取組事例研究				
2. 評価				0.2	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
公務員教養	公務教養	学科	専門科目	有識者・幹部等 総務課・教務課 航空情報科教官	78.2
教科書			使用教室	使用機材等	
なし			自教室 等	☑校務情報システム	
位置づけ					
公務員の使命と教養、特別講義、校外研修等多角的な研修を実施し、航空保安業務に携わる国家公務員としての人間形成を図る。					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修					
到達目標					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 公務員の使命と教養	(1) 公務員教育 (2) 公務員教育課題討議(30分×12回)		8.0 3.6	1.0時限×8 0.3時限×12	
2. 校長訓話	(1) 校長訓話(30分×4回)		1.2		
3. 特別講義	(1) 専門教養 (2)一般教養(30分×5回、内1回ダイレクトーク)		9.0 1.5	9時限 有識者等 0.3時限×5 幹部等	
4. 校外研修	(1) 現場学習		30.1	4.3時限×7	
5. 空の日・オープンキャンパス(7月)	(1) オープンキャンパス(4時限+30分) (2) オープンキャンパス前日準備(1時限+30分) (3) オープンキャンパス実行委員会(30分x5回)		7.1	4.3時限 1.3時限 1.5時限	
6. オープンキャンパス(3月)	(1) オープンキャンパス(4時限+30分) (2) オープンキャンパス前日準備(1時限+30分) (3) オープンキャンパス実行委員会(30分x5回)		7.1	4.3時限 1.3時限 1.5時限	
7. 体育交流(5月)	(1) 体育交流(2時限+30分) (2) 体育交流実行委員会(30分x3回)		3.2	2.3時限 0.9時限	
8. 体育大会(10月)	(1) 体育大会(保健体育科目に引続き5限目で30分) (2) 体育大会実行委員会(30分x3回)		1.2	0.3時限 0.9時限	
9. 体育交流(2月)	(1) 体育交流(2時限+30分) (2) 体育交流実行委員会(30分x3回)		3.2	2.3時限 0.9時限	
10. 消火防災訓練	(1) 消火防災訓練(5月／12月)		2.0	1時限×2	
11. 学生試験内定者学校見学会	(1)学生試験内定者学校見学会		1.0	1時限	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
科目演習(学科)	科目演習	学科	専門科目	航空情報科教官 特任教官	48
教科書			使用教室	使用機材等	
なし			自教室 等	☑校務情報システム	
位置づけ					
業務上必要となる資格の取得、国際コミュニケーションの指標となる英語能力のレベルを自覚し、補講及び自主的な研修等により学科の研修効果を高める。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 学習交流	(1)実習交流参加(管制官へ実習紹介) (2)実習交流参加(電子科へ実習紹介)		4.0	1時限×3 1時限×1	
2. 特別講義	(1)ITサービスマネジメント(Ⅰ) (2)ITサービスマネジメント(Ⅱ)		2.0 4.0		
3. クラス ミーティング			18.0		
4. 補講・ 自主研修等	(1) IT教育システムの活用による演習 (2) 補講 (3) その他		20.0	各教官の調整により シラバスを決定する。	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
情報リテラシー2	情リ2	実技	情報実習	特任教官	8
教科書			使用教室	使用機材等	
よくわかるMicrosoft Office Access2016基礎			第1統合実習室	☑校務情報システム	
位置づけ					
コンピュータを活用していく上で必要になる代表的なソフトウェアの知識と技術を習得する。					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修(特に情報リテラシー1)					
到達目標					
特定のデータベースソフトウェアを通じて、データベースの設計・作成ができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. PC利用技術	(1)データベース ・Accessの基礎知識 ・データベースの設計と作成 ・テーブル・クエリ・フォーム・レポートの作成 ・リレーションシップの作成 ・ピボットテーブルとピボットグラフの作成			7.0	
2. 評価				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
運航援助演習2	運航演2	実技	情報実習	航空情報科教官	84
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4 第4の2 航空保安業務処理規程 第2、2の2 航空六法 区分航空図 ENRC1－2、3			運航援助情報実習室	☑校務情報システム 訓練用運航情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(運航援助情報業務の実技、航空管制運航情報業務に用いられる専門用語)					
受講の前提条件					
航空情報科本科1年課程科目 履修(特に社会教養、運航情報基礎演習)					
到達目標					
座学研修で習得した理論を基に、実務に即した運航援助情報業務の処理を行うことができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 概説・確認	(1) 端末概要 (2) 基本知識の確認		2.0		
2. 飛行計画	(1) 受付方法(対面、電話) (2) 飛行計画の受理・審査 ア. 通常の飛行 イ. 船舶を離着陸する飛行 ウ. 訓練空域を使用する飛行 エ. 特殊運航 オ. 編隊飛行 カ. パッセンジャーストップの飛行 キ. スループラン ク. 航空運送事業によるVFRの飛行 ケ. 運航中飛行方式を変更する飛行 コ. IFRによる飛行 サ. 滑空機の飛行 (3) 飛行計画の入力・送付 (4) 関係者への伝達		30.0		
3. ATS通報の送付 解読	(1) FPL MSG (2) DEP MSG (3) DLA MSG (4) ARR MSG (5) CHG MSG (6) CNL MSG				
4. 運航監視	(1) 通常運航の監視 (2) 異常運航の監視				
5. 記録	(1) 運航記録原簿の抽出・解読				

運航援助演習2

授業項目	要点	時限	備考
6. 捜索救難	(1) 情報の収集・伝達 (2) ALR MSGの発信 (3) 情報の整理 (4) ELT・未確認情報入手時の対応	20.0	
7. イレギュラー 運航等	(1) 情報の収集 (2) 関係機関への伝達 (3) 上局への報告 (4) 情報の整理	14.0	
8. ATIS(放送業務)	(1) 送信演習(口頭読み上げ) (2) 重要な運航に関する情報のATISの作成及 送信 (3) 機器障害時の対応	4.0	
9. 総合演習		6.0	
10. 評価		8.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空情報演習	情報演	実技	情報実習	航空情報科教官	24
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4 第4の2 AIP JAPAN			第2統合実習室等 運航援助情報実習室	☑校務情報システム 訓練用運航情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(運航援助情報業務の実技、航空管制運航情報業務に用いられる専門用語)					
受講の前提条件					
航空情報運用論 履修					
到達目標					
AISマニュアル等、航空情報業務で使用される文書を利用し、航空情報の解説、整理、提供ができる。また、同文書を利用し、簡単なノータム、航空路誌改訂版、補足版の発行依頼手続及び発行処理ができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 航空情報の提供	(1) 航空路誌の解説 (2) 航空路誌改訂版の解説 (3) 航空路誌補足版の解説 (4) 航空情報サーキュラーの解説 (5) ノータムの解説 (6) 航空情報の提供資料の作成			16.0	
2. 航空情報の作成	(1) 基本的なノータムの作成			2.0	
3. 航空情報の発行 依頼	(1) 航空情報の発行に係る調整 (2) 航空路誌等の発行依頼 (3) 通常時のノータム発行依頼 (4) 緊急時のノータム依頼			4.0	
4. 評価				2.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
飛行場情報演習	飛情演	実技	情報実習	航空情報科教官	24
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4 第4の2 航空六法			運航援助情報実習室、 第2統合実習室等	☑校務情報システム 訓練用運航情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(運航援助情報業務の実技、航空管制運航情報業務に用いられる専門用語)					
受講の前提条件					
飛行場情報運用論 履修					
到達目標					
制限表面の作図、制限表面との物件障害度の判定、設定された条件下におけるスポットアサインメントチャートの作成、制限区域内事故報告書の作成等ができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. スポットの運用	(1) スポットアサインの条件の説明 (2) スポットアサインメントチャートの作成 (3) スポット管理システムの操作方法			1.0 2.0 4.0	
2. 制限区域内 事故演習	(1) 制限区域内事故発生時の対応の説明 (2) 報告書の作成			4.0	
3. 事故演習	(1) 航空機事故発生時の対応の説明 (2) 習で使用するホワイトボードの作成 (3) 航空機事故処理演習 ア. 臨時飛行場点検の模擬演習 イ. 上局、航空会社等への情報伝達 ウ. ホワイトボードへの記入 エ. 報告書の作成			1.0 1.0 4.0	
4. 制限表面	(1)制限表面の作図 (2)障害物の判定			2.0 4.0	
5. 評価				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
飛行場対空援助演習	飛対演	実技	情報実習	航空情報科教官	60
教科書			使用教室	使用機材等	
飛行場対空援助演習 航空保安業務処理規程 第4・第5			第1飛行場管制実習室	☑校務情報システム 飛行場対空援助シミュレータ	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(対空援助業務の実技、航空管制運航情報業務に用いられる専門用語)					
受講の前提条件					
対空援助論2 履修					
到達目標					
飛行場対空援助局において同時に存在する着陸・出発・通過のいずれか3機に対し、基本的な情報提供及び管制通報の中継を行える。					
授業項目	要点			時限	備考
1. RDO機器点検	試験電波 場内無線 飛行場灯火 LAND LINE			2.0	
2. RDO1機	(1) VFR OUT (2) VFR IN (3) VFR OVR (4) IFR IN (5) IFR OUT (6) IFR : CNL IFR (7) IFR OUT : CLIMB IN VMC (8) IFR IN : CTC APCH (9) IFR IN : MISSED APCH (10) VFR IN : SIMULATION APCH (11) VFR IN : OPTION APCH (12) SVFR			2.0 2.0 2.0 2.0 2.0 2.0 2.0 2.0 2.0 2.0 2.0	
3. RDO2機	(1) VFR IN + OUT (2) VFR OVR + VFR (3) IFR IN + VFR (4) IFR OUT + VFR (5) IFR IN + OUT or TGL (6) IFR IN + OUT or SVFR			3.0 3.0 3.0 3.0 4.0 4.0	
4. RDO3機	(1) IFR + VFR			8.0	
5. 評価	RDO1機 RDO3機			2.0 4.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
他飛行場援助演習	RAG演	実技	情報実習	航空情報科教官	20
教科書			使用教室	使用機材等	
飛行場対空援助演習 航空保安業務処理規程 第4・第5			第1飛行場管制実習室	☑校務情報システム 飛行場対空援助シミュレータ	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(対空援助業務の実技、航空管制運航情報業務に用いられる専門用語)					
受講の前提条件					
飛行場対空援助演習 履修					
到達目標					
他飛行場援助局(2サイト1卓)において同時に存在する着陸・出発・通過のいずれか3機に対し、基本的な情報提供及び管制通報の中継を行える。					
授業項目	要点			時限	備考
1. RAG1SITE	(1) IFR IN + VFR			4.0	
	(2) IFR OUT + VFR			4.0	
2. RAG2SITE1PSN	(1) IFR OUT + IFR IN + VFR			4.0	
3. RAG全般	(1) 状況設定を自己構築して実施			4.0	
4. 評価	RAG2SITE 3機			4.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
広域対空援助演習	広域演	実技	情報実習	航空情報科教官	24
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4 広域対空援助演習 AIM-J、ENRC1-2、3 区分航空図			対空援助実習室	☑校務情報システム 訓練用広域・国際対空通信卓 訓練用運航情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(対空援助業務の実技、航空管制運航情報業務に用いられる専門用語)					
受講の前提条件					
対空援助論3 履修					
到達目標					
広域対空援助局において、航空機からの位置通報、到着時刻の通報、民間訓練試験空域の使用に関する通報等を適切に処理し、関係機関へ送付することができる。 また、航空機からの要求に基づき、気象情報等を適切に提供することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 基本操作	(1)端末の運用			2.0	
	(2)通信卓の操作方法				
	(3)対空通信要領				
2. 交信要領	(1)VFR機からの位置報告			16.0	
	(2)VFR機からのPIREP、気象情報の提供				
	(3)ルートチェンジ、目的地変更				
	(4)到着、出発時刻				
	(5)訓練試験空域				
	(6)定期便、管制部からのPIREP				
3. 総合演習				2.0	
4. 評価				4.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
管制通信演習	管通演	実技	情報実習	航空情報科教官	24
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第8			対空援助実習室	☑校務情報システム 訓練用広域・国際対空通信卓 訓練用運航情報システム	
位置づけ					
航空交通管制通信職員基礎試験科目。(管制通信に用いられる専門用語、管制通信実技)					
受講の前提条件					
管制通信論 履修					
到達目標					
航空機からの位置通報、管制通報、気象通報について航空機局との交信を行い、交信記録の伝達、情報提供を行うことができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 機器操作	(1) 管制通信卓の操作方法 (2) 端末の操作方法		1.0		
2. 位置通報	(1) 交信記録の方法 (2) 使用周波数 (3) SELCAL (4) 通信移管 (5) 通報の送付先		4.0		
3. 管制通報	(1) 管制通報用紙の記入方法 (2) 航空機からの要求 ア. 高度に関する要求 イ. 飛行経路離脱に関する要求 (3) ATMCとの通報の授受 (4) 管制通報 ア. 管制承認・許可・指示(ATCC) イ. 管制情報(ATCA) ウ. 管制要求(ATCR)		4.0		
4. 気象情報	(1) SIGMET (2) AIREP—SPECIAL		4.0		
5. 会社報			1.0		
6. CPDLC			1.0		
7. 総合演習			5.0		
8. 評価			4.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
総合実習	総合実習	実技	情報実習	航空情報科教官	30
教科書			使用教室	使用機材等	
なし			運航援助実習室 対空援助実習室 第1飛行場管制実習室	☑校務情報システム 訓練用広域・国際対空通信卓 訓練用運航情報システム 飛行場対空援助シミュレータ	
位置づけ					
業務毎に実施してきた実習の仕上げとして、各実習室を連携させて総合的な運航情報業務のつながりを理解する。					
受講の前提条件					
運航援助演習、飛行場対空援助演習、広域対空援助演習、航空情報演習、飛行場情報演習 履修					
到達目標					
各実習装置を連結し、運航援助情報業務、飛行場情報業務、対空援助業務及び航空情報業務の相互つながりを認識し、総合的な航空管制運航情報業務を理解する。					
授業項目	要点			時限	備考
総合実習	航空情報演習、飛行場対空援助演習、 運航援助演習、飛行場情報演習および 広域対空援助演習を連携させての総合演習			30.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
科目演習(実技)	科目演習	実技	情報実習		10
教科書			使用教室	使用機材等	
なし			自教室 等	☒ 校務情報システム	
位置づけ					
補講及び自主的な研修等により実技の研修効果を高める。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 補講・ 自主研修等	(1) 実習室利用による演習 (2) IT教育システムの活用による演習 (3) 補講 (4) その他		10.0	各教官の 調整によりシラバスを 決定する。	

IV. 研修内容

3. 航空管制運航情報職員基礎研修（第14回 前期）

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
英語1 ENGLISH I	英語1	学科	外国語科目	航空情報科教官及び特任教官	36
教科書			使用教室	使用機材等	
BASIC ENGLISH AVIATION ENGLISH			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(英語)					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
英語でコミュニケーションを行うための基礎的な英文の読解及び作文ができる。 Students are able to have reading and writing ability about basic English texts.					
授業項目	要点			時限	備考
1. 初級英語	一般航空英語についての基礎を幅広く習得する。 (1) 基礎的な航空語彙、言い回しの習得 【読解力、理解力、語彙の向上】			35	
2. 評価				1	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空気象学1	気象学1	学科	専門科目	特任教官	6
教科書			使用教室	使用機材等	
世界で一番わかりやすい航空気象			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空気象)					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
運航援助情報業務に必要な航空気象の基礎を理解し、気象ブリーフィングで使用される用語を理解できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空気象	(1)大気と大気の基本的性質 (2)風 (3)高気圧、低気圧 (4)気象観測 視程障害現象 着氷 乱気流 雷雨 台風 (5)気団と前線 (6)天気図 (7) 航空と気象		5.0		
2. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空航法1	航法1	学科	専門科目	特任教官	12
教科書			使用教室	使用機材等	
百万分の一航空路図			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空航法)					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
運航援助情報業務の遂行に必要とされる航空航法の基礎知識を習得する。					
授業項目	要点		時限	備考	
I. 基礎知識					
1. 航空航法の概要	(1) 航法の目的 (2) 航法の3段階 (3) 航法の種類		0.5		
2. 航空航法の基本用語	(1) 地球について (2) 時について (3) 方位、航路、航跡、斜路、距離		1.0		
3. 航空図	(1) 地図の種類 (2) 地図の投影法 (3) 航空図使用上の注意 (4) 白図の作り方		1.0		
4. 航法用基本計器	(1) コンパス (2) 速度計 (3) 高度計 (4) 大気温度計		1.0		
II. 航法計算盤と作図法					
1. 基本航法	(1) 風向三角形 (2) TH,TAS,WIND を知ってDRIFT,GSを求める。 (3) TC,TAS,WIND を知ってWCA,GSを求める。 (4) 航法計算盤によりDRIFT,GS,WCAを求める。 (5) 飛行中コースから離れた時の修正 (6) エアプロットと推定位置 (4) 航法計算盤によりDRIFT,GS,WCAを求める。		2.0		
2. 位置決定	(1) 位置線の種類 (2) 位置線の利用法(目視及び電波による)		1.0		

航空航法1

授業項目	要点	時限	備考
3. フライトプラン	(1) プランニングデータとその見方 (2) 航路と距離の求め方 (3) TAS と燃料消費量と航空機重量との関係 (4) 上昇と降下 (5) ハイスピードクルーズとロングレンジクルーズ (6) 予備燃料の内訳 (7) 自重: 運航重量、離陸重量、着陸重量 (8) 上昇終了地点と降下開始地点 (9) 上昇率と降下率 (10) フライトプランの作成	2.0	
4. 最大進出率、ETP会合法	(1) 行動半径 PNR : PSR (2) 代替空港 (3) ETP (4) 会合法	1.0	
5. 最近のジェット旅客機による航法	(1) 上昇率、降下率、速度調整 (2) VORとDME (3) 慣性航法	1.5	
Ⅲ. 評価		1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空機概論1	航空機1	学科	専門科目	特任教官	6
教科書			使用教室	使用機材等	
なし			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空機概論)					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
運航援助情報業務の遂行に必要とされる航空機の基礎知識を習得する。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空機全般	(1) 航空機の分類と種類 (2) 革新的航空技術		0.5		
2. 飛行の原理	(1) 飛行機に働く力 (2) 飛行機の運動 (3) 飛行機の安定性		1.5		
3. 航空機の設計と構造	(1) 航空機の設計 (2) 航空機の構造		1.5		
4. システム	(1) 操縦システム (2) 通信システム (3) その他システム全般 (4) 航空計器		1.5		
5. エンジンと動力装置			0.5		
6. 評価			0.5		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
国内航空法規1	国内法1	学科	専門科目	航空情報科教官	28
教科書			使用教室	使用機材等	
航空六法 AIM-J 数字で見る航空			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空法規)					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
運航援助情報業務に必要な航空法規全般にわたる基礎知識を習得する。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 総 則	(1) 航空法の沿革 (2) 航空法の目的 (3) 航空法の及ぶ範囲 (4) 航空法の概要 登録・航空機の安全性等 (5) 定義 (6) 関連法規類 日米安保条約・自衛隊法等		5.0		
2. 航空路、飛行場 及び航空保安施設	(1) 航空路、飛行場、航空保安施設の種類の (2) 飛行場設置の申請から供用開始までの 手続 (3) 物件の制限 (4) 飛行場の設置・管理基準 (5) 禁止行為 (6) 航空保安無線施設の設置・管理基準 (7) 航空灯火の設置・管理基準 (8) 航空障害灯、昼間障害標識の設置・管理 基準 (9) 使用料金 (10)国土交通大臣が設置する空港の管理 (11)空港管理規則 (12)空港法		6.0		
3. 航空機の運航	(1) 国籍等の表示 (2) 航空機に備え付ける書類 (3) 航空機の航行の安全を確保するための 装置 (4) 救急用具・燃料・灯火 (5) 航空機乗組員 (6) 機長の業務 (7) 運航管理者 (8) 特殊運航許可 (9) 巡航高度		14.0		

国内航空法規1

授業項目	要点	時限	備考
4. 評 価	(10)航空交通の管理・指示 (11)空域規制 (12)飛行計画及び承認 (13)到着の通知 (14)情報の提供	3.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
国際航空法規1	国際法1	学科	専門科目	航空情報科教官	8
教科書			使用教室	使用機材等	
ICAO概論			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空法規)					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
運航援助情報業務に必要な国際航空法規及びICAOに関する基礎知識を習得する。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 国際航空の成り立ち	(1) 国際航空の歴史と条約 (2) 国際的機関の設立			0.5	
2. 国際民間航空条約及び付属書	(1) 条約の構成及び内容 ア. 条約の基本的考え方 イ. 条約の適用 ウ. 各種規則 エ. 国際標準及び勧告方式 (2) 付属書の種類と概要 (3) 付属書の構成及び規定の種別 (4) PANS(航空業務方式)及び地域補足方式			7.0	
3. 評価				0.5	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
飛行計画論	FPL論	学科	専門科目	航空情報科教官	20
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4 航空六法 ENRC 1-2,3			LL教室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(運航管理論、航空情報業務)					
受講の前提条件					
運航情報業務概論1 履修					
到達目標					
航空機の運航の種類および飛行計画について理解し、説明することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 運航管理規則	(1) 運航の種類 (2) 局地飛行区域の設定			1.0	
2. 飛行計画の審査	(1) 飛行計画の受理 (2) 内容審査 (3) 定期便の遅延 (4) 飛行計画受理者の指定 (5) 飛行計画書の保存 (6) 飛行場管制所への連絡			3.0	
3. 運航記録	(1) 運航記録原簿 (2) 運航記録原簿の記入要領 (3) 各項目の記入要領 (4) 記載事項の変更 (5) 特定空港 (6) 航空保安業務時間外の離着陸			1.0	
4. 飛行計画の記入	(1) 飛行計画の記入・通報要領			14.0	
5. 評価				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
運航監視論	運監論	学科	専門科目	航空情報科教官	12
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4 航空六法 航空保安業務の概要			LL教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(運航管理論、航空情報業務) 航空管制通信職員基礎試験科目。(航空情報業務)					
受講の前提条件					
航空通信業務論1、飛行計画論 履修					
到達目標					
運航監視機関及び運航監視の方法を理解し、説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 概要	運航管理の概要		0.5		
2. 運航の監視	(1) 運航監視の方法 (2) 異常運航の監視		5.5		
3. 航空交通業務 通報 (ATS通報)	(1) 一般(ATS通報の種類・構成) (2) ATS MSGの処理方法 (3) ATS MSGの表示、構成及びその通報例 (4) 本文の構成、記入要領及びその通報例		1.0		
4. 宛先	送付アドレス		4.0		
5. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
危機管理論Ⅰ	危機論Ⅰ	学科	専門科目	航空情報科教官	12
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第2、2の2、2の3 航空六法			LL教室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(運航管理論・航空情報業務・捜索救難論) 航空管制通信職員基礎試験科目。(航空情報業務)					
受講の前提条件					
国内航空法規1、国際航空法規1、運航情報業務概論1、運航監視論、航空機概論 履修					
到達目標					
航空事故、重大インシデント、イレギュラー運航の定義及び業務の流れを説明できる。 航空機の捜索救難業務の措置基準及び業務の流れを説明できる。 航空機不法奪取事件等の範囲及び地方事務所における業務の流れを説明できる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 運輸安全委員会	(1)運輸安全委員会設置法			1.0	
2. 航空事故等	(1)事故・重大インシデント・イレギュラー運航の定義 (2)航空保安業務処理規程第2			7.0	
3. 捜索救難				2.0	
4. 不法奪取事件等	(1)航空保安業務処理規程第2の3			1.0	
5. 評価				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空通信業務論1	通信論1	学科	専門科目	航空情報科教官	17
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4 運航情報業務概論			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空情報管理論、航空通信規則)					
受講の前提条件					
運航情報業務概論1 履修					
到達目標					
運航援助情報業務に必要な情報交換の仕組み並びに情報の種類・管理等に関する基礎知識について理解し、説明することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 航空通信	(1) 一般情報通信知識 (2) 情報通信の変遷 (3) 航空保安業務の変遷 (4) 航空固定通信ネットワークの概念 (5) 地点略号			3.0	
2. 国際航空 通信手続	(1) AFTNの概念 (2) 通報の種類 (3) AFTNにおける通信手続 (4) AMHS			2.0	
3. 国内航空 通信手続	(1) 航空通信業務 (2) 通報およびデータの種類 (3) 航空通信手続			4.0	
4. 統合管制情報 処理システムの 概要	(1) システムの役割 (2) システム構成 (3) ネットワーク構成 (4) FACEの役割 (5) データベース (6) FO管理の役割 (7) 関係システム (システム概要、インターフェイス)			6.0	
5. 将来の航空通信	(1) 世界的規模の情報ネットワーク			1.0	
6. 評 価				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空情報業務論	情報論	学科	専門科目	航空情報科教官	14
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4 第4の2 運航情報業務概論 AIM-J AIP JAPAN			LL教室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空情報管理論、航空情報業務、航空通信規則)					
受講の前提条件					
運航情報業務概論1 履修					
到達目標					
航空情報にかかる規程類を理解し、航空情報の発行の流れを把握する。また、航空情報の抽出を行い解読ができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 航空情報	(1) 目的 (2) 定義 (3) 業務所掌			1.0	
2. 航空情報の形式	(1) 航空路誌 (2) 航空路誌改訂版 (3) 航空路誌補足版 (4) ノータム (5) 航空情報サーキュラー (6) チェックリスト (7) 飛行前情報ブリテン (8) 電子地形・障害物データ			4.0	
3. 航空情報の提供	(1) 基本的なノータムの解読			3.0	
4. エアラック	(1) エアラック方式 (2) エアラック事項			2.0	
5. AIS WEB	(1) AIS WEBの利用方法			1.0	
6. 規定類	(1) 航空情報業務に関する規定の概要			1.0	
7. 評 価				2.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空情報運用論	情運論	学科	専門科目	航空情報科教官	4
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4 第4の2 AIM-J AIP JAPAN			LL教室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空情報管理論、航空情報業務、航空通信規則)					
受講の前提条件					
航空情報業務論、航空無線施設概論1、航空灯火電気施設業務概論 履修					
到達目標					
航空情報に関する規定類を理解し、航空情報の解説、説明ができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空情報の提供	(1) サマライズ (2) チェックリスト		2.0		
2. 東京国際ノートム事務所	(1) 航空情報センターの概要 (2) 業務内容		0.5		
3. データの流れ	(1) 国内ノートム (2) 国際ノートム		0.5		
4. 規定類	(1) 航空情報発行手続要領 (2) 航空路誌掲載情報指針		0.5		
5. 評価			0.5		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空気象通報式1	通報式1	学科	専門科目	航空情報科教官	12
教科書			使用教室	使用機材等	
航空気象通報式(第3版) 新しい航空気象 航空保安業務処理規程 第4 航空気象通報式入門			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空気象、運航援助情報業務の実技)					
受講の前提条件					
航空気象学1					
到達目標					
気象情報(METAR、SPECI及びTAF)提供の知識及び提供要領を習得するとともに解読し、提供できる。ATIS放送に必要な情報を準備し、送信要領のとおり送信する手順を理解する。送信機器の障害時に各事象毎の障害対応方法を説明できる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 気象情報	気象情報提供の根拠			0.5	
2. 気象観測	(1) 気象観測の方法 (2) 観測通報			1.0	
3. 各通報形式	(1) 定時飛行場実況気象通報式(METAR) (2) 特別飛行場実況気象通報式(SPECI) (3) 航空気象観測所気象報(SCAN) (4) 運航用飛行場予報気象通報式(TAF) (5) 自動飛行場実況気象通報(METAR AUTO) (6) 国内記事			3.0	
4. 特別観測	特別観測の実施基準			0.5	
5. 飛行場予報	(1) 運航用飛行場予報(TAF) (2) 着陸用飛行場予報(TREND) (3) 離陸用飛行場予報 (4) TAF、TRENDの変化基準			1.0	
6. 機上気象観測	(1) AIREP (2) PIREP			1.0	
7. 飛行場警報	飛行場警報の種類と発表の基準			0.5	
8. 天気図の解読	(1) 地上天気図 (2) 高層天気図 (3) 気象ブリーフィング			1.0	

航空気象通報式1

授業項目	要点	時限	備考
9. 放送業務	(1) ATIS情報の準備 (2) 情報提供要領 (3) 空地データリンクによる送信 (4) 機器障害時の対応	2.0	
10. 航空気象サービス	空港気象情報表示装置(MetAir端末)の利用方法	0.5	
11. 評価		1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空無線施設概論1	航無概1	学科	専門科目	航空電子科教官	6
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務の概要 AIM-J			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空保安無線施設の概要) 航空保安業務に関連する無線関係施設、航空交通管制情報処理システム及び航空衛星システムの概要を学習する。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
航空保安業務に関連する無線関係施設、航空交通管制情報処理システム及び航空衛星システムの構成、機能等を学習し、航空機の運航に使用される航空保安無線施設を説明できる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 概説	(1) 航空機の運航に対する航空保安業務の関わり			1.5	
2. 施設の構成と性能	(1) 航空通信施設 (2) VOR/DME(VORTAC) (3) ILS (4) レーダー (5) 航空交通管制情報処理システム (6) 航空衛星システム			4.0	
3. 評価				0.5	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空灯火電気施設業務概論	航灯概	学科	専門科目	特別研修科 教官 (灯電担当)	6
教科書			使用教室	使用機材等	
航空灯火電気施設業務概論			自教室 航空灯火・電気技術実習室	☒ 校務情報システム ☒ 飛行場模型 ☒ 灯器 ☒ 受配電設備	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空保安施設の概要)					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
運航援助情報業務に必要な航空灯火電気施設の航空灯火種類、電源種別及び航空灯火・電気技術官の業務概要を説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空灯火電気施設業務	(1) 航空灯火電気施設業務とは (2) 航空灯火・電気技術官の業務		0.7	第7航空灯火電気施設業務 処理規程(Ⅲ)運用基準 1 運用の方法 は除く。	
2. 航空保安用電源システム	(1) 航空保安用電源システムとは ア. 役割 イ. 電源種別		0.3		
3. 航空灯火	(1) 航空灯火とは (2) 種類 (3) ガイダンス手法 (4) 飛行場灯火 ア. 位置表示灯火 イ. 進入灯火 ウ. 滑走路灯火 エ. 地上走行用灯火 オ. その他灯火 カ. 高カテゴリー灯火 (5) 航空障害灯		3.4		
4. 昼間障害標識	(1) 昼間障害標識とは (2) 種類 (3) 設置基準		0.3		
5. 運用基準	(1) 運用の方法(概要) (2) 運用停止のための調整 (3) ノータム事項の通報		0.3		
6. 飛行検査	航空灯火の検査		0.3		
7. 評価			0.7		

[illegible]

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
運航情報業務概論2	運情概2	学科	専門科目	航空情報科教官	6
教科書			使用教室	使用機材等	
航空六法 航空保安業務処理規程 第4 運航情報業務概論			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空法規、運航管理論、航空情報業務、飛行場の概要)					
受講の前提条件					
運航情報業務概論1 履修					
到達目標					
飛行場の管理責任及び基本施設について理解し説明することができる。 航空法の規定により受理した申請及び届出の取扱い基準を説明できる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 飛行場情報業務	(1) 飛行場の概要 (2) 飛行場管理 (3) 制限表面 (4) 制限区域安全管理 (5) 鳥獣対策 (6) 空港運用に係るトータルマネジメント業務			2.0	
2. 運航許可	(1) 航空交通管制用自動応答装置の 装備義務解除の許可 (2) 無線電話の装備義務解除の許可 (3) 場外離着陸場における離着陸の許可 (4) 最低安全高度以下の飛行の許可 (5) 航空交通管制圏等における制限速度を 超える速度での飛行の許可 (6) 物件投下の届出 (7) 航空機の試験をする飛行の許可 (8) 操縦練習飛行等の許可 (9) 飛行に影響を及ぼす恐れのある行為の 許可及び通報 (10)飛行の禁止空域における飛行の許可			3.0	
3. 評価				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
公務員教養	公務教養	学科	専門科目	有識者・幹部等 総務課・教務課 航空情報科教官	11.8
教科書			使用教室		使用機材等
なし			合同教室 自教室等		☑校務情報システム
位置づけ					
校外研修、団体活動、団体生活等多角的な研修を実施し、航空保安業務に携わる国家公務員としての人間形成の涵養を図る。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 公務員の使命と教養	(1) 新規採用対象講話 (2) 諸制度		5.0	事務局 3時限 1時限×2	
2. 校長訓話	(1) 校長訓話(30分×1回)		0.3		
3. 特別講義			1.0	1時限	
4. 校外研修	(1) 現場学習		4.3	4.3時限×1	
5. コンプライアンス	(1)コンプライアンスミーティング(30分×4回)		1.2		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
科目演習(学科)	科目演習	学科	専門科目	航空情報科教官	1
教科書			使用教室	使用機材等	
なし			自教室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
補講及び自主的な研修等により学科の研修効果を高める。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
授業項目	要点			時限	備考
1. 補講・自主研修等	(1) 補講 (2) その他			1.0	各教官の調整によりシラバスを決定する。

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
データ通信操作演習1	デ通信1	実技	運航情報実習	航空情報科教官	6
教科書			使用教室	使用機材等	
なし			第2統合実習室 等	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空管制運航情報業務用機器の操作)					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
正確度98%以上、20単語／分(英数字入力)の速度で1000文字程度の業務用英語を入力することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 基本操作説明	(1) 指の分担及びガイドキー (2) 正しい姿勢 (3) キーの打ち方及びリズム (4) タッチタイピング		1.0		
2. 操作訓練	タイピングソフトによる訓練		4.0		
3. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
運航援助演習	運航演	実技	運航情報実習	航空情報科教官	55
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4 第4の2 航空保安業務処理規程 第2、2の2、2の3 航空六法 区分航空図 ENRC、AIM-J			運航援助情報実習室	☑校務情報システム 訓練用運航情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空管制運航情報業務に用いられる専門用語)					
受講の前提条件					
飛行計画論、運航監視論、航空気象通報式1、データ通信操作演習1 履修					
到達目標					
座学研修で習得した理論を基に、実務に即した運航援助情報業務の処理を行うことができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 運航情報 基本操作	(1) 端末の基本操作 (2) 中継機能 ア. 通報発信 イ. 送受信情報抽出 (3) ATS機能 ア. FPL イ. 運航監視 ウ. 運航計画・事業計画 エ. 固定データ参照 (4) AIS機能 ア. ノータム抽出 イ. CNS/ATM-DB照会 ウ. 雪氷状況調査入力 (5) 気象機能 (6) PKG機能 (7) グラフィック機能		8.0		
2. 飛行計画	(1) 受付方法(対面、電話) (2) 飛行計画の受理・審査 ア. 通常の飛行 イ. 船舶を離着陸する飛行 ウ. 訓練空域を使用する飛行 エ. 特殊運航 オ. 編隊飛行 カ. パッセンジャーストップの飛行 キ. スループラン ク. 航空運送事業によるVFRの飛行 ケ. 運航中飛行方式を変更する飛行 コ. IFRによる飛行 サ. 滑空機の飛行 (3) 飛行計画の入力・送付 (4) 関係者への伝達		30.0		

運航援助演習

授業項目	要点	時限	備考
3. ATS通報の送 解読	(1) FPL MSG (2) DEP MSG (3) DLA MSG (4) ARR MSG (5) CHG MSG (6) CNL MSG		
4. 運航監視	(1) 通常運航の監視 (2) 異常運航の監視		
5. 記録	(1) 運航記録原簿の抽出・解読		
6. 搜索救難	(1) 情報の収集・伝達 (2) ALR MSGの発信 (3) 情報の整理 (4) ELT・未確認情報入手時の対応	6.0	
7. イレギュラー 運航等	(1) 情報の収集 (2) 関係機関への伝達 (3) 上局への報告 (4) 情報の整理	4.0	
8. ブリーフィング	ブリーフィングの実施方法	1.0	
9. ATIS(放送業務)	(1) 情報の準備 (2) 情報提供要領 (3) 送信演習(口頭読み上げ) (4) ATISの作成手順及び送信手順 (5) 機器障害時の対応	2.0	
10. 評価		4.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空情報演習	情報演	実技	運航情報実習	航空情報科教官	18
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4 第4の2 AIP-JAPAN			第2統合実習室等 運航援助情報実習室	☑校務情報システム 訓練用運航情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(運航援助情報業務の実技、航空管制運航情報業務に用いられる専門用語)					
受講の前提条件					
航空情報業務論、航空情報運用論 履修					
到達目標					
AISマニュアル等、航空情報業務で使用する文書を利用し、航空情報の解読、整理、提供ができる。また、同文書を利用し、簡単なノートム、航空路誌改訂版、補足版の発行依頼手続及び発行処理ができる。					
作業項目	要点			時限	備考
1. 航空情報の提供	(1) 航空路誌の (2) 航空路誌改 (3) 航空路誌補 (4) 航空情報 (5) ノータムの (6) 航空情報の			11.0	
2. 航空情報の作成	(1) 基本的な			2.0	
3. 航空情報の発行	(1) 航空情報の (2) 航空路誌等 (3) 通常時の (4) 緊急時の			4.0	
4. 評価				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
科目演習(実技)	科目演習	実技	運航情報実習	航空情報科教官	11.1
教科書			使用教室	使用機材等	
なし			自教室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
補講及び自主的な研修等により実技の研修効果を高める。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 補講・ 自主研修等	(1) 実習室利用による演習 (2) IT教育システムの活用による演習 (3) 補講 (4) その他		8.1	1時限×6 0.3時限×7	
2. 指定科目 基礎実務演習	(1) 飛行場情報業務基礎実務演習(運情概2)		1.8	0.3時限×6	
	(2) 運航許可事務基礎実務演習(運情概2)		1.2	0.3時限×4	

IV. 研修内容

4. 航空管制運航情報職員基礎研修（第13回 後期）

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
英語2 ENGLISH 2	英語2	学科	外国語科目	特任教官	30
教科書			使用教室	使用機材等	
なし			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(英語)					
受講の前提条件					
運航情報職員基礎研修前期課程 履修(特に英語1)					
到達目標					
業務を実施するための、簡単な英会話ができる。 Practice basic English conversation to conduct aeronautical services properly.					
授業項目	要点			時限	備考
1. 中級英会話 Intermediate Englishclass for speaking and listening	(1)理解力、対応力の向上 外国人講師による中級程度のスピーキング を中心とした実践的コミュニケーション演習。 初対面の人との挨拶、電話の聞き取り、数字 の聞き取りなど。 (2)発音、流暢さの向上 外国人講師の発音と会話速度に慣れる。 各自の発音とイントネーションの修正。 (3)文章構成力、理解力および対応力の向上 簡単な文型を用いて事象、自己を表現する 能力を養成。 ペア、グループでのロールプレイ練習。			29.0	レベル4
2. 評 価 EVALUATION				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
英語3	英語3	学科	外国語科目	航空情報科教官	24
教科書			使用教室	使用機材等	
BASIC ENGLISH AVIATION ENGLISH			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(英語)					
受講の前提条件					
運航情報職員基礎研修前期課程 履修(特に英語1)					
到達目標					
航空分野の英語を題材に航空分野における表現力・会話力の向上を目指す。 To improve students' abilities to express and speak about challenging topics.					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空英語 Aviation English	(1)知識、専門語彙 平易な英語で書かれた航空分野の英語の教材を使い音読練習を行う。何度も読み内容を覚えてしまう位に練習する。 (2)表現力、理解力 教科書を見ずに思い出しながら再生する練習を行う。覚えている内容から自分で航空分野の話題を作文する。このような練習を通じて、航空分野に関する表現力の向上を目指す。 (3)リスニング 航空分野の話題を自然なリズムに慣れることで英語を聞くときのコツを習得する。 (4)ディスカッション、説明力 航空分野の話題について議論することを通じて、日常的な会話以外の会話に慣れる。航空用語では表現できない緊急事態において一般英語を用いて適切な意思疎通及び対応を習得する。		23.0	レベル4	
2. 評価 Evaluation			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空気象学2	気象学2	学科	専門科目	特任教官	6
教科書			使用教室	使用機材等	
世界で一番わかりやすい航空気象			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空気象)					
受講の前提条件					
運航情報職員基礎研修前期課程 履修(特に航空気象学1)					
到達目標					
航空管制運航情報業務に必要な航空気象の基礎理論を理解させる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空気象	(1) 大気の構造及び安定度		3.0	(1)～(5)	
	(2) 視程障害現象				
	(3) 着氷				
	(4) 乱気流				
	(5) 雷雨		2.0	(6)～(8)	
	(6) 天気図				
	(7) 気団と前線				
	(8) 高気圧、低気圧、台風				
2. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空航法2	航法2	学科	専門科目	特任教官	12
教科書			使用教室	使用機材等	
百万分の一航空路図			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空航法)					
受講の前提条件					
運航情報職員基礎研修前期課程 履修(特に航空航法1)					
到達目標					
航空管制運航情報業務の遂行に必要とされる航空航法の基礎知識を習得させる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 基礎知識	(1) 航空航法の概要 (2) 航空航法に関する用語 (3) 航空図 (4) 航法用基本計器			1.5	
2. 航法計算盤と作図法	(1) 基本航法 (2) フライトプラン作成に係る知識 (3) 最近の航法 (4) GPS利用による航法			9.5	
3. 評価				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空機概論2	航空機2	学科	専門科目	特任教官	6
教科書			使用教室	使用機材等	
なし			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空機概論)					
受講の前提条件					
運航情報職員基礎研修前期課程 履修(特に航空機概論1)					
到達目標					
航空管制運航情報業務の遂行に必要とされる航空機の基礎知識を習得させる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空機全般	(1) 航空機の分類と種類 (2) 革新的航空技術		0.5		
2. 飛行の原理	(1) 飛行機に働く力 (2) 飛行機の運動 (3) 飛行機の安定性		0.5		
3. 航空機の設計と構造	(1) 航空機の設計 (2) 航空機の構造		1.0		
4. システム	(1) 操縦システム (2) 通信システム (3) その他システム全般 (4) 航空計器		2.0		
5. エンジンと動力装置			0.5		
6. 飛行機の運航	(1) 高度／速度／大気 (2) 離陸から着陸まで		0.5		
7. 飛行機の整備			0.5		
8. 評 価			0.5		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
ヒューマンファクター	HF	学科	専門科目	特任教官	9
教科書			使用教室	使用機材等	
ヒューマンエラーの科学			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
安全意識の向上とその手法の習得を図る。					
受講の前提条件					
運航情報職員基礎研修前期課程 履修					
到達目標					
ヒューマンファクターに関する基礎概念を把握させるとともに、日常の航空保安業務における安全意識の向上及びその実践方法を理解させる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. ヒューマンファクターとは何か	(1) 定義 (2) 航空におけるヒューマンファクター (3) 事故要因としてのヒューマンファクター		1.0		
2. 人間の強さと弱さ	(1) 人間(脳)の特性 (2) 能力と限界 (3) 能力阻害要因 (4) 行動パターン		1.0		
3. ヒューマンエラー	(1) 人間のエラーの定義 (2) 分類 (3) エラー誘発要因 (4) 組織エラー		2.0		
4. コンピュータと人間	(1) コンピュータの長所と短所 (2) 人間の長所と短所 (3) 自動化システムにおけるコンピュータと人間の役割分担(ヒューマンセンタースステムの必要性) (4) HMI		1.0		
5. ヒューマンエラー	(1) 分析モデルと分析手法 (2) 分析実習		2.0		
6. 安全への取り組み	(1) 安全情報の活用 (2) ハインリッヒの法則 (3) 危険因子の検出と予防安全 (4) 安全文化		1.0		
7. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
運航監督概論	監督論	学科	専門科目	航空情報科教官	10
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4 航空六法			LL教室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(運航管理論、航空情報業務)					
受講の前提条件					
運航情報職員基礎研修前期課程 履修					
到達目標					
航空運送事業者等と航空局との関わりを理解し、事業許可及び運航規程について説明できる。 航空局が実施する立入検査についての概要が説明できる。 発着調整の方法を理解し説明することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 航空運送事業等	(1) 航空運送事業及び航空機使用事業 (2) 事業許可 (3) 運航規程等 (4) 運航管理施設等の検査			5.0	
2. 立入検査	(1) 安全監査立入検査 (2) ランプインスペクション			1.0	
3. 発着調整	(1) 発着調整の方法 (2) 臨時便に関する処理 (3) 運航状況の把握及び監視			2.0	
4. 評価				2.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
許認可論	許可論	学科	専門科目	航空情報科教官	16
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4 航空六法			LL教室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空法規・運航管理論・航空情報業務)					
受講の前提条件					
運航情報職員基礎研修前期課程 履修(特に運航情報業務概論2、国内航空法規1) 国内航空法規2 履修(岩沼研修センター)					
到達目標					
航空法の規定により受理した申請及び届出の取扱い基準を説明できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 概要	(1) 許認可の種類 (2) 職権の委任 (3) 自衛隊の使用する航空機に係る適用の特例及び適用除外 (4) 地位協定の実施に伴う航空法の特例		2.0		
2. 各種許可及び受理	(1) 航空交通管制用自動応答装置の装備義務解除の許可 (2) 無線電話の装備義務解除の許可 (3) 場外離着陸場における離着陸の許可 (4) 最低安全高度以下の飛行の許可 (5) 航空交通管制圏等における制限速度を超える速度での飛行の許可 (6) 物件投下の届出 (7) 航空機の試験をする飛行の許可 (8) 操縦練習飛行等の許可 (9) 飛行に影響を及ぼす恐れのある行為の許可及び通報 (10)飛行の禁止空域における飛行の許可		12.0		
3. 評価			2.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
危機管理論2	危機論2	学科	専門科目	航空情報科教官	8
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第2、2の2、2の3 航空六法			LL教室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(運航管理論・航空情報業務・捜索救難論) 航空交通管制通信職員基礎試験科目。(航空情報業務)					
受講の前提条件					
運航情報職員基礎研修前期課程 履修(特に運航監視論、危機管理論1)					
到達目標					
危機管理に関する第一報を受けた際の情報収集及び取扱い方法について説明できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 捜索救難業務	(1)捜索救難業務の概要 (2)到着遅れ (3)ELT (4)未確認情報		5.0		
2. イレギュラー運航	(1)イレギュラー運航報告書の作成		1.0		
3. 危機管理処理要領	(1)危機管理事案及び報告先		1.0		
4. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空通信業務論2	通信論2	学科	専門科目	航空情報科教官	6
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4 航空保安業務の概要			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空通信規則)					
受講の前提条件					
運航情報職員基礎研修前期課程 履修(特に航空通信業務論1)					
到達目標					
対空援助業務および航空交通管理情報業務に必要な仕組み並びに情報の種類・管理等に関する基礎知識について理解し、説明することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 航空通信	(1) 航空固定通信手続き			1.0	
2. 統合管制情報 処理システム	(1) システムの役割 (2) FACEの役割 (3) ATS,WX,AISデータベース管理 (4) FO管理の役割 (5) 関係システム (システム概要、インターフェイス)			4.0	
3. 評 価				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
対空援助論2	対空論2	学科	専門科目	航空情報科教官	8
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4			自教室または 第一飛行場管制実習室	☑校務情報システム 飛行場対空援助シミュレータ	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空通信規則、航空路通信組織)					
受講の前提条件					
基礎研修中期課程の履修					
到達目標					
飛行場対空援助演習において提供する情報の種類・根拠を理解し、演習で取り扱う飛行の種類に適合した用語・機器について、説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 対空援助業務	(1) 飛行場対空援助業務について、航空保安業務処理規程で規定されている基本事項 ・提供する情報 ・情報提供要領 ・ATS通報の取扱 ・進入及び出発の方法に係る要求の処理 ・飛行場灯火運用方法 ・APDUの運用 ・FLIGHT INFORMATION SHEETの記入要領 ・TRAFFIC INFORMATION LOG (2) 他飛行場対空援助業務について、航空保安業務処理規程で規定されている基本事項 ・提供する情報 ・情報提供要領 ・ATS通報の取扱		5.0		
2. 交信例	(1) 実習装置を使用し航空機への飛行開始から終了までの交信例の解説 (2) 実習装置を使用し航空機への情報提供例の解説 (3) 実習装置を使用し航空機の動静把握		2.0		
3. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
業務用英語	業英	学科	専門科目	航空情報科教官	24
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4 航空保安業務処理規程 第5			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(英語)					
受講の前提条件					
運航情報職員基礎研修前期課程 履修(特に国際航空法規1) 国際航空法規2、対空援助論、計器進入方式 履修(岩沼研修センター) 英語2、英語3 履修					
到達目標					
運航情報業務の遂行に必要な英語の単語、用語、読解及び作文の能力を高める。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 単語、専門用語	(1)運航情報業務の遂行に必要な単語、 専門用語			4.0	レベル4
2. 英文解釈	(1) ICAO文書の読解 (2) 航空路誌の読解			6.0	
3. 英会話	(1) 運航情報業務において航空用語による 業務処理 (2) 対空援助業務の緊急事態等において 航空用語を用いての業務処理			13.0	
4. 評 価				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
飛行場管制論	飛管論	学科	専門科目	航空管制科教官	10
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第5 航空六法 AIM-J			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空管制概論)					
受講の前提条件					
運航情報職員基礎研修前期課程 履修 航空管制入門 履修(岩沼研修センター)					
到達目標					
飛行場管制業務で使用する基本規程、用語を習得し、運航情報業務に活用できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
I. 総 則 1. 目的及び適用 2. 定 義 3. 通 則 4. 気象情報 5. 電話通信	(1) 目 的 (2) 適 用 飛行場管制業務に係る事項 (1) 業務量 (2) 業務の優先順位 (3) 航空機の取扱順位 (4) 管制承認及び管制許可の発出 (5) 管制用語 (6) 管制機関等との連絡 (7) 編隊飛行 (8) 飛行検査 (9) 迅速な行動を必要とする場合 (1) 気象情報の提供 (2) RVR値の通報 (1) 試験電波の発射 (2) 通信の類別 (3) 通信の優先順位 (4) 文字の通話表 (5) 数の送信 (6) 数等の確認 (7) 無線呼出符号 (8) 管制席等の名称 (9) 航空機型式 (10) 送信要領 (11) 通信の設定 (12) 試験通信 (13) 通信の移管 (14) 通信の内容 (15) 聴守の中断 (16) 通信の中継		3.0		

飛行場管制論

授業項目	要点	時限	備考
Ⅱ. 飛行場管制方式		3.5	
1. 通 則	(1) 適 用 (2) 走行地域における指示 (3) 滑走路の使用 (4) 閉鎖滑走路における離着陸 (5) ローアプローチ及びタッチアンドゴー (6) 滑走路の選定		
2. 管制許可	(1) 離陸許可 (2) 着陸許可 (3) 復行の指示 (4) 離着陸許可発出時期 (5) 計器気象状態の場合の措置 (6) インターセクション・デパーチャー (7) 管制圏通過の許可		
3. 管制間隔	(1) 適 用 (2) 同一滑走路における間隔 (3) 交差滑走路における間隔 (4) ヘリコプターの間隔 (5) 間隔の短縮 (6) インターセクション・デパーチャーの間隔		
4. 地上滑走 及び出発	(1) 地上走行に関する指示 (2) 航空機の位置の確認 (3) 出発遅延に関する情報 (4) 出発機に対する情報及び指示 (5) 気象情報の通報 (6) 管制承認の伝達 (7) 離陸準備完了の通報 (8) 使用周波数 (9) 滑走路上的における待機 (10) 滑走路手前における待機 (11) 間隔設定 (12) 離陸許可の取消し (13) 離陸時刻の通報		
5. 到着機	(1) 到着機に対する情報及び指示 (2) 位置通報の要求 (3) 間隔設定 (4) 飛行の制限 (5) VFR機の空中待機 (6) 脚の点検 (7) 着陸後の指示 (8) 360度直上進入		
6. 可視信号	(1) 適 用 (2) 注意信号 (3) 航空機からの応答		
7. 情報の提供	(1) 交通情報 (2) 飛行場の状態に関する情報 (3) 航空機の異常状態に関する情報		
8. 飛行場灯火	(1) 通 則 (2) 細 則		
Ⅲ. 後方乱気流関連 管制方式		1.0	
1. 通 則	(1) 適 用 (2) 航空機の後方乱気流区分 (3) タッチアンドゴーまたはローアプローチ (4) 離陸時及び地上滑走時の取扱い方法		
2. 情報提供	(1) 適 用		

飛行場管制論

授業項目	要点	時限	備考
IV. 緊急方式		1.5	
1. 通 則	(1) 適 用 (2) 情報の収集		
2. 緊急業務	(1) 措置基準 (2) 他の航空機に対する通報 (3) 消火救難機関に対する通報		
3. 管制方式	(1) 優先的取扱 (2) 患者輸送機等 (3) ミニマムフューエルを通報した航空機		
V. 評 価		1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
進入管制論	進管論	学科	専門科目	航空管制科教官	10
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第5			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空管制概論)					
受講の前提条件					
運航情報職員基礎研修前期課程 履修 航空管制入門 履修(岩沼研修センター)					
到達目標					
進入管制業務で使用する基本規程、用語を習得し、運航情報業務に活用できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
I. 総 則 1. 目的及び適用	(1) 目 的 (2) 適 用		2.0		
2. 定 義	定義のうち、進入管制業務に係る事項				
3. 通 則	(1) 業務移管 (2) ATIS機関への通報 (3) 航空機に対する情報の提供 (4) ATISの中断又は終了				
II. 計器飛行管制方式			5.0		
1. 管制承認等	(1) SID又はトランジションの指示 (2) 法第94条ただし書の許可				
2. 管制間隔	(1) 出発機間の初期間隔 (2) 到着機と出発機との間隔 (3) 目視間隔				
3. 特別有視界 飛行方式	(1) 適 用 (2) 管制間隔				
4. 出発機	(1) 出発制限の方法				
5. 待機機	(1) 待機指示 (2) 待機不要の場合の措置 (3) 目視地点における待機 (4) 待機経路からの逸脱				
6. 到着機	(1) 到着情報 (2) 進入フィックスへの承認 (3) 到着機に対する情報等 (4) 気象情報の通報 (5) 進入を継続するための最低気象条件 未満の場合の措置 (6) 進入許可 (7) 周回進入 (8) 目視進入 (9) 時差進入 (10) 模擬計器進入				

進入管制論

授業項目	要点	時限	備考
7. 特別管制空域	(1) 法第94条の2第1項ただし書の許可		
Ⅲ. 後方乱気流関連 管制方式			
1. レーダーを 用いない場合	(1) 到着機間の間隔 (2) 隣接空港の航空交通に対する管制間隔 (3) 時差進入の間隔	1.0	
Ⅳ. 緊急方式		1.0	
1. 緊急業務	(1) 他の航空機に対する通報		
2. 管制方式	(1) 優先的取扱 (2) 交通制限 (3) 交通制限の解除 (4) 一方送信 (5) ミニマムフューエルを通報した航空機		
Ⅴ. 評 価		1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空路管制論	航管論	学科	専門科目	航空管制科教官	10
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第5			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空管制概論)					
受講の前提条件					
運航情報職員基礎研修前期課程 履修 航空管制入門 履修(岩沼研修センター)					
到達目標					
航空路管制業務で使用する基本規程、用語を習得し、運航情報業務に活用できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
I. 細 則 1. 目的および適用	(1) 目 的 (2) 適 用		0.5		
2. 定 義	定義のうち、航空路管制業務に係る事項				
II. 計器飛行管制方式 1. 管制承認等	(1) 管制承認 (2) 管制承認および一般情報の中継 (3) 管制承認限界点 (4) SID及びトランジションの指示 (5) 飛行経路の承認 (6) 高度の承認、指定、制限 (7) 管制承認の変更 (8) 高度変更が承認できない場合の措置 (9) 高度の確認 (10) 有視界気象状態を維持して行なう飛行 (11) 法第94条ただし書の許可 (12) 制限区域		6.0		
2. 管制間隔	(1) 適 用 (2) 垂直間隔 (3) 縦間隔 (4) 横間隔				
3. 出発機	(1) 出発に係る指示 (2) 出発制限の方法 (3) 連絡調整 (4) 複合飛行方式				
4. 巡航機	(1) 移管情報 (2) 変更情報 (3) 連絡調整 (4) 位置通報				
5. 待機機	(1) 待機指示 (2) 待機不要の場合の措置 (3) 待機フィックス以遠への管制承認 (4) 30分以上の遅延				

航空路管制論

授業項目	要点	時限	備考
6. 到着機	(1) 到着情報 (2) 通信の移管	1.5	
7. 特別管制空域	(1) 法第94条の2第1項ただし書の許可		
8. 洋上管制	(1) 適用 (2) 垂直間隔 (3) 縦間隔 (4) 横間隔 (5) PACOTS、RNP10		
Ⅲ. 緊急方式			
1. 通 則	(1) 適用 (2) 情報の収集		
2. 緊急業務	(1) 措置基準 (2) 通報内容 (3) 作 図 (4) 他の航空機に対する通報		
3. 管制方式	(1) 優先的取扱 (2) 交通制限 (3) 一方送信 (4) 搜索救難機 (5) 患者輸送機 (6) その他		
Ⅳ. その他			
1. 通 則	(1) 業務移管 (2) 業務に使用する時間 (3) 許可又は不許可に係る用語 (4) 無線施設の異常報告受領時の措置		
2. 気象情報	(1) 悪気象空域の回避 (2) 気象情報の要求		
3. 高度計規正值	(1) 高度計規正值の入手 (2) 観測地点名の通報 (3) 規正值の提供	1.0	
4. 特殊飛行	(1) ALTRV		
Ⅴ. 評 価			

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
レーダー管制論	レ管論	学科	専門科目	航空管制科教官	10
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第5			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空管制概論)					
受講の前提条件					
運航情報職員基礎研修前期課程 履修 航空管制入門 履修(岩沼研修センター)					
到達目標					
航空交通業務に必要なレーダー管制で使用する基本規程、用語を習得し、運航情報業務に活用できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
I. レーダー概論 1. レーダーの基礎	(1) レーダーの原理及び沿革 (2) レーダーの基本回路 (3) レーダー付属回路及び機器		3.0		
2. レーダー運用上の特性及び限界	(1) レーダー運用特性 (2) レーダー運用上の限界				
3. 航空管制用レーダー機器	(1) 空港搜索レーダー(ASR) (2) 精測進入レーダー(PAR) (3) 空港面探知レーダー(ASDE) (4) 航空路監視レーダー(ARSR/ORSR) (5) 二次搜索レーダー(SSR) (6) レーダー情報処理システム(ARTS及びRDP) (7) 空港用航空機位置表示装置(APDU)				
II. レーダー管制方式 1. 総 則	(1) 目的及び適用 (2) 定 義 定義のうち、レーダー管制業務に係る事項		6.0		
2. レーダー識別	(1) レーダー識別の方法及び維持 (2) レーダー識別に係る通報 (3) レーダー業務の終了の通報等				
3. レーダー誘導及びレーダー移送	(1) 最低誘導高度 (2) レーダー誘導の範囲、方法及び終了等 (3) レーダー移送及び継受の方法等				
4. 管制間隔	(1) ターゲットの間隔側点等 (2) レーダー間隔その他				

レーダー管制論

授業項目	要点	時限	備考
5. 出発機、到着機及	(1) 出発機 (2) 到着機と速度調整	1.0	
6. レーダー進入	(1) 搜索レーダー進入 (2) 精測レーダー進入(GCA)		
7. 補足業務	(1) レーダー交通情報等		
Ⅲ. 評 価			

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空交通管理論	ATM論	学科	専門科目	航空管制科教官	3
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第5 ENRC1－2、3			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空管制概論)					
受講の前提条件					
運航情報職員基礎研修前期課程 履修 航空管制入門 履修(岩沼研修センター)					
到達目標					
航空交通管理に使用する基本規程、用語を習得し、運航情報業務に活用できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
I. 総 則	(1) 目的及び適用 (2) 定義 (航空交通管理にかかる事項) (3) 関係機関との調整等		0.5		
II. 容量管理	(1) 管制処理容量 (2) 適正交通容量値		0.5		
III. 航空交通流管理	(1) 飛行計画経路の管理及び調整 (2) 管制承認及び管制指示 (3) 交通流制御		1.0		
IV. 空域管理	(1) PACOTSの設定 (2) 民間訓練試験空域管理方式 (3) 国の航空機による空域使用調整 (4) フライトレベル290以上の空域における 飛行に関する調整		0.5		
V. 評 価			0.5		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空無線施設概論2	航無概2	学科	専門科目	航空電子科教官	9
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務の概要 AIM-J			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(航空保安施設の概要) 航空保安業務に関連する無線関係施設、航空交通管制情報処理システム及び航空衛星システムの基礎を学習する。					
受講の前提条件					
運航情報職員基礎研修前期課程 履修(特に航空無線施設概論1)					
到達目標					
航空保安業務に関連する無線関係施設、航空交通管制情報処理システム及び航空衛星システムの構成、機能、動作概要等を習得し、基本的な略語及び用語を使用することが出来る。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 航空通信施設	(1) 航空通信施設の構成、機能			1.5	
2. VOR/DME (VORTAC)	(1) 構成、機能 (2) 動作概要			1.0	
3. ILS	(1) 構成、機能 (2) 動作概要 (3) ILS精密進入方式(CAT-I～Ⅲ) (4) 航空灯火等付帯設備			2.0	
4. レーダー	(1) 構成、機能 (2) 動作概要 (3) マルチラレーションの構成、機能			2.0	
5. 情報処理 システム	(1) 管制情報処理システムの構成、機能 (2) 航空交通情報システムの構成、機能			1.5	
6. 航空衛星 システム	(1) 航空衛星システムの構成、機能			0.5	
7. 評価				0.5	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
公務員教養	公務教養	学科	専門科目	有識者・幹部等 総務課・教務課 航空情報科教官	12.7
教科書			使用教室		使用機材等
なし			合同教室 自教室等		☑校務情報システム
位置づけ					
校外研修を実施し、実務体験をすることによって業務の理解を深める。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
授業項目	要点			時限	備考
1. 校外研修	(1) 現場学習			8.6	4.3時限×2
2. 校長訓話	(1) 校長訓話(30分×2回)			0.6	
3. 特別講義				1.0	
4. 消火防災訓練	(1) 消火防災訓練			1.0	
5. コンプライアンス	(1)コンプライアンスミーティング(30分×5回)			1.5	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
科目演習(学科)	科目演習	学科	専門科目	航空情報科教官	2
教科書			使用教室	使用機材等	
なし			自教室等	☒ 校務情報システム	
位置づけ					
補講及び自主的な研修等により学科の研修効果を高める。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 補講・自主研修等	(1) IT教育システムの活用による演習 (2) 補講 (3) その他		2.0	各教官の調整によりシラバスを決定する。	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
データ通信操作演習2	デ通信2	実技	運航情報実習	航空情報科教官	6
教科書			使用教室	使用機材等	
なし			第2統合実習室 等	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(対空援助業務の実技) 演習に先立ち、キーボードを使ったデータ入力に関する基本操作を習得させる。					
受講の前提条件					
運航情報職員基礎研修前期課程 履修(特にデータ通信操作演習1)					
到達目標					
正確度98%以上、30単語／分(英数字入力)の速度で1500文字程度の業務用英語を入力することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 操作訓練	タイピングソフトによる訓練		5.0		
2. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
飛行場対空援助演習	飛対演	実技	運航情報実習	航空情報科教官	49
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4・第5			第1飛行場管制実習室	☑校務情報システム 飛行場対空援助シミュレータ	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(対空援助業務の実技、航空管制運航情報業務に用いられる専門用語)					
受講の前提条件					
運航情報職員基礎研修前期課程 履修 (特に運航情報業務概論1、飛行計画論、国内航空法規1、国際航空法規1) 国内航空法規2、国際航空法規2、対空援助論、計器進入方式 履修(岩沼研修センター)					
到達目標					
飛行場対空援助局において同時に存在する着陸・出発・通過のいずれか3機に対し、基本的な情報提供及び管制通報の中継を行える。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. RDO機器点検	試験電波 場内無線 飛行場灯火 LAND LINE		2.0		
2. RDO1機	(1) VFR OUT (2) VFR IN (3) VFR OVR (4) IFR IN (5) IFR OUT (6) IFR : CNL IFR (7) IFR OUT : CLIMB IN VMC (8) IFR IN : CTC APCH (9) IFR IN : MISSED APCH (10) VFR IN : SIMULATION APCH (11) VFR IN : OPTION APCH (12) SVFR		2.0 2.0 2.0 2.0 2.0 2.0 2.0 2.0 2.0 2.0 2.0 2.0		
3. RDO2機	(1) VFR IN + OUT (2) VFR OVR + VFR (3) IFR IN + VFR (4) IFR OUT + VFR (5) IFR IN + OUT or TGL (6) IFR IN + OUT or SVFR		2.0 2.0 2.0 2.0 3.0 3.0		
4. RDO3機	(1) IFR + VFR		4.0		
5. 評価	RDO1機 RDO3機		2.0 3.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
他飛行場援助演習	RAG演	実技	運航情報実習	内部教官	14
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4・第5			第1飛行場管制実習室	☑校務情報システム 飛行場対空援助シミュレータ	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(対空援助業務の実技、航空管制運航情報業務に用いられる専門用語)					
受講の前提条件					
運航情報職員基礎研修前期課程 履修 (特に運航情報業務概論1、飛行計画論、国内航空法規1、国際航空法規1) 国内航空法規2、国際航空法規2、対空援助論、計器進入方式 履修(岩沼研修センター) 飛行場対空援助演習履修					
到達目標					
他飛行場援助局(2サイト1卓)において同時に存在する着陸・出発・通過のいずれか3機に対し、基本的な情報提供及び管制通報の中継を行える。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. RAG1SITE	(1) IFR IN + VFR (2) IFR OUT + VFR		3.0 3.0		
2. RAG2SITE1PSN	(1) IFR OUT + IFR IN + VFR		3.0		
3. RAG全般	(1) 状況設定を自己構築して実施		3.0		
4. 評価	RAG2SITE 3機		2.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
広域対空援助演習	広域演	実技	運航情報実習	航空情報科教官	22
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程 第4 広域対空援助演習 AIM-J、ENRC 区分航空図			対空援助実習室	☑校務情報システム 訓練用広域・国際対空通信 卓 訓練用運航情報システム	
位置づけ					
航空管制運航情報職員基礎試験科目。(対空援助業務の実技、航空管制運航情報業務に用いられる専門用語)					
受講の前提条件					
運航情報職員基礎研修前期課程 履修 (国内航空法規1、国際航空法規1、運航援助演習) 国内航空法規2、国際航空法規2、対空援助論 履修(岩沼研修センター)					
到達目標					
広域対空援助局において、航空機からの位置通報、到着時刻の通報、民間訓練試験空域の使用に関する通報等を適切に処理し、関係機関へ送付することができる。 また、航空機からの要求に基づき、気象情報等を適切に提供することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 基本操作	(1)端末の運用			2.0	
	(2)通信卓の操作方法				
	(3)対空通信要領				
2. 交信要領	(1)VFR機からの位置報告			16.0	
	(2)VFR機からのPIREP、気象情報の提供				
	(3)ルートチェンジ、目的地変更				
	(4)到着、出発時刻				
	(5)訓練試験空域				
	(6)定期便、管制部からのPIREP				
3. 総合演習				2.0	
4. 評価				2.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
科目演習(実技)	科目演習	実技	運航情報実習	航空情報科教官	17
教科書			使用教室		使用機材等
なし			第1飛行場管制実習室 運航援助情報実習室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
補講及び自主的な研修等により実技の研修効果を高める。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 補講・自主研修等	(1) 実習室利用による演習 飛行場対空援助演習、スポット端末操作演習 その他 (2) IT教育システムの活用による演習 (3) 補講 (4) その他		17.0	各科教官の調整によりシラバスを決定する。	

IV. 研修内容

5. 航空電子科 1 学年（5 2 期）

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
心理学	心理学	学科	一般教養科目 合同授業	特任教官	18
教科書			使用教室	使用機材等	
図説教養心理学			合同教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
心理学の基礎概念を把握し、集団における人間とその認知・行動の過程を学習する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
心理学の知識を応用して、職場における良好な人間関係の構築手法を習得し、実践することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 性格	(1) 性格について学習する (2) 性格の検査法を学習する (3) 性格変化の要因を学習する		2.0		
2. 知覚	(1) 視覚の生理的メカニズム・色を学習する (2) 図と地、錯覚と恒常性を学習する		2.0		
3. 学習	(1) 条件づけを学習する (2) 効果の法則、フィードバックを学習する		2.0		
4. 記憶	(1) 短期記憶と長期記憶を学習する (2) 知識とその運用を学習する		2.0		
5. 対人認知	(1) 対人コミュニケーションの諸相を学習する (2) 対人認知の変容を学習する (3) 対人関係の発展と解消を学習する		2.0		
6. 集団	(1) 同調、集団凝集性を学習する (2) リーダーシップを学習する		1.0		
7. 注意と パフォーマンス	(1) 自動的処理と制御的処理を学習する (2) 熟達化を学習する		1.0		
8. 精神的健康	(1) ストレス、コーピングを学習する (2) 幸福感を学習する		2.0		
9. 自己意識と動機 づけ	(1) 欲求の階層、自尊感情を学習する (2) エゴ・アイデンティティ(自我同一性)を学習する (3) 青年期の心理と発達を学習する		2.0		
10. 心理療法	(1) 認知行動療法、来談者中心療法を学習する (2) 内観療法、森田療法を学習する		1.0		
11. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
法学	法学	学科	一般教養科目 合同授業	特任教官	27
教科書			使用教室	使用機材等	
現代法学入門 行政法 民事法入門 デイリー六法			合同教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
一般教養として法について基本的な知識を付与し、併せて行政法の概要を学習する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
法および行政法についての基本的な知識を習得し、その概要について説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 法学について	法を考えるにあたっての実践的態度を養う。 (1) 社会と法と法学を学習する (2) 法とはについてを学習する (3) 法の発展と社会の発展を学習する (4) 法の解釈を学習する (5) 法の基本原理を学習する (6) 法と権利・義務を学習する (7) 法解釈上の諸問題を学習する		6.0		
2. 憲 法	憲法の基本原理を理解させる。 (1) 憲法の法源と解釈運用を学習する (2) 国民の権利と義務を学習する (3) 憲法と行政手続を学習する		2.0		
3. 民 法	(1) 民法総則 ア. 民法の地位及び基本原則を学習する イ. 権利主体を学習する ウ. 権利の客体を学習する エ. 法律行為を学習する オ. 時効を学習する (2) 物権 ア. 占有権を学習する イ. 所有権を学習する ウ. 担保物件を学習する (3) 債権 ア. 債権の効力を学習する イ. 契約を学習する ウ. 事務管理・不当利得を学習する エ. 不法行為を学習する		6.0		

法学

授業項目	要点	時限	備考
4. 行 政 法	行政法の基礎的概念及び基本原理を実証的素材に即して理解させ、公務員としての思考の指針を与える。 (1) 行政法の意義及び特質を学習する (2) 行政法の基礎規律を学習する (3) 行政立法を学習する (4) 行政行為を学習する (5) 行政強制を学習する (6) 行政指導を学習する (7) 国家補償、損害賠償を学習する (8) 行政組織・機関を学習する (9) 公務員について学習する	10.0	
5. 国 際 法	国際法の必要性、権利義務について概要を述べ、国際民間航空条約を概観する。 (1) 国際法の必要性、権利義務を学習する (2) 国際民間航空条約を学習する	2.0	
6. 評 価		1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
数学	数学	学科	一般教養科目	特任教官	30
教科書			使用教室	使用機材等	
科学技術者のための基礎数学 講師作成資料			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
無線従事者国家試験に必要な科目(認定科目)。 専門科目の履修に必要な数学の基礎知識を学習する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
専門科目の履修に必要な数学の基礎知識を習得し、説明並びに計算式を扱うことができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. ベクトル・行列	(1) ベクトルを学習する (2) 行列を学習する (3) 行列式を学習する (4) ベクトル解析を学習する		27.0	項目1. と2. の合計時限数	
2. 微分・積分	(1) 関数とグラフを学習する (2) 微分を学習する (3) 不定積分を学習する (4) 定積分とその応用を学習する (5) 偏微分を学習する (6) 二重積分を学習する (7) 複素変数の関数を学習する				
3. 評 価			3.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
物理学	物理学	学科	一般教養科目	特任教官	30
教科書			使用教室	使用機材等	
物理学基礎			自教室	□校務情報システム	
位置づけ					
無線従事者国家試験に必要な科目(認定科目)。 専門科目の履修に必要な物理学の基礎知識を学習する。ただし電磁気学を除く。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
物理学の基礎知識を習得する。特に、物理的思考法を養うことに重点を置き、日常経験する自然現象および科学技術を理論的に読み解く力を養い、説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 力と運動	(1) 物体の運動を学習する (2) 変位・速度・加速度を学習する ア. 直線上の運動 イ. 曲線上の運動 ウ. 等速円運動 (3) ベクトルを学習する ア. スカラー量とベクトル量 イ. 力の合成と分解 ウ. 位置・速度・加速度ベクトル (4) 運動の法則を学習する ア. 質量と力と加速度 イ. 作用と反作用 (5) 運動方程式の適用例を学習する ア. 万有引力、弾性力 イ. 摩擦力、慣性抵抗と粘性抵抗 ウ. 放物運動、雨滴の落下、二体問題 (6) 振動を学習する ア. 弾力による単振動 イ. 重力による単振り子 ウ. 減衰する振動、強制振動 (7) 仕事とエネルギーを学習する ア. 仕事と運動エネルギー イ. 保存力と非保存力 ウ. 位置エネルギー エ. エネルギー保存則 (8) 運動量と角運動量を学習する ア. 力積と運動量 イ. 力とモーメント ウ. 角運動量、回転運動の法則 (9) 剛体に働く力を学習する ア. 2力のつりあい、3力のつりあい イ. 剛体のつりあい、平行力の合成 ウ. 重心と重心の運動 (10) 固定軸をもつ剛体の運動を学習する ア. 剛体の回転運動 イ. 慣性モーメント (11) 鋼体の平面運動を学習する ア. 平面運動 イ. 剛体振り子		15.0		

物理学

授業項目	要点	時限	備考
2. 弾性と流体	(1) 弾性を学習する ア. 応力と外力、応力とひずみ イ. 弾性定数 (2) 静止した流体を学習する ア. 静水と静水圧 イ. パスカルの原理、アルキメデスの原理 (3) 運動する流体を学習する ア. 流線、流管、定常流 イ. 連続方程式、ベルヌーイの法則 ウ. 流体の粘性 エ. 流体中を動く物体がうける抵抗	6.0	
3. 分子運動と熱現	(1) 固体・気体の膨張を学習する (2) 黒体ふく射とプランクの法則を学習する (3) 気体の状態方程式を学習する (4) 分子の運動と熱現象を学習する ア. 分子と原子 イ. 気体分子モデルと自由度 ウ. 分子の運動と気圧・体積・温度の関係 (5) 気体の内部エネルギーを学習する (6) 物質の相と相変化を学習する (7) 熱の移動(熱伝導)を学習する (8) 熱力学の法則を学習する ア. 定圧変化、定積変化 イ. 等温変化、断熱変化 ウ. モル熱容量 (9) カルノーサイクルを学習する (10) エントロピーを学習する	6.0	
4. 現代物理学	(1) 特殊相対性理論を学習する (2) 質量とエネルギーの関係を学習する	1.0	
5. 評 価		2.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
社会教養	社会教養	学科	一般教養科目	特任教官	12
教科書			使用教室	使用機材等	
なし			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
専門科目を履修するに必要な基本事項を学習する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
社会人としての基本的なビジネスマナーを習得する。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 社会人教育	ビジネスマナー (1) 社会人としての心構え (2) 何がビジネスマナーなのか (3) なぜマナーが必要なのか		2.0		
	ロールプレイ (1) 敬語、挨拶 (2) 受命・報告・相談 (3) 話し方、聴き方 (4) 電話対応		9.0		
			1.0		
2. 評価					

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
英語RⅠ (初級英語読解) ENGLISHⅠ	英語RⅠ	学科	外国語科目	特任教官	30
教科書			使用教室	使用機材等	
●Styling Corporate Messages 世界で活躍する日本の企業 ●講師作成資料			自教室	□校務情報システム	
位置づけ					
語彙、長文読解の学習を通じて、基本的な英文読解力を培う。 Students will acquire basic English vocabulary to have basic reading ability.					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
英文法、語彙の習得、、長文読解の学習をし、基本的な英文読解が出来る。 Students are able to have their jobs regarding with English effectively without any language barrier.					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 英文読解 Reading	(1) 英文法を学習し演習する Learn and practice of basic English vocabulary (2) 英文読解及び語彙力について学習し演習する Learn and practice of English reading.		26.0		
2. 評価 Evaluation			4.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
英語G I (初級英語構文) ENGLISH I	英語G I	学科	外国語科目	特任教官	24
教科書			使用教室	使用機材等	
●English Grammar for Reading Comprehension ●ICAO抜粋資料			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
英文法および構文を理解し、基本的な英文読解力を培う。 Students will acquire basic English grammar ability.					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
文構造を理解して、英文を読解することが出来る。 Students are able to have regarding English with comprehension of the composition structure.					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 英文法 English grammar	(1) 英文法を学習し演習する。 Learn and practice of basic English grammar and structure of composition.		22.0		
2. 評 価 Evaluation			2.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
英 語 C I ENGLISH C I	英語C I	学科	外国語科目 2クラス	特任教官	27
教科書			使用教室	使用機材等	
TOP NOTCH People,Place and Things			LL教室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
国際コミュニケーションとして、基本英会話を学習する。 Students will learn basic English conversation for international communication.					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
英語による基本的なプレゼンテーション及び日常社会及び仕事での簡単な英会話ができる。 Students acquire simple conversation skills for daily social and work situations and basic presentation in English.					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 英会話 English conversation	(1) 発音、リズム、イントネーションを学習する Learn Pronunciation,Rhythm,Intonation (2) 基本的な英会話パターンを学習する Learn Basic pattern of English conversation (3) 応答演習をする Exercise of questions and answers (4) 日常生活及び仕事上での英会話の学習と演習をする Learn and exercise different situations in daily and working life. ア.電話の応対 Handling phone calls. イ.プレゼンテーション(基礎) Learn basic presentation skills.		25.0		
2. 評価 Evaluation			2.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
保健体育	体育	学科	保健体育科目	特任教官	27
教科書			使用教室	使用機材等	
			グラウンド 体育館 合同教室	☐ 校務情報システム ☒ 体育設備	
位置づけ					
運動についての科学的理解に基づき、合理的な練習によって運動技能を高め、体力の向上を図る。集団の中での役割を理解・実行するチームワーク力を涵養する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
なし。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 体育理論及び実技	(1) 生理、力学、心理から見た運動の特性を習得する。 1) 運動の生理 2) 運動の力学 3) 運動の心理 4) 生活と運動 5) 体育レクリエーション (2) 筋力、持久力、柔軟性等の運動能力を高め、心身の調和的な発達を図るとともに球技を通して公正な態度を養う。 1) 体操 ア. 徒手 イ. 床運動(マット使用) 2) 器械体操 ア. 鉄棒 イ. 跳び 3) 競技 ア. 持続走 イ. 高・幅 跳び 4) 球技(基礎・応用・チームプレー) ア. ソフトボール イ. バレーボール ウ. サッカー エ. バスケットボール オ. テニス カ. バドミントン キ. 卓球 ク. スポレック ケ. ピロポ コ. キンボール サ. アル シ. タグラ		24.0		
2. メンタルヘルス	ストレス等適切に対応できるような知識を習得 (1) メンタルヘルス (2) ストレスマネジメント		1.0		
3. 体育交流	「職種間連携強化推進」活動の一環として、職種・科を超えた交流		2.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
校務情報システム概論	校情概	学科	専門科目 一部合同教室	総務課 教務課 電子科教官	14
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料			LL教室等 自教室 合同教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
公務員として必要な情報セキュリティポリシーについて学習するとともに、航空保安大学校での研修期間中に使用する校務情報システムについての概要と操作方法について習得し、システムを使用した演習を実施する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
航空保安大学校における校務情報システムを利用することができる。また、文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを利用して報告書の作成や実験データの集計、プレゼンテーションが行える。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 校務情報システムの概要と操作	(1) 校務情報システムの概要を学習する ア. 校務情報システムの目的と種類			14.0	0.5時限 総務課
	(2) 情報セキュリティポリシーを学習する ア. 国土交通省情報セキュリティポリシー関係規則等				0.5時限 総務課
	(3) 校務情報システム操作概要を学習する ア. 統合システム実習室等の各種IT教育システムの操作				2時限 教務課
	(4) 校務情報システムを用いた演習を行う ア. PowerPoint演習 イ. WORD演習 ウ. EXCEL演習				11時限

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
応用数学	応用数学	学科	専門科目	特任教官	33
教科書			使用教室	使用機材等	
なっとくするフーリエ変換 なっとくする統計 科学技術者のための基礎数学 講師作成資料			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
無線従事者国家試験に必要な科目(認定科目)。 専門科目の履修に必要な応用数学の基礎知識を学習する。					
受講の前提条件					
数学を履修していること。					
到達目標					
フーリエ級数、ラプラス変換、統計理論の基礎知識を習得し、説明並びに計算式を扱うことができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. フーリエ級数・ラプラス変換	(1) フーリエ級数 ア. フーリエ級数・性質を学習する イ. 偏微分方程式とフーリエ級数を学習する (2) ラプラス変換 ア. ラプラス変換・性質を学習する イ. 逆変換を学習する ウ. 定数係数線形微分方程式を学習する (3) フーリエ変換 ア. フーリエ変換を学習する イ. ラプラスの逆変換を学習する		31.0	項目1. と2. の合計時限数	
2. 統計理論	(1) データ化を学習する (2) 数学からみたデータを学習する (3) 推定を学習する (4) 検定を学習する (5) 検定(分散分析)を学習する (6) 回帰分析を学習する (7) 表の引き方を学習する (8) 多変数解析を学習する (9) 統計的数値の読み方を学習する				
3. 評価			2.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
物理学Ⅱ	物理学Ⅱ	学科	専門科目	特任教官	6
教科書			使用教室	使用機材等	
物理学基礎			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
無線従事者国家試験に必要な科目(認定科目)。 専門科目の履修に必要な電波、波動に関する物理学の知識を学習する。ただし電磁気学を除く。					
受講の前提条件					
物理を履修していること。					
到達目標					
電波、波動に関する物理学を習得する。特に、無線工学に繋がる思考法を養うことに重点を置き、科学技術を理論的に読み解く力を養い、説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 波と光	(1) 波と波を表す式を学習する ア. 振幅、位相、速度 イ. 時間と位置の関数表現 (2) 波の例を学習する ア. 弦をつたわる横波 イ. 棒をつたわる縦波 (3) 波のエネルギーを学習する (4) 波の反射と屈折を学習する (5) 波の重ねあわせと干渉を学習する ア. 正弦波の干渉、定常波 イ. 波のうなり (6) 定在波を学習する (7) 音波を学習する ア. 音速、音圧 イ. ドップラー効果 (8) 固有振動数を学習する ア. 弦の固有振動数 イ. 気柱の共鳴 (9) 光の反射と屈折を学習する ア. 臨界角と全反射 イ. 分散、回折、干渉 (10) 光波の干渉を学習する (11) 光波の回折を学習する (12) 偏光を学習する		5.0		
2. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
電気回路学	電気回路	学科	専門科目	特任教官	45
教科書			使用教室	使用機材等	
専修学校教科書シリーズ 電気回路(1) 直流・交流回路編 電気回路(2) 回路網・過度現象編			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目(無線工学概論)。無線従事者国家試験に必要な科目(認定科目)。専門科目の理解に必要な電気工学の基礎知識を学習する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
専門科目の理解に必要な電気回路の知識を習得し、説明並びに計算式を扱うことができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 直流回路	(1) 電気回路とオームの法則を学習する (2) 抵抗の直列接続と並列接続を学習する (3) 直流回路の簡単な計算を学習する (4) 電気抵抗と抵抗の温度による変化を学習する (5) キルヒホッフの法則を学習する (6) 重ね合せの理を学習する (7) 鳳ーテブナンの定理を学習する (8) 電流の発熱作用と電力を学習する		5.0		
2. 交流回路の基礎	(1) 正弦波交流の性質を学習する (2) 正弦波交流の平均値と実効値を学習する (3) 交流をベクトル図で表す方法を学習する (4) 抵抗・インダクタンス・静電容量の作用を学習する (5) R、L、Cの直列回路を学習する (6) R、L、Cの並列回路を学習する (7) 交流の電力と電力ベクトル図を学習する		7.0		
3. 記号法による交流回路の計算	(1) 複素数を学習する (2) 複素数の計算を学習する (3) 交流回路の記号法表示を学習する (4) 複素数インピーダンスの直列回路・並列回路を学習する (5) 複素アドミタンスを学習する (6) 共振回路で起きる現象と計算を学習する (7) 交流ブリッジ回路を学習する (8) 記号法による電力の計算を学習する		7.5		
4. 相互誘導回路とベクトル軌跡	(1) 相互誘導回路を学習する (2) 相互インダ (3) ベクトル軌跡を学習する		2.0		

電気回路学

授業項目	要点	時限	備考
5. 交流回路計算の諸方法	(1) キルヒホッフの法則を学習する (2) 等価電源を学習する (3) 重ね合せの理を学習する (4) 鳳－テブナンの定理を学習する (5) ノートンの定理を学習する (6) ミルマンの定理を学習する (7) 補償の定理を学習する (8) 相反の定理を学習する (9) スターデルタ変換を学習する	3.0	
6. 三相交流回路	(1) 三相交流の発生と性質を学習する (2) 三相交流と三相結線を学習する (3) 三相電力と電力ベクトル図を学習する (4) 三相交流とV結線を学習する	2.0	
7. 2端子対回路網	(1) 2端子対回路網を学習する (2) 行列を学習する (3) 2端子対回路のパラメータを学習する (4) 等価回路を学習する (5) 抵抗減衰器を学習する (6) フィルタを学習する	5.0	
8. ひずみ波	(1) フーリエ級数を学習する (2) 特殊な性質を持つ波形のフーリエ級数を学習する (3) ひずみ波の平均値と実効値を学習する (4) ひずみ波電力を学習する (5) ひずみ波回路の計算を学習する (6) 伝送波形とスペクトルを学習する (7) 波形分析を学習する	5.0	
9. 過渡現象	(1) 過渡現象を学習する (2) 直流回路を学習する (3) パルス回路を学習する (4) 交流による過渡現象を学習する (5) ラプラス変換を学習する	4.0	
10. 分布定数回路	(1) 分布定数回路を学習する	1.0	
11. 評価		3.5	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
電気磁気学	電磁気	学科	専門科目	特任教官	45
教科書			使用教室	使用機材等	
専修学校教科書シリーズ 電磁気学			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目（無線工学概論）。無線従事者国家試験に必要な科目（認定科目）。専門科目の理解に必要な電気磁気学の基礎を学習する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
専門科目の理解に必要な電気磁気学の基礎知識を習得し、説明並びに計算式を扱うことができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 電流、電圧、抵抗	(1) 摩擦電気を学習する (2) 電荷とクーロンの法則を学習する (3) 導体、絶縁体、半導体を学習する (4) 電流、電圧、起電力を学習する (5) オームの法則を学習する (6) 抵抗の接続を学習する (7) 電気回路を学習する (8) 抵抗率と導電率を学習する (9) 抵抗率の温度変化を学習する (10) 電流の熱作用を学習する		7.5		
2. 静磁気	(1) 磁石を学習する (2) 磁気のクーロンの法則を学習する (3) 磁界と磁位を学習する (4) 磁気双極子を学習する (5) 磁化を学習する (6) 地磁気を学習する		6.0		
3. 電流と磁界	(1) 電流が作る磁界を学習する (2) アンペアの右ねじの法則を学習する (3) ビオ・サバールの法則を学習する (4) アンペアの周回路の法則を学習する (5) 電流に作用する磁界の力を学習する (6) 電動機の原理を学習する		7.0		
4. 強磁性体	(1) 磁性体の磁化を学習する (2) 強磁性体の磁化曲線を学習する (3) 磁化の強さと磁束密度を学習する (4) 磁気遮へいを学習する		6.0		
5. 電磁誘導	(1) 電磁誘導現象を学習する (2) 電磁誘導の法則を学習する (3) 磁性体の影響を学習する (4) 運動する導体の誘導起電力を学習する (5) 電力と仕事を学習する		4.0		

電気磁気学

授業項目	要点	時限	備考
6. インダクタンス	(1) 自己誘導作用を学習する (2) 相互誘導作用を学習する (3) インダクタンスの接続を学習する (4) 磁界に蓄えられるエネルギーを学習する (5) インダクタンスの接続を学習する (6) 変圧器の原理を学習する (7) 渦電流を学習する	4.0	
7. 静電気	(1) 静電気を学習する (2) 電界と電位を学習する	3.0	
8. 静電容量とコンデンサ	(1) 静電容量を学習する (2) コンデンサを学習する (3) 誘電率を学習する	2.0	
9. 電気分解と電池	(1) 電解質と電極を学習する (2) 電気分解を学習する (3) 電池を学習する (4) 拡散電位を学習する	2.0	
10. その他の電気現象	(1) 熱電効果を学習する (2) 電磁界と固体ひずみを学習する	2.0	
11. 評価		1.5	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
無線工学概論	無工概	学科	専門科目	電子科教官	22
教科書			使用教室		使用機材等
無線工学 航空無線通信士用 教官作成資料			自教室		☒ 校務情報システム
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目（無線工学概論）。無線従事者国家試験に必要な科目（認定科目）。無線工学の基礎理論を学習する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
無線工学の基礎科目を履修するために必要な基礎理論を理解している。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 電磁気学	電磁気（電気と磁気）の基礎を学習する			5.0	
2. 電気回路	電気回路の基礎を学習する			6.0	
3. 電子回路	電子回路の基礎を学習する			3.0	
4. 電源	電源の基礎を学習する			1.0	
5. 無線通信	無線通信の基礎を学習する			3.0	
6. 空中線及び電波伝搬	空中線及び電波伝搬の基礎を学習する			2.0	
7. 評価				2.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
半導体・電子管	半導体	学科	専門科目	電子科教官	16
教科書			使用教室	使用機材等	
専修学校教科書シリーズ3 電子回路(1)アナログ編 1・2陸技受験教室(1) 無線工学の基礎 教官作成資料			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目(無線工学概論)。無線従事者国家試験に必要な科目(認定科目)。アナログ電子回路およびデジタル電子回路を学ぶ上で必要な半導体デバイス等の基礎を学習する。					
受講の前提条件					
無線工学の基礎を履修していること。					
到達目標					
半導体の基礎、各電子デバイスの基本動作及び電子管の基本原理を理解し説明できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 半導体の基礎	(1) 半導体について学習する (2) 半導体の動作メカニズムを学習する (3) p型半導体および、n型半導体を学習する		5.0		
2. 電子デバイス	(1) PN接合ダイオードを学習する (2) 特殊ダイオードを学習する (3) トランジスタ (バイポーラトランジスタ)を学習する (4) 電界効果トランジスタ (ユニポーラトランジスタ)を学習する (5) その他の半導体を学習する		8.0		
3. 電子管	(1) 電子管の基本構造を学習する (2) マイクロ波用電子管を学習する		2.0		
4. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
アナログ電子回路	アナ電	学科	専門科目	電子科教官	36
教科書			使用教室	使用機材等	
1・2陸技受験教室(1) 無線工学の基礎 第2版 専修学校教科書シリーズ3 電子回路(1)アナログ編 教官作成資料			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目(無線工学概論)。無線従事者国家試験に必要な科目(認定科目)。専門科目の基礎となる、アナログ電子回路の基礎を学習する。					
受講の前提条件					
無線工学概論、半導体・電子管を履修していること。					
到達目標					
増幅、発振、電源、オペアンプ等の基本回路の動作原理を説明でき、回路のパラメータを算出することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 基本増幅回路	(1)トランジスタ基本増幅回路(バイポーラ)を学習する (2)トランジスタ基本増幅回路(FET)を学習する		5.0		
2. 増幅回路	(1)小信号増幅回路を学習する (2)負帰還増幅回路を学習する (3)電力増幅回路を学習する (4)直流増幅回路を学習する		16.0		
3. アナログIC	(1)オペアンプの基本原理を学習する (2)反転増幅回路を学習する (3)非反転増幅器を学習する (4)加算器・減算器を学習する (5)微分器・積分器を学習する		4.0		
4. 電源回路	(1)整流回路を学習する (2)平滑回路を学習する (3)倍電圧整流回路を学習する (4)定電圧回路を学習する		1.5		
5. 特殊回路	(1)微分・積分回路を学習する (2)クリップ回路を学習する		0.5		
6. 発振回路	(1)発振の原理を学習する (2)発振回路の発振条件を学習する (3)LC発振回路を学習する (4)RC発振回路を学習する (5)水晶発振回路を学習する		6.0		
7. 評価	(1)ア.基本増幅回路 イ.増幅回路 (2)ア.アナログIC イ.電源回路 ウ.特殊回路 (3)発振回路		3.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
デジタル電子回路	デジ電	学科	専門科目	電子科教官	16
教科書			使用教室	使用機材等	
1・2陸技受験教室(1) 無線工学の基礎 専修学校教科書シリーズ 電子回路(2)デジタル編			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目(無線工学概論)。無線従事者国家試験に必要な科目(認定科目)。コンピュータ及び専門科目の基礎となるデジタル電子回路について学習する。					
受講の前提条件					
無線工学概論、半導体・電子管、アナログ電子回路を履修していること。					
到達目標					
アナログ電子回路とデジタル電子回路の違いを理解し、デジタル電子回路の基本論理、組合せ論理回路、順序論理回路等の動作原理を説明でき、回路のパラメータを算出できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. デジタル回路の基礎	(1) アナログ電子回路とデジタル電子回路の違いを学習する (2) デジタル電子回路と2進数を学習する (3) 論理代数(ブール代数)を学習する (4) 真理値表を学習する		3.0		
2. 基本論理ゲート	(1) AND、OR、NOTゲートを学習する (2) NAND、NORゲートを学習する (3) ゲート回路間の相互変換を学習する (4) 負論理ゲートを学習する		2.0		
3. デジタルIC	(1) TTLを学習する (2) C-MOSを学習する		1.0		
4. デジタル回路の設計手順	(1) 設計手順を学習する (2) 加法標準形、乗法標準形を学習する (3) カルノー図を学習する		2.0		
5. 組合せ論理回路	(1) 組合せ論理回路を学習する (2) 一致回路と比較器を学習する (3) デコーダとエンコーダを学習する		2.0		
6. 順序論理回路	(1) 順序論理回路を学習する (2) 各種フリップフロップ (RS、T、D、JK)を学習する		2.0		
7. デジタル演算回路	(1) 非同期式カウンタを学習する (2) 同期式カウンタを学習する (3) シフトレジスタを学習する		3.0		
8. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
無線工学演習Ⅰ (基礎)	無工演習Ⅰ	学科	専門科目	電子科教官	20
教科書			使用教室	使用機材等	
無線従事者国家試験問題解答集 第一級陸上無線技術士 第二級陸上無線技術士 教官作成資料			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
無線従事者国家試験に必要な科目(認定科目)。 無線工学基礎の演習をする。					
受講の前提条件					
無線工学の基礎科目を履修していること。					
到達目標					
無線工学基礎の演習問題を解くことができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 無線工学基礎科目の演習と解説	(1)電気磁気学の演習をする。		4.0		
	(2)電気回路学の演習をする。		3.0		
	(3)電気物理の演習をする。		1.0		
	(4)半導体・電子管の演習をする。		3.0		
	(5)電子回路の演習をする。		3.0		
	(6)電気磁気測定の演習をする。		2.0		
	(7)総合演習をする。		2.0		
2. 評価			2.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
無線機器学	無線機器	学科	専門科目	電子科教官	91 1年次 48時限 2年次 43時限
教科書			使用教室	使用機材等	
無線通信機器 無線従事者国試試験問題解答集 教官作成資料			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目（無線工学概論）。 無線従事者国家試験に必要な科目。 無線送受信機、無線通信方式に使用されている技術と知識について学習する。					
受講の前提条件					
アナログ電子回路、デジタル電子回路、電気回路学を履修していること。					
到達目標					
無線通信についての基礎理論、具体的な電子回路について理解し、これらの総合回路として無線送受信機の動作及び測定方法を説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
I 無線機器の基礎					
1. 増幅回路	(1) 増幅度と整合を学習する (2) 増幅方式とバイアスを学習する (3) ひずみ・雑音・雑音指数を学習する (4) 増幅回路と周波数特性を学習する ア. フィルタ回路 イ. 非同調増幅回路 ウ. 同調増幅回路 (5) 電力増幅回路を学習する (6) 負帰還増幅回路を学習する		6.0		
2. 発振回路	(1) 発振回路の基礎を学習する (2) 帰還発振回路を学習する (3) 負性抵抗発振器、圧電形を学習する (4) 位相同期発振回路を学習する (5) 周波数シンセサイザを学習する		5.0		
3. 変調及び復調	(1) 振幅変調を学習する ア. 変調の原理 イ. 変調回路の種類 (2) 振幅変調の復調回路を学習する (3) 単側波帯変調と復調を学習する (4) 角度変調を学習する ア. 周波数変 イ. 位相変調 (5) 周波数変調の復調回路を学習する		6.0		
II 電源及び周辺機器					
1. 電源回路	(1) 変圧器を学習する (2) 整流平滑回路を学習する (3) 直流電圧安定化電源を学習する (4) 無停電電源を学習する (5) 電池を学習する		5.0		

無線機器学

授業項目	要点	時限	備考
Ⅲ AM送受信機			
1. DSB送信機	(1) 変調方式と変調理論を学習する (2) 終段(コレクタ)変調器の計算を学習する (3) 低電力変調、PDM変調(D級増幅器)を学習 (4) 送信機の構成と各部の動作概要を学習する (5) 送信機が備えるべき条件を学習する ア. 許容偏差・占有周波数帯幅 (6) スプリアスと防止対策を学習する ア. 高調波・低調波・寄生発射・相互変調積	5.0	
2. DSB受信機	(1) 受信機の構成と各部の動作概要を学習する (2) 受信機が備えるべき条件を学習する ア. 感度・選択度・安定度・忠実度・雑音・スプリアスレスポンス イ. 近接周波数選択度 (3) 感度低下の原因を学習する (4) 混信妨害等を学習する ア. 映像周波数・近接周波数による混信 イ. 感度抑圧効果 ウ. 相互変調 エ. 混変調 (5) 中間周波増幅器を学習する (6) AM検波回路の種類と特徴を学習する (7) 検波効率と検波出力の計算を学習する	4.0	
3. SSB送受信機	(1) SSBの種類と概要を学習する (2) SSB送信機の構成と動作概要を学習する (3) SSB受信機の構成と動作概要を学習する (4) AMステレオ放送を学習する	2.0	
Ⅳ FM送受信機			
1. FM送信機	(1) 直接・間接周波数変調を学習する ア. FM送信機で逡倍を使う理由 イ. AM送信機で逡倍を使わない理由 (2) IDCとエンファシスを学習する (3) FM(間接)送信装置の構成と動作概要を学習	3.0	
2. FM受信機	(1) FM受信装置の構成と動作概要を学習する (2) FM受信装置の付属回路を学習する ア. リミッタとキャプチャー効果 雑音改善度(三角雑音) イ. 検波器の種類と特徴 位相比較器とクワドラチャ検波 ウ. AGC、スケルチ・ミュートイング エ. AFC (3) FMとAM方	4.0	
3. FMステレオ放送	(1) FMステレオ ア. 搬送波抑 イ. FM多重放送 ウ. FMステレオ受信機	1.0	

無線機器学

授業項目	要点	時限	備考
V デジタル無線通信			
1. 二値符号の伝送	(1) モールス・FSK・AFSK・MSK・GMSKを学習 (2) 位相変位変調方式(PSK)と直交振幅変調方式(QAM)を学習する	3.0	
2. 多重通信方式	(1) 周波数分割多重(FDM)、時分割多重(TDM)	2.0	
3. PCM-PSK	(1) ベースバンド変調方式の概要を学習する (2) パルス符号変調(PCM)を学習する ア. 構成と概要 イ. 高能率PCM ウ. 伝送パルス符号の形式 (3) PSK変調(無線周波数帯)を学習する ア. リング変調器(DBM) イ. QPSK変調器 ウ. 16QAM変調器 (4) PSK復調を学習する ア. PSK復調器の構成 イ. 基準搬送波の作成 ウ. クロックパルスと識別器 (5) PCM-PSK送受信機を学習する ア. DPSK変調 (6) PCM-PSK(時分割)多重送受信機を学習 ア. 直並列変換器 イ. TDM用チャンネルパルス発生器 ウ. サークュレータ	6.0	
VI 中継方式			
1. 中継方式の概要	(1) 中継方式の種類を学習する (2) フェージング補償を学習する ア. ダイバシティ イ. 自動等化器	2.0	
2. パルス技術	(1) パルスの波形と性質を学習する (2) アイダイアグラム(アイパターン)、ジッタを学習	2.0	
3. スペクトラム 拡散通信	(1) スクランブルを学習する (2) SS方式の種類と特徴を学習する ア. 直接拡散(DS) イ. 周波数ホッピング(FH) ウ. 時間ホッピング(TH) エ. チャープ(パルス化FM)	2.0	
4. 衛星通信方式	(1) 多元接続の概要を学習する ア. 時分割多元接続 (TDMA) イ. 周波数分割多元接続(FDMA) ウ. 符号分割多元接続 (CDMA,SSMA) エ. 空間分割多元接続 (SDMA) (2) 衛星搭載中継器の種類と構成を学習する (3) 実効輻射電力(EIRP)と性能指数(G/T)を学習 (4) GPS測位の概要を学習する	4.0	

無線機器学

授業項目	要点	時限	備考
5. 移動体通信	(1) 移動体通信の概要を学習する ア. 2G、3G、4G携帯電話 イ. Bluetooth ウ. 無線LAN エ. WiMAX (IEEE802.16)	4.0	
VII テレビジョン			
1. テレビ放送	(1) デジタルテレビ放送を学習する (2) 地上波デジタルテレビ放送の特徴を学習する (3) 地上波デジタルテレビ放送の方式を学習する (4) 衛星デジタルテレビ放送の方式を学習する (5) デジタル信号処理を学習する ア. 動き補償予測符号化 イ. 変換符号化 (DCT) ウ. 可変長符号化 (6) 変調方式の概要を学習する ア. TC8PSK イ. QAM ウ. シンボル間干渉 エ. マルチキャリア伝送 (7) 直交周波数多重変調方式の原理を学習する ア. OFDM イ. IFFTとFFT ウ. ガードインターバル (8) 復調方式の概要を学習する ア. インターリーブ イ. 畳み込み符号 ウ. リードソロモン符号 (9) セグメント ワンセグを学習する	6.0	
VIII 電波航法装置			
1. 電波航法装置	(1) 電波航法装置の概要を学習する (2) レーダー方程式を学習する (3) 速度測定用レーダーを学習する	5.0	
IX 無線機器に関する測定			
1. 測定	(1) 送信機に関する測定を学習する (2) 受信機に関する測定を学習する	4.0	
2. 測定機器	(1) 高周波測定用機器を学習する (2) 送受信機測定用機器を学習する (3) マイクロ波帯測定機器を学習する	4.0	
X 評価		6.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
空中線理論 及び電波伝搬	空中線	学科	専門科目	電子科教官	87 1年次 40時限 2年次 47時限
教科書			使用教室	使用機材等	
1・2陸技受験教室(3) 無線工学B 1陸技無線工学B アンテナと電波伝搬完全マスター 教官作成資料			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目(無線工学概論)。 無線従事者国家試験に必要な科目。 給電線理論から測定までの基本的な原理や電波の分類及び伝搬様式の考え方を学習する。					
受講の前提条件					
数学、応用数学、物理学、電気磁気学を履修していること。					
到達目標					
空中線、給電線、並びに各種空中線の理論を理解し、無線施設の各種空中線並びに給電線について説明することができる。 電波伝搬の基礎理論を理解し、無線施設から放射される電波特性について説明することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 概 要	(1) 空中線及び給電線について学習する (2) 電波伝搬及び電波雑音について学習する			1.0	
2. 給電線理論	(1) 分布定数回路を学習する ア. 分布定数回路の基本式 イ. 反射係数、定在波比、反射損、伝送効率 ウ. 共振線路 (2) 給電線を学習する ア. 同軸ケーブル イ. 平行2線式給電線 ウ. 導波管 エ. 平面線路 (3) 整合回路を学習する (4) ダイプレクサ、バランを学習する			27.0	
3. 空中線理論	(1) ポインティング電力を学習する (2) 微小ダイポールを学習する (3) 線状アンテナを学習する (4) 半波長ダイポールを学習する (5) 接地アンテナを学習する (6) 空中線利得と指向特性を学習する (7) 電力の伝達、フリスの伝達公式を学習する (8) 伝搬損失を学習する			23.0	
4. 電波伝搬	(1) 地上波伝搬を学習する ア. 地上波の性質 イ. 直接波と大地反射波 ウ. 電界強度 エ. 回折波 オ. フレネルゾーン			12.0	

空中線理論及び電波伝搬

授業項目	要点	時限	備考
	(2) 対流圏伝搬を学習する ア. 対流圏の性質 イ. 大気の屈折率、スネルの法則 ウ. 見通し距離 エ. ラジオダクト、M曲線 オ. 対流圏散乱波 カ. 対流圏内の減衰と偏波特性 キ. 対流圏のフェージング (3) 電離層伝搬を学習する ア. 電離層の生成 イ. 電離層の構成 ウ. 正割法則、MUF、伝送曲線 エ. 電離層における屈折 オ. 電離層における減衰 カ. 周波数帯による伝搬の性質 キ. 電離層伝搬にみられる諸現象		
5. 電波雑音	(1) 電波雑音を学習する (2) 雑音強度の表示法を学習する (3) 等価雑音温度を学習する	2.0	
6. 空中線の実際	(1) 長中波帯の空中線を学習する (2) 短波帯の空中線を学習する (3) 超短波帯の空中線を学習する (4) マイクロ波帯の空中線を学習する	12.0	
7. 測 定	(1) 空中線の測定を学習する (2) 給電線の測定を学習する (3) 電波環境を学習する	5.0	
8. 評 価		5.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
コンピュータシステム 基礎Ⅰ	コン基礎Ⅰ	学科	専門科目	電子科教官	22
教科書			使用教室	使用機材等	
コンピュータシステムの基礎 Cプログラミング入門以前 教官作成資料			自教室 第1統合システム実習室 第2統合システム実習室 LL教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目（情報処理基礎）。 情報処理技術の基本理論であるデータ表現方法や論理演算を学び、コンピュータの構成要素及びハードウェア等について学習し、問題解決の手段として、プログラミングの基礎を学習する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
情報および、情報システムの機能について説明できる。情報処理技術の基本理論であるデータ表現方法や論理演算を説明できる。コンピュータの入出力装置、記憶装置、中央処理装置の動作、オペレーティングシステムの機能、目的について説明できる。アルゴリズムとデータ構造の概念を説明できる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 情報とシステム	(1) データと情報について学習する (2) システムの概念を学習する (3) システムの機能を学習する (4) システムの要素を学習する (5) 文字コードを学習する			3.0	
2. コンピュータの 構成要素	(1) 中央処理装置を学習する (2) 主記憶装置を学習する (3) 入出力装置を学習する ア. ヒューマンインタフェース技術を学習する イ. インタフェース設計を学習する (4) 補助記憶装置を学習する ア. 磁気ディスク装置を学習する イ. 光ディスク装置を学習する (5) その他記憶装置			5.0	
3. オペレーティング システム基礎	(1) オペレーティングシステムの目的を学習する ア. オペレーティングシステムとは イ. オペレーティングシステムの目的 ・ハードウェア資源の有効活用 ・コンピュータ操作と運用の支援 ・プログラム作成の容易化 (2) 現在のオペレーティングシステムを学習する ア. 代表的なオペレーティングシステム イ. コマンドラインインターフェース (3) プロセス管理と割り込みを学習する ア. プロセスとは イ. 割り込みとは ・外部割り込み、内部割り込み (4) 入出力とメモリ管理を学習する ア. 入出力制御について イ. 仮想記憶方式 (5) ファイルシステムを学習する ア. ファイルシステムの提供する機能 イ. ファイルシステムの実現 (6) オープンソースソフトウェアを学習する			8.0	

コンピュータシステム基礎 I

授業項目	要点	時限	備考
4. データ構造と アルゴリズム	(1) データ構造を学習する (2) アルゴリズムを学習する	5.0	
5. 評価		1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
コンピュータシステム 基礎Ⅱ	コン基礎Ⅱ	学科	専門科目	電子科教官	22
教科書			使用教室	使用機材等	
ゼロからわかるUNIX基礎講座 新C言語入門スーパービギナー編 教官作成資料			自教室 第1統合システム実習室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目（情報処理基礎）。 情報処理システムに必要なオペレーティングシステム(OS)の基礎知識を学習する。					
受講の前提条件					
コンピュータシステム基礎Ⅰを履修していること。					
到達目標					
OSの基本機能の概要を説明でき、プロセスにおける入力⇒処理⇒出力の動作を説明できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. システム基礎	(1) ソフトウェアの分類および概要を学習する (2) ファイルの分類および概要を学習する (3) 文字コードについて学習する		2.0		
2. ファイル管理	(1) ユーザおよびOS視点からのファイルシステムについて学習する (2) ファイルシステムの実現について学習する		2.0		
3. 処理および処理分散	(1) プロセスについて学習する (2) プロセス間通信の実現について学習する		2.0		
4. 汎用OS基礎	(1) 汎用OSの基本機能について学習する (2) 汎用OSのファイル管理について学習する (3) 汎用OSの処理および処理分散について学習する		6.0		
5. プログラミング基礎	(1) プログラムの仕組みについて学習する (2) プログラミングに必要な開発環境について学習する (3) プログラミングによりプロセスの入力⇒処理⇒出力の動作を学習する		8.0		
6. 評価			2.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
情報通信理論	情通理論	学科	専門科目	電子科教官	24
教科書			使用教室	使用機材等	
コンピュータシステムの基礎 わかりやすいデータ通信 教官作成資料			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目(情報処理基礎)。通信及びネットワークにかかる基本知識および信頼性の高い情報の伝送理論を学習する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
情報を伝送するための基本的な伝送技術、代表的な伝送方式の特徴を理解し状況に応じ最適な方法を選ぶ。また、ネットワークの構築や異なる2つのネットワークを接続するための必要な機器及びその動作概要を説明できる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. ネットワークの基礎知識	(1)ネットワークの構成要素を学習する (2)LANとWANの違いを学習する (3)OSI基本参照モデルの各階層の特徴とその各層間での処理を学習する (4)代表的なネットワーク構成の特徴を学習する			4.0	
2. 通信の基礎知識	(1)各通信方式の用途を学習する (2)各伝送方式の特徴と仕組みを学習する (3)多重化方式の仕組みを学習する (4)回線速度・データ量・転送時間の関係を学習する (5)様々な通信ケーブルの特徴や用途を学習する (6)パリティチェック誤り検出方法を学習する			4.0	
3. イーサネット	(1)メディアアクセス制御を学習する (2)MACアドレスの構造を学習する (3)イーサネット拡張機器の種類とその動作原理を学習する			5.0	
4. TCP/IP	(1)ルーティングを学習する (2)IPの役割と仕組みを学習する (3)IPアドレスとMACアドレスの紐づけ方法を学習する (4)サブネットマスクによるネットワークの分離方を学習する (5)ネットワーク設定を学習する			5.0	
5. 伝送時の雑音対策	(1)デジタル伝送における雑音対策を学習する (2)ハミング符号を学習する (3)ハミング距離を学習する (4)誤りの種類とその対策符号を学習する			4.0	
6. 評価	(1)小テスト (2)レポート			2.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
電波法規	電波法	学科	専門科目	電子科教官	33
教科書			使用教室	使用機材等	
電波法要説 無線従事者国家試験問題解答集 第一級陸上無線技術士 第二級陸上無線技術士 教官作成資料			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目（電波法・航空法）。無線従事者国家試験に必要な科目。 電波関連施設の法的取扱いについて学習する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
電波法に規定されている事項及び関係法規の概要について理解し、航空保安施設における無線局の運用および技術操作のために必要な措置を認識することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 法体系および電波法の概要	(1) 電波法の目的を学習する (2) 法律の体系を学習する (3) 電波に関する行政機構を学習する (4) 定義を学習する (5) 無線通信業務の分類を学習する (6) 無線局の種別を学習する		3.0		
2. 無線局の免許	(1) 免許制度を学習する (2) 免許の欠格事由を学習する (3) 免許の手続を学習する (4) 免許状の取扱を学習する (5) 免許の有効期限と再免許を学習する (6) 変更、休止、廃止を学習する		3.0		
3. 無線設備	(1) 無線設備の概要を学習する (2) 電波の表示を学習する (3) 送信設備の一般的条件を学習する (4) 受信設備の一般的条件を学習する (5) 付帯設備の一般的条件を学習する (6) 業務特有の技術的条件を学習する (7) 無線機器型式検定と認証制度を学習する		5.0		
4. 無線従事者	(1) 無線従事者の資格制度を学習する (2) 資格の区分を学習する (3) 無線従事者免許と免許証を学習する (4) 主任無線従事者を学習する (5) 無線従事者の配置を学習する		3.0		

電波法規

授業項目	要点	時限	備考
5. 無線局の運用	(1) 免許状記載事項の遵守を学習する (2) 混信等の防止を学習する (3) 通信の秘密の保護を学習する (4) 無線局の運用における備え付けを学習する (5) 無線局の通信方法を学習する (6) 無線設備の機能維持を学習する (7) 各無線局の運用を学習する	3.0	
6. 無線局の監督	(1) 公益上の必要に基づく命令及び援助を学習する (2) 不適法な運用に対する監督を学習する (3) 無線局の検査 (4) 報告と電波監視を学習する (5) 異議申立てと訴訟を学習する	3.0	
7. 雑則・罰則・附則	(1) 雑則の概要を学習する (2) 電波法の主な雑則を学習する (3) 電波法における罰則規定について学習する (4) 附則の概要について学習する	1.0	
8. 総合演習	(1) 総合演習	11.0	
9. 評価		1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
管制概論Ⅰ	管概Ⅰ	学科	専門科目	管制科教官	7
教科書			使用教室	使用機材等	
航空管制のはなし EN-ROUTE CHART 1-2 EN-ROUTE CHART 3			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目（管制概論）。 航空管制業務について、規則、運用方法の概要を学習する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
航空管制業務について、規則、運用方法の概要を習得し、説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空管制とは	(1) 航空管制の歴史を学習する (2) 航空管制のあらましを学習する ア. 航空交通業務と航空交通管制業務 イ. 航空交通管制業務の種類 (3) 空域についてを学習する ア. 管制空域 イ. 非管制空域 (4) 空の路についてを学習する ア. 航空路 イ. 標準計器出発方式 ウ. 標準計器到着方式 エ. トランジション オ. 待機経路		2.0		
2. 飛行の種類と基準	(1) 有視界飛行方式を学習する (2) 計器飛行方式を学習する (3) 特別有視界飛行方式を学習する (4) 衝突の回避を学習する (5) 最低安全高度を学習する (6) 速度制限を学習する (7) 飛行計画を学習する (8) 飛行場付近の飛行を学習する (9) 最低気象条件を学習する (10) 最低高度を学習する (11) 巡航高度を学習する (12) 高度計規正を学習する (13) 位置通報を学習する (14) 待機を学習する (15) 計器進入を学習する (16) 進入復行を学習する		2.0		
3. 管制業務の運用	(1) 業務内容及び管制間隔の概要を学習する ア. 航空路管制業務 イ. 飛行場管制業務 ウ. 進入管制業務 エ. ターミナル・レーダー管制業務 オ. 着陸誘導管制業務		1.0		

管制概論 I

授業項目	要点	時限	備考
4. 管制用語	(1) 周波数を学習する (2) 文字の送信を学習する (3) 数等の送信を学習する (4) 基本管制用語を学習する (5) 計器飛行管制方式の用語を学習する (6) 飛行場管制の用語を学習する (7) レーダー管制の用語を学習する	1.0	
5. 評価		1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
運航情報業務概論	運情概	学科	専門科目	情報科教官	9
教科書			使用教室	使用機材等	
航空法 運航情報業務概論			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目（運航情報業務概論）。 航空管制運航情報業務における運航・飛行場情報業務等の概要を学習する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
航空管制運航情報業務における運航・飛行場情報業務等の概要を理解し、航空機の航行の安全を支援するために必要な基礎知識、飛行場の諸元等を習得し、説明することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 運航情報業務	(1) 以下の業務内容を学習する ア. 飛行計画 イ. 運航の監視 ウ. 航空機の搜索救難 エ. 航空事故・重大インシデントの定義 オ. 事故処理及び事故調査の援助 カ. AIP・AIC・NOTAM キ. 航空情報発行の手続き ク. 関連システムの構成 ケ. 情報の種類及び優先順位 コ. 情報の様式			4.5	
2. 飛行場情報業務	(1) 以下の業務内容を学習する ア. 空港の定義と種類 イ. 飛行場の概要 ウ. 着陸帯・誘導路・エプロンの運用			2.0	
3. 対空援助業務	(1) 以下の業務内容を学習する ア. 電話による航空機との間の管制通信 イ. 電話による航空機に対する情報提供			1.0	
4. 管制通信業務	(1) 以下の業務内容を学習する ア. 電話による航空路管制業務を行う機関と航空機との間の通信の伝達及び位置通報 イ. 電話による航空通信			1.0	
5. 評価				0.5	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
飛行場概論	飛概	学科	専門科目	電子科教官	8
教科書			使用教室	使用機材等	
空港の管理と運用、空港のはなし 数字でみる航空、AIM-J 教官作成資料			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
飛行場の諸施設及び維持と管理についての基本的な知識を学習する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
飛行場の諸施設及び維持と管理について説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空輸送と空港の現状	(1) 総合交通体系の変遷を学習する (2) 航空輸送の現状を学習する		1.0		
2. 空港と諸施設	(1) 空港と飛行場を学習する (2) 空港の施設構成を学習する (3) 基本施設と付帯施設を学習する (4) ターミナル施設を学習する (5) 制限表面を学習する		3.0		
3. 設置と管理	(1) 空港の設置を学習する (2) 空港の管理を学習する (3) 空港の安全管理を学習する		1.0		
4. 空港整備と施設の維持管理	(1) 空港整備計画を学習する (2) 空港法の概要を学習する (3) 空港施設計画と設計基準を学習する (4) 建設工事と施設の維持管理を学習する (5) PFIとPIを学習する		1.0		
5. 諸課題	(1) 航空機騒音の測定方法を学習する (2) 空港環境対策の体系を学習する (3) 大都市拠点空港の整備を学習する		1.0		
6. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
CNS／ATM概論Ⅰ	CNS概Ⅰ	学科	専門科目	電子科教官	13
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務の概要、AIM－J 航空管制のはなし、 運航情報業務概論 教官作成資料			自教室	☑校務情報システム ☑3D航空施設研修教材 (ATM)	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目(CNS/ATM概論)。 航空保安業務の概要及び関連する通信・航法・監視システム、航空交通管制情報処理システム及び 航空衛星システムの基礎を学習する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
通信・航法・監視システム、航空交通管制情報処理システム及び航空衛星システムの航空 保安業務における利用形態を理解し、説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 概 説	(1) 航空機の運航と航空保安業務の関わりを 学習 (2) 通信・航法・監視システムの概要を学習する (3) 航空交通管制情報処理システムの概要を 学習 (4) 航空衛星システムの概要を学習する		9.5	(関西国際空港)	
2. 校外研修準備 ・報告	(1) 校外研修について事前に学習する (2) 校外研修報告書を作成する		3.0		
3. 評 価			0.5		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
CNS／ATM概論Ⅱ	CNS概Ⅱ	学科	専門科目	電子科教官	21
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務の概要、AIM－J EN-ROUTE CHART 1-2、EN-ROUTE CHART 3 航空管制のはなし、運航情報業務概論 教官作成資料			自教室	☑校務情報システム ☑3D航空施設研修教材 (ATM)	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目(CNS/ATM概論)。 航空保安業務の概要及び関連する通信・航法・監視システム及び航空交通管制情報処理システムの基礎を学習する。					
受講の前提条件					
CNS/ATM概論Ⅰを履修していること。					
到達目標					
通信・航法・監視システム及び航空交通管制情報処理システムの基本構成、基本機能及び動作概要を理解し、説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空通信システム	(1) 構成、機能を学習する (2) 動作概要を学習する		5.0	(大阪空港事務所)	
2. 航法システム	(1) 構成、機能を学習する (2) 動作概要を学習する		5.0		
3. 監視システム	(1) 構成、機能を学習する (2) 動作概要を学習する		3.5		
4. 航空交通管制 情報処理システム	(1) 管制情報処理システムの構成、機能を学習する (2) 航空交通情報システムの構成、機能を学習する (3) 統合管制情報処理システムの構成、機能を学習する		3.0		
5. 校外研修準備 ・報告	(1) 校外研修について事前に学習する (2) 校外研修報告書を作成する		3.0		
6. 評 価			1.5		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
ヒューマンファクターⅠ	HFⅠ	学科	専門科目 合同授業	特任教官	6
教科書			使用教室	使用機材等	
ヒューマンエラー			合同教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
ヒューマンファクターに関する基礎的な知識と技術を学び、ヒューマンエラーをなくする手法を学習する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
ヒューマンファクターに関する基礎的な知識と技術を学び、ヒューマンエラーをなくする手法を習得し、説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. ヒューマンエラー	(1) 事故とヒューマンエラーについて学習する (2) ヒューマンエラーはなぜ起こる？について学習する (3) 人間の仕組みとヒューマンエラーのタイプを学習する		2.0		
2. 人間の能力	(1) 人間の能力と「使いやすい機器」について学習する (2) 能力と限界と特性を学習する (3) 状況認識を学習する		2.0		
3. エラーの防止	(1) 意志不疎通で起こるエラーを学習する (2) よい人間関係を学習する (3) ヒューマンエラーを防止する方法を学習する		1.0		
4. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空機概論	航空機	学科	専門科目	特任教官	18
教科書			使用教室	使用機材等	
航空実用ハンドブック			合同教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目（航空機概論） 航空機の飛行原理の基礎と装置を学習する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
航空機の飛行原理の基礎、電子装置及び航空計器に関する知識を習得し、説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空機の基礎	(1) 航空機の型式と分類を学習する (2) 定期航空会社の使用する航空機を学習する (3) 航空機の構造を学習する		1.0		
2. 航空力学	(1) 流体力学の基礎を学習する (2) 飛行機の翼を学習する (3) 性能を学習する (4) 安定性を学習する (5) 操縦性を学習する (6) 重量及び重心位置を学習する		4.0		
3. 航空エンジン	(1) エンジンの分類を学習する (2) プロペラを学習する (3) ガスタービンエンジンを学習する		1.0		
4. 各種設備	(1) 居住設備を学習する (2) 非常用装備を学習する (3) 電気装備を学習する		1.0		
5. 電子装備	(1) 通信機器を学習する (2) 航法機器を学習する (3) 飛行管理装置を学習する		4.0		
6. 航空計器	(1) 機械式計器を学習する (2) 電子式計器を学習する (3) 自動飛行制御装置を学習する		4.0		

航空機概論

授業項目	要点	時限	備考
7. ヘリコプタ	(1) ヘリコプタの諸形式を学習する (2) 回転翼の形式・構造・運動を学習する (3) 操縦装置を学習する (4) 航法装置を学習する	2.0	
8. 評 価		1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
公務員教養	公務教養	学科	専門科目	有識者・幹部等 総務課 教務課 電子科教官	49.7
教科書			使用教室	使用機材等	
講師作成資料			合同教室 教室 体育館 グラウンド	☑校務情報システム	
位置づけ					
公務員の使命と教養、特別講義、校外研修等多角的な研修を実施し、航空保安業務に携わる国家公務員としての人間形成を図る。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
なし。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 公務員の使命と供用	(1) 公務員教育 (2) 公務員教育課題討議(30分×12回)		8.0 3.6	1.0時限×8 0.3時限×12	
2. 校長訓話	(1) 校長訓話(30分×4回)を聴講する		1.2		
3. 特別講義	(1) 専門教養 (2) 一般教養(30分×5回、内1回ダイレクトーク)		3.0 1.5	3時限 有識者等 0.3×5 幹部等	
4. 校外研修	(1) 現場学習を実施する		8.6	4.3時限×2	
5. オープンキャンパス	(1) オープンキャンパスに参加する(4時限+30分) (2) オープンキャンパス前日の準備をする(1時限+30分) (3) オープンキャンパス実行委員会の報告を受ける(30分×5回)		7.1	4.3時限 1.3時限 1.5時限	
6. 空の日	(1) 空の日に参加する(4時限+30分) (2) 空の日前日の準備をする(1時限+30分) (3) 空の日実行委員会の報告を受ける(30分×5回)		7.1	4.3時限 1.3時限 1.5時限	
7. 体育交流(5月)	(1) 体育大会に参加する(2時限+30分) (2) 体育大会実行委員会の報告を受ける(30分×3回)		3.2	2.3時限 0.9時限	
8. 体育大会(10月)	(1) 体育交流に参加する(30分) (2) 体育交流実行委員会の報告を受ける(30分×3回)		1.2	0.3時限 0.9時限	
9. 体育交流(2月)	(1) 体育大会に参加する(2時限+30分) (2) 体育大会実行委員会の報告を受ける(30分×3回)		3.2	2.3時限 0.9時限	
10. 消火防災訓練	(1) 消火防災訓練に参加する(5月/12月)		2.0	1時限×2	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
科目演習(学科)	科目演習	学科	専門科目	電子科教官	49
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
業務上必要となる資格の取得、発表会聴講、他科目の授業の補完等により学科の研修効果を高める。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
なし。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 無線従事者試験	(1) 陸上無線技術士の資格試験を受験する ア. 1・2陸無線工学基礎・法規		8.0	4時限×2	
2. 聴講等	(1) 航空電子科2年プログラミング実技発表を見学する		1.0	1時限×1	
3. 他科学習発表会	(1) 管制科学習発表会を聴講する		1.0	1時限×1	
4. 学習交流	(1)実習交流参加(管制官実習受講) (2)実習交流参加(情報科実習受講)		3.0 1.0	1時限×3 1時限	
5. 補完授業等	(1) IT教育システムの活用による演習をする (2) 補完授業を受講する (3) その他		35.0	各教官の調整によりシラバスを決定する。 1時限×45 0.3時限×11	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
情報リテラシー	情リ	実技	電子実習	特任教官	11
教科書			使用教室	使用機材等	
例題30＋演習問題70でしっかり学ぶ Excel標準テキスト 基礎編 Windows 10/Office2016対応版			第1統合システム実習室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
PCを用いたオフィスソフトの利用方法を学習する。					
受講の前提条件					
校務情報システム概論を履修していること。					
到達目標					
代表的なソフトウェアの機能、基本操作を実習により習得し、表・関数・グラフ作成機能を使用することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. オフィスソフトとは	代表的なオフィスソフトの機能概要を学習する		1.0		
2. 表計算演習	(1)基本操作を学習する		9.0		
	(2)書式を学習する				
	(3)関数を学習する				
	(4)グラフ作成を学習する				
	(5) 高度な関数と計算式を学習する				
3. 評価	(6)データ操作を学習する		1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
電気電子計測	電子計測	実技	電子実習	電子科教官	42
教科書			使用教室	使用機材等	
専修学校教科書シリーズ6 電子計測 教官作成資料			自教室 電子基礎実験室	☑校務情報システム ☑各種測定器	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目（電気電子計測）。無線従事者国家試験に必要な科目（認定科目）。測定理論及び測定器の基本的な原理、取扱法を学習する。					
受講の前提条件					
電気磁気学、電気回路学、半導体・電子管、アナログ電子回路を受講し、基礎知識を習得していること。					
到達目標					
電氣的諸量の測定に関する基礎概念を示すことができる。直流からマイクロ波領域における測定原理の概要を説明することができる。高周波信号の基本的な測定を行うことができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
I 基礎編					
1. 計測総論	(1) 測定方式を学習する (2) 誤差を学習する (3) 測定値の処理を学習する (4) 感度、精度、確度を学習する (5) 有効数字を学習する (6) 近似計算を学習する		2.0		
2. 単位及び 電気標準器	(1) 電気磁気単位系を学習する (2) 電気単位の絶対測定を学習する (3) 電気標準器を学習する		1.0		
3. 電気計器総論	(1) 電気計器を学習する (2) 構成要素を学習する (3) 誤差を学習する		1.0		
4. 指示電気計器	(1) 可動コイル形計器を学習する (2) 整流器形計器を学習する (3) 熱電形計器(熱線形計器)を学習する (4) 静電形計器を学習する (5) 可動鉄片形計器を学習する (6) 電流力計形計器を学習する (7) 誘導形計器を学習する		3.0		
5. デジタル計器	(1) A－D変換の基礎を学習する (2) A－D変換器を学習する (3) D－A変換器を学習する (4) デジタル電圧計を学習する		3.0		
6. 検電器	(1) 直流検流計を学習する (2) 交流検流計を学習する		0.5		

電気電子計測

授業項目	要点	時限	備考
7. 電位差計	(1) 直流電位差計を学習する (2) 交流電位差計を学習する	0.5	
8. 抵抗測定	(1) 概説を学習する (2) 抵抗器を学習する (3) 低抵抗の測定を学習する (4) 中抵抗の測定を学習する (5) 高抵抗の測定を学習する	1.5	
9. 静電容量、インダクタンス及びインピーダンスの測定	(1) 概要を学習する (2) インピーダンス素子を学習する (3) 交流ブリッジによるL、C、R、 $\tan \delta$ の測定を学習する	1.0	
10. 電力、力率の測定	(1) 概要を学習する (2) 直流電力測定を学習する (3) 単相交流電力測定を学習する (4) 三相交流電力測定を学習する (5) 力率測定を学習する	2.0	
11. 周波数、位相の測定	(1) 計数形周波数計を学習する (2) 位相の測定を学習する	2.0	
12. 高周波の測定	(1) 電子電圧計を学習する (2) 電力の測定を学習する (3) インピーダンスの測定を学習する	2.0	
13. 測定用発振器	(1) 標準信号発生器を学習する (2) 低周波発振器を学習する	1.0	
14. 測定補助器	(1) 増幅量、減衰量及びデシベル表示を学習する (2) フィルタを学習する (3) レベル計を学習する	1.0	
15. 波形・スペクトラム	(1) オシロスコープを学習する (2) スペクトラムアナライザを学習する	2.5	
16. 評価	(1) 1～11項	1.0	
	(2) 12～15項	1.0	

電気電子計測

授業項目	要点	時限	備考
Ⅱ. 定着編			
1. 説明	(1) 主旨、進め方、報告書作成方法を学習する	1.0	
2. 電気指示計器	(1) 可動コイル形計器を学習する	2.0	
3. 波形観測	(1) オシロスコープ: 基本操作を学習する (2) オシロスコープ: リサージュを学習する (3) オシロスコープ: 遅延掃引を学習する	5.0	
4. 周波数測定	(1) ユニバーサル・カウンタを学習する	2.0	
5. 測定用発振器	(1) ファンクション・ジェネレータを学習する (2) 標準信号発生器を学習する	1.0	
6. スペクトラム観測	(1) スペクトラムアナライザ	2.0	
7. 評価	(1) 波形観測 (2) 周波数測定 (3) スペクトラム観測	1.0 1.0 1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
電子基礎実験Ⅰ	電子実験Ⅰ	実技	電子実習	電子科教官	33
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料			電子基礎実験室 LL教室	☒ 校務情報システム ☒ 各種電子基礎実験器材 ☒ 各種測定器	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目(電子基礎実験)。 無線従事者国家試験に必要な科目(認定科目)。電子工学の基礎理論を実験をとおして学習する。					
受講の前提条件					
電磁気学、電気回路学、半導体・電子管、アナログ電子回路を受講していること。					
到達目標					
電気回路及び電子回路分野の講義で学んだ理論を実験で検証し、その結果を考察できる。 また、各種測定器具類の取り扱いや電気工作ができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 実験に関する一般事項	(1) 実験の目的、実験上の注意事項を学習する (2) 測定器具類の操作方法を学習する (3) 報告書の作成法を学習する (4) 工具類の使用法を学習する		2.0		
2. 電気磁気測定	(1) 絶縁抵抗、接地抵抗の測定をして原理を理解する (2) ホイートストンブリッジによる測定をして原理を理解する (3) 周波数フィルタの特性を測定して理解する (4) 微分積分回路の特性を測定して理解する		6.0		
3. 電気回路： 電子回路測定	(1) ダイオードの特性を測定して理解する (2) キルヒホッフの法則、テブナンの法則を測定して理解する。 (3) トランジスタのhパラメータを測定して理解する (4) 整流回路の特性を測定して理解する (5) 定電圧回路の特性を測定して理解する (6) トランジスタ増幅回路の特性を測定して理解する		11.0		
4. 電子回路等製作	(1) 半田付技術を実習する (2) 受信機を製作する (3) 論理回路及び増幅回路を製作する (4) ケーブルを製作する		11.0		
5. 評価	(1) レポート及び成果発表		3.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
科目演習(実技)	科目演習	実技	電子実習	電子科教官	7
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料等			自教室 電子基礎実験室	☒ 校務情報システム	
位置づけ					
実技科目の補完等により研修効果を高める。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
なし。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 補完授業等	(1) 実習室利用による演習をする (2) 補完授業をする (3) その他		7.0		

IV. 研修内容

6. 航空電子科 2 学年（5 1 期）

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
英語RⅡ ENGLISH RⅡ	英語RⅡ	学科	外国語科目	特任教官	30
教科書			使用教室	使用機材等	
国際民間航空条約付属書1～19 International Civil Aviation Organization annex 1to 19 現代世界を理解するための視点 MAKING SENSE OF THE WORLD			自教室	□校務情報システム	
位置づけ					
語彙、長文読解の学習を通じて、基本的な英文読解力を培う。 Students will acquire basic English vocabulary to have basic reading ability.					
受講の前提条件					
英語RⅠを履修していること。					
到達目標					
通常業務に必要となる技術英語、国際情勢および国際民間航空条約付属書に関する英文を読解することができる。 Students are able to have their jobs regarding with technical English、international affairs and International Civil Aviation Organization(ICA0) annex reading effectively without any language barrier.					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 英文読解 Reading	(1) 英文読解及び語彙の講義と演習 Lecture and practice of English reading and vocabulary.		26.0		
2. 評 価 Evaluation			4.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
英語GⅡ	英語GⅡ	学科	外国語科目	特任教官	15
教科書			使用教室	使用機材等	
English Grammar for Reading Comprehension			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
英文法の理解を通じて、読解力および英文メールでのやりとりに必要な作文力を培う。 Students will acquire basic English grammar to have basic reading ability and basic writing ability to make E-mail.					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
英文法の学習をし、基本的な英文読解ができる。また、英文メールでのやりとりに必要な文書作成ができる。 Students are able to have their jobs regarding with English effectively without any language barrier.					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 英文法 Basics English grammar	(1) 英文法の講義と演習 Lecture and practice of basic English (2) 英作文 Writing		13.0		
2. 評価 Evaluation			2.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
英語CⅡ	英語CⅡ	学科	外国語科目 2クラス	特任教官	27
教科書			使用教室	使用機材等	
TOP NOTCH2 People,Places,and Things2			自教室 LL教室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
業務に必要となる状況を題材として、基本英会話を学習する。 Students will learn basic English conversation based on business topics.					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
英語による簡単な業務の説明及び電話での業務調整に必要な英会話ができる。 Students acquire basic English conversation skill of presentation and coordination on the phone at business situation.					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 英会話 English conversation	(1) 発音、リズム、イントネーション Pronunciation, Rhythm, Intonation (2) 基本的な英会話パターン Basic pattern of English conversation (3) 応答演習 Exercise of questions and answers (4) 業務に必要な英会話 Situation study on business. ア.電話での業務調整 Coordination on the phone. イ.業務説明 Presentaion own buisness topics.		25.0		
2. 評 価 Evaluation			2.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
国際航空法規(英語)	国際法英	学科	外国語科目	電子科教官	12
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料			LL教室 第一統合システム実習室 第二統合システム実習室	☑校務情報システム	
位置づけ					
業務に必要となる国際航空法規を題材として、英語を学習する。 国際民間航空条約及びその機関、航空管制技術業務に関連する基準及びガイダンスマテリアル(英語)を学習する。					
受講の前提条件					
国際航空法規(概要)を履修していること。					
到達目標					
我が国の航空管制技術業務が参照する主要な国際基準及びガイダンスマテリアルについて、原文(英語)を解読できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 概 説	(1) 航空の国際性と国際航空法規の必要性を学習する		1.0		
2. 条約付属書概説	(1) 条約及び付属書の概要(英語)を学習する。 (2) 第10付属書(ANNEX10)について、原文(英語)を含めて学習する。		8.0		
3. 各種国際基準及びガイダンスマテリアル	(1) 各種国際基準及びガイダンスマテリアルについて、原文(英語)を学習する。		3.0		
4. 評 価	(1) 第2項目及び第3項目のレポートにより評価する。				

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
保健体育	体育	学科	保健体育科目	特任教官	27
教科書			使用教室	使用機材等	
			グラウンド 体育館 合同教室	☐ 校務情報システム ☒ 体育設備	
位置づけ					
運動についての科学的理解に基づき、合理的な練習によって運動技能を高め、体力の向上を図る。 集団の中での役割を理解・実行するチームワーク力を涵養する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
なし。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 体育理論及び実技	(1) 生理、力学、心理から見た運動の特性を習得する。 1) 運動の生理 2) 運動の力学 3) 運動の心理 4) 生活と運動 5) 体育レクリエーション (2) 筋力、持久力、柔軟性等の運動能力を高め、心身の調和的な発達を図るとともに球技を通して公正な態度を養う。 1) 体操 ア. 徒手 イ. 床運動(マット使用) 2) 器械体操 ア. 鉄棒 イ. 跳び 3) 競技 ア. 持続走 イ. 高・幅 跳び 4) 球技(基礎・応用・チームプレー) ア. ソフトボール イ. バレーボール ウ. サッカー エ. バスケットボール オ. テニス カ. バトミントン キ. 卓球 ク. スポレック ケ. ピロポロ コ. キンボール サ. アルティメット シ. タグラグビー		24.0		
2. メンタルヘルス	ストレス等適切に対応できるような知識を習得する。 (1) メンタルヘルス (2) ストレスマネジメント		1.0		
3. 体育交流	「職種間連携強化推進」活動の一環として、職種・科を超えた交流		2.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
無線機器学	無線機器	学科	専門科目	電子科教官	91 1年次 48時限 2年次 43時限
教科書			使用教室	使用機材等	
無線通信機器 無線従事者国試試験問題解答集 教官作成資料			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目（無線工学概論）。 無線従事者国家試験に必要な科目。 無線送受信機、無線通信方式に使用されている技術と知識について学習する。					
受講の前提条件					
アナログ電子回路、デジタル電子回路、電気回路学を履修していること。					
到達目標					
無線通信についての基礎理論、具体的な電子回路について理解し、これらの総合回路として無線送受信機の動作及び測定方法を説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
I 無線機器の基礎					
1. 増幅回路	(1) 増幅度と整合を学習する (2) 増幅方式とバイアスを学習する (3) ひずみ・雑音・雑音指数を学習する (4) 増幅回路と周波数特性を学習する ア. フィルタ回路 イ. 非同調増幅回路 ウ. 同調増幅回路 (5) 電力増幅回路を学習する (6) 負帰還増幅回路を学習する		6.0		
2. 発振回路	(1) 発振回路の基礎を学習する (2) 帰還発振回路を学習する (3) 負性抵抗発振器、圧電形を学習する (4) 位相同期発振回路を学習する (5) 周波数シンセサイザを学習する		5.0		
3. 変調及び復調	(1) 振幅変調を学習する ア. 変調の原理 イ. 変調回路の種類 (2) 振幅変調の復調回路を学習する (3) 単側波帯変調と復調を学習する (4) 角度変調を学習する ア. 周波数変 イ. 位相変調 (5) 周波数変調の復調回路を学習する		6.0		
II 電源及び周辺機器					
1. 電源回路	(1) 変圧器を学習する (2) 整流平滑回路を学習する (3) 直流電圧安定化電源を学習する (4) 無停電電源を学習する (5) 電池を学習する		5.0		

無線機器学

授業項目	要点	時限	備考
Ⅲ AM送受信機			
1. DSB送信機	(1) 変調方式と変調理論を学習する (2) 終段(コレクタ)変調器の計算を学習する (3) 低電力変調、PDM変調(D級増幅器)を学習 (4) 送信機の構成と各部の動作概要を学習する (5) 送信機が備えるべき条件を学習する ア. 許容偏差・占有周波数帯幅 (6) スプリアスと防止対策を学習する ア. 高調波・低調波・寄生発射・相互変調積	5.0	
2. DSB受信機	(1) 受信機の構成と各部の動作概要を学習する (2) 受信機が備えるべき条件を学習する ア. 感度・選択度・安定度・忠実度・雑音・スプリアスレスポンス イ. 近接周波数選択度 (3) 感度低下の原因を学習する (4) 混信妨害等を学習する ア. 映像周波数・近接周波数による混信 イ. 感度抑圧効果 ウ. 相互変調 エ. 混変調 (5) 中間周波増幅器を学習する (6) AM検波回路の種類と特徴を学習する (7) 検波効率と検波出力の計算を学習する	4.0	
3. SSB送受信機	(1) SSBの種類と概要を学習する (2) SSB送信機の構成と動作概要を学習する (3) SSB受信機の構成と動作概要を学習する (4) AMステレオ放送を学習する	2.0	
Ⅳ. FM送受信機			
1. FM送信機	(1) 直接・間接周波数変調を学習する ア. FM送信機で逡倍を使う理由 イ. AM送信機で逡倍を使わない理由 (2) IDCとエンファシスを学習する (3) FM(間接)送信装置の構成と動作概要を学習	3.0	
2. FM受信機	(1) FM受信装置の構成と動作概要を学習する (2) FM受信装置の付属回路を学習する ア. リミッタとキャプチャー効果 雑音改善度(三角雑音) イ. 検波器の種類と特徴 位相比較器とクワドラチャ検波 ウ. AGC、スケルチ・ミュートイング エ. AFC (3) FMとAM方	4.0	
3. FMステレオ放送	(1) FMステレオ ア. 搬送波抑 イ. FM多重放送 ウ. FMステレオ受信機	1.0	

無線機器学

授業項目	要点	時限	備考
V デジタル無線通信			
1. 二値符号の伝送	(1) モールス・FSK・AFSK・MSK・GMSKを学習 (2) 位相変位変調方式(PSK)と直交振幅変調方式(QAM)を学習する	3.0	
2. 多重通信方式	(1) 周波数分割多重(FDM)、時分割多重(TDM)	2.0	
3. PCM-PSK	(1) ベースバンド変調方式の概要を学習する (2) パルス符号変調(PCM)を学習する ア. 構成と概要 イ. 高能率PCM ウ. 伝送パルス符号の形式 (3) PSK変調(無線周波数帯)を学習する ア. リング変調器(DBM) イ. QPSK変調器 ウ. 16QAM変調器 (4) PSK復調を学習する ア. PSK復調器の構成 イ. 基準搬送波の作成 ウ. クロックパルスと識別器 (5) PCM-PSK送受信機を学習する ア. DPSK変調 (6) PCM-PSK(時分割)多重送受信機を学習 ア. 直並列変換器 イ. TDM用チャンネルパルス発生器 ウ. サークュレータ	6.0	
VI 中継方式			
1. 中継方式の概要	(1) 中継方式の種類を学習する (2) フェージング補償を学習する ア. ダイバシティ イ. 自動等化器	2.0	
2. パルス技術	(1) パルスの波形と性質を学習する (2) アイダイアグラム(アイパターン)、ジッタを学習	2.0	
3. スペクトラム 拡散通信	(1) スクランブルを学習する (2) SS方式の種類と特徴を学習する ア. 直接拡散(DS) イ. 周波数ホッピング(FH) ウ. 時間ホッピング(TH) エ. チャープ(パルス化FM)	2.0	
4. 衛星通信方式	(1) 多元接続の概要を学習する ア. 時分割多元接続 (TDMA) イ. 周波数分割多元接続(FDMA) ウ. 符号分割多元接続 (CDMA,SSMA) エ. 空間分割多元接続 (SDMA) (2) 衛星搭載中継器の種類と構成を学習する (3) 実効輻射電力(EIRP)と性能指数(G/T)を学習 (4) GPS測位の概要を学習する	4.0	

無線機器学

授業項目	要点	時限	備考
5. 移動体通信	(1) 移動体通信の概要を学習する ア. 2G、3G、4G携帯電話 イ. Bluetooth ウ. 無線LAN エ. WiMAX (IEEE802.16)	4.0	
VII テレビジョン			
1. テレビ放送	(1) デジタルテレビ放送を学習する (2) 地上波デジタルテレビ放送の特徴を学習する (3) 地上波デジタルテレビ放送の方式を学習する (4) 衛星デジタルテレビ放送の方式を学習する (5) デジタル信号処理を学習する ア. 動き補償予測符号化 イ. 変換符号化 (DCT) ウ. 可変長符号化 (6) 変調方式の概要を学習する ア. TC8PSK イ. QAM ウ. シンボル間干渉 エ. マルチキャリア伝送 (7) 直交周波数多重変調方式の原理を学習する ア. OFDM イ. IFFTとFFT ウ. ガードインターバル (8) 復調方式の概要を学習する ア. インターリーブ イ. 畳み込み符号 ウ. リードソロモン符号 (9) セグメント ワンセグを学習する	6.0	
VIII 電波航法装置			
1. 電波航法装置	(1) 電波航法装置の概要を学習する (2) レーダー方程式を学習する (3) 速度測定用レーダーを学習する	5.0	
IX 無線機器に関する測定			
1. 測定	(1) 送信機に関する測定を学習する (2) 受信機に関する測定を学習する	4.0	
2. 測定機器	(1) 高周波測定用機器を学習する (2) 送受信機測定用機器を学習する (3) マイクロ波帯測定機器を学習する	4.0	
X 評価		6.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
空中線理論 及び電波伝搬	空中線	学科	専門科目	電子科教官	87 1年次 40時限 2年次 47時限
教科書			使用教室	使用機材等	
1・2陸技受験教室(3) 無線工学B 1陸技無線工学B アンテナと電波伝搬完全マスター 教官作成資料			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目(無線工学概論)。 無線従事者国家試験に必要な科目。 給電線理論から測定までの基本的な原理や電波の分類及び伝搬様式の考え方を学習する。					
受講の前提条件					
数学、応用数学、物理学、電気磁気学を履修していること。					
到達目標					
空中線、給電線、並びに各種空中線の理論を理解し、無線施設の各種空中線並びに給電線について説明することができる。 電波伝搬の基礎理論を理解し、無線施設から放射される電波特性について説明することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 概 要	(1) 空中線及び給電線について学習する (2) 電波伝搬及び電波雑音について学習する			1.0	
2. 給電線理論	(1) 分布定数回路を学習する ア. 分布定数回路の基本式 イ. 反射係数、定在波比、反射損、伝送効率 ウ. 共振線路 (2) 給電線を学習する ア. 同軸ケーブル イ. 平行2線式給電線 ウ. 導波管 エ. 平面線路 (3) 整合回路を学習する (4) ダイプレクサ、バランを学習する			27.0	
3. 空中線理論	(1) ポインティング電力を学習する (2) 微小ダイポールを学習する (3) 線状アンテナを学習する (4) 半波長ダイポールを学習する (5) 接地アンテナを学習する (6) 空中線利得と指向特性を学習する (7) 電力の伝達、フリスの伝達公式を学習する (8) 伝搬損失を学習する			23.0	
4. 電波伝搬	(1) 地上波伝搬を学習する ア. 地上波の性質 イ. 直接波と大地反射波 ウ. 電界強度 エ. 回折波 オ. フレネルゾーン			12.0	

空中線理論及び電波伝搬

授業項目	要点	時限	備考
	(2) 対流圏伝搬を学習する ア. 対流圏の性質 イ. 大気の屈折率、スネルの法則 ウ. 見通し距離 エ. ラジオダクト、M曲線 オ. 対流圏散乱波 カ. 対流圏内の減衰と偏波特性 キ. 対流圏のフェージング (3) 電離層伝搬を学習する ア. 電離層の生成 イ. 電離層の構成 ウ. 正割法則、MUF、伝送曲線 エ. 電離層における屈折 オ. 電離層における減衰 カ. 周波数帯による伝搬の性質 キ. 電離層伝搬にみられる諸現象		
5. 電波雑音	(1) 電波雑音を学習する (2) 雑音強度の表示法を学習する (3) 等価雑音温度を学習する	2.0	
6. 空中線の実際	(1) 長中波帯の空中線を学習する (2) 短波帯の空中線を学習する (3) 超短波帯の空中線を学習する (4) マイクロ波帯の空中線を学習する	12.0	
7. 測 定	(1) 空中線の測定を学習する (2) 給電線の測定を学習する (3) 電波環境を学習する	5.0	
8. 評 価		5.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
無線工学演習Ⅱ (工学A・B)	無工演習Ⅱ	学科	専門科目	電子科教官	30
教科書			使用教室	使用機材等	
無線従事者国家試験問題解答集 第一級陸上無線技術士 第二級陸上無線技術士			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
無線従事者国家試験に必要な科目。 無線工学A・Bの演習をする。					
受講の前提条件					
無線機器学・空中線理論及び電波伝搬を履修していること。					
到達目標					
無線工学A・Bの演習問題を解くことができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 無線工学Aの演習と解説	(1) 無線機器の基礎を演習する。		1.0		
	(2) 電源及び周辺機器を演習する。		1.0		
	(3) AM送受信機を演習する。		1.0		
	(4) FM送受信機を演習する。		1.0		
	(5) デジタル無線通信を演習する。		2.0		
	(6) 中継方式を演習する。		2.0		
	(7) テレビジョンを演習する。		2.0		
	(8) 電波航法装置を演習する。		1.0		
	(9) 無線機器に関する測定を演習する。		1.0		
	(10) 総合演習をする。		2.0		
2. 無線工学Bの演習と解説	(1)電波の基礎の演習をする。		2.0		
	(2)アンテナの実際の演習をする。		2.0		
	(3)給電線の演習をする。		2.0		
	(4)電波伝搬の演習をする。		2.0		
	(5)給電線・アンテナの測定の演習をする。		2.0		
	(6)総合演習をする。		4.0		
3. 評価	(1) 無線工学A分野		1.0		
	(2) 無線工学B分野		1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
情報ネットワーク理論・演習	情ネ	学科	専門科目	電子科教官	28
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料 (Aeronautical Internet Protocol Network (AIPN) Maintenance) マスタリングTCP/IP入門編第5版 3分間ネットワーク基礎講座			自教室 LL教室等	☑校務情報システム ☑IPシミュレーター式	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目(情報処理基礎)。 ICAO標準訓練パッケージ(STP)認定科目。					
受講の前提条件					
情報通信理論を履修していること。					
到達目標					
国内および国際標準と同じIPネットワークである航空IPネットワーク(AIPN)を効率的に維持するために必要な知識、技能、態度を身につける。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. AIPN概要および関連機器	(1) LANとWANを学習する (2) LANの必要性を学習する (3) LANの拡張機能を学習する (4) LANの特徴を学習する (5) WANの特徴を学習する		3.0		
2. AIPN障害時の初期対応	(1) 故障状況の把握方法について学習する (2) WAN障害時の対応について学習する (3) 冗長回線へのネットワーク変更について学習する (4) 関係者へのレポートについて学習する		3.0		
3. AIPN異常時のハードウェア確認	(1) クライアント/サーバPCの確認個所について学習する (2) ネットワークケーブルの確認個所について学習する (3) HUBの確認個所について学習する (4) ルータの確認個所について学習する (5) ネットワークデバイスの電源状況確認について学習する (6) AIPNのハードウェア状況確認について学習する (7) 適切なハードウェア復旧方法について学習する		4.0		
4. AIPN異常時のソフトウェア確認	(1) クライアント/サーバPCの確認個所について学習する (2) HUBの確認個所について学習する (3) ルータの確認個所について学習する (4) ネットワーク接続状態のコマンド確認について学習する (5) ネットワークセキュリティについて学習する (6) AIPNのソフトウェア状況確認について学習する (7) 適切なソフトウェア復旧方法について学習する		5.0		

情報ネットワーク理論・演習

授業項目	要点	時限	備考
5. AIPNのネットワーク状態確認	(1) プロトコルアナライザを使用したパケット取得方法について学習する ア. アナライズ結果の確認(PCの状態) イ. アナライズ結果の確認(HUBの状態) ウ. アナライズ結果の確認(ルータの状態) エ. アナライズ結果の確認(VoIPの状態) オ. アナライズ結果からのAIPNネットワーク状態評価 (2) 適切なネットワーク状態への復旧方法について学習する	4.0	
6. AIPNのフェイルバック	(1) ネットワークの導通チェック方法について学習する (2) ネットワークのフェイルバックについて学習する	3.0	
7. ネットワーク設計	(1) ネットワーク設計について概要を学習する (2) ネットワーク設計書に基づいてネットワークを設定する (3) ネットワーク設定書通りに動作するか試験する	4.0	
8. 評価		2.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
国内航空法規	国内法	学科	専門科目	管制科教官	12
教科書			使用教室	使用機材等	
航空法 航空保安業務従事者のための航空法の変遷			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目（電波法・航空法） 航空法に規定されている事項及び関係法規の概要並びに航空機の運航方法と航空保安施設との関係を学習する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
航空法に規定されている事項及び関係法規の概要並びに航空機の運航方法と航空保安施設との関係を習得し、説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 総 則	(1) 航空法の目的を学習する (2) 定義を学習する		1.0		
2. 空港等及び航空保安施設	(1) 航空路の指定を学習する (2) 空港等及び航空保安無線施設の管理基準を学習する		1.0		
3. 航空機の運航	(1) 出発前の確認を学習する (2) 飛行機の燃料を学習する (3) 飛行計画の通報及びその承認を学習する (4) 離着陸の場所を学習する (5) 航空交通の指示を学習する (6) 操縦者の見張り義務を学習する (7) 最低安全高度を学習する (8) 巡航高度を学習する (9) 気圧高度計の規正を学習する (10) 衝突予防等、進路権を学習する (11) 空港等附近の航行方法を学習する (12) 曲技飛行等を学習する (13) 操縦練習飛行等を学習する (14) 航空機の灯火を学習する (15) 計器飛行方式による飛行を学習する (16) 位置通報を学習する (17) 通信機故障の場合の航行を学習する (18) 航空機の航行の安全を確保するための装置を学習する (19) 輸送禁止の物件を学習する		5.0		
4. 機長報告の義務	(1) 航空機事故報告を学習する (2) 異常事態の報告を学習する (3) 異常接近の報告を学習する		0.5		

国内航空法規

授業項目	要点	時限	備考
5. 航空機の安全性	(1) 耐空証明を学習する (2) 修理及び改造検査を学習する	0.5	
6. 航空従事者	(1) 技能証明の種類を学習する (2) 受験資格を学習する (3) 申請手続等を学習する	0.5	
7. 航空運送事業	(1) 航空運送事業の種類を学習する	0.5	
8. 空港等内外における禁止、制限事項	(1) 空港等内の禁止行為を学習する (2) 機内持込み禁止物件を学習する (3) 飛行に影響を与える行為の禁止を学習する (4) 航空に危険を生じさせる行為等の処罰に関する法律を学習する (5) 航空機の強奪等の処罰に関する法律を学習する	2.0	
9. その他	(1) 外国航空機の運航等を学習する	0.5	
10. 評価		0.5	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
国際航空法規(概要)	国際法概	学科	専門科目	電子科教官	6
教科書			使用教室	使用機材等	
ICAO概論 教官作成資料			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目(電波法・航空法)。 国際法規の必要性、歴史及び国際民間航空条約及びその機関、航空管制技術業務に関連する基準及びガイダンスマテリアルを学習する。					
受講の前提条件					
電波法規、国内航空法規、CNS/ATM概論Ⅰ・Ⅱを履修していること。					
到達目標					
国際航空法規の必要性と、国際民間航空条約及びその機関の概要を説明できる。また、我が国の航空管制技術業務が参照する主要な国際基準及びガイダンスマテリアルについて、説明することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 概 説	(1) 航空の国際性と国際航空法規の必要性を学習する (2) 国際航空協定の歴史を学習する			1.0	
2. 国際民間航空条約 (シカゴ条約)	(1) 序説 (2) 条約の目的を学習する (3) 条約の原則と適用を学習する (4) 国際標準及び勧告方式を学習する (5) 国際民間航空条約条文を学習する			2.0	
3. 国際民間航空機関 (ICAO)	(1) ICAOの設立と目的を学習する (2) ICAOの構成・組織を学習する (3) ICAOと国際連合及びその他の国際機関との関係を学習する (4) 事業活動の概要を学習する (5) 財政について学習する			2.0	
4. 評価				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空気象概論	気象概論	学科	専門科目	管制科教官	9
教科書			使用教室	使用機材等	
航空気象入門 ずっと知りたかった飛行機の事情 AIM-J			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
一般的な気象及び航空機の運航に密接に関係する航空気象について学習する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
一般気象、航空気象、天気図、METAR及びTAFの解読について習得し、説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. パイロットに必要な気象情報	(1)最低気象要件を学習する (2)ILSカテゴリーとSSP体制を学習する		1.5		
2. 大気の性質	(1) 気圧の重要性を学習する (2) 気圧に及ぼす高度の影響を学習する (3) 飛行に関する高度の影響を学習する		1.0		
3. 大気循環の原因	(1) 低高度ウィンドシヤーを学習する		1.0		
4. 温度と湿度	(1) 飛行に関する気温の影響を学習する (2) 雲を学習する (3) 視程を学習する (4) 降水を学習する		1.5		
5. 気象観測	(1) 観測を学習する		1.0		
6. 航空気象通報	(1) 航空気象通報を学習する (2) 航空実況気象通報式(METAR、SPECI)を学習する		1.5		
7. 航空気象予報	(1) 飛行場予報気象通報式(TAF)を学習する (2) 飛行場警報と飛行場気象情報を学習する (3) 空域悪天情報(SIGMET)を学習する		1.0		
8. 評価			0.5		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
管制概論Ⅱ	管概Ⅱ	学科	専門科目	管制科教官	10
教科書			使用教室	使用機材等	
航空管制のはなし、AIM-JAPAN EN-ROUTE CHART 1-2 EN-ROUTE CHART3 管制方式基準			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目（管制概論） 管制方式基準、航空交通管理方式基準について、規則、運用方法を学習する。					
受講の前提条件					
航空管制概論Ⅰを履修していること。					
到達目標					
管制方式基準、航空交通管理方式基準について、規則、運用方法を習得し、説明することができる					
授業項目	要点			時限	備考
1. 総 則	(1) 航空管制業務の目的を学習する (2) 定義を学習する			1.0	
2. 管制方式基準	(1) 総則を学習する 目的及び適用、通則、気象情報、高度計規 正值、電話通信 (2) 計器飛行管制方式を学習する 管制承認等、管制間隔、特別有視界飛行方 式、出発機、巡航機、待機機、到着機、法第 94条の2第1項ただし書の許可、洋上管制、 ADS及びCPDLC (3) 飛行場管制方式を学習する 通則、管制許可等、管制間隔、地上走行、 出発機、到着機、可視信号、情報の提供、 空港面レーダー表示装置、タワーライトディス プレイ、航空機位置情報表示装置、飛行場灯火 (4) レーダー使用基準を学習する 通則、二次レーダー、レーダー識別、レー ダー誘導、レーダー移送、管制間隔、出発 機、到着機、視認進入、平行ILS進入、平行 ILS/精測レーダー進入、同時並行ILS進入、 RNAV進入、速度調整、レーダー進入、搜索 レーダー進入、精測レーダー進入、最終進 入の監視、TCAアドバイザー業務、補足業 (5) 緊急方式を学習する 通則、警急業務、管制方式			6.0	

管制概論Ⅱ

授業項目	要点	時限	備考
3. 航空交通管理方式基準	(1) 総則を学習する 目的及び適用、関係機関との調整等 (2) 航空交通流管理を学習する 通則、飛行計画経路の管理及び調整、管制承認及び管制指示、交通流制御 (3) 空域管理を学習する 通則、PACOTSの設定、民間訓練試験空域管理方式、国の航空機による空域使用調整、フライトレベル290以上の空域における飛行に関する調整	2.0	
4. 評価		1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空灯火電気施設業務概論	灯電概	学科	専門科目	特別研修科 教官 (灯電担当)	18
教科書			使用教室	使用機材等	
航空灯火電気施設業務概論(教官作成資料)			自教室 灯電実習室 LL教室等	☒ 校務情報システム ☒ 飛行場模型 ☒ 灯器 ☒ 受配電設備	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目(航空灯火・電気技術概論)。 航空管制技術官として必要な航空保安用電源システム及び航空灯火の概要を学習する。					
受講の前提条件					
CNS/ATM概論Ⅰを履修していること。					
到達目標					
航空管制技術業務に関連する航空灯火電気施設の電源種別、電気接続図、電気関係法規、航空灯火の種類及び航空灯火・電気技術官業務概要を説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空灯火電気施設業務	(1) 航空灯火電気施設業務とは (2) 航空灯火・電気技術官の業務		1.0	航空保安電源システム	
2. 航空保安用電源システム	(1) 航空保安用電源システムとは (2) 電気とは (3) 電気の危険性 (3-1) 電源障害事例(グループ討議) (4) 電源の供給方法 (5) システムの構成と特徴 (6) 構成機器と電気接続図の読み方 (6-1) 電気接続図の読み方演習 (7) 電気関係法規		6.0		
3. 評価1			1.0		
4. 停電作業	(1) 停電作業とは (2) 停電作業手順書の作成手法 (3) 停電作業の実施手順 (4) 各種測定 (5) 高圧機器の取扱実習(DS,VCB,LBS) (6) 安全対策実習(検電、放電、接地器具取付) (7) 測定機器の取扱実習(電圧、電流、温度、絶縁抵抗、接地抵抗)		5.0		
5. 航空灯火	(1) 航空灯火とは (2) 種類 (3) ガイダンス手法 (4) 飛行場灯火 ア. 位置表示灯火 イ. 進入灯火 ウ. 滑走路灯火 エ. 地上走行用灯火 オ. その他灯火 カ. 高カテゴリー灯火 キ. 航空障害灯 ク. 飛行検査		3.3	主要関連灯火限定	

航空灯火電気施設業務概論

授業項目	要点	時限	備考
6. 昼間障害標識	(1) 昼間障害標識とは (2) 種類 (3) 設置基準	0.7	
7. 評価2		1.0	航空灯火

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
管制情報処理システム 概論	管シ概	学科	専門科目	電子科教官	47
教科書			使用教室	使用機材等	
AIM-J 航空保安業務の概要(最新版) EN-ROUTE CHART1-2、3 専門用語集(CNS/ATM用語) 教官作成資料			自教室 第1統合システム実習室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目(管制情報処理システム概論)。 航空交通管制情報処理システムで使用する情報、およびシステム構成と機能を学習する。 航空交通管制情報処理システムの開発および危機管理について学習する。					
受講の前提条件					
CNS/ATM概論Ⅰ・Ⅱ、航空管制概論Ⅰ、運航情報業務概論、コンピュータシステム基礎Ⅰ・Ⅱを履修していること。					
到達目標					
航空交通管制情報処理システムで使用する情報、およびシステム構成と機能を説明できる。また、航空機の飛行フェーズにおける航空交通管制情報処理システム相互の係わりを説明できる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 航空管制と情報	(1) 航空交通管制の歴史を学習する (2) 航空交通業務を学習する (3) 管制で取り扱う情報を学習する (4) 管制情報のパターン化を学習する (5) 航空管制とコンピューター処理を学習する			3.0	
2. 飛行情報	(1) 飛行情報を学習する (2) 飛行情報を取り扱うシステムについて学習する			4.0	
3. 飛行計画	(1) 飛行計画について学習する (2) 飛行計画の入手について学習する			3.0	
4. 管制指示・管制承認	(1) 航空管制官が使う飛行計画情報について学習する (2) 時々刻々と変わる飛行計画について学習する			3.0	
5. 動態情報	(1) 位置情報と識別について学習する (2) 速度情報と追尾処理について学習する (3) 飛行計画と動態情報について学習する (4) 多重レーダー処理について学習する (5) マルチセンサについて学習する			6.0	
6. 管制移管とトラジェクトリ	(1) 管制移管について学習する (2) 4Dトラジェクトリについて学習する			3.0	
7. 航空交通管理	(1) 航空交通流管理の導入について学習する (2) 航空交通流管理について学習する (3) 空域管理について学習する (4) 情報の共有について学習する			5.0	
8. システムの実装	(1) システムの変遷について学習する (2) 統合管制情報処理システム概況について学習する (3) 運航とシステムについて学習する			6.0	

管制情報処理システム概論

授業項目	要点	時限	備考
9. システム開発と 危機管理	(1) システム開発と評価について学習する (2) 高信頼性システムの構築について学習する (3) 危機管理について学習する	3.0	
10. 校外研修準備・ 報告	(1) 校外研修について事前に学習する (2) 校外研修報告書を作成する	2.0	
11. 総合演習	(1) 学習したことについてまとめる (2) まとめたことを発表する	7.0	
12. 評価		2.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空通信システム理論	通信理論	学科	専門科目	電子科教官	36
教科書			使用教室	使用機材等	
航空通信システム基礎理論 教官作成資料(ディジタル伝送・交換技術) CNS／ATM基礎 専門用語集(CNS／ATM用語)			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目(航空通信システム概論)。 航空通信システムの各装置構成及び機能並びに運航との関わりを学習する。					
受講の前提条件					
無線機器学、CNS／ATM概論Ⅰ・Ⅱを履修していること。					
到達目標					
航空通信システムの基本的な装置構成及び機能について説明することが出来る。また、運航との関わりについて、説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空通信システムの概要	(1) 航空通信システムの目的を学習する (2) 航空通信の構成を学習する (3) 航空通信システムの設置される位置関係を学習する (4) 関係法令を学習する		10.0		
2. 対空通信及び管制電話通信の機能概要	(1) 対空通信操作及び機能について学習する (2) 管制電話操作及び機能について学習する (3) 航空保安情報ネットワーク(Cas.net)の概要について学習する		10.0		
3. 航空無線通信の管理知識	(1) 対空通信方式による分類について学習する (2) 対空通信の送信機の構成について学習する (3) 対空通信の受信機の構成について学習する (4) 管理方式について学習する (5) 総合通信検査受験方法について学習する		13.0		
4. データリンクシステム	(1) VHFデータリンクを学習する ア. ACARS イ. VDL (2) DLCSを学習する (3) 現行のデータリンクサービスを学習する (4) 性能準拠型通信・監視(PBCS)の概要を学習する (5) 将来のデータリンクを学習する (6) 将来の航空通信ネットワークを学習する		2.0		
5. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航法システム理論	航法理論	学科	専門科目	電子科教官	44
教科書			使用教室	使用機材等	
VOR基礎理論 タカン基礎理論 教官作成資料			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目（航法システム概論） 航法システムの原理、装置構成及び機能、並びに航空航法の概要について学習する。					
受講の前提条件					
CNS/ATM概論Ⅰ・Ⅱを履修していること。					
到達目標					
航法システムの原理、基本的な装置構成及び機能について説明することができる。航空航法の概要を示すことができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 航空航法の概要	(1) 航法の基礎知識を学習する (2) AIPチャートの記載内容を学習する (3) VOR/DME受信機(航空機の利用形態)を学習する (4) 性能準拠型航法(PBNコンセプト)を学習する (5) 関連法令の規定を学習する			8.0	
2. VORの原理と信号	(1) VORの方位測定原理を学習する (2) VORの信号を知る (3) DVORが送信する信号を知る (4) VORの空間変調を学習する			8.0	
3. DVORの空中線	(1) 送信空中線の構成を学習する (2) カウンターポイズの役割を学習する (3) モニタ空中線の配置と監視項目を学習する			1.0	
4. DVORの装置構成と機能	(1) 送信部の構成と機能を学習する (2) ディストリビュータ部の構成と機能を学習する (3) モニタ部の構成と機能を学習する (4) 制御部、遠隔監視系の構成と機能を学習する			5.0	
5. TACAN/DMEの原理と信号	(1) TACANの方位測定原理を学習する (2) DMEの距離測定原理を学習する (3) TACAN(DME)に必要な信号を学習する (4) 放射パターンと可変方位信号について学習する			5.0	
6. TACAN/DMEの空中線	(1) TACAN空中線の構成を学習する (2) DME空中線の構成を学習する			1.0	

航法システム理論

授業項目	要点	時限	備考
7. TACAN/DMEの 装置構成と機能	(1) 受信部の構成と機能を学習する (2) レシーバ・コーダ部の構成と機能を学習する (3) 送信部の構成と機能を学習する (4) 空中線と空中線制御部の構成と機能を学習する (5) モニタ部の構成と機能を学習する (6) 制御部、遠隔制御監視系の構成と機能を学習する	7.0	
8. VOR/TACANの 飛行検査	(1) VOR/TACANの飛行検査内容を学習する (2) 飛行検査で使用する用語を学習する	2.0	
9. GNSSの概要	(1) GNSS測位原理を学習する (2) ABAS、SBAS、GBASを学習する	4.0	
10. 評価		3.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
着陸システム理論	着陸理論	学科	専門科目	電子科教官	30
教科書			使用教室	使用機材等	
ILS基礎理論 AIM-J 教官作成資料			自教室 第1統合システム実習室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目（着陸システム概論）。 着陸システムの原理、装置構成及び機能並びに運航との関わりを学習する。					
受講の前提条件					
CNS/ATM概論Ⅰ・Ⅱを履修していること。					
到達目標					
着陸システムの原理、基本的な装置構成及び機能について説明することができる。また、運航との関わりについて、説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 着陸システムの概要	(1) 着陸システムの目的を学習する (2) ILSの構成を学習する (3) 滑走路とILS関連用語を学習する (4) 関係法令を学習する		3.0		
2. 航空機の着陸に必要な情報	(1) 着陸進入を学習する (2) アプローチチャートを学習する (3) 進入方式を学習する (4) ILSカテゴリーを学習する (5) ILS機上装置を学習する		9.0		
3. ILSコース	(1) ILSコース概要を学習する (2) 空間変調理論を学習する (3) LOCコースと電波を学習する (4) GSコースと電波を学習する (5) TDPまでの距離を学習する		10.0		
4. ILSの装置構成と機能	(1) ILSシステム総合システムを学習する (2) LOC装置構成と機能を学習する (3) GS装置構成と機能を学習する (4) マーカー装置の構成と機能を学習する (5) T-DME装置の概要を学習する (6) 電源設備とILSを学習する		6.0		
5. 評価			2.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
監視システム理論	監視理論	学科	専門科目	電子科教官	49
教科書			使用教室	使用機材等	
一次レーダー基礎理論 二次レーダー基礎理論 教官作成資料			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目(監視システム概論)。 監視システムの原理、装置構成及び機能について学習する。					
受講の前提条件					
CNS/ATM概論Ⅰ・Ⅱを履修していること。					
到達目標					
監視システムの概要及び用語について説明することができる。また、原理や装置構成及び機能について述べることができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 監視システムの概要	(1) 航空交通管制業務とレーダーの関係を学習する		1.0		
2. レーダーの基礎知識	(1) 航空用レーダーの一般的なシステム構成と原理を学習する (2) レーダーの関連用語を学習する (3) レーダーに要求される性能を学習する		2.0		
3. 一次レーダー(ASR・ARSR)の原理	(1) 長短複合パルス方式を学習する (2) レーダーを取り巻く電波環境を知る (3) 目標を抽出するための機能を学習する		4.0		
4. 一次レーダー(ASR・ARSR)の空中線	(1) 空中線の指向性を学習する (2) 空中線装置の構成と機能を学習する (3) 接続導波管の構成と機能を学習する		2.0		
5. 一次レーダー(ASR・ARSR)の装置構成と機能	(1) 送信系統の構成と機能を学習する (2) 受信系統の構成と機能を学習する (3) 信号処理盤の機能を学習する (4) 制御監視装置の機能を学習する (5) 保守用指示器の構成を学習する		5.0		
6. その他一次レーダーの装置構成と機能概要	(1) ASDEを学習する (2) PARを学習する (3) 各種一次レーダーの諸元を比較する		2.0		

監視システム理論

授業項目	要点	時限	備考
7. 二次レーダー (ATCRBS)の原理	(1) 一次レーダーとの相違点を学習する (2) SSR(ATCRBS)の質問信号、応答信号を学習する (3) 保守用指示器の表示を学習する (4) 二次レーダーの機能低下要因を学習する	6.0	
8. 二次レーダーの 空中線	(1) SSR空中線の種類と構成を学習する (2) 垂直面指向性および水平面指向性を学習する (3) SLSとISLSを学習する (4) RSLsとモノパルス測角を学習する	5.0	
9. 二次レーダー (モードS)の原理	(1) ATCRBSとの相違点を学習する (2) SSR(モードS)の質問信号および応答信号を学習する (3) SSR(モードS)の運用形態を学習する (4) SSR(モードS)が送受する情報を調べる (5) ACASの概要とACAS情報の利用状況を学習する	6.0	
10. 二次レーダーの 装置構成と機能	(1) RPMの機能を学習する (2) 送受信機盤の構成と機能を学習する (3) 信号処理盤の構成と機能を学習する (4) 制御監視装置の機能を学習する	4.0	
11. 伝送装置の概要	(1) OCEの概要を学習する (2) RMLの概要を学習する (3) DRDEの概要を学習する	1.0	
12. MLATの測位原理と装置構成	(1) 基本原理を学習する (2) 装置の構成を学習する (3) 機能概要を学習する	3.0	
13. その他監視システムの概要	(1) その他監視システムの概要を学習する	5.0	
14. 評価		3.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
CNS/ATM総合	CNS総	学科	専門科目	電子科教官	36
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料			自教室 各CNS実習室 管制科・情報科実習室	☑校務情報システム ☑各実習器材	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目(CNS/ATM概論)。航空保安業務における通信・航法・監視システム及び航空交通管制情報処理システムの役割と業務連携について学習する。					
受講の前提条件					
CNS/ATM概論Ⅰ・Ⅱを履修していること。					
到達目標					
通信・航法・監視システム及び航空交通管制情報処理システムの目的と航空機の運航に与える影響について説明できる。各システムの運用と航空管制技術官の役割について説明できる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 航空保安業務との連携	(1) 航空保安業務と各システムの関係を学習する ア. 管制業務との関係 イ. 運航情報業務、管制通信業務、航空情報業務との関係			10.0	評価2回 レポート
2. 運用演習	(1) 各システムの運用状態把握について学習する ア. 装置の表示による状態把握 イ. 測定器を使用した状態把握 (2) 各システムの運用と航空管制技術官の役割			8.0	
3. 評価	前項に含む			18.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
管制技術業務論	管技業務	学科	専門科目	電子科教官	54
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料			自教室 第1統合システム実習室等	☒ 校務情報システム ☒ 積算システム ☒ ORM端末 ☒ MALCO	
位置づけ					
航空管制技術官が実施する技術管理業務、信頼性技術管理業務及び運用業務並びにこれらにかかる規則等の基本的な内容を学習する。					
受講の前提条件					
CNS/ATM概論Ⅰ・Ⅱを履修していること。					
到達目標					
航空管制技術官として技術管理業務を行う上で必要な、組織形態、予算制度、工事、物品管理等、及び運用業務を行う上で必要な規則、業務文書、運用基準、保守基準等並びに信頼性技術管理業務の基本的な内容を習得し、各業務の実施について説明することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 法令	(1) 管制技術業務に関わる法令の体系を学習する (2) 航空保安業務処理規程を学習する			3.0	
2. 行政組織	(1) 国土交通省組織を学習する			1.0	
3. 管制技術業務の概要	(1) 航空管制技術官の所掌業務を学習する			1.0	
4. 予算及び会計	(1) 予算の編成を学習する (2) 社会資本整備事業特別会計を学習する (3) 会計検査を学習する (4) 空港・航空路整備を学習する			2.0	
5. 技術管理業務	(1) 施設原簿、回線原簿を学習する (2) 管理月報を学習する (3) 災害対策を学習する (4) 無線局検査を学習する (5) 飛行検査を学習する (6) 無線関係施設の維持管理を学習する (7) 物品、国有財産を学習する (8) APPSを学習する (9) 航空無線工事を学習する (10) 航空無線工事について演習する (11) 管制技術業務実施細目の管理関係を学習する (12) CADソフトの機能概要を学習する			17.0	
6. 信頼性技術管理	(1) 信頼性技術管理の必要性和特性を学習する (2) 無線関係施設の構成単位を学習する (3) 障害の種類と原因を学習する (4) 施設の運用と信頼性の計測を学習する (5) 障害の解析と故障の予知を学習する (6) 施設の改善及び変更を学習する (7) 運用及び保守の改善を学習する			5.0	

管制技術業務論

授業項目	要点	時限	備考
7. 運用基準	(1) 運用の方針、開始、方法を学習する (2) 障害の処理、復旧の優先順位を学習する (3) 運用状態の変更、運用の停止を学習する (4) 回線管理、ノータムの発行等を学習する (5) 試験電波発射に係る措置を学習する	6.0	
8. システム統制等	(1) システム統制の方針を学習する (2) システム統制の実施を学習する (3) ネットワーク運用調整の方針を学習する (4) ネットワーク運用調整の実施を学習する (5) 緊急保守の実施を学習する (6) 連絡調整を学習する	4.0	
9. 保守基準	(1) 定期保守と緊急保守の実施を学習する (2) 保守の方法と点検を学習する (3) 調整及び修理を学習する	3.0	
10. 保守要領	(1) 定期保守、緊急保守の実施を学習する (2) 調整、修理、試験を学習する	1.0	
11. 文書管理	(1) 行政文書の管理を学習する	1.0	
12. 特別講義	(1) APPSの業務を学習する (2) 無線関係施設の整備を学習する (3) 航空保安無線施設に対する雪害と雷害の対策を学習する (4) 本省・地方航空局管制技術課の業務を学習する	1.0 2.0 2.0 1.0	TMC 大阪局 東京局 本省
13. 校外研修準備・報告書作成	(1) 校外研修準備・報告書作成をする	4.0	
14. 評価	(1) 前項により評価する。		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
ORM概論	ORM	学科	専門科目	電子科教官	16
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料			自教室	☑校務情報システム ☑ORM端末	
位置づけ					
ORMシステムの構成、機能等を学ぶとともに、ORM機能の監視制御系および業務系機能の概要について学習する。					
受講の前提条件					
CNS/ATM概論Ⅰ・Ⅱを履修していること。					
到達目標					
ORMシステムの機能及び構成の概要を説明することができる。監視制御系および業務系機能の概要について説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. ORM概論	(1) ORMシステムの概要を学習する (2) ORMシステムの装置構成と機能を学習する (3) ネットワーク構成を学習する		3.0		
2. ORM機能	(1) 業務系の機能を学習する (2) 監視制御系の機能を学習する		2.0		
3. 遠隔監視制御理論	(1) 遠隔監視の構成、役割を学習する (2) 計測・監視制御の概要を学習する		1.0		
4. 演習	(1) ORM業務系の演習 (2) ORM監視制御系の演習		8.0		
5. 評価			2.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
飛行検査概論	飛行検査	学科	専門科目	電子科教官	8
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料（飛行検査の概要）			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
飛行検査の概要を習得することにより、航空保安無線施設等の重要性を認識させると共に、その適切な維持管理について学習する。					
受講の前提条件					
CNS/ATM概論Ⅰ・Ⅱ、管制技術業務論、航空機概論を履修していること。					
到達目標					
航空保安無線施設の維持管理に必要な飛行検査業務全般の基礎知識を習得し、それを説明できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 飛行検査の定義	(1) 飛行検査の定義について学習する		0.5		
2. 飛行検査の必要性	(1) 技術的必要性について学習する (2) 飛行検査に係る航空法、国際民間航空条約第10付属書等について学習する (3) 飛行検査規程について学習する		0.5		
3. 飛行検査の種類及び回数等	(1) 飛行検査対象施設の種類について学習する (2) 飛行検査対象施設数について学習する (3) 飛行検査の種類について学習する (4) 飛行検査の優先順位について学習する (5) 飛行検査回数について学習する		1.0		
4. 飛行検査等の項目及び許容値	(1) 下記の航空保安施設について検査項目及び許容基準を学習する ア. VOR、DME及びVOR/DME イ. TACAN及びVORTAC ウ. ILS エ. 航空灯火 オ. 空港監視レーダー、航空路監視レーダー、洋上航空路監視レーダー等 カ. 精密進入用レーダー キ. 航空通信施設 ク. RNAVに用いる航空保安施設等		3.0		
5. 特別講義	(1) 飛行検査業務を学習する		2.0	飛行検査センター	
6. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
信頼性技術理論	信頼性	学科	専門科目	電子科教官	12
教科書			使用教室		使用機材等
おはなし信頼性 教官作成資料			自教室 第1統合システム実習室等		☒ 校務情報システム
位置づけ					
信頼性の必要性等を理解し、信頼性の一連の流れを学習する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
使用中に故障しないものを作る方法、または故障しても容易に修復できるものを作る方法について、具体的な計測手法を用いて説明が出来る。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 信頼性概要(序論)	(1) 信頼性の概要を学習する (2) 信頼性の定義を学習する (3) 望まれる信頼性を学習する		1.0		
2. 信頼性の尺度	(1) 見える化を学習する (2) 信頼度を学習する (3) MTBF、MTTR、MTTFを学習する (4) 故障率を学習する		2.0		
3. 故障	(1) 故障の概要を学習する (2) 故障の分類を学習する (3) バスタブ曲線を学習する (4) ケーススタディをする		3.0		
4. 信頼性技術	(1) 信頼性技術の概要を学習する (2) 信頼性技術の導入方法を学習する		1.0		
5. 信頼性設計	(1) 信頼性設計概要を学習する (2) 設計手法を学習する (3) 信頼度の予測を学習する		2.0		
6. 信頼性管理	(1) マネジメントを学習する (2) 信頼性の管理を学習する (3) 航空交通業務とマネジメントを学習する		2.0		
7. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
ヒューマンファクターⅡ	HFⅡ	学科	専門科目 合同授業	特任教官	9
教科書			使用教室	使用機材等	
ヒューマンエラーの科学			合同教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
ヒューマンファクターに関する基礎概念を学習する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
ヒューマンファクターに関する基礎概念と、日常の航空保安業務における安全意識の向上及びその実践方法を習得し、説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. ヒューマンファクターとは何か	(1) 定義を学習する (2) 航空におけるヒューマンファクターを学習する (3) 事故要因としてのヒューマンファクターを学習する		1.0		
2. 人間の強さと弱さ	(1) 人間(脳)の特性を学習する (2) 能力と限界を学習する (3) 能力阻害要因を学習する (4) 行動パターンを学習する		1.0		
3. ヒューマンエラー	(1) 人間のエラーの定義を学習する (2) 分類を学習する (3) エラー誘発要因を学習する (4) 組織エラーを学習する		2.0		
4. コンピュータと人間	(1) コンピュータの長所と短所を学習する (2) 人間の長所と短所を学習する (3) 自動化システムにおけるコンピュータと人間の役割分担(ヒューマンセンタースステムの必要性)を学習する (4) HMIを学習する		1.0		
5. ヒューマンエラーの分析方法	(1) 分析モデルと分析手法を学習する (2) 分析実習を学習する		2.0		

ヒューマンファクターⅡ

授業項目	要点	時限	備考
6. 安全への取り組み	(1) 安全情報の活用を学習する (2) ハインリッヒの法則を学習する (3) 危険因子の検出と予防安全を学習する (4) 安全文化を学習する	1.0	
7. 評 価		1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
安全管理論	安全管理	学科	専門科目	電子科教官	10
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料			自教室 LL教室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空保安業務安全管理規程に規定されている安全管理システム(SMS)の概要を学習する。航空保安職員に必要な安全対応に関する基本的な知識を学習する。					
受講の前提条件					
ヒューマンファクターⅠ・Ⅱ、信頼性技術理論、航空法関連科目(国内法、国際法)、航空保安業無関連科目(CNS/ATM専門各科目、管制技術業務論、飛行検査概論、航空管制概論、運航情報業務概論、航空灯火・電気技術業務概論)を受講していること。					
到達目標					
事故やインシデントに対し、ヒューマンファクターの見地から、安全についての姿勢をもち、対策検討にかかる取り組みを行える。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 安全管理システム	(1) 安全管理システムの概要を学習する ア. 事故やインシデントの発生のメカニズム イ. ヒューマンエラー ウ. 安全管理の取り組み エ. 安全文化 (2) 安全分析・安全研究を学習する ア. 再発防止策 イ. 事故原因究明 (3) 原因究明指向型の対策検討を学習する ア. 分析手法とその方法 イ. ケーススタディ		6.0	授業内で実施	
2. リスクとハザード	(1) リスクを学習する ア. リスクの発見と認識 イ. ハザードマップ ウ. ハザードマップ作成 エ. レポート作成		4.0		
3. 評価	発表及びレポート				

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空衛星システム概論	衛星概論	学科	専門科目	航空電子科教官	10
教科書			使用教室		使用機材等
教官作成資料			自教室		□校務情報システム
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目（航空衛星システム概論）。人工衛星の概要及び航空衛星システムの仕組みと役割について学習する。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
人工衛星、衛星通信技術及び航空衛星システムの概要を理解し、説明することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 人工衛星及び衛星通信の概要	(1) 衛星及び衛星通信の特徴を学習する			2.0	
2. 航空衛星システム	(1) 測位衛星と誤差の要因について学習する (2) 各衛星航法補強システムにつて学習する (3) データリンクについて学習する			7.0	
3. 評価				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
公務員教養	公務教養	学科	専門科目	有識者・幹部等 総務課 教務課 電子科教官	67.6
教科書			使用教室	使用機材等	
講師作成資料			合同教室 教室 体育館 グラウンド	☑校務情報システム	
位置づけ					
公務員の使命と教養、特別講義、校外研修等多角的な研修を実施し、航空保安業務に携わる国家公務員としての人間形成を図る。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
なし。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 公務員の使命と供用	(1) 公務員教育をする (2)公務員教育課題討議をする		8.0 3.6	事務局 1時限×8 0.3時限×12	
2. 校長訓話	(1) 校長訓話(30分×4回)を聴講する		1.2		
3. 特別講義	(1) 専門教養 (2)一般教養(30分×5回、内1回ダイレクトー		7.0 1.5	有識者等7時限 0.3×5 幹部等	
4. 校外研修	(1) 現場学習		21.5	4.3時限×5	
5. オープンキャン	(1) オープンキャンパスに参加する(4時限+30分) (2) オープンキャンパス前日の準備をする(1時限+30分) (3) オープンキャンパス実行委員会の報告を受ける(30分×5回)		7.1	4.3時限 1.3時限 1.5時限	
6. 空の日	(1) 空の日に参加する(4時限+30分) (2) 空の前日目の準備をする(1時限+30分) (3) 空の日実行委員会の報告を受ける(30分×5回)		7.1	4.3時限 1.3時限 1.5時限	
7. 体育交流(5月)	(1) 体育大会に参加する(2時限+30分) (2) 体育大会実行委員会の報告を受ける(30分×3回)		3.2	2.3時限 0.9時限	
8. 体育大会(10月)	(1) 体育交流に参加する(30分) (2) 体育交流実行委員会の報告を受ける(30分×3回)		1.2	0.3時限 0.9時限	
9. 体育交流(2月)	(1) 体育大会に参加する(2時限+30分) (2) 体育大会実行委員会の報告を受ける(30分×3回)		3.2	2.3時限 0.9時限	
10. 消火防災訓練	(1) 消火防災訓練に参加する		2.0	1時限×2	
11. 学生試験内定者	(1)学生試験内定者学校見学会		1.0	1時限	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
科目演習 (学科)	科目演習	学科	専門科目	電子科教官	24
教科書			使用教室	使用機材等	
理科系の作文技術 30時間でマスター プレゼンテーション+powerpoint2007			自教室 各CNS実習室 基礎実験室	☒ 校務情報システム	
位置づけ					
業務上必要となる資格の取得、実習交流会の企画・開催、授業の補完等により学科の研修効果を高める。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
なし。					
授業項目	要点	時限	備考		
1. 無線従事者試験	(1) 陸上無線技術士の資格試験を受験する ア. 1陸・2陸無線工学A/午前・工学B/午後	8.0	4時限×2		
2. 学習交流	(1)実習交流会の開催(管制官へ実習紹介) (2)実習交流会の開催(情報科へ実習紹介)	3.0 1.0	1時限×3 1時限×1		
3. 補完授業等	(1) IT教育システムの活用による演習をする (2) 補完授業をする (3) その他	12.0			

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
電子基礎実験Ⅱ	電子実験Ⅱ	実技	電子実習	電子科教官	28
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料、1・2陸技受験教室(3)無線工学B 専修学校教科書シリーズ2 電気回路(2) 専修学校教科書シリーズ3 電子回路(1) 専修学校教科書シリーズ4 電子回路(2)			電子基礎実験室 グラウンド LL教室等	☑校務情報システム ☑電子基礎実験機材	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目(電子基礎実験)。 無線従事者国家試験に必要な科目(認定科目)。 電子工学の基礎理論について実験をとおして理解を深める。					
受講の前提条件					
アナログ/デジタル電子回路、電気電子計測、電子基礎実験Ⅰを履修していること。					
到達目標					
実験を行う回路及び装置について特徴を示し、説明する事ができる。また実験データを効果的にまとめ理論と関連させた報告書を作成する事ができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 実験に関する一般事項	(1) グラフ及び報告書の作成方法を学習する (2) 回路シミュレータを学習する		1.0		
2. アナログ系	(1) 演算増幅器(ICトレーナ)を学習する (2) 低周波増幅回路を学習する		4.3	2時限 2.3時限	
3. デジタル系	(1) デジタル回路(ICトレーナ)を学習する (2) A／D変換を学習する (3) D／A変換を学習する		6.9	2.3時限×3回	
4. 無線系	(1) 空中線指向特性及び電界強度を学習する (2) マイクロ波回路を学習する (3) AM受信機を学習する (4) 電波伝搬特性を学習する (5) パルス技術を学習する		11.5	2.3時限×5回	
5. 評価			4.3		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
情報処理実技	情報実技	実技	電子実習	電子科教官	18
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料 マスタリングTCP／IP入門編第5版 ゼロからわかるUNIX基礎講座			自教室 基礎実験室 LL教室等	☑校務情報システム ☑実習用PC ☑実習用ルータ ☑実習用HUB ☑LANケーブル	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目（情報処理実技）。					
受講の前提条件					
コンピュータシステム基礎Ⅰ、コンピュータシステム基礎Ⅱ、情報通信理論、情報ネットワーク理論・演習、Linux基礎実技、管制技術業務論、信頼性技術理論を受講し、資料を確認して説明できること。					
到達目標					
この科目では、航空管制サービスに必要な情報処理システムを安全に維持するために必要な知識、技能、態度の基礎を身につける。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 知識	(1) 維持に必要な知識として、以下について学習する。 ア. システム系統図 イ. システム構成群(端末、ノード、リンク等) ウ. 参考資料		4.0		
2. 技能	(1) 維持に必要な技能として、以下について学習する。 ア. 事前の準備作業 イ. 手順への理解および正確性 ウ. 事後の確認作業		10.0		
3. 態度	(1) 維持に必要な態度として、以下について学習する。 ア. 各作業における確認 イ. 改善箇所の提言 ウ. リスク管理した作業計画		3.0		
4. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
Linux基礎実技	Linux	実技	情報処理実習	特任教官	10
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料 ゼロからわかるUNIX基礎講座			第1統合システム実習室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制技術職員基礎試験科目(情報処理実技) コンピュータシステムにおいて重要な基本ソフトウェアであるオペレーティングシステムの機能、目的についてLinuxシステムの基礎コマンドを用いて学習する。					
受講の前提条件					
コンピュータシステム基礎Ⅰ・Ⅱを履修していること。					
到達目標					
Linuxシステムの基本コマンドを確認しながら操作できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. Linux基本コマンド操作	(1) Linux基本コマンドの操作を学習する ア. Linux標準教科書の基本的なコマンド イ. Viエディタ ウ. ユーザ権限とアクセス権		3.0		
2. シェルスクリプトプログラミング	(1) 算術演算、論理演算、その他の演算を学習する (2) 繰り返し、条件分岐を学習する (3) リダイレクト、パイプを学習する		6.0		
3. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
プログラミング実習	プロ実	実技	情報処理実習	特任教官	20
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料 教育版EV3・C言語生徒用授業ガイド 新C言語入門スーパービギナー編 新C言語入門シニア編			第1統合システム実習室	☑校務情報システム ☑マインドストームEV3	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目（情報処理実技）。ハードウェアとソフトウェアの関わり及びプログラミングの基礎を学習する。					
受講の前提条件					
コンピュータシステム基礎Ⅰ・Ⅱ、Linux基礎を履修していること。					
到達目標					
プログラムを設計し、ハードウェア及びソフトウェアを設計通りに動作させることができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 学習機材の操作概要	(1) 予備知識として、以下について学習する ア. 開発環境 イ. 開発言語 ウ. ライブラリ・機材動作		2.0		
2. プログラミング実習	(1) 例題プログラムを学習する (2) 課題プログラムを作成する (3) 自由課題プログラムを設計、作成する		16.0		
3. 評価	(1) 課題プログラム (2) 自由課題プログラム		2.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空通信システム実技	通信実技	実技	管制技術実習	電子科教官	24
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料			通信実習室 第1統合システム実習室等	☑校務情報システム ☑通信システム実習機材	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目（航空通信システム実技）。実習機材を用いて、航空通信システムの装置間のつながり、各装置の構成及び機能について理解を深める。また、操作方法及び点検方法を学習する。					
受講の前提条件					
航空通信システム理論を履修していること。					
到達目標					
手順書を確認しながら装置の基本的な操作及び点検ができる。操作及び点検結果から、航空通信システムの装置間のつながり、各装置の構成及び機能を説明することができる。また、各操作および点検が運用に与える影響について説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 通信制御装置 (CCS)	(1) 各装置の基本的な操作及び点検を行い、構成及び機能を学習する ア. 管制卓 イ. 音声交換装置 ウ. 保守処理装置		11.0		
2. 対空通信システム	(1) 各装置の基本的な操作及び点検を行い、構成及び機能を学習する ア. 送信装置 (TV/TU) イ. 受信装置 (RV/RU)		7.0		
3. 無線電話制御監視装置	(1) 各装置の基本的な操作及び点検を行い、構成及び機能を学習する ア. 保守局装置 イ. 送受信機選択装置 ウ. 計測端末		2.0		
4. 総合演習	(1) 各装置の構成及び機能について総合的に学習する (2) システム全体の信号の流れを総合的に学習する		3.0		
5. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航法システム実技	航法実技	実技	管制技術実習	電子科教官	24
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料			航法システム実習室	☑校務情報システム ☑航法システム実習機材	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目（航法システム実技）実習機材を用いて、航法システムの原理、各装置の構成及び機能について理解を深める。また、操作方法及び点検方法を学習する。					
受講の前提条件					
航法システム理論を履修していること。					
到達目標					
手順書を確認しながら装置の基本的な操作及び点検ができる。操作及び点検結果から、航法システムの原理、各装置の構成及び機能を説明することができる。また、各操作および点検が運用に与える影響について説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. VOR装置	(1) 各装置の基本的な操作及び点検を行い構成及び機能を学習する ア. 送信装置 イ. ディストリビュータ装置 ウ. モニタ装置 エ. 制御監視装置		11.0		
2. TACAN装置	(1) 各装置の基本的な操作及び点検を行い構成及び機能を学習する ア. トランスポンダ装置 イ. モニタ装置 ウ. 制御監視装置		11.0		
3. 総合演習	(1) VORおよびTACANの原理、各装置の構成及び機能		1.6		
4. 評価			0.4		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
着陸システム実技	着陸実技	実技	管制技術実習	電子科教官	24
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料			着陸システム実習室	☑校務情報システム ☑着陸システム実習機材	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目(着陸システム実技)。実習機材を用いて、ILSの原理、各装置の構成及び機能について理解を深める。また、操作方法及び点検方法について学習する。					
受講の前提条件					
着陸システム理論を履修していること。					
到達目標					
手順書を確認しながら装置の基本的な操作及び点検ができる。操作及び測定結果から、装置の機能や理論に基づいてILSの原理、各装置の構成及び機能を説明することができる。また、各操作および点検が運用に与える影響について説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. LOC装置	(1) 各装置の構成及び機能を学習する ア. 送信装置 イ. 動作監視装置		9.0		
2. GS装置	(1) 各装置の構成及び機能を学習する ア. 送信装置 イ. 動作監視装置		9.0		
3. 総合演習	(1) ILSの原理、各装置の基本的な構成及び機能について総合的に学習する		5.8		
4. 評価			0.2		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
監視システム実技	監視実技	実技	管制技術実習	電子科教官	24
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料			監視システム実習室	☑校務情報システム ☑監視システム実習機材	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空電子科研修に関する基礎試験科目(監視システム実技)。実習機材を用いて、監視システムの原理、各装置の構成及び機能について理解を深める。また、操作方法及び点検方法を学習する。					
受講の前提条件					
監視システム理論を履修していること。					
到達目標					
手順書を確認しながら装置の基本的な操作及び点検ができる。操作及び測定結果から装置の機能や理論に基づいて監視システムの原理、各装置の構成及び機能を説明することができる。また、各操作および点検が運用に与える影響について説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 一次レーダー装置	(1) 各装置の基本的な操作及び点検を行い、構成及び機能を学習する。 ア. 送信装置 イ. 受信装置 ウ. 接続導波管 エ. 制御監視装置 オ. 保守用指示装置		10.0		
2. 二次レーダー装置	(1) 各装置の基本的な操作及び点検を行い、構成及び機能を学習する。 ア. 送受信装置 イ. 制御監視装置		10.0		
3. MLAT装置	(1) GNSS受信機による点検を行い、測位精度について学習する。		1.0		
4. 総合演習	(1) 監視システムの原理、各装置の構成及び機能について総合的に学習する。		2.6		
5. 評価			0.4		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
科目演習 (実技)	科目演習	実技	管制技術実習	電子科教官	2
教科書			使用教室	使用機材等	
			各CNS実習室	☒ 校務情報システム ☒ 各CNS実習機材	
位置づけ					
実技にかかる授業の補完等により研修効果を高める。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
なし。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 補完授業等	(1) 実習室利用による演習をする (2) 補完授業をする (3) その他		2.0		

IV. 研修内容

7. 管制技術基礎

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空無線概論	航無概	学科	専門科目	電子科教官	12
教科書			使用教室	使用機材等	
航空無線工学概論 教官作成資料			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空管制技術基礎研修に関する基礎試験科目(航空無線概論)。研修に必要な航空無線の工学的基礎を学習する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
航空無線の工学的基礎について述べることができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 電気回路の基礎	(1) 工学に必要な数学を学習する (2) 直流回路を学習する ア. オームの法則 イ. キルヒホッフの法則 (3) 交流回路を学習する ア. 受動素子の働き(R,L,C) イ. インピーダンス、リアクタンス ウ. 共振現象 エ. 過渡現象		4.0		
2. 無線工学の基礎	(1) 半導体の基礎を学習する (2) 基本増幅回路を学習する (3) アナログとデジタルを学習する (4) デシベルを学習する (5) デジタル電子回路を学習する		3.0		
3. 無線機器学	(1) 増幅回路を学習する (2) 発振回路を学習する (3) 変調・復調回路を学習する (4) 電源回路を学習する		3.0		
4. 空中線及び電波伝搬	(1) 空中線を学習する (2) 電波伝搬を学習する		1.0		
5. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
情報処理基礎	情処基礎	学科	専門科目	電子科教官	10
教科書			使用教室	使用機材等	
マスタリングTCP/IP入門編 教官作成資料			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空管制技術基礎研修に関する基礎試験科目（情報処理基礎）。コンピュータの基礎理論、ハードウェア及びソフトウェアの基礎、ネットワークの基礎について学習する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
航空管制技術官として必要な情報処理の基礎知識を習得し、説明できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 情報の基礎理論	(1) データの表現と単位を学習する (2) 基数変換を学習する (3) 負の整数の表現を学習する (4) 文字データの表現を学習する (5) フローチャートを学習する		2.0		
2. ハードウェア	(1) コンピュータの構成要素を学習する (2) コンピュータの動作原理を学習する		1.0		
3. ソフトウェア	(1) ソフトウェアの種類を学習する (2) オペレーティングシステムを学習する		3.0		
4. ネットワーク	(1) コンピュータネットワークを学習する (2) OSI階層モデルを学習する		3.0		
5. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空法概論	航空法規	学科	専門科目	管制科教官	6
教科書			使用教室	使用機材等	
航空法 ICAO概論 教官作成資料			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空法の概要と航空保安施設等の管理運用及び航空機の運航に関する事項、国際航空法の必要性と国際民間航空条約付属書の概略を学習する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
航空法の概要を学ぶことにより、航空機の運航方法と航空保安施設との関わりが説明できる。国際航空法規の必要性と国際民間航空条約付属書の概略を示すことができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 航空法の概要	(1) 航空法の目的及び定義を学習する (2) 航空の国際性と国際航空法規の必要性を学習する (3) 国際民間航空機関(ICAO)を学習する (4) 条約付属書概説を学習する (5) 国際標準機関と各基準の概要を学習する (6) 空港等及び航空保安施設を学習する (7) 航空機の運航を学習する			5.0	
2. 評価				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
管制概論	管制概論	学科	専門科目	管制科教官	7
教科書			使用教室	使用機材等	
航空管制のはなし EN-ROUTE CHART1-2 EN-ROUTE CHART3			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空管制技術基礎研修に関する基礎試験科目(管制概論)。 航空管制業務の概要について学習する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
航空管制業務の概要を理解し、規則、運用方法の基礎知識を習得し、説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空管制とは	(1) 航空管制の歴史を学習する (2) 国際条約と航空交通業務を学習する		1.0		
2. 飛行方式と空域	(1) 飛行方式の種類を学習する (2) 空域の種類を学習する		2.0		
3. 航空交通管制業務	(1) 航空管制の種類を学習する (2) 航空管制のための施設を学習する		1.5		
4. 管制用語	(1) 管制用語の基本(数字、文字と語句)を学習する (2) 管制業務の主な用語を学習する		1.0		
5. 管制の訓練と将来計画	(1) 管制科実習機器の概要を学習する (2) 将来の管制(CNS-ATM)を学習する		1.0		
6. 評価			0.5		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
運航情報業務概論	運情概論	学科	専門科目	情報科教官	6
教科書			使用教室	使用機材等	
航空法 運航情報業務概論			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空管制技術基礎研修に関する基礎試験科目(運航情報業務概論)。 運航援助情報、飛行場情報、対空援助及び国際対空通信業務の概要を理解できる。					
受講の前提条件					
CNS/ATM基礎を受講していること。					
到達目標					
運航援助情報、飛行場情報、対空援助及び国際対空通信業務の概要を理解し、説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 運航情報業務	(1) 以下の業務内容を学習する ア. 運航情報業務の概論		0.5		
2. 運航情報援助業務	(1) 以下の業務内容を学習する ア. 飛行計画 イ. 航空交通業務通報 ウ. 運航の監視と搜索救難 エ. 航空事故等 オ. 航空情報		3.0		
3. 飛行場情報業務	(1) 以下の業務内容を学習する ア. 飛行場管理 イ. 制限区域安全管理		1.0		
4. 対空援助業務	(1) 以下の業務内容を学習する ア. 飛行場対空援助業務の概要 イ. 他飛行場援助業務の概要 ウ. 広域対空援助業務の概要		0.5		
5. 管制通信業務	(1) 以下の業務内容を学習する ア. 国際対空通信業務の概要		0.5		
6. 評価			0.5		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空灯火 電気施設業務概論	灯火電気	学科	専門科目	特別研修科教官 (灯電担当)	5
教科書			使用教室	使用機材等	
航空灯火電気施設業務概論(教官作成資料)			自教室	☒ 校務情報システム ☒ 飛行場模型 ☒ 灯器 ☒ 受配電設備	
位置づけ					
航空管制技術官として必要な航空保安用電源システム及び航空灯火の概要を学習する。					
受講の前提条件					
CNS/ATM基礎を受講していること。					
到達目標					
管制技術業務に関連する航空灯火電気施設の電源種別、電気接続図、電気関係法規、航空灯火の種類及び航空灯火・電気技術官業務概要を説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空灯火 電気施設業務	(1) 以下の業務内容を学習する ア. 航空灯火電気施設業務 イ. 航空灯火・電気技術官の業務		0.5	主要関連灯火限定	
2. 航空保安用 電源システム	(1) 以下の業務内容を学習する ア. 航空保安用電源システムとは イ. 電気とは ウ. 電気の危険性 エ. 電源の供給方法 オ. システムの構成と特徴 カ. 構成機器と電気接続図の読み方 キ. 電気関係法規		2.0		
3. 航空灯火	(1) 以下の業務内容を学習する ア. 航空灯火とは イ. 種類 ウ. ガイダンス手法 エ. 飛行場灯火 オ. 位置表示灯火 カ. 進入灯火 キ. 滑走路灯火 ク. 地上走行用灯火 ケ. その他灯火 コ. 高カテゴリー灯火 サ. 航空障害灯 シ. 飛行検査		1.7		
4. 昼間障害標識	(1) 以下の業務内容を学習する ア. 昼間障害標識とは イ. 種類 ウ. 設置基準		0.3		
5. 評価			0.5		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
CNS／ATM基礎	CNS基礎	学科	専門科目	電子科教官	13
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務の概要、AIM－J 航空管制のはなし 運航情報業務概論 教官作成資料			自教室	☑校務情報システム ☑3D航空施設研修教材 (ATM)	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空管制技術基礎研修に関する基礎試験科目(CNS/ATM基礎)。航空保安業務の概要及び関連する通信・航法・監視システム、航空交通管制情報処理システム及び航空衛星システムの基礎を学習する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
通信・航法・監視システム、航空交通管制情報処理システム及び航空衛星システムの航空保安業務における利用形態を理解し、説明することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 概 説	(1) 航空機の運航と航空保安業務の関わりを学習する (2) 通信・航法・監視システムの概要を学習する (3) 航空交通管制情報処理システムの概要を学習する (4) 航空衛星システムの概要を学習する			9.5	
2. 校外研修準備・報告	(1) 校外研修について事前に学習し、発表する (2) 校外研修報告書を作成する			3.0	
3. 評 価				0.5	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
管制情報処理 システム基礎理論	管情シス	学科	専門科目	電子科教官	11
教科書			使用教室	使用機材等	
AIM-J 航空保安業務の概要(最新版) EN-ROUTE CHART1-2、3 専門用語集(CNS/ATM用語) 教官作成資料(管制情報処理システム概論)			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空管制技術基礎研修に関する基礎試験科目(情報処理装置基礎理論)。 管制情報処理システムの構成や機能を学習する。					
受講の前提条件					
CNS/ATM基礎、情報処理基礎、航空無線概論を受講していること。					
到達目標					
出発から到着までの飛行フェーズにおける飛行計画及び航空機位置情報の流れ、ATMを含むシステム相関を説明出来る。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 航空管制と情報	(1)航空交通管制の歴史を学習する (2)航空交通業務を学習する (3)管制で取り扱う情報を学習する (4)管制情報のパターン化を学習する (5)航空管制とコンピューター処理を学習する			1.0	
2. 飛行情報	(1)飛行情報を学習する (2)飛行情報を取り扱うシステムについて学習する			1.0	
3. 飛行計画	(1)飛行計画について学習する (2)飛行計画の入手について学習する			1.0	
4. 管制指示・管制承認	(1)航空管制官が使う飛行計画情報について学習する (2)時々刻々と変わる飛行計画について学習する			1.0	
5. 動態情報	(1)位置情報と識別について学習する (2)速度情報と追尾処理について学習する (3)飛行計画と動態情報について学習する (4)多重レーダー処理について学習する (5)マルチセンサについて学習する			2.0	
6. 管制移管とトラジェクトリ	(1)管制移管について学習する (2)4Dトラジェクトリについて学習する			1.0	
7. 航空交通管理	(1)航空交通流管理の導入について学習する (2)航空交通流管理について学習する (3)空域管理について学習する (4)情報の共有について学習する			2.0	
8. システムの実装	(1)システムの変遷について学習する (2)統合管制情報処理システム概況について学習する (3)運航とシステムについて学習する			1.0	
9. 評価				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
通信装置基礎理論	通信理論	学科	専門科目	電子科教官	9
教科書			使用教室	使用機材等	
航空通信システム基礎理論			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空管制技術基礎研修に関する基礎試験科目（通信装置基礎理論）。航空通信システムの概要と各装置の基本的な構成、及び機能を学習する。					
受講の前提条件					
航空無線概論及びCNS／ATM基礎を受講していること。					
到達目標					
航空通信システムのつながりを示すことができる。各装置の基本的な構成と機能の概要を説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空通信システムの概要	(1) 用語と定義を学習する ア. 航空通信システムと運用者との関係を学習する イ. 管制指示や支援情報の入手方法を学習する		4.0		
2. 航空通信システム	(1) 安全に飛行させるための情報提供及び提供装置 ア. 飛行計画の表示及び航空機間の距離・高度・方向の表示と通信について学習する イ. 航空機との交信及び遠隔地との情報共有方法を学習する ウ. 遠隔地との情報共有及び航空機との交信方法を学習する エ. 気象情報及びNOTAMの入手方法を学習する オ. 交信の内容の記録方法を学習する		1.0		
3. 設置場所	(1) 空港における設置場所について学習する (2) 遠隔対空通信における設置場所について学習する		1.0		
4. 航空通信装置構成	(1) 対空通信装置の構成と機能を学習する (2) L／L通信装置の構成と機能を学習する		2.0		
5. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航法装置基礎理論	航法理論	学科	専門科目	電子科教官	12
教科書			使用教室	使用機材等	
VOR基礎理論 タカン基礎理論 教官作成資料			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空管制技術基礎研修に関する基礎試験科目（航法装置基礎理論）。 VOR/TACANの原理、各装置の基本的な構成及び機能を学習する。					
受講の前提条件					
航空無線概論及びCNS／ATM基礎を受講していること。					
到達目標					
VOR/TACANの原理を説明することができる。各装置の基本的な装置構成及び機能の概要を説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. VORの概要	(1) 航法の基礎知識を学習する (2) VORの方位測定原理を学習する (3) VORの信号を学習する (4) 空間変調の概要を学習する		3.0		
2. TACAN/DMEの概要	(1) TACANの方位測定原理を学習する (2) DMEの距離測定原理を学習する (3) TACAN/DMEの信号を学習する		2.0		
3. 装置の概要	(1) VOR装置の概要を学習する (2) TACAN／DME装置の概要を学習する		6.0		
4. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
着陸装置基礎理論	着陸理論	学科	専門科目	電子科教官	9
教科書			使用教室	使用機材等	
ILS基礎理論 AIM-J 教官作成資料			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空管制技術基礎研修に関する基礎試験科目（航法装置基礎理論）。 ILSの原理、各装置の基本的な構成及び機能を学習する。					
受講の前提条件					
航空無線概論及びCNS／ATM基礎を受講していること。					
到達目標					
ILSの原理を説明することができる。各装置の基本的な装置構成及び機能の概要を説明することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. ILSの概要	(1) ILSの構成を学習する (2) ILS進入方式を学習する (3) 運用上のカテゴリーを学習する (4) カバレッジを学習する (5) ILS機上受信機を学習する (6) コース発生原理を学習する (7) 空間変調理論を学習する (8) アンテナペアと放射パターンを学習する			5.0	
2. 装置の概要	(1) ローカライザ装置の概要を学習する (2) グライドスロープ装置の概要を学習する (3) マーカ装置の概要を学習する			2.0	
3. モニタの概要	(1) LOCモニタの概要を学習する (2) GSモニタの概要を学習する			1.0	
4. 評価				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
監視装置基礎理論	監視理論	学科	専門科目	電子科教官	13
教科書			使用教室	使用機材等	
一次レーダー基礎理論 二次レーダー基礎理論 教官作成資料			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空管制技術基礎研修に関する基礎試験科目（監視装置基礎理論）。 監視システムに使用される各装置の基本的構成、動作概要を学習する。					
受講の前提条件					
航空無線概論及びCNS／ATM基礎を受講していること。					
到達目標					
監視システムの種類および役割を示すことができる。各システムの機能および動作原理の概要を説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空管制用レーダーの概要	(1) レーダーの種類を学習する (2) 管制業務を学習する (3) 導入効果を学習する (4) 基本原理を学習する		3.0		
2. 装置概要	(1) 一次レーダーを学習する (2) 二次レーダーを学習する ア. 従来のSSR イ. SSRモードS ウ. トランスポンダ (3) MLATを学習する (4) 関連機器を学習する		9.0		
3. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
管制技術業務概論	管技概論	学科	専門科目	電子科教官	6
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務の概要 数字でみる航空 教官作成資料			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
管制技術業務及び飛行検査業務についての一般的基礎知識を学習する。					
受講の前提条件					
CNS/ATM基礎、運航情報業務概論、航空灯火・電気技術業務概論、管制概論を受講していること。					
到達目標					
航空管制技術官として業務を実施する上で必要となる組織形態、業務実施体制、無線施設の整備、研修体制等の基本的な知識を習得し、説明することができる。 飛行検査業務の概要を習得し、説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 管制技術の組織	(1) 行政組織を学習する (2) 法令及び規程を学習する (3) 予算及び会計を学習する		1.0		
2. 管制技術の業務体制	(1) 航空保安業務を学習する (2) 管制技術業務系統を学習する (3) 管制技術業務内容を学習する ア. 技術管理業務 イ. 運用業務 ウ. システム統制業務 エ. 信頼性技術管理業務 オ. 研修訓練業務 カ. 保守業務		1.0		
3. 航空保安無線施設の整備	(1) 無線施設の整備を学習する (2) 予算制度を学習する		1.0		
4. 管制技術官の研修体制	(1) 資格制度を学習する (2) 研修・訓練体系を学習する		1.0		
5. 飛行検査の概要	(1) 飛行検査の定義を学習する (2) 飛行検査規程を学習する (3) 使用航空機及び機上装置を学習する (4) 飛行検査の種類及び対象施設を学習する		1.0		
6. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
安全管理概論	安全概論	学科	専門科目	電子科教官	6
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料			教室 LL教室等	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空保安業務安全管理規程に規定されている安全管理システム(SMS)の概要を学習する。					
受講の前提条件					
航空法、航空保安業無関連科目(CNS/ATM専門各科目、管制技術業務論、航空管制概論、運航情報業務概論、航空灯火・電気技術業務概論)を受講し、資料を確認して説明できること。					
到達目標					
事故やインシデントに対し、ヒューマンファクターの見地から、安全についての姿勢をもち、対策検討に参加する取り組みを行える。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 安全管理システム	(1) 安全管理システムの概要を学習する ア. 事故やインシデントの発生のメカニズム イ. ヒューマンエラー ウ. 安全管理の取り組み エ. 安全文化 (2) 安全分析・安全研究を学習する ア. 再発防止策 イ. 事故原因究明 (3) 原因究明指向型の対策検討を学習する ア. 分析手法とその方法 イ. ケーススタディ		6.0		
2. 評価	レポート				

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
保健体育	体育	学科	専門科目	特任教官	3
教科書			使用教室	使用機材等	
なし。			グラウンド 体育館	☐ 校務情報システム ☒ 体育設備	
位置づけ					
筋力、持久力、柔軟性等の運動技能を高め、体力の向上を図る。心身の調和的な発達を図るとともに球技をととして公正な態度を養う。集団の中での役割を理解・実行するチームワーク力を涵養する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
なし。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 体育実技	(1) 体操 ア. 徒手 (2) 競技 ア. 持続走 (3) 球技(基礎・ ア. ソフトボール イ. サッカー ウ. テニス エ. バスケットボール オ. バレーボール		3.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
公務員教養	公務教養	学科	専門科目	事務局 総務課長 会計課長 研修調整官	23.3
教科書			使用教室		使用機材等
講師作成資料			教室 グラウンド 体育館 校外		☒ 校務情報システム ☒ 体育設備
位置づけ					
公務員の使命と教養、特別講義、校外研修等多角的な研修を実施し、航空保安業務に携わる国家公務員としての人間形成を図る。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
なし。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 公務員の使命と教養	(1)公務員教養		6.0	1.0時限×6	
	(2)公務員教育課題討議(30分×3回)		0.9	0.3時限×3	
2. 校長訓話	(1)校長訓話(30分×2回)		0.6	(4月、6月)	
3. 特別講義	(1)航空管制技術官の役割を学習する		2.0	1時限	
	(2)航空保安セキュリティを学習する			1時限	
4. 体育交流 (5月)	(1)体育交流(2時限+30分)		3.2	2.3時限	
	(2)体育交流実行委員会(30分×3回)			0.9時限	
5. 校外研修	(1)現場学習 航空関係機関等における実務をととして 業務の見識を深め、航空保安職員としての 自覚を高める。		8.6	4.3時限×2	
6. 消火防災訓練	(1)消火防災訓練(5月)		1.0	1時限	
7. 校務情報システ	(1)校務情報システムを学習する		1.0	1時限	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
科目演習(学科)	科目演習	学科	専門科目	電子科教官	9.4
教科書			使用教室	使用機材等	
講師作成資料			自教室 第2統合教室 第1統合教室 LL教室	☒ 校務情報システム	
位置づけ					
専門科目にかかる授業の補完等により研修効果を高める。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
なし。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 補完授業等	(1) 補完授業 (2) 校外研修事前学習、事後学習 (3) その他		9.4		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
電気電子計測基礎	計測基礎	実技	管制技術実習	電子科教官	5
教科書			使用教室	使用機材等	
専修学校教科書シリーズ6 電子計測 教官作成資料			電子基礎実験室	□校務情報システム ☑各種測定器	
位置づけ					
実技科目に共通して必要な電子計測器についての測定原理及び操作方法を学習する。					
受講の前提条件					
航空無線概論を受講していること。					
到達目標					
装置点検に必要な電子計測器の測定原理を説明できる。電子計測器を操作することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 概 説	(1) 高周波計測の基礎を学習する (2) インピーダンスを学習する (3) 表皮効果・漂遊容量・残留インダクタンスを学習する		1.0		
2. 波形観測	(1) オシロスコープを学習する		1.0		
3. 周波数の測定	(1) 周波数カウンタを学習する		0.5		
4. 測定用発振器	(1) 標準信号発生器を学習する (2) 低周波発振器を学習する		0.5		
5. スペクトラム観測	(1) スペクトラムアナライザを学習する		1.0		
6. 評 価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
情報処理装置実技	情報実技	実技	管制技術実習	電子科教官	5
教科書			使用教室	使用機材等	
ゼロからわかるUNIX基礎講座 教官作成資料			電子基礎実験室	□校務情報システム ☑各実習機器	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空管制技術基礎研修に関する基礎試験科目（情報処理装置実技）。 情報処理装置に用いられるOSの基本動作及び基本コマンドを学習する。					
受講の前提条件					
情報処理装置基礎理論を受講していること。					
到達目標					
情報処理装置に多く用いられているLinuxシステムの基本動作を理解し、マニュアルを見ながら基本コマンド操作を行うことができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 画面操作	(1) 画面操作によりファイル操作を行う		1.0		
2. コマンド操作	(1)手順書を見ながらコマンド操作を行う (2)マニュアルを見ながらコマンド操作を行う		3.0		
3. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
通信装置実技	通信実技	実技	管制技術実習	電子科教官	16.0
教科書			使用教室	使用機材等	
航空通信システム基礎理論 教官作成資料			通信実習室	☐ 校務情報システム ☒ 訓練用CCS ☒ 訓練用AG ☒ 訓練用RCM	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空管制技術基礎研修に関する基礎試験科目（通信装置実技）。航空通信システムの装置間のつながり、各装置の基本的な構成及び機能について理解を深める。また、基本的な操作方法及び点検方法を学習する。					
受講の前提条件					
通信装置基礎理論を履修していること。					
到達目標					
手順書を確認しながら装置の基本的な操作及び点検ができる。各装置間の信号の流れ、各装置の基本的な構成及び機能をおおまかに説明できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 通信制御装置	(1) システム系統及び各装置の基本的な機能を理解し、各操作・点検方法を学習する。 ア. 管制卓 イ. 音声交換装置 ウ. 保守処理装置		5.5		
2. 対空通信システム	(1) システム系統及び各装置の基本的な機能を理解し、各操作・点検方法を学習する。 ア. 送信装置（TV/TU） イ. 受信装置（RV/RU）		5.5		
3. 無線電話制御監視装置	(1) システム系統及び各装置の基本的な機能を理解し、各操作・点検方法を学習する。 ア. 保守局装置 イ. 送受信機選択装置 ウ. 計測端末		1.0		
4. 総合演習	(1) 各装置の構成及び機能について総合的に学習する。 (2) システム全体の信号の流れを総合的に学習する		3.0		
5. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航法装置実技	航法実技	実技	管制技術実習	電子科教官	16
教科書			使用教室	使用機材等	
VOR基礎理論 タカン基礎理論 教官作成資料			航法システム実習室	□校務情報システム ☑航法システム実習機材	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空管制技術基礎研修に関する基礎試験科目（航法装置実技） 航法装置の原理、各装置の基本的な構成及び機能について理解を深める。また、基本的な操作方法及び点検方法を学習する。					
受講の前提条件					
航法装置基礎理論を履修していること。					
到達目標					
手順書を確認しながらVOR/TACANの基本的な操作及び点検ができる。 VOR/TACANの原理、各装置の基本的な構成及び機能をおおまかに説明できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. VOR装置	(1) 各装置の基本的な構成及び機能を学習する ア. 送信装置 イ. ディストリビュータ装置 ウ. モニタ装置 エ. 制御監視装置		7.5	0.5×2回	
2. TACAN装置	(1) 各装置の基本的な構成及び機能を学習する ア. トランスポンダ装置 イ. モニタ装置 ウ. 制御監視装置		7.5		
3. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
着陸装置実技	着陸実技	実技	管制技術実習	電子科教官	16
教科書			使用教室	使用機材等	
ILS基礎理論 AIM-J 教官作成資料			着陸システム実習室	□校務情報システム ☑着陸システム実習機材	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空管制技術基礎研修に関する基礎試験科目（航法装置実技）。ILSの原理、各装置の基本的な構成及び機能について理解を深める。また、基本的な操作方法及び点検方法を学習する。					
受講の前提条件					
着陸装置基礎理論を履修していること。					
到達目標					
ILSの原理、各装置の基本的な構成及び機能を示すことができる。 手順書を確認しながらILSの基本的な操作及び点検ができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. LOC装置	(1) 各装置の構成及び機能を学習する ア. 送信装置 イ. 動作監視装置		6.0		
2. GS装置	(1) 各装置の構成及び機能を学習する ア. 送信装置 イ. 動作監視装置		6.0		
3. 総合演習	(1) ILSの原理、各装置の基本的な構成及び機能について総合的に学習する		3.8		
4. 評価			0.2		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
監視装置実技	監視実技	実技	管制技術実習	電子科教官	16
教科書			使用教室	使用機材等	
一次レーダー基礎理論 二次レーダー基礎理論 教官作成資料			監視システム実習室	☑校務情報システム ☑監視システム実習機材	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則の航空管制技術基礎研修に関する基礎試験科目(監視装置実技)。レーダーの原理及び各装置の基本的な構成及び機能について理解を深める。また、基本的な操作方法及び点検方法を学習する。					
受講の前提条件					
監視装置基礎理論を履修していること。					
到達目標					
レーダーの原理、各装置の基本的な構成及び機能を示すことができる。 手順書を確認しながらレーダーの基本的な操作及び点検ができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. ASR装置	(1) 各装置の基本的な構成及び機能を学習する ア. 送信装置 イ. 受信装置 ウ. 接続導波管 エ. 制御監視装置 オ. 保守用指示装置			7.5	
2. SSR装置	(1) 各装置の基本的な構成及び機能を学習する ア. 送受信装置 イ. 制御監視装置			7.5	
3. 評価				1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
科目演習(実技)	科目演習	実技	管制技術実習	電子科教官	4.4
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料			着陸システム実習室 航法システム実習室 通信システム実習室 監視システム実習室	☐ 校務情報システム ☒ 各実習機器	
位置づけ					
実技にかかる授業の補完等により研修効果を高める。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
なし。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 補完授業等	(1) 補完授業 (2) その他		4.4		

IV. 研修内容

8. システム専門官基礎

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
情報数学	情報数学	学科	専門科目	特任教官	24
教科書			使用教室	使用機材等	
新C言語入門 シニア編 新・明解C言語によるアルゴリズムとデータ構造 情報処理技術者必携 情報数学入門			自教室	☑訓練用情報処理システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目(情報数学)。 航空交通のための情報処理に関わる数学知識を得る。					
受講の前提条件					
システム管理レーティング保有であること。					
到達目標					
線形代数、データ構造などの内容を理解して、ソフトウェアを利用した情報処理ができ、加えて理解した内容について説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 数値表現とデータ構造	(1) デジタルコンピュータにおける数値の表現方法や、基本的なデータ構造について学習する		6.0	授業内で実施	
2. 論理数学	(1) 論理学や集合論について学習する		6.0		
3. 線形代数	(1) ベクトルや行列などの線形代数の知識を得て、線形代数による情報処理を実施する		6.0		
4. 離散数学	(1) 代数系やグラフ理論などの離散数学について学習する		6.0		
5. 評価	(1) レポート及び質疑応答				

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
情報と符号化	符号化	学科	専門科目	特任教官	24
教科書			使用教室	使用機材等	
新C言語入門 シニア編 やり直しのための工業数学 情報基礎、誤り訂正符号、暗号 改訂新版 情報通信編			自教室	☑訓練用情報処理システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目(情報数学)。 航空交通の通信やセキュリティ保護に必要な情報の符号化や暗号化等について学習する。					
受講の前提条件					
情報数学を受講していること。					
到達目標					
符号化や暗号化について理解し、誤りが少なくセキュリティを保護した通信の構築に役立てることができ、加えて理解した内容について説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 情報基礎	(1) 通信のために必要な情報理論の基礎として、情報量、情報エントロピーなどについて学習する		8.0	授業内で実施	
2. 誤り訂正符号	(1) 通信の誤りを防ぐための各種の誤り訂正符号の手法について学習する		8.0		
3. 暗号	(1) セキュリティ保護や情報秘匿などのための各種の暗号の手法について学習する		8.0		
4. 評価	(1) レポート及び質疑応答				

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
情報学概論	情報学	学科	専門科目	特任教官	18
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料			自教室	☑訓練用情報処理システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目(情報数学)。 通信技術を念頭におき、マルチメディア通信の基礎となるアナログ信号量子化から通信方式までの理解を深める。					
受講の前提条件					
情報と符号化を受講していること。					
到達目標					
マルチメディア通信におけるアナログ信号の量子化、表現、符号化、圧縮などの手法を理解し、その過程における数理的な概念についても理解し、かつ説明することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. マルチメディア通信工学	(1) データ通信とインターネットを学習する (2) マルチメディア通信を学習する (3) マルチメディア通信の形態を学習する			3.0	
2. 画像の符号化	(1) 光の表現法を学習する (2) 画像のデジタル化を学習する			2.0	
3. 画像の量子化	(1) 量子化雑音と対数量子化を学習する (2) デジタル信号処理を学習する			6.0	
4. 画像のデータ伝送	(1) 画像情報の圧縮方式を学習する			6.0	
5. 評価	(1) 発表及びレポート			1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
確率・統計概論	確率統計	学科	専門科目	特任教官	18
教科書			使用教室	使用機材等	
統計学入門(東京大学教養学部統計学教室編集)			自教室	☑訓練用情報処理システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目(情報数学)。コンピュータシステム、通信関係システムなど、システムの性能や負荷を分析するための基礎理論を学習し、理解を深める。					
受講の前提条件					
情報数学を受講していること。					
到達目標					
確率モデルと多数のデータからその全体的な性質を探るための統計処理の手法を理解し、説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 統計学の基礎	(1) 一次元データを学習する (2) 二次元データを学習する		2.0		
2. 確率の基礎	(1) 標本、順列、組み合わせを学習する (2) 条件付き確率と独立性を学習する		2.0		
3. 確率分布の基礎	(1) 確率変数を学習する (2) モーメントを学習する		2.0		
4. 確率分布	(1) 離散確率分布(幾何、二項)を学習する (2) 離散確率分布(ポアソン、一様)を学習する (3) 離散確率分布(超幾何)を学習する (4) 連続確率分布(正規、指数)を学習する (5) 連続確率分布(一様、ガンマ、レイリー)を学習する		3.0		
5. 多次元分布と定理	(1) 多次元分布を学習する (2) 大数の法則と中心極限定理を学習する		1.0		
6. 標本と推定	(1) 母集団の標本平均と分散を学習する (2) 確率分布(t, カイ二乗、F)を学習する (3) 推定を学習する		2.0		
7. 検定と分析	(1) 検定を学習する (2) 回帰分析を学習する		2.0		
8. 確率・統計学の応用	(1) シミュレーションと確率統計学を学習する (2) 待ち行列システムの基礎を学習する		1.0		
9. ベイズ統計学の基礎	(1) ベイズ統計学の基礎を学習する		2.0		
10. 評価	(1) テスト		1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
ITとデータ分析	データ分析	学科	専門科目	特任教官	10
教科書			使用教室	使用機材等	
Excelで学ぶ統計解析入門 Excel 2016/2013対応版			自教室	☑訓練用情報処理システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目（情報数学）。収集したデータを分析して推定や検定をおこない、航空交通に役立てる。					
受講の前提条件					
確率統計概論を履修していること。					
到達目標					
Excel などのソフトを使って統計理論に基づいてデータを推定・検定して、意思決定に役立てることができる。加えて理解した内容について説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 統計解析の基礎	(1) 平均や分散などの統計解析の基礎について学習する		1.0	授業内で実施	
2. 相関と確率分布	(1) データ間の相関や、データの確率分布について学習する		1.0		
3. 統計の推定	(1) 区間推定や母平均の推定などについて学習する		2.0		
4. 検定	(1) 回帰直線の計算を学習する (2) 確率分布を学習する (3) 母平均や母比率の区間推定を学習する (4) t検定やカイニ乗検定などの検定法について学習し、Excel などのソフトの検定ツールの使用を学習する		6.0		
5. 評価	(1) レポート及び質疑応答				

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
OSコマンドライン プログラミング	OSCプロ	学科	専門科目	電子科教官	8
教科書			使用教室	使用機材等	
入門UNIXシェルプログラミング			自教室	☑訓練用情報処理システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目(プログラミング)。 情報システムに関して基本的かつ普遍的に必要とされる技術的知識(オペレーティングシステムの機能・目的・コマンドラインをLinuxのシェルを用いて学習する。					
受講の前提条件					
システム管理レーティング保有であること。					
到達目標					
オペレーティングシステムの目的と機能および簡単なシェルスクリプトを理解し、内容について説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. オペレーティング システムの基礎	(1) オペレーティング・システムの目的を学習する (2) オペレーティングシステムの機能を学習する		1.0		
2. Linuxシェル	(1) ファイル管理 (2) プロセス管理 (3) デバイス管理 (4) リダイレクトとパイプ (5) その他		4.0		
3. コマンドライン	(1) シェルスクリプトの基本 (2) シェルスクリプトプログラミング ア. シェル変数とPATH変数 イ. 条件分岐と繰り返し		2.0		
4. 評価	(1) テスト		1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
プログラム開発基礎	プロ基礎	学科	専門科目	電子科教官	28
教科書			使用教室	使用機材等	
なぜ、あなたはJavaでオブジェクト指向開発ができないのか スッキリわかるJava入門 第2版 スッキリわかるサーブレット&JSP入門 JUnit実践入門 GitHub実践入門			自教室	☑訓練用情報処理システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目(プログラミング)。プログラム設計に必要なオブジェクト指向開発を身につけ、継続的改善を実現するプログラム開発手法(テストフレームワーク、バージョン管理)を体系的に学習する。					
受講の前提条件					
OSコマンドラインプログラミングを受講していること。					
到達目標					
プログラム開発に必要な設計技術の一つであるオブジェクト指向開発の概念説明、Webアプリケーションの構築ができるようになる。また、継続的改善を実現する開発手法(テストフレームワークを用いた単体テスト、バージョン管理システムによる管理)についての該当と必要性が説明できるようになる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. オブジェクト指向開発	(1) 手続き型言語の問題点 (2) オブジェクト指向によるプログラミング (3) オブジェクト指向によるプログラム改良 (4) 継承、インターフェース、カプセル化 (5) クラス図、シーケンス図(概要) (6) モデリング			8.0	
2. 統合開発環境(IDE)	(1) 自動補完機能 (2) ビルド・実行 (3) リファクタリング機能			2.0	
3. バージョン管理システム	(1) バージョン管理システム (2) 分散型バージョン管理システム			4.0	
4. ユニットテスト	(1) 単体(ユニット)テストフレームワーク (2) テスト駆動開発			6.0	
5. クライアントサーバシステム	(1) JSP (2) サーブレット (3) MVCモデル			6.0	
6. 評価	(1) レポート			2.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
リレーショナルデータベース概論	RDB概	学科	専門科目	特任教官	18
教科書			使用教室	使用機材等	
データベース設計・構築[基礎＋実践]マスターテキスト 絵で見てわかるシステム構築のためのOracle設計 オラクルマスター Bronze Oracle Database 12c SQL基礎 オラクルマスター Bronze Oracle Database DBA12c			自教室	☑訓練用情報処理システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目(プログラミング)。大量のデータを効率よく管理、処理するデータベースシステムの基本概念について学習する。					
受講の前提条件					
オブジェクト指向プログラミング演習を履修していること。					
到達目標					
リレーショナルデータベースを中心とした基本的な設計、SQLによるデータ操作及びデータ管理について説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. データベース概論	(1) データベース概論を学習する (2) 基本操作、問い合わせ文の発行(基礎)を学習する		1.0		
2. SQL文の発行(DML)	(1) 問い合わせ文の発行を学習する ア. 射影 イ. 選択 ウ. 関数・演算 (2) 問い合わせ文の発行を学習する ア. 結合 (3) 問い合わせ文の発行を学習する ア. 副問い合わせ (4) データの変更追加削除を学習する (5) DMLを演習する		4.0		
3. SQL文の発行(DDL)	(1) データベースの構成要素を学習する ア. データ型と型変換 (2) データベースオブジェクトとテーブルオブジェクトの操作を学習する (3) DDLを演習する		4.0		
4. 基本的なDB設計	(1) 正規化概念とE-R図との相関を学習する (2) 正規化および表の具現化を学習する (3) データベースの設計理論を学習する ア. スキーマ定義とDB構築		5.0		
5. DB制御(DCL)	(1) トランザクションと排他ロックを学習する (2) 制約/制御を学習する ア. トランザクションの障害時回復 イ. トランザクションの同時実行制御		1.0		
6. DB管理	(1) SQLチューニングを学習する (2) バックアップとリカバリを学習する		1.0		
7. 総括応用	(1) データディクショナリー覧を学習する ア. 分散データベースシステムと名前空間 (2) その他DBを学習する		1.0		
8. 評価	(1) テスト		1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
システム機能設計	シ機設計	学科	専門科目	特任教官	14
教科書			使用教室	使用機材等	
システム開発のすべて 図解でわかるソフトウェア開発のすべて			自教室	☑訓練用情報処理システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目(システム設計)。 構造化技法を用いたシステム設計を通じて、分析・設計を詳細化し、設計書類・テスト計画を適切に作成 することを学習する。					
受講の前提条件					
一般教養及び開発基礎科目を受講していること。					
到達目標					
構造化設計と実装テストを学習し、分析・設計、実装過程を説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 構造化設計	(1) システム化計画について学習する (2) 非機能設計と機能設計を学習する (3) アーキテクチャ設計を学習する (4) 実装設計を学習する (5) 各設計の関係を学習する		7.0		
2. 実装テスト	(1) テストの基礎知識を学習する ア. テストの目的 イ. 前提条件と終了条件 (2) テストの種別を学習する ア. 単体テスト イ. 統合テスト ウ. システムテスト		6.0		
3. 評価	(1) テスト及びレポート		1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
システム実装設計	シ実設計	学科	専門科目	特任教官	24
教科書			使用教室	使用機材等	
入門UML2.0 演習で身につくソフトウェア設計入門			自教室	☑訓練用情報処理システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目(システム設計)。オブジェクト指向システムの分析・設計を詳細化し、設計書類を作成することを学習する。また、具体例として統一的なモデル言語であるUMLを実習する。					
受講の前提条件					
一般教養及び開発基礎科目を受講していること。					
到達目標					
簡単なシステムに対するユーザの要求仕様をユースケース記述の例を用いて分析し、UML表現を用いて設計したことについて説明できる。 オブジェクト指向設計と実装過程について、大規模な実用システム開発のための方法を用いて実習し、その内容について説明することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 概論	(1) オブジェクト指向とその歴史的背景を学習する (2) オブジェクト指向における重要な概念を学習する (3) ソフトウェア技術との対応付けを学習する (4) オブジェクト指向の考え方を学習する			4.0	
2. UML	(1) UML表記とオブジェクト指向を学習する (2) プログラミング言語とモデリング言語を学習する (3) 抽象概念の表現を学習する			2.0	
3. システム設計の基礎	(1) ユースケース図の書き方と考え方を学習する (2) クラス図の書き方と考え方を学習する (3) クラス図とオブジェクト図を学習する (4) シーケンス図とコラボレーション図を学習する (5) 状態図とアクティビティ図を学習する			5.0	
4. 高度なシステム設計の基礎	(1) UMLの高度な書き方を学習する (2) デザインパターンの基礎を学習する (3) 共通可変性分析を学習する			7.0	
5. 総合演習	(1) 要件記述からオブジェクト選定を演習する (2) ユースケース記述とオブジェクト選定を演習する (3) クラス図及びその他の図を演習する			4.0	
6. 評価	(1) テスト及びレポート			2.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
業務分析手法の基礎	業務分析	学科	専門科目	電子科教官	28
教科書			使用教室	使用機材等	
SCRUM BOOT CAMP THE BOOK 教官作成資料			自教室	☑訓練用情報処理システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目(システム設計)。 業務分析の基礎となる問題発見、問題解決、図解の技法を学習する。					
受講の前提条件					
開発基礎科目、プロジェクトマネジメント科目を受講していること。					
到達目標					
対象業務および関連する全業務を整理し、業務プロセスを適切に情報システムへと導入企画するための、実践的な知識について理解し、内容について説明できる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 開発プロセスの基本	(1) 開発プロセスにおける基礎知識 (2) ウォーターフォール(V字)型開発モデル (3) 反復型開発モデル			8.0	
2. 業務分析	(1) 計画フェーズ ア. 目的の必要性 イ. 業務スコープ ウ. 業務の現状把握図(フロー図等) エ. ステークホルダー分析 オ. 実績・規模の調査 (2) 業務要件定義			8.0	
3. 要件定義	(1) 機能要件 (2) 非機能要件			10.0	
4. 評価	(1) レポート及び質疑応答			2.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
信頼性設計概論	信頼性概	学科	専門科目	特任教官	10
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料			自教室	☑訓練用情報処理システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目(システム設計)。複雑化・多様化する情報システムに対する開発・品質管理技術の一つとしての信頼性技術は重要である。この科目では情報システムの開発段階における信頼性技術の手法を学習する。					
受講の前提条件					
知的財産権の法律と実務、システム監査と内部統制、情報セキュリティ概論を受講していること。					
到達目標					
ディペンダブルなシステム、フォールトトレランス、情報システムの信頼性向上技術の理論及び方法論について理解し、内容を説明できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 基礎概念	(1) ディペンダブルなシステムを学習する (2) RASIS等の概念を学習する (3) フォールトツリー解析について学習する (4) 機能安全について学習する		2.0	授業内で実施	
2. フォールトトレラントコンピュータ	(1) フォールトトレランスの基本概念を学習する (2) RAIDについて学習する (3) 信頼性評価について学習する		2.0		
3. 分散システムのフォールトトレランス	(1) 分散システムモデルを学習する (2) 合意問題を学習する (3) トランザクションを学習する (4) 多重化を学習する		2.0		
4. ソフトウェアの信頼性	(1) 信頼度成長モデルを学習する (2) テスト設計を学習する (3) 検証手法を学習する (4) ソフトウェアフォールトトレランスを学習する		4.0		
5. 評価	(1) テスト及びレポート				

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
ヒューマン インタフェース概論	HMI概	学科	専門科目	特任教官	6
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料			自教室	☑訓練用情報処理システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目(システム設計)。 ヒューマンインタフェースの様々な側面について学習し、ユーザビリティに関する知見を広める。					
受講の前提条件					
知的財産権の法律と実務、システム監査と内部統制、情報セキュリティ概論を受講していること。					
到達目標					
センサシステム、画像処理、ホログラフィーなどを応用したヒューマンインタフェースについて学び、ヒューマンインタフェースの重要性を理解し、内容について説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. ヒューマン コンピュータ インタラクション	(1) ヒューマンインタフェースを学習する (2) 3次元画像インタフェースを学習する (3) ウェアラブルコンピュータを学習する (4) ヘッドマウントディスプレイを学習する (5) 最先端のインタフェースを学習する		6.0	授業内で実施	
2. 評価	(1) レポート				

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
知的財産権の法律と実務	知的財産	学科	専門科目	特任教官	12
教科書			使用教室	使用機材等	
『知的財産法入門 第2版』茶園成樹編 教官作成資料			自教室	☑訓練用情報処理システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目（情報処理と関連法）。知的財産とはどのようなものか、知的財産を意識することによってどのようなことができるのかを学習する。					
受講の前提条件					
情報論理と法体系を受講していること。					
到達目標					
1. 知的財産の全体像を理解することができる。 2. 社会活動における知的財産の価値を実感することができる。 3. 知的財産法について理解し、適切に利用する方法や態度を身に付けることができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 知的財産とは	(1) 私たちの暮らしと知的財産の関連について学習する		0.5	授業内で実施	
2. 著作権法	(1) 著作物および著作者について学習する (2) 著作者人格権について学習する (3) 著作権について学習する (4) 著作権の制限規定について学習する (5) 著作権侵害について学習する		4.0		
3. 特許法	(1) 発明該当性と特許要件について学習する (2) 発明者と職務発明について学習する (3) 特許出願の手続きについて学習する (4) 特許権の効力および効力の制限について学習する (5) 特許権の活用と特許侵害について学習する		4.0		
4. 実用新案法	(1) 考案について学習する		0.5		
5. 商標法	(1) 商標の機能および登録要件について学習する		1.0		
6. 意匠法	(1) 物品の形態および意匠登録要件について学習する		1.0		
7. 不正競争防止法	(1) 不正競争行為について学習する		1.0		
8. 評価	(1) 発表				

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
情報倫理と法体系	情報倫理	学科	専門科目	特任教官	12
教科書			使用教室	使用機材等	
インターネットの光と影(Ver.6)			自教室	☑訓練用情報処理システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目(情報処理と関連法)。情報社会の倫理と法のかかわりについて学習する。					
受講の前提条件					
システム管理レーティング保有であること。					
到達目標					
IT社会において、どのような問題があるか理解できる。問題に対する適切な対応と、そのために必要な倫理や法体系を説明できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 情報システムの脆弱性	(1) 情報社会を見る視点を学習する (2) 情報システム障害事例を学習する		2.0		
2. ネットにおける名誉毀損	(1) フレーミングを学習する (2) 対抗言論の法理を学習する		2.0		
3. ネットにおけるプライバシー保護	(1) ネットにおけるプライバシー侵害の問題点を学習する (2) 個人情報保護法を学習する		2.0		
4. サイバー犯罪	(1) コンピュータ犯罪(不正アクセスを含む)を学習する (2) ネットワーク犯罪を学習する		2.0		
5. ネットにおける知的財産の保護	(1) デジタル著作権を学習する (2) ソフトウェア特許を学習する (3) 不正競争を学習する		2.0		
6. ネットにおける消費者保護	(1) プロバイダー責任法を学習する (2) 青少年ネット制限法を学習する (3) スパムメール規制法を学習する		2.0		
7. 評価	(1) レポート				
			授業内で実施		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
システム監査と 内部統制	内部統制	学科	専門科目	特任教官	12
教科書			使用教室	使用機材等	
現代の実践的内部監査 第5版			自教室	☑訓練用情報処理システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目（情報処理と関連法）。内部統制の組織内での位置づけを理解し、ITの活用および個人の業務が組織の成長戦略にいかに関与しているかを認識する。					
受講の前提条件					
情報論理と法体系を受講していること。					
到達目標					
IT統制の活用による組織の成長戦略を理解し説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 組織の定義	(1) 組織の必要性を学習する (2) 組織の要件を学習する (3) 組織の方向性を検討する		3.0	授業内で実施	
2. 組織とリスク	(1) リスクとは何かを学習する (2) 組織にとってのリスクの必要性和課題を学習する (3) リスクの可能性を検討する		3.0		
3. ITの活用	(1) 組織におけるITの現状を理解する (2) 内部統制におけるITの活用と限界を理解する (3) ITの将来的課題を検討する		3.0		
4. 成長戦略の課題	(1) 組織とリスクの将来的展開を学習する (2) IT利用の可能性を検討する		3.0		
5. 評価	(1) レポート				

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
情報セキュリティ概論	セキュ概	学科	専門科目	特任教官	12
教科書			使用教室	使用機材等	
情報セキュリティ教本-組織の情報セキュリティ対策実践の手引き 改訂版 情報セキュリティ白書(2020) 教官作成資料			自教室	☑訓練用情報処理システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目(情報処理と関連法)。組織として情報セキュリティ対策をどのように行えばよいか、その問題解決にあたり必要とされる概念について学ぶ。					
受講の前提条件					
情報論理と法体系を受講していること。					
到達目標					
情報が常に安全に管理されるために、その取り扱いについて認識を合わせ、これらに対応して対策を講ずることの必要性について説明できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 社会と情報技術	(1) 最近のセキュリティ状況について学習する (2) 情報倫理を学習する		2.0		
2. セキュリティ基準	(1) 政府におけるセキュリティ方針を学習する		2.0		
3. ITと情報セキュリティの基本的な考え方	(1) 情報セキュリティの3要素を学習する (2) 情報資産を学習する (3) 情報のライフサイクルを学習する		1.0		
4. リスクマネジメント	(1) 事例に基づくリスクマネジメントを学習する		1.0		
5. 技術的対策の基本	(1) セキュリティにおける技術的対策を学習する		2.0		
6. 導入と運用	(1) 情報セキュリティ教育を学習する (2) 事業継続計画を学習する (3) 情報システムの導入と運用を学習する		2.0		
7. セキュリティ評価	(1) セキュリティ評価とはを学習する (2) 情報セキュリティ対策実施状況の評価を学習する		2.0		
8. 評価	(1) 総合テスト及びレポート				

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
システム開発 プロジェクト基礎	SPJ基礎	学科	専門科目	特任教官	22
教科書			使用教室	使用機材等	
これ一冊でわかるSEの大常識 SEのためのプロジェクト管理心得ノート システム開発のすべて 図解でわかるソフトウェア開発のすべて			自教室	☑訓練用情報処理システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目(プロジェクトマネジメント)。 高信頼ソフトウェアシステムの設計・開発のプロジェクト成功に向けて基本となるシステム開発全体の概要を把握する。					
受講の前提条件					
システム管理レーティング保有であること。					
到達目標					
システム開発のプロジェクトとはどのようなものか、開発手法の種類、各工程の位置づけや役割について理解し、内容を説明できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. システム開発とは	(1) システム開発を学習する (2) システムのライフサイクルを学習する (3) プロジェクトと定常業務		2.0		
2. システム開発の 手順	(1) 基本計画を学習する (2) 外部設計を学習する (3) 内部設計を学習する (4) テストを学習する		4.0		
3. システム開発の 方法論	(1) ウォータフォールモデルを学習する (2) V字型開発を学習する (3) その他開発手法を学習する		3.0		
4. システム開発手 順とドキュメント	(1) 要件定義を学習する (2) 要件定義書を学習する (3) 試験要領書を学習する		3.0		
5. システム設計技 法	(1) 構造化技法を学習する (2) プロセス中心設計(POA)を学習する (3) データ中心設計(DOA)を学習する (4) オブジェクト指向(OOA)を学習する		4.0		
6. 人間力と現場力	(1) システム開発における人間力・現場力 (2) システム運用における人間力・現場力 (3) システム従事者に必要な人間力・現場力		6.0		
7. 評価	(1) テスト及びレポート			授業内で実施	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
プロジェクト マネジメント理論	プロマネ	学科	専門科目	電子科教官	20
教科書			使用教室	使用機材等	
プロジェクトマネジメント標準PMBOK入門 PMBOK 第6版対応版 教官作成資料			自教室	☑訓練用情報処理システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目(プロジェクトマネジメント)。 情報システムの設計/開発プロジェクトを効率的に進めるためプロジェクトマネジメントの基本を学習する。					
受講の前提条件					
管制情報処理システム研究、システム開発プロジェクト基礎を受講していること。					
到達目標					
プロジェクトの特殊性、プロジェクトマネジメントに必要となる管理技法を理解し、政府情報システムの整備 及び管理に関する標準ガイドラインでのマネジメントに関する内容を説明することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. プロジェクトとラ イフサイクル	(1) プロジェクトの定義 (2) システム開発のライフサイクル			2.0	
2. プロジェクトマネ ジメントの基礎知 識	(1) プロジェクトマネジメントの必要性 ア. プロジェクトの目的の把握 イ. プロジェクトの範囲(スコープ) ウ. コミュニケーション管理、体制管理、 工程管理(WBS)、品質管理、リスク管理、 課題管理、変更管理 エ. プロジェクト計画			4.0	
3. 標準ガイドライン	(1) 政府情報システムの整備及び管理に関する 標準ガイドライン (2) プロジェクトの管理 (3) 設計・開発の管理 (4) 設計 (5) 開発・テスト (6) 移行			13.0	
4. 評価	(1) レポート及び質疑応答			1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
システム開発 マネジメント	シスマネ	学科	専門科目	電子科教官	20
教科書			使用教室		使用機材等
教官作成資料			自教室		☒ 訓練用情報処理システム
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目(プロジェクトマネジメント)。 現行システム・業務に対する問題点を的確に把握し、改善策(要件定義)を自ら考察していく能力を身につける。					
受講の前提条件					
プロジェクトマネジメント科目、業務要件科目を履修していること。					
到達目標					
提示された航空交通管制情報処理システム並びに関連システムの特徴・特性および改善の可能性等について考察を行い、必要となる要件を実装できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 設計事例	(1) 航空交通管制情報処理システム、関連システムの新機能 (2) システム開発の実例		2.0	授業内で実施	
2. システム設計	(1) 要件定義を基に、入出力、処理、ユーザビリティ運用方法等のシステム全体設計 (2) 機能の段階		6.0		
3. システム開発	(1) プログラム設計書の内容のコード化 (2) 設計書を基に、動作テスト		6.0		
4. ユーザテスト	(1) 運用者によるユーザビリティテスト		6.0		
5. 評価	(1) レポート				

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
ネットワーク理論	ネット理論	学科	専門科目	電子科教官	32
教科書			使用教室	使用機材等	
マスタリングTCP/IP 入門編 第5版 Cisco CCENT/CCNA ICND1編 教官作成資料			自教室	☑訓練用情報処理システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目(ネットワークアーキテクチャ)。システム間およびシステム内部において、高度にネットワーク化された航空交通管制情報処理システムにおいて、使用されている通信プロトコル等に対する基礎知識を学習する。					
受講の前提条件					
システム管理レーティング保有であること。					
到達目標					
コンピューターネットワークとは何か、またその機能を実現するためのプロトコルを階層別に理解し、さらにプロトコル階層の意義とその機能モジュール間の連携方式について理解し、その内容について説明することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. ネットワークの基礎知識	(1) ネットワークとは (2) サーバの種類 (3) ネットワークに要求されること (4) ネットワークの範囲 (5) 伝送制御手順			3.0	
2. 伝送制御手順・通信プロトコル	(1) 通信プロトコル (2) ネットワークアーキテクチャー (3) OSI参照モデル			2.0	
3. 物理層レベルのネットワーク	(1) 物理層の役割と実装 (2) ネットワークトポロジー			4.0	
4. データリンク層とEthernet	(1) Ethernetとデータリンク層 (2) メディアアクセス制御 (3) MACアドレス (4) ネットワークの拡張			4.0	
5. TCP/IP IP層	(1) TCP/IPの成り立ち (2) IPの特徴 (3) ルーティング (4) サブネットワーク (5) IPヘッダ			6.0	
6. TCP/IP TCP層	(1) トランスポート層 (2) TCPの特徴 (3) トランスポート層のTCP以外のプロトコル (4) TCPヘッダとUDPヘッダ			4.0	
7. ネットワーク利用環境	(1) インターネット利用環境の構築 (2) アプリケーション層のプロトコル (3) ネットワークセキュリティ (4) プロトコルアナライザ			3.0	
8. ネットワークの実状	(1) ネットワーク構築 (2) WEBサーバー			4.0	
9. 評価	(1) テスト及びレポート			2.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
ソフトウェア工学	ソフト工学	学科	専門科目	特任教官	16
教科書			使用教室	使用機材等	
ソフトウェア工学入門 リファクタリング 既存のコードを安全に改善する 新装版			自教室	☑訓練用情報処理システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目（ソフトウェア工学・運用論）。大規模ソフトウェアシステムの開発効率と品質向上を目的とするソフトウェア技法を学習する。					
受講の前提条件					
システム実装設計を履修していること。 システム機能設計を受講していること。					
到達目標					
ソフトウェア工学の全体像を理解し、新しいソフトウェア技術であるデザインパターン、アジャイル工学、リファクタリングの概要を理解し、内容について説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 概説	(1) プログラミングの分類を学習する (2) 要求と分析を学習する (3) ソフトウェア設計を学習する (4) テストと保守を学習する (5) プロセスとツールを学習する (6) 品質と管理を学習する		4.0		
2. アジャイル工学	(1) プロセスのモデリングを学習する (2) アジャイルを学習する		2.0		
3. デザインパターン	(1) デザインパターンを学習する (2) 再利用のためのメカニズムを学習する		4.0		
4. リファクタリング	(1) 保守性の概念を学習する (2) コードレベルリファクタリングを学習する (3) パターンレベルリファクタリングを学習する		2.0		
5. 演習	(1) デザインパターンを演習する (2) リファクタリングの実施を演習する (3) 保守性の検討を演習する		4.0		
6. 評価	(1) レポート			授業内で実施	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
システム運用方法論	シス運用	学科	専門科目	特任教官	10
教科書			使用教室	使用機材等	
ITIL入門－ITサービスマネジメントの仕組みと活用			自教室	☑訓練用情報処理システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目（ソフトウェア工学・運用論）。ITシステム運用における課題を解決するための有効な手法を学習する。					
受講の前提条件					
システム開発プロジェクト基礎を受講していること。					
到達目標					
ITIL (Information Technology Infrastructure Library) を例に、ITサービス管理・運用規則に関する手法について説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. ITサービス マネジメントの 概要	(1) サービス、サービスマネジメント、ITサービス スマネジメントを学習する (2) ITサービスの構成要素を学習する (3) 機能、役割、プロセスを学習する		2.0		
2. ITILの概要	(1) サービスストラテジを学習する (2) サービスデザインを学習する (3) サービストランジションを学習する (4) サービスオペレーションを学習する (5) 継続的サービス改善を学習する		2.0		
3. システム運用管 理	(1) システム管理を学習する (2) 資源管理を学習する (3) 障害管理を学習する (4) システムの保守を学習する		5.0		
4. 評価	(1) テスト及びレポート		1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
運航情報業務論	運情論	学科	専門科目	情報科教官	8
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料			自教室 運航情報業務実習室	☑訓練用情報処理システム ☑運航情報業務実習装置	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目（航空業務概論）。 運航情報官の業務を理解し、適切な航空交通管制情報処理システムの開発、運用に資する知識を学習する。					
受講の前提条件					
管制情報処理システム概論を受講していること。					
到達目標					
航空管制運航情報官の業務全般について学ぶことにより、航空交通管制情報処理システムとの関わりについて理解し説明することができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 運用業務の概要	(1) 運航情報業務を学習する ア. 運航援助情報業務 イ. 飛行場情報業務 ウ. 対空援助業務 エ. 航空交通管理情報業務 (2) 管制通信業務を学習する (3) 航空情報業務を学習する (4) 関連するシステムを学習する			2.5	
2. 運用業務とシステム機能	(1) 飛行計画関連業務と使用機能を学習する (2) 管制業務中継・支援関連業務と使用機能を学習する (3) 空港運用関連業務と使用機能を学習する (4) 航空情報関連業務と使用機能を学習する (5) 運航許可関連業務と使用機能を学習する			5.0	
3. 評価				0.5	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空管制業務論	管制論	学科	専門科目	航空管制科教官	18
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程 AIM-J EN-ROUTE CHART			自教室 管制業務実習室	☑訓練用情報処理システム ☑管制業務実習装置	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目（航空業務概論）。 航空管制業務を理解し適切な航空交通管制情報処理システムの開発、運用に資する知識を学習する。					
受講の前提条件					
管制情報処理システム概論を受講していること。					
到達目標					
航空管制官の業務全般について学ぶことにより、航空交通管制情報処理システムとの関わりについて理解し、説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空管制業務概況	(1) 航空管制業務の目的を学習する (2) 用語の定義を学習する		2.0		
2. 管制方式基準	(1) 管制方式基準の位置づけを学習する (2) 計器飛行管制方式を学習する (3) 飛行場管制方式を学習する (4) レーダー使用基準を学習する (5) 緊急方式を学習する		8.0		
3. 航空交通管理方式基準	(1) 航空交通管理方式基準の位置づけを学習する (2) 航空交通流管理を学習する (3) 空域管理を学習する		4.0		
4. 航空管制業務と管制情報処理	(1) 航空管制業務と情報処理システムの関わりを学習する(管制業務実習装置使用) (2) DSSとシステム担当について学習する		3.0		
5. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空業務安全学	安全学	学科	専門科目	電子科教官	18
教科書			使用教室	使用機材等	
組織事故 事故は、なぜ繰り返されるのか ヒューマンファクターの分析 第2版 教官作成資料			自教室	☑訓練用情報処理システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目（航空業務概論）。SMS（安全管理）における目的と行動について、理論の背景について正しく理解し、航空業務従事者として業務構築を行い活用できる姿勢を習得する。					
受講の前提条件					
システム監査と内部統制、情報倫理と法体系、知的財産権の法律と実務、情報セキュリティ概論、システム開発マネジメント、および管制情報処理システム概論を履修していること。					
到達目標					
事故やインシデントに対し、ヒューマンファクターの見地から、安全についての取り組む姿勢を育み、また日常の業務の積み重ねにより安全を醸成していくことを理解し説明できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 安全の基本概念とSMS	(1) 安全学の概念を学習する ア. 事故やインシデントの発生のメカニズム イ. ヒューマンエラー ウ. SMS（安全管理）の取り組み エ. 安全文化		2.0		
2. 組織における危険と防護	(1) 組織事故における防護について学習する ア. 個人事故と組織事故 イ. 防護壁の謎 ウ. 人間の貢献 エ. 組織における危険と防護		2.0		
3. 安全文化	(1) 安全文化の構成と醸成について学習する ア. 組織文化と安全文化 イ. 安全文化を構成する要素 ウ. 安全文化のエンジニアリング		2.0		
4. ヒューマンエラーの分析	(1) 分析手法の概要を学習する (2) ケーススタディにより分析手法を実践する		3.0		
5. ICAOにおける安全管理	(1) 航空関連のステークスホルダーとSMSを学習する ア. ANNEX11およびANNEX19 イ. ANNEX14 ウ. ANNEX6 (2) 航空事故の原因調査、分析について学習する		4.0		
6. SMSの実践	(1) 事故事例より調査、分析について学習する (2) 安全監査目線からの安全対策について学習する		4.0		
7. 評価	(1) 発表		1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
管制情報処理システム概論	管シ概論	学科	専門科目	電子科教官	16
教科書			使用教室	使用機材等	
AIM-J EN-ROUTE CHART 航空保安業務の概要(最新版) 教官作成資料			自教室	☑訓練用情報処理システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目(管制情報システム概論)。 航空交通管制情報処理システムの概要を学習する。					
受講の前提条件					
システム管理レーティング保有であること。					
到達目標					
航空交通管制情報処理システム及び関連情報処理システムの概要、開発及び運用について理解し、内容について説明できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空管制と情報	(1) システム導入経緯 (2) システムとして必要な情報の概要		1.0		
2. 飛行情報	(1) 飛行情報 (2) 飛行情報を取り扱うシステム		1.0		
3. 飛行計画	(1) 飛行計画 (2) 飛行計画の入手		3.0		
4. 管制指示・管制承認	(1) 航空管制官が使う飛行計画 (2) 時々刻々と変わる飛行計画		2.0		
5. 動態情報	(1) 位置情報と識別 (2) 速度情報と追尾処理 (3) 飛行情報と動態情報 (4) 多重レーダー処理 (5) マルチセンサ		2.0		
6. 管制移管とトラジェクトリ	(1) 管制移管 (2) 4Dトラジェクトリ		2.0		
7. 航空交通管理	(1) 航空交通流管理 (2) 空域管理 (3) 情報の共有		2.0		
8. システムの実装	(1) システムの変遷 (2) 統合管制情報処理システム概況 (3) 運航とシステム		2.0		
9. システム開発と危機管理	(1) システム開発と評価 (2) 高信頼性システムの構築 (3) 危機管理		1.0		
10. 評価	(1) レポート				

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
管制情報処理システム研究	管シ研究	学科	専門科目	電子科教官	30
教科書			使用教室	使用機材等	
AIM-J EN-ROUTE CHART 航空保安業務の概要(最新版) 航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程 教官作成資料			自教室	☑訓練用情報処理システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目(管制情報システム概論)。現行システムに対する問題点を的確に把握し、それに対する改善策を自ら考察していく能力を身につける。					
受講の前提条件					
管制情報処理システム概論を履修していること。					
到達目標					
航空交通管制情報処理システム並びに関連システムについて研究を行い、その特徴・特性および改善の可能性等について考察を行い、説明することができる。また、関連する文書について、その内容と役割について理解できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 現行システム調査・研究骨子作成	(1) 現行の航空交通管制情報処理システムと関連システムの役割や、各業務との関連性などを把握し、現地での調査計画を立てる		4.0	4時限×2	
2. 現行システム調査・研究	(1) 調査・研究骨子に基づき、中核をなすシステムの運用を行っている航空交通管理センターで聞き取り調査を行い、システム構成や運用における課題や問題点を抽出する		8.0		
3. 将来システム研究	(1) 現行システムの研究から得た情報を基に、将来システムのあり方やその開発手法について提案をとりまとめる		12.0		
4. 研究制作	(1) 研究結果について発表資料を制作する		4.0		
5. 評価	(1) 発表		2.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
保健体育	体育	学科	専門科目	特任教官	14
教科書			使用教室	使用機材等	
なし			体育館 グランド テニスコート		
位置づけ					
運動についての科学的理解に基づき、合理的な練習によって運動技能を高め、体力の向上を図る。 集団の中での役割を理解・実行するチームワーク力を涵養する。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
なし。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 体育実技	筋力、持久力、柔軟性等の運動能力を高め、心身の調和的な発達をはかるとともに球技を通じて公正な態度を養う。 (1) 体操 ア. 徒手 イ. 床運動(マット使用) (2) 器械体操 ア. 跳び箱 (3) 競技 ア. 持久走 イ. 高・幅跳び (4) 球技(基礎・応用・チームプレー) ア. バレーボール イ. サッカー ウ. バスケットボール エ. テニス		10.0		
2. 体育大会・交流	(1)「職種間連携強化推進」活動の一環として、 職種・科を超えた交流		4.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
先端システム工学	先端工学	学科	専門科目	特任教官 電子科教官	14
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料			自教室	☑訓練用情報処理システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目(システム設計)。 ITの世界は非常に進歩が速いため、確立された教科書だけでは流れから取り残されるため、先端的なIT技術の研究者等の講義を受講することにより、技術の進歩に目を向け、新しい動きの情報を収集する。					
受講の前提条件					
管制情報処理システム概論を履修していること。					
到達目標					
大学・企業の研究者等からシステム開発の先端技術の講義を受けることにより、ハードウェア、ソフトウェアの品質向上についての最新の動向について理解し、説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. システム開発先端技術	(1) システム開発における先端技術を学習する		6.0	4時限×2 授業内で実施	
2. 先端技術校外研修	(1) 技術開発をリードする大学での講義を聴講し、最新の研究開発手法を学習する		8.0		
3. 評価	(1) レポート				

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
公務員教養	公務教養	学科	専門科目	電子科教官	4
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料			自教室	☑訓練用情報処理システム	
位置づけ					
団体活動等、多角的な研修を実施し、航空保安業務に携わる専門官としての自覚を高める。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
なし。					
授業項目	要点	時限	備考		
1. 校長訓話	(1)校長訓話を聴講する	0.6	30分×2		
2. コンプライアンス	(1)コンプライアンスミーティングに参加する	2.4	30分×8		
3. その他	(1) 消火防災訓練	1.0			

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
科目演習(学科)	科目演習	学科	専門科目	電子科教官	23.4
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料			自教室	☒ 訓練用情報処理システム	
位置づけ					
専門科目の研修効果を高める。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
なし。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 専門科目の演習等	(1) 訓練ネットワーク機材管理対応 (2) 研修品質改善活動 (3) 演習 (4) その他		23.4	30分 × 18 100分 × 18	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
プログラム開発基礎 演習	プロ演習	実技	情報処理実習	電子科教官	18
教科書			使用教室	使用機材等	
スッキリわかる サーブレット&JSP入門 JUnit実践入門 GitHub実践入門 改訂新版java script本格入門 教官作成資料			自教室	☑訓練用情報処理システム (エディタ、コンパイラ)	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目(プログラミング実習)。情報システムの開発を通じ基本的かつ普遍的に必要なとされる下流工程にかかる技術(モデリング、単体テスト、バージョン管理)を学習する。					
受講の前提条件					
プログラム開発基礎を履修していること。					
到達目標					
演習を通して、プログラム開発の下流工程で必要となる技術である設計技術(モデリング)、開発技術(単体テスト、バージョン管理)が行える。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 設計	(1) モデリングを演習する		6.0		
2. 開発	(1) 単体テストを演習する (2) バージョン管理を演習する		10.0		
3. 評価	(1) 発表		2.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
C言語プログラミング 演習	C演習	実技	情報処理実習	特任教官	12
教科書			使用教室	使用機材等	
新C言語入門シニア編			自教室	☑訓練用情報処理システム (エディタ、コンパイラ)	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目(プログラミング実習)。コンピュータの世界においてもっとも標準的に使用されているC言語プログラムの知識習得を図る。					
受講の前提条件					
OSコマンドラインプログラミング、プログラム開発基礎演習を受講していること。					
到達目標					
C言語の基礎知識である変数、配列、関数、制御構文、さらに高度な配列、データ構造などのプログラムの開発手法について理解し、内容を説明できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. C言語の基礎	(1) 文字、定数、変数を学習する (2) 算術演算、論理演算を学習する (3) 分岐処理を学習する (4) 繰り返し処理を学習する		2.0		
2. 関数	(1) 関数と定義と引用を学習する (2) 関数に関わる諸変数を学習する		1.0		
3. 構造体と共用体	(1) 構造体、共用体の使用法を学習する		1.0		
4. ポインタ	(1) ポインタ変数を学習する (2) 関数と構造体との関わりを学習する		2.0		
5. 配列	(1) 配列の基本を学習する (2) ポインタを学習する (3) 関数との関わりを学習する		2.0		
6. ファイル入出力	(1) C言語におけるファイル入出力を学習する		1.0		
7. ライブラリ関数	(1) ライブラリ関数の仕組みを学習する (2) 標準ライブラリ関数を学習する		2.0		
8. 評価	(1) レポート		1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
オブジェクト指向プログラミング演習	オブ演習	実技	情報処理実習	特任教官	18
教科書			使用教室	使用機材等	
基礎からのJava 改訂版			自教室	☑訓練用情報処理システム (統合開発環境)	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目(プログラミング実習)。オブジェクト指向言語であるJavaプログラミングの知識習得を図る。					
受講の前提条件					
OSコマンドラインプログラミング、プログラム開発基礎演習、C言語プログラミング実習を受講していること。					
到達目標					
オブジェクト指向にもとづいたプログラミングをJavaを用いて行うことで、カプセル化、継承、ポリモーフィズムなどのオブジェクト指向プログラミングの開発手法を理解することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. オブジェクト指向とその概念	(1) オブジェクト指向の概念を学習する		1.0		
2. Javaの基本	(1) Javaの基本構文を学習する (2) Javaでの入出力を学習する (3) クラスを学習する		2.0		
3. Javaによるオブジェクト指向	(1) カプセル化を学習する (2) 継承を学習する (3) オーバーライドを学習する (4) 抽象クラスを学習する (5) 例外処理を学習する (6) ポリモーフィズムを学習する (7) オブジェクト指向の応用技術を学習する		14.0		
4. 評価	(1) レポート		1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空交通管制情報処理システム開発演習	開発演習	実技	情報処理実習	電子科教官	30
教科書			使用教室	使用機材等	
Jenkins実践入門 教官作成資料			自教室	☑訓練用情報処理システム (統合開発環境)	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目(システム設計実習)。 航空交通管制情報処理システム開発で必要となるプロジェクトマネジメントを体験演習することにより、プロジェクトマネジメントの基礎を学習する。					
受講の前提条件					
設計／実装科目、ストラテジ研究科目、業務要件科目を履修していること。					
到達目標					
各開発工程で必要なプロジェクトマネジメントを行い、成果物の納入、納入過程についての説明ができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 計画	(1) プロジェクト計画書作成を演習する (2) プロジェクト要領書作成を演習する		6.0		
2. 要件定義	(1) 要件定義を演習する ア. 機能要件 イ. 非機能要件		6.0		
3. 設計・開発	(1) 工程管理を演習する (2) 課題管理を演習する (3) 品質管理を演習する (4) 納品検査を演習する		16.0		
4. 評価	(1) 発表及びレポート		2.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
ネットワーク演習	ネット演習	実技	情報処理実習	電子科教官	30
教科書			使用教室	使用機材等	
マスタリングTCP/IP入門編 第5版 マスタリングTCP/IPルーティング編 Cisco CCENT/CCNA ICND1編、Cisco CCNA ICND2編 Cisco CCNP SWITCH、Cisco CCNP ROUTE 教官作成資料			自教室	☑訓練用情報処理システム ☑実験用ネットワーク機材一式	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目(ネットワーク実習)。 TCP/IPのプロトコル体系を中心に、情報システムの構築に不可欠な通信技術の知識およびネットワーク構築に関する様々な知識・技術を学習する。					
受講の前提条件					
ネットワーク理論を履修していること。					
到達目標					
実験用のL2、L3スイッチを使用してLAN構築を行い、IPアドレスの割り振り、ルータ、ルーティングプロトコルの設定など、様々な事項を実際に経験してネットワーク管理の基本的な内容を理解し構築することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. ネットワークコマンド	(1) ネットワークコマンドの基礎知識を学習する		2.0	授業内で実施	
2. アドレスとパケット	(1) 同一セグメントの通信を学習する (2) 別セグメントとの通信を学習する		6.0		
3. ルーティング	(1) スタティックルーティングを構築する (2) ダイナミックルーティング(RIP)を構築する (3) ダイナミックルーティング(OSPF)を構築する		6.0		
4. 信頼性	(1) L2ネットワークの冗長化(STP)を構築する (2) L3ネットワークの冗長化(VRRP)を構築する (3) WANの冗長化を構築する		6.0		
5. 障害試験	(1) ネットワークの信頼性評価(障害試験)を演習する		6.0		
6. 構築と運用	(1) ネットワークセキュリティを学習する (2) ネットワーク構築と運用を学習する		4.0		
7. 評価	(1) レポート				

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
研究時間	研究時間	実技	情報処理実習	電子科教官	22
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料			自教室	☑訓練用情報処理システム	
位置づけ					
航空交通管制技術職員試験規則のシステム関連研修に関する基礎試験科目（情報処理研究）。 航空交通管制情報処理システムの企画から運用移行までの各工程の実務を学習し、今後のシステム開発に生かす。					
受講の前提条件					
管制情報処理システム概論を履修していること。					
到達目標					
SDECCにおける航空交通管制情報処理システムの企画、製造、評価、運用移行に至るまでの実務を研究し、その手法を説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 管制情報処理システム研究及びシステム開発、評価	(1) SDECCの役割と位置付け		4.0	4時限 × 1	
	(2) SDECCの実務を研究する ア. システム開発の企画から製造着手までを研究する イ. システム開発の製造から評価着手までを研究する ウ. システム開発の評価から運用移行までを研究する		12.0	4時限 × 3	
	(3) システム開発・評価の取り組みを研究する		2.0		
	(4) 管制情報システムとSDECCの関連について研究する		4.0		
2. 評価	(1) レポート			授業内で実施	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
科目演習(実技)	科目演習	実技	情報処理実習	電子科教官	2
教科書			使用教室	使用機材等	
教官作成資料			自教室	☒ 訓練用情報処理システム	
位置づけ					
情報処理実習の研修効果を高める。					
受講の前提条件					
なし。					
到達目標					
なし。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 情報処理実習 科目等の演習等	(1) 演習 (2) その他		2.0		

IV. 研修内容

9. 管制官課程（132期、133期、134期）

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
実用英語	実用英語	学科	外国語科目	特任教官	8
教科書			使用教室	使用機材等	
AVIATION ENGLISH			自教室 LL教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空分野における英語でのコミュニケーション力の向上					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
航空分野の英語を題材に表現力・会話を身につける。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空英語 Aviation English	(1) リスニング、発音 ア.外国人講師による授業により英語でコミュニケーションをとる練習をする。 イ.音声の付いているレッスンでは音声と同じようなリズムで音読する練習をする。 (2) 知識、専門語彙 平易な英語で書かれた航空英語の教材を使い業務に関連する語彙を養成する。 (3) ディスカッション、説明力 航空分野の話題について議論することを通じて、日常的な会話以外の会話に慣れる。		7.0		
2. 評価 Evaluation			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空英語	航空英語	学科	外国語科目	管制科教官	30
教科書			使用教室	使用機材等	
業務英語 航空無線通信士「英語」			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制職員基礎試験科目(航空交通管制に用いられる外国語)。 無線従事者試験認定科目。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
航空保安業務処理規程第五管制業務処理規程で定める管制用語だけでは補えない場面での状況を理解し、航空無線通信において平易な英語を用いて意思疎通や情報提供できる対応力を身に着ける。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 英文和訳及び和文英訳	(1) 航空移動業務に関する基本的事項 ア. 航空用語 イ. 航空施設 ウ. 航空気象 (2) 重要無線通信の取り扱いに関する事項 ア. 遭難通信 イ. 緊急通信 ウ. 安全通信 (3) 航空交通管制業務に関する事項 ア. 航空路管制業務 イ. 飛行場管制業務 ウ. 進入管制業務 エ. ターミナル・レーダー管制業務 オ. 着陸誘導管制業務 カ. その他航空機の運航に関する事項			12.0	
2. 英会話	(1) 航空移動業務に関する基本事項 (2) 重要無線通信の取り扱いに関する事項 (3) 航空交通管制業務に関する事項 (4) その他航空機の運航に関する事項			18.0	
3. 評価	科目演習にて実施する次の試験を持って評価 「無線従事者(航空無線通信士)養成課程 修了試験				

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空交通業務概論	航交概	学科	専門科目	管制科教官	7
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務の概要 航空六法 航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空保安職員として、航空交通業務全般にわたり理解させる。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
航空機の安全運航を援助する業務全体の概要を理解し、管制業務に活用できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 序論	1.1 航空管制業務に関する法律・規定 1.2 ICAO(国際民間航空機関) 1.3 ICAOシカゴ条約付属書(ANNEX)		0.5		
2. 航空交通業務	2.1 航空交通業務の目的 2.2 航空交通業務の種類 2.3 日本における航空交通業務		1.5		
3. 管制業務	3.1 管制業務の定義 3.2 管制業務の種類 3.3 管制業務実施機関 3.4 管制業務の概要		2.0		
4. 飛行情報業務	4.1 飛行情報業務 4.2 気象情報 4.3 航空情報 4.4 管制業務における情報提供 4.5 航空管制運航情報官／航空管制通信官		1.0		
5. 警急業務	5.1 警急業務と捜索救難業務 5.2 措置基準 5.3 緊急状態の通報 5.4 緊急方式(管制方式基準)		1.0		
6. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空管制概論	管概	学科	専門科目	管制科教官	8
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程 航空路誌 航空六法 航空保安業務の概要 航空管制のはなし 飛行機がわかる 航空用語辞典			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
各管制論への導入として、航空管制業務を全般的に理解させる。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
管制業務で使用する基本的な単位、略号、用語及び通信要領を理解し使うことができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空管制の概略①	(1) 航空管制の歴史		1.0		
2. 航空管制の概略②	(2) 管制業務処理規程総則及び管制方式基準総則 (3) 管制方式基準通則 業務量 業務の優先順位 取り扱い順位 管制承認及び管制許可の発出 使用する時間 (4) 管制業務の種類と9パーツ (5) 航空で使用される単位		1.0		
3. 飛行に係る規定概要①	(1) 計器気象状態と有視界飛行状態 (2) 管制空域と非管制空域 (3) 空の路(ATSルート) (4) 飛行場付近の飛行と場周経路 (5) 航空管制で使われる用語とその重要性		1.0		
4. 飛行に係る規定概要②	(6) 巡航高度と高度計規正 (7) 最低安全高度と速度制限 (8) 位置通報と待機 (9) 計器進入と進入復行 (10) 飛行計画 (11) 管制承認と授受の流れ		1.0		
5. 管制卓と通信要領等①	(1) 管制卓の構成及び各機能 送受信機 電話回線 表示器等		1.0		
6. 管制卓と通信要領等②	(2) ICAO 4 letter /3 letter (3) 電話通信要領及び試験通信要領 試験電波の発射 文字の通話表 数の送信 無線呼出符号		1.0		
7. 管制卓と通信要領等③	(4) 送信要領 通信設定 試験通信 (5) 復唱の確認		1.0		
8. 評価			1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
飛行場管制論	飛管論	学科	専門科目	管制科教官	28
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程 航空路誌 EN-ROUTE CHART AIM-J			自教室 第2飛行場管制実習室	☑校務情報システム ☑飛行場管制実習装置	
位置づけ					
航空交通管制職員基礎試験科目(飛行場管制方式及び進入管制方式)。					
受講の前提条件					
航空交通業務概論、航空管制概論 履修					
到達目標					
飛行場管制業務を実施するのに必要な知識、準拠すべき方式、最低基準及び用語が使用できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
レベル1 通信・基礎					
1. 電話通信	(Ⅰ)-1(1) 目的 (Ⅰ)-1(2) 適用 (Ⅰ)-5(2) 通信の種別 (Ⅰ)-5(3) 通信の優先順位 (Ⅰ)-5(9) 航空機型式 (Ⅰ)-5(15) 周波数変更 (Ⅰ)-5(16) 通信の内容 (Ⅰ)-5(17) 聴取の中断		1.0		
2. 通 則	(Ⅲ)-1(1) 適用 (Ⅲ)-1(3) 滑走路の使用 (Ⅲ)-1(6) 滑走路の選定		1.0		
情報の提供	(Ⅲ)-8(1) 交通情報				
3. 通則 地上走行 出発機	(Ⅲ)-1(2) 走行地域における指示 (Ⅲ)-4(1) 地上走行に関する指示 (Ⅲ)-5(1) 出発機に対する情報及び指示 (Ⅲ)-5(6) 離陸準備完了の通報		1.0		
管制書類様式記入要領	V-1 管制日誌 V-2 管制無線業務日誌 V-5 飛行場管制所機器点検表				
4. 通則 管制許可等	(Ⅲ)-1(2) 走行地域における指示 (Ⅲ)-2(1) 離陸許可 (Ⅲ)-2(4) 滑走路路上における待機 (Ⅲ)-2(7) 滑走路手前における待機 (Ⅲ)-5(7) 離陸時刻の通報		1.0		
5. 到着機 管制許可等	(Ⅲ)-6(1) 到着機に対する情報及び指示 (Ⅲ)-6(2) 位置通報の要求 (Ⅲ)-2(9) 着陸許可 (Ⅲ)-2(18) 法第95条ただし書きの許可		1.0		
6. 管制処理			1.0		

飛行場管制論

授業項目	要点	時限	備考
レベル2 管制間隔設定方法習得 航空機の継続視認			
7. 管制許可等	(Ⅲ)-2(1) 離陸許可 (Ⅲ)-2(9) 着陸許可 (Ⅲ)-2(12) 復行の指示	1.0	
管制間隔	(Ⅲ)-3(1) 適用 (Ⅲ)-3(2) 同一滑走路における間隔		
8. 通則 管制許可等	(Ⅰ)-2(14) 迅速な行動を必要とする場合 (Ⅲ)-2(8) 離陸許可の取消し (Ⅲ)-2(11) 滑走路離脱の指示	1.0	
到着機	(Ⅲ)-6(1) 到着機に対する情報及び指示 (Ⅲ)-6(3) 間隔設定		
9. 管制処理	スキヤニング方法 管制間隔の設定方法	1.0	
10. 管制処理	時間計測	1.0	
レベル3 インターセクション			
11. 電話通信 管制許可等 到着機	(Ⅰ)-5(5) 数の送信 (Ⅲ)-2(3) インターセクション・デパーチャー (Ⅲ)-6(5) VFR機の空中待機	1.0	
12. 管制処理	インターセクション・デパーチャーの取り扱い方	1.0	
レベル4 ATIS 後方乱気流			
13. 通 則	(Ⅰ)-2(11) ATIS機関への通報 (Ⅰ)-2(13) ATISの中断又は終了 (Ⅲ)-2(18) 法第95条ただし書きの許可 (Ⅲ)-5(1) 出発機に対する情報及び指示	1.0	
管制許可等 出発機			
14. 通 則	(Ⅰ)-2(18) 後方乱気流関連	1.0	
管制間隔	(Ⅱ)-2(7) 到着機間の間隔		
管制許可等	(Ⅲ)-2(6) 滑走路手前における待機		
管制間隔	(Ⅲ)-3(2) 同一滑走路における間隔		
15. 管制処理	後方乱気流管制方式の適用方法	1.0	
レベル5 後方乱気流管制方式			
16. 電話通信	(Ⅰ)-5(14) 通信の移管 (Ⅲ)-2(11) 滑走路離脱の指示	1.0	
管制許可等	(Ⅲ)-2(15) 使用周波数		
管制間隔	(Ⅲ)-3(7) インターセクション・デパーチャー等の		
地上走行	(Ⅲ)-4(5) 使用周波数		
17. 管制処理	インターセクション・デパーチャーにおける 後方乱気流管制方式の適用方法	1.0	
レベル6 IFR機の取り扱い			
18. 電話通信	(Ⅰ)-5(18) 通信の中継	1.0	
管制間隔	(Ⅱ)-2(8) 目視間隔		
管制間隔	(Ⅲ)-3(2) 同一滑走路における間隔□		
出発機	(Ⅲ)-5(3) 出発後の周波数変更に関する通報 (Ⅲ)-5(4) 出発遅延に関する情報 (Ⅲ)-5(5) 管制承認の伝達		

飛行場管制論

授業項目	要点	時限	備考
19. 通則 到着機 管制許可等 管制間隔 到着機	(Ⅰ)-2(16) 無線施設の異常報告受領時の措置 (Ⅱ)-7(5) 気象情報の通報口 (Ⅲ)-2(1) 離陸許可 (Ⅲ)-2(9) 着陸許可 (Ⅲ)-3(1) 適用口 (Ⅲ)-3(2) 同一滑走路における間隔 (Ⅲ)-6(3) 間隔設定口 (Ⅲ)-6(4) 飛行の制限	1.0	
20. 空港面レーダー 表示装置 タワー ディスプレイ 航空機位置 情報表示装置 空港用航空機 位置表示装置	(Ⅲ)-9(1) 適用 (Ⅲ)-9(2) 空港面レーダー表示装置による情報 (Ⅲ)-9(3) 識別 (Ⅲ)-10(1) 適用 (Ⅲ)-10(2) 航空機の位置の確認 (Ⅲ)-10(3) タワーディスプレイによる情報の提 (Ⅲ)-11(1) 適用 (Ⅲ)-11(2) 航空機の位置の確認 (Ⅲ)-11(3) APIDによる情報の提供 (Ⅲ)-12(1) 適用 (Ⅲ)-12(2) 航空機の位置の確認 (Ⅲ)-12(3) APDUIによる情報の提供	1.0	
21. 管制処理	IFR機とVFR機の取り扱い方法	1.0	
レベル7 ヘリコプターの取扱い 22. 管制許可等 管制間隔 地上走行 到着機 可視信号 情報の提供	(Ⅲ)-2(2) 飛行場内の滑走路以外の離着陸場 (Ⅲ)-2(10) 飛行場内の滑走路以外の離着陸場 (Ⅲ)-2(13) 滑走路上の地上走行 (Ⅲ)-2(14) 滑走路の横断 (Ⅲ)-3(5) ヘリコプターの間隔 (Ⅲ)-4(2) ヘリコプターの地上走行 (Ⅲ)-6(6) 脚の点検 (Ⅲ)-7(1) 適用 (Ⅲ)-7(2) 注意信号 (Ⅲ)-7(3) 航空機からの応答 (Ⅲ)-8(3) 航空機の異常状態に関する情報	1.0	
レベル8 業務の引継ぎ 訓練機の取扱い 23. 通 則 管制許可等	(Ⅲ)-1(5) ローアプローチ、タッチアンドゴー 及びストップアンドゴー (Ⅲ)-2(9) 着陸許可	1.0	
24. 通則 気象情報 情報の提供 業務の引継ぎ	(Ⅰ)-2(12) 航空機に対する情報提供口 (Ⅰ)-2(19) 鳥群情報口 (Ⅰ)-3(1) 気象情報の提供口 (Ⅲ)-8(2) 飛行場の状態に関する情報口 IV-7 業務の引継ぎ	1.0	
25. 通則 管制許可等 地上走行 出発機	(Ⅲ)-1(7) カテゴリーⅡ/ⅢILS制限区域の保護 (Ⅲ)-2(1) 離陸許可口 (Ⅲ)-2(5) 航空機の位置の確認 (Ⅲ)-2(17) 計器気象状態の場合の措置 (Ⅲ)-4(3) 航空機の位置の確認 (Ⅲ)-5(2) 気象情報の通報	1.0	
26. 管制許可等 地上走行 飛行場灯火 運用方法	(Ⅲ)-2(3) インターセクション・デパーチャー (Ⅲ)-2(6) 停止線灯運用時の処置 (Ⅲ)-2(16) 滑走路状態表示灯(RWSL)システム (Ⅲ)-4(4) グライドパス停止線に関する措置 (Ⅲ)-13(1) 適用 (Ⅲ)-13(2) 停止線灯の運用 (Ⅲ)-13(3) RWSLシステムの運用	1.0	

飛行場管制論

授業項目	要点	時限	備考
27. 通則 管制許可等 管制間隔	(Ⅲ)-1(4) 閉鎖滑走路における離着陸 (Ⅲ)-2(19) 平行滑走路における同時運用 (Ⅲ)-3(3) 平行滑走路における間隔 (Ⅲ)-3(4) 交差滑走路及び非交差滑走路に おける間隔 (Ⅲ)-3(6) 間隔の短縮 (Ⅲ)-3(7) インターセクション・デパーチャー等の	1.0	
28. 評価		1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
進入管制論	進管論	学科	専門科目	管制科教官	28
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程 航空路誌 EN-ROUTE CHART AIM-J			自教室 進入管制実習室	☑校務情報システム ☑進入管制実習装置	
位置づけ					
航空交通管制職員基礎試験科目。(飛行場管制方式及び進入管制方式)					
受講の前提条件					
航空交通業務概論、航空管制概論 履修					
到達目標					
進入管制業務を実施するに必要な知識、準拠すべき方式、最低基準及び用語を理解でき使用することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 進入管制業務	進入管制業務と空域		1.0		
2. 経路	ATS経路 フレンドシップ進入管制区内に設定される経路		1.0		
3. 計器進入方式	計器進入方式 フレンドシップ空港に設定される計器進入方式		1.0		
4. 管制承認等	管制承認と伝達の流れ		1.0		
5. 到着機取扱いの流れ①	進入フィックスへの承認 (Ⅱ)-7(1) 到着情報 (Ⅱ)-7(2) 進入フィックスへの承認 (Ⅱ)-7(3) 通信の移管 到着情報、到着機に対する情報等 (Ⅱ)-7(4) 到着機に対する情報等 (Ⅱ)-7(5) 気象情報の通報		1.0		
6. 到着機取扱いの流れ②	進入許可 (Ⅱ)-7(7) 進入許可 管制ストリップの記入		1.0		
7. 到着機取扱いの流れ③	到着機1機の取り扱いの流れと手順 時間管理(位置通報の要求) 高度管理(降下指示と通報要求) 垂直間隔と高度の指定 (Ⅱ)-2(1) 適用 (Ⅱ)-2(2) 垂直間隔		1.0		

進入管制論

授業項目	要点	時限	備考
8. 到着機取扱いの流れ④	待機と進入予定時刻 (Ⅱ)-6(1) 待機指示 (Ⅱ)-6(2) 待機フィックス以遠への 管制承認 (Ⅱ)-6(3) 30分以上の遅延 (Ⅱ)-6(4) 目視地点における待機 (Ⅱ)-6(5) 待機経路からの逸脱 到着機3機の管制 進入順位の決定 ステップダウンの手順	1.0	
9. 到着機取扱いの流れ⑤	縦間隔 (Ⅱ)-2(3) 縦間隔 (Ⅱ)-2(7) 到着機間の間隔 (Ⅱ)-2(9) 隣接空港の航空交通に対する 管制間隔 (Ⅱ)-2(10) 不測の事態における 一時的な措置	1.0	
10. 到着機処理の 手法①	ステップダウンでの処理の計画① 連絡調整	1.0	
11. 到着機処理の 手法②	ステップダウンでの処理の計画② 無線通信	1.0	
12. 到着機処理の 手法③	ステップダウンでの処理の応用 各業務のつながり 陥りやすいミスと対策	1.0	
13. 到着機処理の 手法④	横間隔① 横間隔の設定方法、手順 (Ⅱ)-2(4) 横間隔 高度制限 (Ⅱ)-1(9) 高度制限 (Ⅱ)-1(10) SID、トランジション又は STARによる飛行	1.0	
14. 到着機処理の 手法⑤	横間隔② 進入許可と高度制限	1.0	
15. 到着機処理の 手法⑥	横間隔③ 横間隔設定の計画	1.0	
16. 到着機処理の 手法⑦	中間待機 中間待機による間隔設定と手順 追加管制承認	1.0	
17. 到着機処理の 手法⑧	中間待機による間隔設定の計画	1.0	
18. 出発機①	出発制限 (Ⅱ)-4(2) 出発制限の方法 (Ⅱ)-4(3) 連絡調整 出発機間の初期間隔 (Ⅱ)-2(5) 出発機間の初期間隔	1.0	
19. 出発機②	到着機と出発機との間隔 (Ⅱ)-2(6) 到着機と出発機との間隔 目視間隔 (Ⅱ)-2(8) 目視間隔	1.0	

進入管制論

授業項目	要点	時限	備考
20. 出発機③	到着機と出発機の関係	1.0	
21. 出発機④	出発機の取り扱いの流れと手順	1.0	
22. 到着機処理の 手法⑨	周回進入、目視進入、時差進入 (Ⅱ)-7(8) 周回進入 (Ⅱ)-7(9) 目視進入 (Ⅱ)-7(10) 時差進入	1.0	
23. 特別有視界方式 ①	(Ⅱ)-3(1) 適用 (Ⅱ)-3(2) 管制間隔 (Ⅱ)-3(3) 管制圏又は情報圏における飛行 (Ⅱ)-3(4) VMCへの上昇 (Ⅱ)-3(5) VMC到達後の措置 (Ⅱ)-3(6) ローカル飛行 (Ⅱ)-3(7) 地上視程1,500メートル未満の 場合の措置 (Ⅱ)-3(8) ヘリコプター特別有視界 飛行方式	1.0	
24. 特別有視界方式 ②	特別有視界飛行方式(SVFR)の流れと手順	1.0	
25. 特別管制空域の 許可	法94条の2ただし書きの許可(PCA) (Ⅱ)-8(1) 特別管制空域飛行の許可 (Ⅱ)-8(3) 管制間隔	1.0	
訓練機	模擬計器進入、模擬計器出発 (Ⅱ)-4(5) 模擬計器出発 (Ⅱ)-7(11) 模擬計器進入 (Ⅱ)-7(12) ローアプローチを等を行った 後の飛行に係る指示		
26. 気象情報	気象情報 (Ⅰ)-3(1) 気象情報の提供 (Ⅰ)-3(2) 悪気象空域の回避 (Ⅰ)-3(3) 気象情報の要求 (Ⅰ)-3(4) RVR値の通報 (Ⅰ)-3(5) ウィンドシアア情報の通報	1.0	
27. 緊急方式	通則 (Ⅵ)-1(1) 適用 (Ⅵ)-1(2) 情報の収集 (Ⅵ)-1(3) 緊急機に対する指示 緊急業務 (Ⅵ)-2(1) 措置基準 (Ⅵ)-2(2) 通報内容 (Ⅵ)-2(3) 作図 (Ⅵ)-2(4) 消火救難機関に対する通報 管制方式 (Ⅵ)-3(1) 優先的取扱い (Ⅵ)-3(2) 緊急降下の通報を受けた場合の 措置 (Ⅵ)-3(3) 航空機の無線通信途絶の場合の 措置 (Ⅵ)-3(4) 捜索救難機 (Ⅵ)-3(5) 患者輸送機等 (Ⅵ)-3(6) ミニマムフューエルを通報した 航空機 (Ⅵ)-3(7) ハイジャック (Ⅵ)-3(8) 燃料投棄	1.0	
28. 評価		1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
ターミナル・レーダー 管制論	TR論	学科	専門科目	管制科教官	28
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程 航空路誌 EN-ROUTE CHART AIM-J			自教室 ターミナル・レーダー実習室	☑校務情報システム ☑ターミナル・レーダー 実習装置	
位置づけ					
航空交通管制職員基礎試験科目(ターミナル・レーダー管制方式、着陸誘導管制方式およびレーダー概論)。					
受講の前提条件					
航空交通業務概論、航空管制概論、レーダー概論、進入管制論 履修					
到達目標					
ターミナル・レーダーを使用して行う管制業務を実施するのに必要な知識、準拠すべき方式、最低基準及び用語が使用できる。					
授業項目	要点	時限	備考		
1. ノンレーダー管制 とレーダー管制	ノンレーダー管制とレーダー管制の相違 計器進入方式の構造	1.0			
2. レーダー間隔	レーダー識別及びレーダー間隔 (Ⅳ)-3(1) 適用 (Ⅳ)-3(2) レーダー識別の方法及び維持 (Ⅳ)-3(4) レーダー業務終了の通報等 (Ⅳ)-3(7) 位置通報の要求 (Ⅳ)-6(1) 適用 (Ⅳ)-6(2) ターゲットの間隔測点 (Ⅳ)-6(3) 二次レーダーの距離精度の確認 (Ⅳ)-6(4) レーダー間隔の最低基準 (Ⅳ)-6(5) 変位の限界 (Ⅳ)-6(6) 管轄区域等境界線との間隔 (Ⅳ)-6(7) レーダー画面周縁における間隔 (Ⅳ)-6(8) 出発間の初期間隔 (Ⅳ)-6(9) 到着機と出発機との間隔 (Ⅰ)-2(9) 編隊飛行 (Ⅳ)-6(10) 編隊飛行に係るレーダー間隔 (Ⅳ)-6(11) レーダー間隔の特例	1.0			
3. 表示高度の使用	自動高度応答装置による高度の使用 (Ⅳ)-6(12) 自動高度応答装置による高度 (Ⅳ)-6(13) クイックルック	1.0			
4. IFR到着機の 取扱いの流れ	到着機のレーダー移送を継受してから、 着陸・復行までの流れと手順 (Ⅱ)-7(4) 到着機に対する情報等 (Ⅱ)-7(5) 気象情報の通報 (Ⅱ)-7(6) 進入を継続するための最低気象 条件未満の場合の措置 (Ⅱ)-1(11) 高度の確認 (Ⅳ)-8(1) 到着機の誘導 (Ⅳ)-8(2) 最終進入コースへの誘導 (Ⅳ)-8(3) 最終進入コースへの会合角 (Ⅳ)-8(4) 最終進入コースの横断 (Ⅳ)-8(5) アプローチゲート到着前の 通報事項 (Ⅳ)-8(6) 進入期に係るレーダー業務範囲 (Ⅳ)-8(7) フィックスへの直行	1.0			

ターミナル・レーダー管制論

授業項目	要点	時限	備考
5. レーダー誘導	レーダー誘導できる根拠、条件 レーダー誘導開始と終了にかかる手順 旋回半径と旋回指示発出のタイミング 管制卓を利用した実践的復習 (IV)-4(1) 適用 (IV)-4(2) 出発間の初期間隔 (IV)-4(3) 誘導の範囲 (IV)-4(4) 誘導の方法 (IV)-4(5) 誘導に係る通報事項等 (IV)-4(6) 誘導の終了 (IV)-4(7) 位置情報 (IV)-4(8) 最終進入以外のレーダー監視 (IV)-4(9) VFRの誘導	3.0	
6. レーダー幾何① 及び機器操作	ベクタリングの手法 ベクタリングの手法を利用した 誘導コースの作図法 最短経路と延長コースの作図法 機器操作及び調整 (IV)-1(1) 業務量 (IV)-1(2) レーダー機器調整 (IV)-1(5) TRADの運用	1.0	
7. レーダー幾何②	旋回指示と進入許可発出 到着機の間隔を広げる手法	1.0	
8. レーダー幾何③	進入順位決定の手法	1.0	
9. レーダー幾何④	イントレイル、速度差による距離の縮まり 入域前の実効間隔の計測方法	1.0	
10. レーダー幾何⑤	ストレッチに必要な距離の算出方法 延長コースの利用方法と イニシャルヘディングの決定	1.0	
11. IFR出発機の流	離陸前から、進入管制区離脱までの 流れと手順 (II)-4(1) 出発に係る指示 (IV)-3(2) レーダー識別の方法及び維持 (IV)-6(12) 自動高度応答装置による高度 (II)-1(11) 高度の確認 (IV)-4 レーダー誘導 (IV)-7(1) 適用 (IV)-7(2) 離陸直後の誘導 (IV)-7(3) コードの指定 (IV)-7(4) 最低誘導高度未満の誘導 (IV)-5(1) 適用 (IV)-5(2) 移送の方法 (IV)-5(3) 継受の方法 (IV)-5(4) レーダーハンドオフ	1.0	
12. 二次レーダーと レーダー識別	二次レーダー応信にかかる指示及び 対処等と、レーダー識別にかかる措置 (IV)-2(1)適用 (IV)-2(2)コードの指定等 (IV)-2(3)緊急コード (IV)-2(4)トランスポンダーの待機又は 低感度による応信 (IV)-2(5)トランスポンダー停止 (IV)-2(6)トランスポンダー故障 (IV)-2(7)コードの確認 (IV)-3(2)レーダー識別の方法及び維持 (IV)-3(3)レーダー識別に係る通報 (IV)-3(5)識別が疑わしい場合の措置 (IV)-3(6)再識別に係る措置	1.0	

ターミナル・レーダー管制論

授業項目	要点	時限	備考
13. TCAアドバイザー業務、補足業務及び回避措置	VFR機へのTCAアドバイザー業務、補足業務及び回避アドバイザーに係る措置並びに最低安全高度警報を受けた際の措置 (IV)-14 TCAアドバイザー業務 (IV)-15 補足業務 (I)-2(17) 回避アドバイザーに係る措置 (I)-2(21) 最低安全高度警報	1.0	
14. IFR到着機とIFR出発機の競合	IFR出発機とIFR到着機間の、管制間隔の設定にかかる手法と手順	1.0	
15. 気象情報の提供及びPCA通過取扱い等	航空機の運航に影響を及ぼす気象情報の提供及び要求、それらの措置及び取扱い等 VFR機のPCA通過にかかる措置 (I)-3(1) 気象情報の提供 (I)-3(2) 悪気象空域の回避 (I)-3(3) 気象情報の要求 (I)-3(5) ウィンドシアー情報の通報 (II)-1(15) 法第94条ただし書の許可 (II)-8(1) 特別管制空域飛行の許可 (II)-8(3) 管制間隔	1.0	
16. 速度調整	進入管制区における速度調整の目的と航空機の運航 (IV)-9(1) 適用 (IV)-9(2) 方法 (IV)-9(3) 過度の調整 (IV)-9(4) 最低調整速度及び調整量 (IV)-9(5) 調整の終了 (I)-2(20) 速度制限空域における制限速度を超える速度指示	1.0	
17. レーダー機器等故障時等の措置	突発的なレーダー機器等故障時の基本的な手順 (IV)-1(4) レーダー機器故障の場合の措置 (II)-2(10) 不測の事態における一時的な措置	1.0	
18. レーダー進入	レーダー誘導による進入を行う到着機の取扱い手順 (IV)-10 レーダー進入	1.0	
19. 搜索レーダー進入及び精測レーダー進入	レーダー誘導による非精密進入及び精密進入を行う到着機の取扱い手順 (IV)-11 搜索レーダー進入 (IV)-12 精測レーダー進入 (IV)-13 最終進入の監視	2.0	
20. RNAV進入	RNAV進入を行う到着機の取扱い手順 (IV)-8-5(1) 適用 (IV)-8-5(2) フィックスへの直行 (IV)-8-5(3) 進入許可 (IV)-8-5(4) 速度調整	1.0	
21. 視認進入	視認進入を行う到着機の取扱い手順 (IV)-8-1(1) 適用 (IV)-8-1(2) レーダー間隔の適用 (IV)-8-1(3) 同一滑走路への視認進入 (IV)-8-1(4) 同一滑走路への経路指定視認進入 (IV)-8-1(5) 平行滑走路への視認進入 (IV)-8-1(6) 後方乱気流関連	1.0	

ターミナル・レーダー管制論

授業項目	要点	時限	備考
22. 緊急方式	緊急状態にあるか又はそのおそれのある 場合の航空機及び通常運航ではない 航空機の取扱い並びに無線施設異常報告 受領時の措置 (IV)-1(3)航空機の無線通信機故障の場合の 措置 (VI)-1通則 (VI)-2(3)作図 (VI)-2(4)消火救難機関に対する通報 (VI)-3管制方式 (I)-2(16)無線施設の異常報告受領時の 措置	1.0	
23. 空域分離による 管制席分担	管制席と管制席の業務分担と関わり合い 及び調整業務にかかる手順	1.0	
24. 平行滑走路への 進入及び特別 管制方式	平行滑走路を保有する特定の空港における 運用と管制方式及び執るべき措置 (IV)-8-2平行ILS進入 (IV)-8-3平行ILS／精測レーダー進入 (IV)-8-4同時平行ILS進入 (V)特別管制方式	1.0	
25. 評価		1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空路管制論	航管論	学科	専門科目	管制科教官	30
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程 航空管制実習要領 I EN-ROUTE CHART AIM-J			自教室 航空路管制実習室	☑校務情報システム ☑航空路管制実習装置	
位置づけ					
航空交通管制職員基礎試験科目(航空路管制方式)					
受講の前提条件					
航空交通業務概論、航空管制概論 履修					
到達目標					
航空路管制業務を実施するのに必要な知識、準拠すべき方式、管制間隔の最低基準及び管制用語を理解し、使用することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
レベル1 導入・機器操作1 締結及び規定文書					
1. 導入 機器操作1	座学・実習の進め方について 航空路管制業務について 通信制御装置(CCS)の操作		1.0		
2. 締結及び 規定文書	IV-3 調整要領 IV-4 協定書 IV-5 運用要領 IV-6 業務処理要領		1.0		
レベル2 巡航機の取り扱い 機器操作2・3					
3. 高度計規正值	(Ⅰ)-4(1) 高度計規正值の入手 (Ⅰ)-4(2) 観測地点名の通報 (Ⅰ)-4(3) 提供する高度計規正值 (Ⅰ)-4(4) 高度計規正值の提供時機		1.0		
4. 高度の確認1 管制間隔1 補足業務	(Ⅱ)-1(12) 高度の確認(巡航機) (Ⅳ)-6(2) ターゲットの間隔測点 (Ⅳ)-6(4) レーダー間隔の最低基準 (Ⅳ)-15(1) 適用 (Ⅳ)-15(2) レーダー交通情報 (Ⅳ)-15(3) ターゲット接触のおそれがある場合の措置 (Ⅳ)-15(5) トラフィック解消の通報		1.0		
5. 編隊飛行 レーダー識別1	(Ⅰ)-2(9) 編隊飛行 (Ⅳ)-3(1) 適用 (Ⅳ)-3(2) レーダー識別の方法及び維持 (Ⅳ)-3(3) レーダー識別に係る通報		1.0		
6. 移管情報 変更情報 連絡調整1	(Ⅱ)-5(1) 移管情報 (Ⅱ)-5(2) 変更情報 (Ⅱ)-5(3) 連絡調整		1.0		

航空路管制論

授業項目	要点	時限	備考
7. 機器操作2	「3.」～「6.」に関する機器操作	1.0	
8. レーダー移送	(IV)-5(1) 適用 (IV)-5(2) 移送の方法 (IV)-5(3) 継受の方法 (IV)-5(4) レーダーハンドオフ (IV)-5(5) レーダーポイントアウト	1.0	
9. 通信移管1 周波数の変更1 業務移管	(I)-5(14) 通信の移管 (I)-5(15) 周波数の変更(1) (I)-2(5) 業務移管	1.0	
10. 高度の指定1	(I)-2(15) 許可又は不許可に係る用語 (II)-1(8) 高度の指定(1) (II)-1(11) 高度変更ができない場合の措置(2)	1.0	
11. RVSM	(II)-1(13) RVSM非適合に係る通報 (II)-1(14) RVSM適合に係る確認 (II)-2(2) 垂直間隔 (II)-1(11) 高度変更ができない場合の措置(2)	1.0	
12. 機器操作3	「8.」～「11.」に関する機器操作	1.0	
レベル3 到着機の取り扱い			
13. 高度の指定2 通信の移管2	(II)-1(8) 高度の指定(2) (II)-1(9) 高度制限 (II)-7(3) 通信の移管	1.0	
14. 到着情報 進入許可	(II)-7(1) 到着情報 (II)-7(7) 進入許可	1.0	
15. 周波数の変更2 レーダー業務終 の通報	(I)-5(15) 周波数の変更(2) (IV)-2(2) コードの指定等(別表2を含む) (IV)-3(4) レーダー業務終了の通報等	1.0	
16. レーダー誘導	(IV)-4(1) 適用 (IV)-4(2) 最低誘導高度 (IV)-4(3) 誘導の範囲 (IV)-4(4) 誘導の方法 (IV)-4(5) 誘導に係る通報事項等 (IV)-4(6) 誘導の終了	1.0	
17. 飛行経路の変更 管制間隔2	(II)-1(7) 管制承認の変更 (II)-1(17) 自衛隊低高度訓練／試験空域 及び自衛隊高高度訓練／試験空域並びに 制限空域 (II)-1(18) 回廊 (IV)-6(6) 管轄区域等境界線との間隔	1.0	
レベル4 出発機の取り扱い			
18. 管制承認1	(II)-1(1) 管制承認 (II)-1(2) 管制承認及び一般情報の中継 (II)-1(3) 管制承認限界点 (II)-1(4) SID 又はトランジションの指示 (II)-1(5) 飛行経路 (II)-1(6) 高度(1)	1.0	
19. 高度の確認2	(IV)-6(12) 自動高度応答装置による高度 (II)-1(12) 高度の確認(巡航機以外)	1.0	

航空路管制論

授業項目	要点	時限	備考
20. 待機指示 出発制限	(Ⅱ)-6(1) 待機指示 (Ⅱ)-6(2) フィックス以遠への管制承認等 (Ⅱ)-6(3) 30分以上の遅延 (Ⅱ)-6(4) 目視地点における待機 (Ⅱ)-6(5) 待機経路からの逸脱 (Ⅱ)-4(2) 出発制限の方法(順位付け・ 時間計算含む)	1.0	
21. 各席での処理	C席での処理 R席での処理	1.0	
評価 22. 評価		1.0	
レベル5 スペーシング			
23. 速度調整1 (IAS)	(Ⅳ)-9(1) 適用(1) (Ⅳ)-9(2) 方法(1) (Ⅳ)-9(3) 過度の調整(1) (Ⅳ)-9(4) 最低調整速度及び調整量(1) (Ⅳ)-9(5) 調整の終了(1)	1.0	
24. 速度調整2 (MACH)	(Ⅳ)-9(1) 適用(2) (Ⅳ)-9(2) 方法(2) (Ⅳ)-9(3) 過度の調整(2) (Ⅳ)-9(4) 最低調整速度及び調整量(2) (Ⅳ)-9(5) 調整の終了(2)	1.0	
レベル6 アドバンス			
25. 管制間隔3 (ノンレーダー)	(Ⅱ)-2(1) 適用 (Ⅱ)-2(3) 縦間隔 (Ⅱ)-2(4) 横間隔 (Ⅱ)-5(4) 位置通報	1.0	
26. 洋上管制	(Ⅱ)-9 洋上管制 (Ⅱ)-10 ADS-C及びCPDLC	1.0	
27. 管制承認2 目視間隔 連絡調整2 レーダー識別2	(Ⅱ)-1(6) 高度(2) (Ⅱ)-2(8) 目視間隔 (Ⅱ)-4(3) 連絡調整 (Ⅳ)-2(7) コードの確認 (Ⅳ)-3(3) レーダー識別に係る通報(2)	1.0	
28. 飛行方式	(Ⅱ)-1(15) 有視界気象状態を維持して 行う飛行 (Ⅱ)-4(4) 複合飛行方式	1.0	
29 まとめ	総復習(1)	1.0	
	総復習(2)	1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
国際航空法規	国際法	学科	専門科目	管制科教官	10
教科書			使用教室	使用機材等	
ICAO概論 国際民間航空条約第2付属書 国際民間航空条約第11付属書			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制職員基礎試験科目(国際航空法規)。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
国際民間航空機関設立及び国際民間航空条約成立までの歴史的背景を理解の上、現状の国際民間航空機関における組織構成と役割を習得するとともに、国際民間航空条約及び同付属書で定める規定等について、我が国の法令や航空保安業務処理規程とのつながりを理解する。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 歴史的背景 国際民間航空条約①	(1) 国際民間航空条約成立までの歴史的背景 (2) シカゴ会議の概要 (3) シカゴ会議における成立文書 (4) 5つの空の自由 (5) 主権(第1条) (6) 領域(第2条) (7) 不定期飛行の権利(第5条) (8) 定期航空業務(第6条)			1.0	
2. 国際民間航空条約②	(1) 条約の全体構成 (2) 前文 (3) 民間航空機及び国の航空機(第3条) (4) 民間航空機に対する武器使用の禁止(第3条の2) (5) 民間航空の濫用(第4条) (6) 国内営業(第7条) (7) 国際の標準及び手続の採択(第37条) (8) 付属書の全体構成 (9) 付属書の採択及び改正(第90条) (10) 航空規則(第12条) (11) 国際の標準及び手続からの乖離(第38条) (12) 航空業務手続 (13) 地域補足手続			1.0	
3. 国際民間航空条約③	(1) 名称及び構成(第43条) (2) 目的(第44条) (3) 恒久的所在地(第45条) (4) 地域事務所及び支所 (5) 加盟国数 (6) 条約への加入(第92条) (7) その他の国の加入承認(第93条) (8) 条約の廃棄(第95条) (9) 我が国の加盟経緯 (10) 総会の会合及び表決(第48条) (11) 総会の権限及び任務(第49条) (12) 条約の改正(第94条) (13) 理事会の構成及び選挙(第50条)			1.0	

国際航空法規

授業項目	要点	時限	備考
	(14) 理事会の議長(第51条) (15) 理事会における表決(第52条) (16) 理事会の義務的任務(第54条) (17) 航空委員会の委員の指名及び任命(第56条) (18) 航空委員会の任務(第57条) (19) 航空委員会傘下の専門部会・パネル (20) 常設委員会の概要 (21) 事務局の概要 (22) 他の国際団体との取極(第65条) (23) 国際民間航空機関における事業の概要 (24) 国際航空安全監視プログラム (25) 国際航空運送についてのある規則の統一に関する条約 (26) 機内犯罪防止条約 (27) 航空機不法奪取防止条約 (28) 航空機等破壊防止条約 (29) 予算及び分担金(第63条)		
4. 評価	前期評価	1.0	範囲を分割して評価を行うことによる定着度の向上
5. 条約 第2付属書①	(1) 前文 (2) 定義 ①業務の種類 ②機関の種類 ③飛行計画の種類 ④エアタキシング及び垂直離着陸 ⑤走行地域、エプロン及び誘導路の種類 ⑥空域の種類 ⑦代替空港の種類 (3) 適用 ①航空規則の適用 ②航空規則の遵守 ③航空規則の遵守の責任 ④機長の責任 ⑤機長の権限 ⑥出発前の確認 ⑦向精神性物質の使用 (4) 一般規則 ①人命及び財産の保護 ②最低安全高度	1.0	
6. 条約 第2付属書②	(1) 一般規則 ①巡航高度 ②物件の投下・散布 ③物件の曳航 ④落下傘降下 ⑤曲技飛行 ⑥編隊飛行 ⑦進路権 ⑧航空機の灯火 ⑨模擬計器飛行 ⑩飛行場及びその周辺における運航 ⑪飛行計画の提出 ⑫到着報 ⑬遭難及び緊急信号 ⑭時間 ⑮管制承認 ⑯位置通報 ⑰管制の終了 ⑱通信	1.0	

国際航空法規

授業項目	要点	時限	備考
7. 条約 第2付属書③ 条約 第11付属書①	(1) 有視界飛行方式 ①飛行可能時間 ②飛行可能高度及び速度 ③RVSM適用空域での飛行の禁止 ④飛行方向別高度 ⑤管制を受ける必要がある空域 (2) 計器飛行方式 ①IFRからVFRへの飛行方式の変更 ②IFRの取り下げ (3) 前文 (4) 定義 ①飛行情報区 ②切替点 ③世界測地系 ④平均海面 ⑤協定世界時 (5) 総則 ①航空交通業務の目的 ②航空交通業務の区分 ③航空交通業務が実施される管制 飛行場と空域の指定 ④空域の分類 ⑤性能準拠型航法による運航 ⑥航空交通業務機関及び空域の識別	1.0	
8. 条約 第11付属書②	(1) 総則 ①緯度経度を示す地理的座標 ②航法における参照システム ③緊急機に対する業務 ④不法妨害機に対する業務 ⑤水平面の参照システム ⑥垂直面の参照システム ⑦時間の参照システム (2) 航空交通管制業務 ①管制の責任 ②管制承認 ③飛行場面における車両及び人員の管制 (3) 警急業務 ①警急業務の対象 ②INCERFA・ALERFA・DETRESFA (4) 航空通信のための航空交通業務要件 (5) ATS経路の識別	1.0	
9. 評価	後期評価	1.0	範囲を分割して評価を行うことによる定着度の向上
10. 日米安全保障条約等	(1) 日米安全保障条約 (2) 日米地位協定 (3) 日米合同委員会と民間航空分科会 (4) 日米安全保障条約第6条に基づく 航空特例法 (5) 日米安全保障条約第6条に基づく 航空特例法施行令	1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
国内航空法規	国内法	学科	専門科目	管制科教官	13
教科書			使用教室	使用機材等	
航空六法、航空関係告示集 航空保安業務従事者のための航空法の変遷 操縦者用航空法、AIM-J 国内航空法(航空保安大学校航空管制科作成)			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制職員基礎試験科目(国内航空法規)。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
航空管制官として必要な航空法及び関連法規の知識を習得させ、航空機の運航と管制業務の関連について理解し、管制業務で活用できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空法の制定	(1) 航空法の制定 (2) 航空法の概観 (3) 航空法の沿革 (4) 航空法の及ぶ範囲 (5) 関連法規類		1.0		
2. 総 則①	(1) 航空法の目的 (2) 航空法の定義 (3) 空港と飛行場の違い (4) 公共用と非公共用飛行場の違い (5) 航空保安施設の内容		1.0		
3. 総 則② 告示集の読み方	(1) 着陸帯の等級と大きさ (2) 制限表面の種類と大きさ (3) 管制区・管制圏・進入管制区の内容 (4) 有視界飛行状態の内容 (5) 計器飛行・計器航法・計器飛行方式の違い		1.0		
4. 登録 航空機の安全性	(1) 航空機の登録と国籍 (2) 航空機の国籍記号と登録記号 (3) 耐空証明と型式証明 (4) ランプインスペクション		1.0		
5. 航空従事者 航空路、空港等 及び航空保安施	(1) 航空従事者 (2) 航空従事者の種類と資格の変化 (3) 航空路、空港、航空保安無線施設 (4) 空港周辺の物件の制限		1.0		
6. 航空機の運航①	(1) 航空機に搭載すべき書類 (2) 航空機の航行の安全を確保する装置 (3) TCAS・GPWS・ELTの概要 (4) 航空機に装備すべき救急用具		1.0		
7. 航空機の運航②	(1) 航空機に搭載すべき燃料の量 (2) 代替空港の選定手法 (3) 航空機が表示すべき灯火の種類 (4) 乗員と航空管制官の飲酒対策 (5) 安全阻害行為の種類と機長の権限		1.0		

国内航空法規

授業項目	要点	時限	備考
8. 航空機の運航③	(1) 重大インシデント (2) 飛行禁止空域と飛行制限空域の違い (3) 最低安全高度 (4) 空域により異なる速度制限の内容 (5) 進路権	1.0	
9. 航空機の運航④	(1) RVSMの適用空域 (2) 物件の曳航・投下・落下傘降下の各条件 (3) 曲技飛行等 (4) 法94条と法94条の2の違い (5) 特別有視界飛行方式にかかる条文	1.0	
10. 航空機の運航⑤	(1) 特別管制空域 (2) FL290以上を飛行するVFRへの管制対応 (3) 空域のクラス毎の特徴 (4) 管制圏通過にかかる根拠法令 (5) 航空交通管理の管理主体と根拠法令 (6) 民間訓練試験空域の根拠法令と現場運用	1.0	
11. 航空機の運航⑥	(1) 管制指示等の法的根拠と罰則 (2) 管制圏の設置法令と規制法令 (3) 管制圏にかかる規制と95条との関連性 (4) 情報圏と訓練空域の航行の条件 (5) 飛行計画の承認と通報の違い (6) 到着機や通信途絶にかかる根拠法令	1.0	
12. 評価		1.0	
13. 職権の委任	(1) 国土交通大臣の権限の委任 (2) 航空管制官の組織の概要 (3) 航空管制官の給与体系 (4) 航空管制官の人事体系	1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空気象通報式	通報式	学科	専門科目	管制科教官	8
教科書			使用教室	使用機材等	
航空気象通報式(管制科印刷教材) 航空気象通報式の解説(管制科印刷教材) 航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制職員基礎試験科目(航空気象及び気象通報式)。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
航空気象通報式の内容を理解させると共に、管制上必要な気象情報の通報に係る知識を習得し、管制業務に活用できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空気象通報式の概要	(1) 天気が航空機に与える影響 (2) 航空情報提供の根拠 (3) 航空気象情報の入手・提供の方法 (4) 航空気象通報の種類 (5) 冒頭符号 (6) 識別符号		1.0		
2. 航空気象通報式の解説①	(1) 地点略号 (2) 観測日時 (3) 風向風速 ア. 単位 イ. 風向風速に関する通報例 (4) 視程 ア. 単位 イ. 通報例 (5) 定義 ア. 地上視程 イ. 飛行視程		1.0		
3. 航空気象通報式の解説②	(1) 定義 ア. 滑走路視距離 (2) 滑走路視距離(RVR) ア. 各要素の解説 イ. 通報例 (3) 現在天気(略語及び英文)		1.0		
4. 航空気象通報式の解説③	(1) 現在天気(気象現象) ア. 各要素の解説 イ. 通報例 (2) 雲(雲量、雲高) ア. 通報例 (3) 定義 ア. 雲高		1.0		

航空気象通報式

授業項目	要点	時限	備考
5. 航空気象通報式の解説④	(1) 雲(雲形、雲底の変動) ア. 通報例 (2) 鉛直視程 ア. 各要素の解説 イ. 通報例 (3) CAVOK、NSC (4) 気温と露点温度 ア. 各要素の解説 イ. 通報例 (5) アルティメターセッティング ア. 通報例	1.0	
6. 補足情報および国内記事の解説	(1) 定義 ア. ウィンドシアアー イ. 低高度ウィンドシアアー ウ. マイクロバースト (2) 補足情報 (3) ドップラーレーダー・ドップラーライダー (4) 国内記事	1.0	
7. 運航用飛行場予報気象通報式および着陸用飛行場予報気象通報式の解説	(1) 運航用飛行場予報気象通報式 ア. 各要素の解説 イ. 通報例 (2) 着陸用飛行場予報気象通報式 ア. 各要素の解説 イ. 通報例 (3) IMCおよびVMC	1.0	
8. 評価		1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空レーダー概論	レ概	学科	専門科目	管制科教官	6
教科書			使用教室	使用機材等	
レーダー概論 航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制職員基礎試験科目(ターミナル・レーダー管制方式、着陸誘導管制方式及びレーダー概論)。					
受講の前提条件					
航空交通業務概論 履修					
到達目標					
レーダーを使用して行う航空交通管制業務の遂行上必要とされるレーダー機器の基礎、特性、その運用上の限界に関する知識を習得し、管制業務に活用できる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. レーダー基礎	(1) レーダーの沿革 (2) レーダーの必要性 (3) レーダーの構成 (4) 一次レーダーと二次レーダー (5) 電磁波と電波 (6) 電波の速度、周波数と波長 (7) レーダーに使用される電波 (マイクロ波、パルス波)			1.0	管制方式基準
2. 航空管制用レー 2-1 レーダー機 器	(1) 航空管制用レーダーの用途と要件 (2) 航空管制用レーダー機器 ①空港搜索レーダー(ASR) ②精密進入レーダー(PAR) ③空港面探知レーダー(ASDE) ④航空路監視レーダー(ARSR) ⑤洋上航空路監視レーダー(ORSR) (3) PAR			0.5	
2-2 一次レーダー	(1) 一次レーダーの仕組み ①距離の測定 ②方位の測定 ③表示の仕組み (2) レーダーの性能要件 ①パルス間隔、パルス幅 ②垂直カバレッジ、アンテナノローブの 形状 ③ロービング (3) スラントレンジ (4) 不感帯			0.5	
3. レーダーに影響を 与える気象及び 諸現象	(1) クラッタ、気象 (2) MTI、MTIブラインドスピード (3) 円偏波、LOG CFAR (4) レーダー見通し距離、異常伝搬 (5) 疑似エコー (6) レーダー妨害 (7) (IV)-15(6) レーダー気象情報 及びチャフ情報			1.0	

航空レーダー概論

授業項目	要点	時限	備考
4. 二次レーダー基礎	(1) 二次レーダーの特徴 (2) 二次レーダーの構成 (3) 二次レーダーの仕組み (4) モードA、モードC (5) 二進法、モードAの内容 (6) 二次レーダーの諸現象 (7) (IV)-6(3) 二次レーダーの距離精度の確認 (8) (IV)-6(5) 変位の限界 (9) 二次レーダー特定コード、一般コード	1.0	管制方式基準 管制方式基準 管制方式基準
5. 二次レーダー発展	(1) モードCの内容 (2) グレイコード (3) モードS (4) マルチラテレーション、WAM	1.0	
6. レーダー精度の確認	(1) 一次レーダーの精度確認 (2) 二次レーダーの精度確認 (3) RPM (Radar Performance Monitor)	0.5	
7. 評価		0.5	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
管制システム概論	シス概	学科	専門科目	管制科教官	5
教科書			使用教室	使用機材等	
飛行計画情報処理システム操作要領書 航空保安業務の概要			自教室 第一統合システム実習室 航空路管制実習室	☑校務情報システム ☑FACE,FDPSエミュレーター (第一統合PC内) ☑航空路管制実習装置	
位置づけ					
航空交通管制情報処理システム全般に関する基礎的知識を与える。					
受講の前提条件					
航空交通業務概論 履修					
到達目標					
航空交通管制情報処理システムについて基本的な知識を習得し、特に飛行計画をはじめ、各種情報の流れを理解し、管制業務に活用できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 管制情報処理システム	(1) 管制情報処理システムの概要 (2) フライトプランとデータの流れ (3) FACE(運航中央・中継・FDPS・FODB) (4) レーダー処理システム (5) 将来(2020年)のシステム (6) 管制用システム障害時の連絡調整		1.0		
2. FDPS/FACE	(1) システムの役割 (2) システム構成		1.0		
I FDPS/FACEの概要					
II FDPSの主な機能	(1) 飛行計画情報処理機能 (2) 飛行情報の更新処理機能 (3) 飛行情報の問合せ機能 (4) 管制官に対する情報提供 (5) 他システムへの情報提供 (6) タイムサーチ機能		0.5		
3. 管制部のシステム	(1) システムの構成 (2) RDP (3) IECS・TEPS (4) 主な機能 (5) 管制支援機能		0.3		
4. 飛行場・ターミナルのシステム	(1) システムの構成 (2) ARTS・TRAD・TAPS (3) システムと管制の運用 (4) 主な機能 (5) 管制支援機能		0.2		

管制システム概論

授業項目	要点	時限	備考
5. FDPS入力	(1) 飛行計画の作成 (U PLN) (2) 飛行計画の修正 (COR、OVR) (3) 飛行計画の状態 (IN-FLT、FPL-STs、X IFR-STs) (4) 飛行計画の状態の変更 (U ATD、U IFR、U TFR) (5) 飛行計画の状態の変更2 (X ATD、X IFR、X TFR) (6) 飛行計画の変更 (U CHG、U ALT、U RTEなど) (7) 飛行計画の消去 (8) 情報の参照 (Qコマンド)	1.0	
6. FACE入力	(1) 飛行計画の作成	1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
空域・経路・航空情報 概論	空情概	学科	専門科目	管制科教官	9
教科書			使用教室	使用機材等	
飛行方式設定基準 航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程 航空路誌 航空六法			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
実習並びに座学全般で必要となる空域及び航空情報についての理解。					
受講の前提条件					
航空交通業務概論 管制概論 進入管制論 飛行場管制論 ターミナル・レーダー管制論 航空路管制論					
到達目標					
航空管制業務の遂行に必要な知識・技能の向上を図るため、空域及び経路、航空情報の概要並びに関連基準等との関連性を理解し、管制業務に活用できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 空域に関する 基礎知識	(1) 空域の概念・構成 (2) 空域のクラス分け (3) 空域設定に関する規則・基準類 (4) 空域設定に関する一般的考慮事項		1.0		
2. 方式設定に 関する基礎知識	(1) 飛行方式設定基準 (2) ノミナル経路 (3) 障害物間隔 (4) フィックス誤差 (5) 地上検証・飛行検証		1.0		
3. 出発方式に 関する基準	(1) 方式設計勾配 (2) SIDの上昇区域		1.0		
4. 到着・進入方式 関する基準	(1) セグメント (2) 降下勾配 (3) 直線進入・周回進入 (4) 障害物間隔高度		1.0		
5. 航空路に関する 基礎知識	(1) 航空路の種類・構成 (2) 障害物間隔 (3) MEA・MCA・MRA		1.0		
6. RNAVに関する 基礎知識	(1) RNAVの概要 (2) RNAV仕様とRNP仕様 (3) センサー (4) パス・ターミネーター (5) RNP AR		1.0		
7. 航空情報の概要	(1) 航空情報の種類・位置づけ (2) AIP (3) AIRAC		1.0		
8. AIPの概要	(1) GEN (2) ENR (3) AD		1.0		
9. NOTAMの概要	(1) NOTAMの (2) NOTAMの		1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
ATM概論	ATM概	学科	専門科目	管制科教官	5
教科書			使用教室	使用機材等	
航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程 ATMハンドブック 新CNS／ATM基礎 EN-ROUTE CHART			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
実習ならびに座学全般で必要となる航空交通管理(ATM)についての理解。					
受講の前提条件					
航空交通業務概論 管制概論 航空路管制論 履修					
到達目標					
航空保安業務処理規程 第5管制業務処理規程 II 航空交通管理方式基準の概要を理解する。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 導入	ATMセンターの概要 CNS/ATM構想 協調的意思決定(CDM)		1.0		
(Ⅰ)総則	1 目的及び適用				
(Ⅱ)容量管理	2 関係機関との調整 1 管制処理容量 2 適正交通容量値				
2.(Ⅲ)航空交通流管理	1 通則 4 交通流制御 (1) 交通流の監視及び交通流制御の実施 (2) 交通流制御の方法 (3) 交通流制御実施に係る情報 (4) 出発制御(EDCT発出) (5) 出発制御(EDCT変更) (6) EDCTが指定されている航空機に係る措置 (7) 出発制御(EDCT失効) (8) 出発制御(EDCT取消し) (9) 管制用システムによるEDCTの通知及び伝達		1.0		
3.(Ⅲ)航空交通流管理	4 交通流制御 (10) 出発制御(出発間隔指定) (11) 出発制御(出発停止) (12) インフライト制御 (13) 交通流制御対象機の経路、高度、速度の変更の制限 (14) 交通流制御対象外の措置 (15) 管制機関による交通量の制限に関する措置 2 飛行計画経路の管理及び調整 3 管制承認及び管制指示		1.0		
4.(Ⅳ)空域管理	導入:空域の種別(制限空域等) 1 通則 2 PACOTSの設定		1.0		

ATM概論

授業項目	要点	時限	備考
5. (IV)空域管理	3 民間訓練試験空域管理方式	0.5	
	4 国の航空機による空域使用調整		
評価	5 フライトレベル290以上の空域における 飛行に関する調整	0.5	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
安 全 (TRM基礎)	TRM	学科	専門科目	管制科教官	8
教科書			使用教室	使用機材等	
			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
TRM導入のための基礎事項の理解と実技体験。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
TRMの目的、基本的概念を理解させるとともに、TRMの研修手法を実体験させることにより、TRMを受け入れるために必要な基礎的事項を認識し、気づきを得ることができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 導入	(1) チームビルディング (2) イントロダクション (ア) TRM導入の経緯 (イ) TRMの構成・目的 (ウ) TRMで用いる手法・ツール			2.0 2.0	
2. 体験学習	(1) 基礎モジュール1 (2) 基礎モジュール2 (3) まとめ			4.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
安 全 (SMS)	SMS	学科	専門科目	管制科教官	4
教科書			使用教室	使用機材等	
			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
ICAO ANNEX19に規定されている安全管理システム(SMS)の概念を理解させる。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
管制職場においてSMSの推進に積極的に参加できる航空保安職員としての自覚を持つ事ができる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 航空保安業務 安全管理システム (SMS)	(1) 航空交通業務に関する「安全管理制度」 (SMS)の概要と諸外国等の取り組み			1.0	
	(2) 航空保安業務安全管理規程			1.0	
	(3) 不安全な要因とリスク分析手法について			1.0	
	(4) ケーススタディー 管制業務に係る取組事例研究			0.8	
				0.2	
2. 評価					

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
運航情報業務概論	運情概	学科	専門科目	情報科教官	6
教科書			使用教室	使用機材等	
運航情報業務概論 航空六法 航空保安業務の概要			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空保安業務における運航情報業務を全般的に理解する。					
受講の前提条件					
航空交通業務概論 履修					
到達目標					
航空保安業務、特に空港における航空管制運航情報業務に関する基礎的な知識を習得し、用語等が使用できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 運航情報業務	(1) 空港における運航情報業務の概要		0.5		
2. 飛 行 計 画	(1) 飛行計画の受理に関する業務の概要 (2) 飛行計画の記入方法 ア. 様式 イ. 記入方法 (3) 航空交通業務通報(ATS通報) ア. 通報の種類 イ. 通報の構成 ウ. 航空交通業務通報の実例		1.0		
3. 航 空 情 報	(1) 航空情報提供業務の概要 ア. 航空路誌の構成、内容、改訂 イ. 航空路誌補足版の構成、内容 ウ. AICの性格、構成、内容 エ. ノータムの構成、内容 オ. PIBの概要 カ. 航空情報に使用される航空略語の説明		1.0		
4. 飛行場の運用	(1) 飛行場情報業務の概要 ア. 飛行場管理 イ. 制限区域安全管理 ウ. 鳥獣対策		1.0		
5. 搜索救難	(1) 搜索救難業務の概要 (2) 救難調整本部の組織、構成、業務		0.5		
6. 航空機の 事故処理	(1) 概要 (2) 事故調査機関とその業務 (3) 調査の援助 (4) 資料の収集		0.5		
7. 対空援助業務	(1) 飛行場対空援助業務の概要 (2) 他飛行場援助業務の概要 (3) 広域対空援助業務の概要		0.5		
8. 管制通信業務	(1) 国際対空通信業務の概要		0.5		
9. 評 価			0.5		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空無線施設概論	航無概	学科	専門科目	電子科教官	8
教科書			使用教室	使用機材等	
航空電子入門 航空保安業務の概要 AIM-J			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制職員基礎試験科目。(航空保安施設の概要)					
受講の前提条件					
到達目標					
航空機の航行に必要な航行援助施設について、その原理、性能、利用の方法及び特長等を理解し、用語等が使用できる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 概 説	(1) 航空保安施設の種類及び定義 (2) 電波及び無線機器の基礎知識			1.0	
2. N D B	(1) 原理 (2) 周波数 (3) 識別符号			0.5	
3. A D F	(1) 原理			0.5	
4. V O R	(1) 原理 (2) 周波数等 (3) 識別符号 (4) 種類 (5) VOR (地上局及び機上局) (6) VORによる航法 (7) 受信可能範囲			1.0	
5. TACAN／DME	(1) 原 理 (2) 周波数等 (3) 識別符号			0.5	
6. I L S	(1) 原理 (2) カテゴリー (3) 構成 (4) 地上施設 (5) 機上施設 (6) 安全装置			1.0	
7. 電波高度計	(1) 原理 (2) 種類 (3) 各種電波高度計の比較			0.5	
8. レーダー	(1) 原理 (2) 周波数等 (3) 動作 (4) ASR (5) PAR (6) ARSR、ORSR (7) ASDE (8) 機上気象レーダー (9) SSR(ATCRBS)			1.0	

航空無線施設概論

授業項目	要点	時限	備考
9. 新しい航法システム等	(1) SSRモードS (1) 飛行管理システム(FMS) (2) 航空衛星システム・衛星航法 (3) 慣性航法システム (4) TCAS	1.0	
1. 評価		1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空灯火電気施設 業務概論	航灯概	学科	専門科目	特別研修科教官 (灯電担当)	6
教科書			使用教室	使用機材等	
航空灯火電気施設業務概論(教官作成資料)			自教室 航空灯火・電気技術実習室	☑校務情報システム ☑飛行場模型 ☑灯器 ☑受配電設備	
位置づけ					
航空交通管制職員基礎試験科目(航空保安施設の概要)。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
航空交通管制業務に必要な航空灯火電気施設の航空灯火の種類、電源の種類及び航空灯火・電気技術官の業務概要を説明することができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空灯火 電気施設業務	(1) 航空灯火電気施設業務とは		0.1	第7航空灯火電気施設業務処理規程(Ⅲ)運用基準1運用の方法は、飛行場管制論の科目に含む	
	(2) 航空灯火・電気技術官の業務		0.1		
2. 航空保安用 電源システム	(1) 航空保安用電源システムとは		0.1		
	ア. 役割 イ. 電源種別		0.1		
3. 航空灯火	(1) 航空灯火とは		0.3		
	(2) 種類		0.3		
	(3) ガイダンス手法		0.4		
	(4) 飛行場灯火				
	ア. 位置表示灯火		0.1		
	イ. 進入灯火		0.5		
	ウ. 滑走路灯火		1.0		
	エ. 地上走行用灯火		1.0		
	オ. その他灯火		0.2		
	カ. 高カテゴリー灯火		0.2		
(5) 航空障害灯		0.1			
4. 昼間障害標識	昼間障害標識とは		0.2		
5. 運用基準	(1) 運用の方法(航空灯火・電気技術官関連のみ) (2) 運用停止のための調整 (3) ノータム事項の通報		0.1 0.1 0.1		
6. 評価			0.7		
7. 飛行検査	航空灯火の検査		0.3		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
安 全 (ヒューマンファクター)	HF	学科	専門科目	特任教官	6
教科書			使用教室	使用機材等	
失敗のメカニズム			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空管制業務全般にわたる安全意識の認識と確立。					
受講の前提条件					
到達目標					
ヒューマンファクターに関する基礎理念を把握させるとともに、日常の航空保安業務における安全意識の向上に活用できる。					
授業項目	要点			時限	備考
1. ヒューマンファクターとは何か	(1) 定義 (2) 航空におけるヒューマンファクター (3) 事故要因としてのヒューマンファクター			1.0	
2. 人間の強さと弱さ	(1) 人間(脳)の特性 (2) 能力と限界			0.5	
3. ヒューマンエラー	(1) 人間のエラーの定義 (2) エラー誘発要因			1.0	
4. コンピュータと人間	(1) コンピュータと人間の長所と短所 (2) 自動化システムにおけるコンピュータと人間の役割分担			1.0	
5. ヒューマンエラーの分析方法	(1) 分析モデルと分析手法 (2) 分析実習			1.0	
6. 安全への取り組み	(1) 安全情報の活用 (2) 危険因子の検出と予防安全			1.5	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空機概論	航空機	学科	専門科目	特任教官	12
教科書			使用教室	使用機材等	
航空実用ハンドブック			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制職員基礎試験科目(航空機概論)。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
航空機の飛行原理、性能、その限界等の基礎知識を与え、航空管制と航空機との関連性を理解し管制業務に活用できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 航空機の歴史と分類	(1) 航空機発達の経緯 (2) 航空機にはどのようなものがあるか		1.0		
2. 流体力学の基礎	(1) 連続の法則 (2) ベルヌーイの定理 (3) 翼に生じる揚力 (4) 音速流		0.5		
3. 翼型理論	(1) 翼型の各部の名前 (2) 揚力と抗力 (3) 高揚力装置		1.0		
4. 飛行機の翼	(1) 主翼の平面型 (2) 誘導抗力 (3) 翼端失速		0.5		
5. 空力特性	(1) 全機の抗力と流線化 (2) 面積法則		0.5		
6. 性能	(1) 水平飛行 (2) 旋回 (3) 離陸性能 (4) 着陸性能 (5) 巡航性能		1.0		
7. 安定性	(1) 静安定と動安定 (2) 飛行機の3軸と揺れの方向 (3) 縦、横、方向の安定 (4) 上反角 (5) 後退角		0.5		
8. 操縦性	(1) 補助翼 (2) 昇降舵 (3) 方向舵		0.5		
9. 航空機の重量・重心	(1) 航空機の重量・重心		0.5		
1. 機体	(1) 材料		0.5		

航空機概論

授業項目	要点	時限	備考
11. 構造	(1) 枠組構造 (2) 応力外皮構造 (3) 主翼構造 (4) 胴体構造	0.5	
12. 荷重	(1) 荷重倍数 (2) 耐空類別	0.5	
13. 航空機システム	(1) 油圧、空気圧系統 (2) 着陸系統 (3) 操縦系統の種類 (4) 空調、与圧 (5) 防・除氷系統 (6) APU	1.5	
14. 航空機のエンジン	(1) ピストンエンジン (2) ガスタービンエンジン (3) 燃料 (4) プロペラ	1.5	
15. 装備品	(1) 電気・電子装備 (2) 航空計器 (3) オートパイロット (4) 航空機の灯火	1.0	
16. 評価		0.5	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空航法	航法	学科	専門科目	特任教官	9
教科書			使用教室	使用機材等	
百万分の一航空路図 Nr87 空中航法(教官作成テキスト)			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制職員基礎試験科目(航空航法)。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
航空交通管制業務の遂行に必要とされる空中航法の基礎知識を習得し管制業務に活用できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 基礎知識 Ⅰ 序論	(1) 空中航法の定義 (2) 空中航法の種類		2.0		
Ⅱ 地球と航法要素	(1) 地球 (2) 位置と座標、距離、方位及び時間				
Ⅲ 地図及び航空図	(1) 地図及び地図作成上の条件 (2) 各種投影図法 (3) 航空図の種類 (4) 航空図の判読と地文航法				
Ⅳ 航法計器	(1) 気圧高度計 (2) 対気速度計 (3) 磁気羅針儀 (4) その他の計器(昇降計、水平儀等) (5) FMS、ND				
2. 航法計算と作図法 Ⅰ チャート・プロットング基礎基礎	(1) プロットングの記号、ポジションの種類 (2) プロットング要領		1.0		
Ⅱ 風力三角形	(1) 風力三角形 (2) 風力三角形の作図解法 (3) 風力三角形の航空計算盤解法 (4) 偏流角と偏流修正角 (5) 測風法(ウィンドスター法)				
Ⅲ 推測航法	(1) 推測航法の基本 (2) 飛行計画の作成 (3) 機上作業		2.0		
Ⅳ 特殊航法	(1) 会合法 (2) 最大進出法		0.5		
Ⅴ 補助航法	(1) 無線航法 (2) 慣性航法 (3) RNAV (4) 補助航法による機位の決定		1.0		

航空航法

授業項目	要点	時限	備考
3. 演習	推測航法による飛行計画の作成	2.0	
4. 評価		0.5	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空気象学	気象学	学科	専門科目	特任教官	9
教科書			使用教室	使用機材等	
世界で一番わかりやすい航空気象-今までに無かった天気のはなし-(改訂版)			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
航空交通管制職員基礎試験科目(航空気象及び気象通報式)。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
管制業務の遂行上必要な航空気象の基礎を理解させると共に、航空機の運航に影響を及ぼす各種気象現象の特徴と、管制業務との関連性を把握し、管制業務に知識を活用できる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 大気	(1) 大気の成分 (2) 大気の構造 (3) 大気中の現象 (4) 大気の環流系		0.5		
2. 大気的基本的性質	(1) 気体の状態方程式 (2) 大気の圧力 (3) 気圧と高さの関係 (4) 標準大気、気圧高度計、高度計規正 (5) 気温・気温の変化 (6) 断熱変化		0.5		
3. 風	(1) 風の原因 (2) 地球自転の影響 (3) 風と高さとの関係 (4) 風の日変化―海陸風、山岳風 (5) 上昇流、下降流 (6) 大規模な気流―季節風、大気の環流 (7) 風シア (8) 航空機と風シアの関係		1.0		
4. 大気中の水分	(1) 湿度 (2) 水分の変化 (3) 雲(発生、消滅、種類) (4) 降水 (5) 雨 (6) 雪 (7) 降水現象と航空機の運航		0.5		
5. 大気の安定度	(1) 安定、不安定 (2) 乾燥断熱、湿潤断熱 (3) 断熱図		0.5		
6. 視程障害現象	(1) 視程、飛行視程、斜め視程、滑走路視距離 (2) 視程障害現象 (3) 霧(発生、消滅、種類) (4) 雲・霧と航空機の運航		0.5		

航空気象学

授業項目	要点	時限	備考
7. 着氷	(1) 着氷、着氷の条件 (2) 着氷の種類 (3) 着氷の過程 (4) 着氷と雲 (5) 着氷の影響	0.5	
8. 乱気流	(1) 乱気流の定義と強度 (2) 乱気流の種類・発生原因 (3) 地形と乱気流 (4) 山岳波 (5) 空港及び航空路上における乱気流 (6) マイクロバーストと航空機の運航	0.5	
9. 雷雨	(1) 雷雲の発達 (2) 雷雨の種類 (3) 雷雨に伴う気象現象	0.5	
1. 気象観測	(1) 一般気象観測と通報式 (2) 航空気象観測と通報式 (3) 高層気象観測その他 (4) 観測機器(ドップラーレーダー、 ドップラーライダー、シーロメーター、 気象衛星その他)	0.5	
11. 気団と前線	(1) 気団の生成と発源地 (2) 気団の移動と変質 (3) 前線と前線帯 (4) 前線の種類と一般的性質	0.5	
12. 高気圧、低気圧、 台風	(1) 高気圧 (2) 高気圧の種類 (3) 低気圧の種類 (4) 前線活動と低気圧 (5) 前線性低気圧の一生と低気圧家族 (6) 台風と航空機の運航	0.5	
13. 天気予報	(1) 天気予報の原則 (2) 天気図の種類 (3) 天気図の見方(地表、高層)	0.5	
14. 航空と気象	(1) 航空と気象要素 (2) 航空と気象現象 (3) 航空と気圧配置	0.5	
15. 航空気象 サービス	(1) 航空気象サービスの種類 (2) 気象観測資料 (3) 予報資料 (4) シグメット情報、飛行場警報	0.5	
16. 評価		1.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
保健体育	保健体育	学科	専門科目	特任教官	8
教科書			使用教室	使用機材等	
			体育館 グラウンド		
位置づけ					
運動についての科学的理解に基づき、合理的な練習によって運動能力を高め、体力の向上を図る。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 体育実技	筋力、持久力、柔軟性等の運動能力を高め、心身の調和的な発達を図るとともに球技を通して公正な態度を養う。 (1) 体操 ア. 徒手 イ. 床運動(マット使用) (2) 器械体操 ア. 跳び箱 (3) 球技 ア. ソフトボール イ. バレーボール ウ. サッカー エ. バスケットボール オ. テニス カ. バトミントン キ. 卓球 ク. スポレック ケ. ピロポロ コ. キンボール サ. アルティメット シ. タグラグビー		3.0		
2. メンタルヘルス	ストレス等に適切に対応できるような知識を習得する。 (1) メンタルヘルス (2) ストレスマネジメント		1.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
電波法規	電波法	学科	専門科目	情報科教官	15
教科書			使用教室	使用機材等	
航空無線通信士「法規」			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
無線従事者試験認定科目。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
電波法及びこれに基づく命令、並びに国際電気通信条約、同付属書無線通信規則及び国際民間航空条約のうち航空無線通信士関する法令を学習し、国家資格を取得する。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 総 則	(1) 電波法の目的 (2) 電波法令の概要 (3) 用語の定義 (4) 総務大臣の権限の委任			2.0	
2. 無線局の免許	(1) 無線局の開設 (2) 免許の有効期間及び再免許 (3) 免許状記載事項及びその変更等 (4) 免許の承継 (5) 免許の特例等 (6) 無線局の廃止等と措置			1.0	
3. 無線設備	(1) 電波の質 (2) 電波の型式の表示等 (3) 送信装置 (4) 受信設備 (5) 送受信空中線(型式及び構成等) (6) 安全施設(高圧電気に対する安全施設) (7) 保護装置(電源回路の遮断等の保護装置) (8) 周波数測定装置の備付け (9) 航空機用救命無線機 (10) 有効通達距離 (11) 衛星通信設備 (12) 無線航行設備 (13) 型式検定合格機器の備付け			2.0	
4. 無線従事者	(1) 資格制度(主任無線従事者等) (2) 無線設備の操作及び監督の範囲 (3) 無線従事者の免許 (4) 免許証の携帯義務 (5) 免許証の訂正、再交付又は返納			1.0	

電波法規

授業項目	要点	時限	備考
5. 運用	(1) 通 則 (2) 一般通信方法 (3) 航空移動業務 (4) 航空移動業務の無線局の通信方法 (5) 遭難通信 (6) 緊急通信 (7) 安全通信 (8) 特別業務の通信 (9) 航空無線航行業務の通信方法 (10) 非常通信及び非常の場合の無線通信	3.0	
6. 業務書類	(1) 時計の備付け及び照合の義務 (2) 無線検査簿の様式及び保存期間 (3) 無線業務日誌の記載事項及び保存期間 (4) 免許状(証票) (5) 法及びこれに基づく命令の収録等	1.0	
7. 監 督	(1) 電波の発射の停止 (2) 無線局の検査 (3) 無線局の免許の取消し、運用停止又は運用 (4) 無線従事者の免許の取消し又は従事停止 (5) 遭難通信を行った場合等の報告	1.0	
8. 罰則等	(1) 手数料の納付 (2) 電波利用料制度 (3) 罰 則	1.0	
9. 関係法令	(1) 電気通信事業法及びこれに基づく命令の 関係規定の概要	1.0	
10. 国際法規	(1) 国際電気通信条約の概要 (2) 無線通信規則の概要 (3) 国際電気通信規則の概要 (4) 国際民間航空条約の概要	2.0	
11. 評価	科目演習にて実施する次の試験を持って評価 「無線従事者(航空無線通信士)養成課程 終了試験		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
無線工学	無線工学	学科	専門科目	電子科教官	14
教科書			使用教室	使用機材等	
航空無線通信士「無線工学」			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
無線従事者試験認定科目。					
受講の前提条件					
到達目標					
航空無線通信士国家試験の試験科目の一つである無線工学に必要な基礎理論を習得させるとともに、航空電子装置を理解するのに役立つ電氣的知識を習得し、国家資格を取得する。					
授業項目	要点			時限	備考
1. 電気と磁気	(1) 静電気 (2) 導体、不導体及び半導体 (3) 静磁気 (4) 電流の磁気作用			1.0	
2. 電気回路	(1) 電流、電圧及び電力 (2) 直流及び交流 (3) オームの法則と抵抗の接続			1.0	
3. 半導体及び電子管	(1) 半導体 (2) ダイオード (3) トランジスタ (4) 集積回路 (5) 電子管			1.0	
4. 電子回路	(1) 増幅回路 (2) 発振回路 (3) 変調回路 (4) 復調回路			1.5	
5. 無線通信の基礎	(1) 電波の発生と波長・周波数 (2) 無線電話の概要			0.3	
6. DSB無線電話装置	(1) 装置の構成 (2) DSB送信機 (3) DSB受信機 (4) 航空局用VHF送受信装置 (5) 航空機局用VHF送受信装置			1.3	
7. SSB無線電話	(1) 装置の構成 (2) SSB送信機 (3) SSB受信機			0.5	
8. FM無線電話装置	(1) 概要 (2) 装置の構成			0.3	

無線工学

授業項目	要点	時限	備考
9. レーダー	(1) レーダーの概念 (2) レーダーの性能 (3) レーダーの誤差 (4) 構成及び各部の動作 (5) ドップラナビゲータ (6) 航空機用気象レーダー (7) 航空管制用各種レーダー (8) 航空交通管制用トランスポンダ (9) ACAS(航空機衝突防止装置)	2.0	
1. 無線航法装置	(1) VOR(超短波全方向無線標識) (2) DME(距離測定装置) (3) ILS(計器着陸装置) (4) GPS/GNSS	2.0	
11. その他の装置	(1) 航空機用救命無線機 (2) インマルサット航空衛星通信装置 (3) 空地データリンクシステム	0.5	
12. 電源	(1) 電源の種類 (2) 電源供給方式 (3) 整流器 (4) 電池	0.5	
13. アンテナ及び口	(1) アンテナの基礎 (2) 接地(アース) (3) 各種アンテナ (4) 給電線及びコネクタ (5) 整合	1.0	
14. 電波伝搬と混信	(1) 電波の伝わり方 (2) 各周波数帯の伝搬 (3) 混信等 (4) 混変調及び相互変調妨害 (5) 混信等への対策	1.0	
15. 測定、点検 及び保守	(1) 測定法 (2) 各種測定器 (3) 定期点検 (4) 日常点検 (5) 航空局用VHF送受信装置の点検	0.3	
16. 評価	科目演習にて実施する次の試験を持って評価 「無線従事者(航空無線通信士)養成課程 終了試験		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
科目演習(学科)	科目演習	学科	専門科目	管制科教官	26
教科書			使用教室	使用機材等	
			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
各科目の補講および各種試験の受験、臨時の授業および自主研修のための時間。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 無線従事者試験	(1) 航空無線通信士の資格取得試験受験		4.0		
2. 学習交流	(1) 実習交流参加(情報科実習受講) (2) 実習交流参加(電子科実習受講) (3) 実習交流参加(情報科へ実習紹介) (4) 実習交流参加(電子科へ実習紹介)		4.0		
3. 学習発表会	(1) 学習発表会準備 (2) 学習発表会開催 (3) 管制科学習発表会聴講		3.0		
4. 特別講義	(1) 飛行検査 (2) R-NAV概要		4.0		
5. コンプライアンス	(1) 管制事務適正化 (2) 航空管制業務におけるコンプライアンス		2.0		
6. 補講・自主研修等	(1) IT教育システムの活用による演習 (2) 補講 (3) その他		9.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
公務員教養	公務教養	学科	専門科目		40.3
教科書			使用教室	使用機材等	
			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
公務員の使命と教養、特別講義、校外研修等多角的な研修を実施し、航空保安業務に携わる国家公務員としての人間形成を図る。					
受講の前提条件					
到達目標					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 公務員の使命と教養	(1) 公務員教育(100分×6回)		6.0	1.0時限×6	
	公務員教育(5時限目30分×4回)		1.2	0.3時限×4	
	(2) 公務員教育課題討議(30分×8回)		2.4	0.3時限×8	
2. 校長訓話	(1) 校長訓話(30分×3回)		0.9	0.3時限×3	
3. 特別講義	(1) 専門教養		7.0	7時限 有識者等	
	(2) 一般教養(30分×3回、内1回ダイレクトーク)		0.9	0.3時限×3 幹部等	
4. 校外研修	(1) 現場学習		10.9	4.3時限×2 2.3時限×1	
5. コンプライアンス	(1) コンプライアンス(30分×7回)		2.1	0.3時限×7	
6. 学校行事	(1) 空の日・オープンキャンパス(7月) (2) 第3次試験対応(8月) (3) オープンキャンパス(3月)		8.0	4時限×2 (いずれか年2回)	
7. 校務情報システム	(1) 校務情報システムの概要を学習する 校務情報システムの目的と種類 (2) 校務情報システム操作概要を学習する 統合システム実習室等の 各種IT教育システムの操作		0.9	0.3時限×3	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
飛行場管制方式	TWR	実技	専門科目	管制科教官	52
教科書			使用教室	使用機材等	
航空管制実習要領Ⅱ 航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程 AIM-J			第2飛行場管制実習室	☑飛行場管制実習装置	
位置づけ					
航空交通管制職員基礎試験科目(飛行場管制方式及び進入管制方式)。					
受講の前提条件					
飛行場管制論 履修					
到達目標					
飛行場管制方式の実際での適用方法を実習装置を使用して体得させるとともに専門研修に結びつく実践的な技能を習得し、シミュレーターを用いた基礎的な管制業務が行える。					
授業項目	要点			時限	備考
1. レベル1 (用語および スキャニング)	(1) レイアウト (2) 場周経路 (3) 目視位置通報点 (4) 周波数 (5) 機器点検 (6) 通信 (7) 出発機の取扱い (8) 到着機の取扱い (9) フレゾロジー(出発機) (10) フレゾロジー(到着機) (11) 地上走行経路の指示 (12) 滑走路とその周辺の確認 (13) 離着陸許可の発出 (14) 出発機の処理 (15) 到着機の処理 (16) 離着陸時刻の通報 (17) 周波数の変更 (18) 通過機の処理 (19) QNHの提供			4.0	
2. レベル2 (到着機)	(1) 管制間隔 (2) 到着機の処理 (3) TAPS用ストリップへの入力 (4) TAPS用ストリップのポスティング			6.0	
3. レベル3 (出発機および インターセクション)	(1) 出発機・到着機の処理 (2) インターセクションDEPの処理 (3) TAPS用ストリップへの入力			6.0	
4. レベル4 (後方乱気流)	(1) 後方乱気流管制方式 (2) ATIS情報の確認			4.0	

飛行場管制方式

授業項目	要点	時限	備考
5. レベル5 (インターセクションの 後方乱気流)	(1) 他席との調整 (2) 後方乱気流管制方式 (3) TAPS用ストリップのポスティング	4.0	
6. レベル6 (IFR)	(1) 機器の取扱い (2) 管制承認 (3) IFR到着機の取扱い (4) 交通情報 (5) IFR出発機の取扱い (6) 後方乱気流管制方式 (7) 管制間隔	16.0	
7. 評価		4.0	
8. レベル7 (ヘリコプター)	(1) ヘリコプターの取扱い (2) 業務分担	4.0	
9. レベル8 (訓練機)	(1) 訓練機の取扱い (2) 業務の引継ぎ	4.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
進入管制方式	APP	実技	専門科目	管制科教官	30
教科書			使用教室	使用機材等	
航空管制実習要領Ⅱ 航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程 AIM-J			進入管制実習室	☑進入管制実習装置	
位置づけ					
航空交通管制職員基礎試験科目(飛行場管制方式及び進入管制方式)。					
受講の前提条件					
到達目標					
進入管制方式の実際での適用方法を実習装置を使用して体得させるとともに専門研修に結びつく実践的な技能を習得し、シミュレーターを用いた基礎的な管制業務が行える。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. レベル1 (機器操作、事前準備、到着機)	(1) 機器調整・操作の確認 (2) 運航票の準備 (3) 垂直間隔(ステップダウン)を用いた管制処理		6.0		
2. レベル2 (到着機)	(1) 横間隔を適用した管制処理		8.0		
3. レベル3 (到着機)	(1) 中間待機を利用した管制処理		8.0		
4. レベル4 (出発機と到着機)	(1) 出発機と横間隔を適用した到着機の管制処理 (2) 出発機と中間待機を利用した到着機の管制処理 (3) 基礎的技量の定着		6.0		
5. 評価			2.0		

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
ターミナル・レーダー管制方式	TR	実技	専門科目	管制科教官	50
教科書			使用教室	使用機材等	
航空管制実習要領Ⅱ 航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程 AIM-J			ターミナル・レーダー実習室	☑ターミナル・レーダー 管制実習装置	
位置づけ					
航空交通管制職員基礎試験科目(ターミナル・レーダー管制方式及び着陸誘導管制方式)。					
受講の前提条件					
ターミナル・レーダー管制論 履修					
到達目標					
ターミナル・レーダー管制方式の実際の適用方法を実習装置を使用して体得させるとともに、専門研修に結びつく実践的な技能を習得し、シミュレーターを用いた基礎的な管制業務が行える。					
授業項目	要点			時限	備考
1. レベル1	(1) 管制情報処理システム等の操作 (2) 旋回指示と進入許可の発出 (3) レーダー幾何(PATH STRETCH) (4) レーダー幾何(SEQUENCE)			8.0	
2. レベル2	(1) 最短経路とイントレイル (2) イニシャルヘディングと測距 (3) 基礎的フローの構築 (4) レーダー識別 (5) SIDと誘導			2.0	
3. レベル3	(1) スキャニングの基礎 (2) スキャニングの演習 (3) スキャニングの習得			8.0	
4. レベル4	(1) レーダー機器等障害発生時の基本手順 (2) 精測レーダー進入 (3) RNAV進入 (4) 視認進入 (5) 連続演習			12.0	
5. 評価				2.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
航空路管制方式	ACC	実技	専門科目	管制科教官	52
教科書			使用教室	使用機材等	
航空管制実習要領 I 航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程 EN-ROUTE CHART AIM-J			航空路管制実習室	☑航空路管制実習装置	
位置づけ					
航空交通管制職員基礎試験科目(航空路管制方式)					
受講の前提条件					
航空路管制論 履修					
到達目標					
航空路管制方式の実際での適用方法を実習装置を使用して体得させるとともに専門研修に結びつく実践的な技能を習得し、シミュレーターを用いた基礎的な管制業務が行える。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. レベル2 (巡航機)	(1) 航空機との通信要領及び復唱の確認 (2) 高度の確認(巡航機) (3) 高度計規正值の提供 (4) レーダー交通情報の発出 (5) レーダー識別 (6) 周波数移管 (7) 周波数(VHF/UHF)の使い分け (8) システムハンドオフ (9) パーバルハンドオフ (10) 業務移管 (11) 移管情報 (12) 変更情報 (13) 飛行方向別高度 (14) 最低経路高度 (15) 最低利用可能フライトレベル (16) RVSM (17) 高度の指定 (18) セクター内調整 (19) 航空機からの要求への対応 (20) 高度変更ができない場合の措置 (21) 管轄空域と進入管制区の空域理解 (22) 航空機相互間の管制間隔		14.0	※レベル1は科目演習にて実施	
2. レベル3 (到着機)	(1) 降下指示の使い分け (2) 高度制限を含む降下指示 (3) 進入許可の計画と発出 (4) レーダー業務終了の通報 (5) 到着情報 (6) レーダー誘導(巡航機相互・巡航機→到着機) (7) 飛行経路の変更 (8) 管制処理の優先順位 (9) 制限空域等との管制間隔 (10) ハンドオフ調整(対ターミナル)		14.0		

航空路管制方式

授業項目	要点	時限	備考
3. レベル4 (出発機)	(1) 出発機に対する管制承認の発出 (2) レディオ空港の処理 (3) 待機の計画と指示発出 (4) 出発機のレーダー識別 (5) 高度の確認(巡航機以外) (6) 自動高度応答装置による表示高度の確認 (7) レーダー誘導等(巡航機－出発機) (8) レーダー誘導等(巡航機－到着機) (9) ハンドオフ調整(対隣接セクター)	14.0	
4. 評価		4.0	
5. レベル5 (総合)	(1) スペーシング (2) 速度調整 (3) タワー空港の処理	6.0	

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
電気通信術	通信術	実技	管制実習	情報科教官	2
教科書			使用教室	使用機材等	
			自教室	☑校務情報システム	
位置づけ					
無線従事者試験認定科目。					
受講の前提条件					
なし					
到達目標					
航空無線通信士の資格取得及び電話による航空通信の実施に必要な通信文送受のための電話通信術を習得し、国家資格を取得する。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 送受信方法解説	(1) 電波法令に基づく送信方法の解説 (2) 筆記受信要領の解説		1.0		
2. 送受信練習	(1) 欧文の送信及び受信の練習		1.0		
3. 評価	科目演習にて実施する次の試験を持って評価 「無線従事者(航空無線通信士)養成課程 終了試験				

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
総合実習	FFT	学科	専門科目	管制科教官	25
教科書			使用教室	使用機材等	
航空管制実習要領Ⅰ、Ⅱ 航空保安業務処理規程第5管制業務処理規程 AIM-J			自教室	☑飛行場管制実習装置 ☑ターミナル・レーダー 管制実習装置 ☑航空路管制実習装置	
位置づけ					
初任地の業務に応じた研修を行い、専門研修への繋ぎをもたせることを目的とする。 基礎研修課程の復習及び基本手順・基本動作の定着レベル向上を図ることを主題する。					
受講の前提条件					
飛行場管制論 進入管制論 ターミナル・レーダー管制論 航空路管制論 履修					
到達目標					
管制業務で求められる調整・コミュニケーション能力の必要性に気づくことができる。					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 総合実習 事前説明	(1) 総合実習の目的 (2) 総合実習の進め方 (3) 総合実習の内容・着眼点		1.0		
2. 飛行場管制方式	(1) スキャニングの定着度向上 (2) 交通情報の発出 (3) 順位付け (4) インターセクション ディパーチャー (5) 後方乱気流管制方式 (6) 予測間隔を用いる場合の適切な処置 (7) 訓練機及び通過機の取り扱いと、 適切な交通情報		24.0		
3. ターミナル・ レーダー管制方式	(1) 到着機の測距の定着度向上 (2) 指示順序、タイミングの精度向上 (3) スキャニングの定着度向上 (4) 交通情報発出のタイミングと要領の向上 (5) 出発/到着間の競合処理 (6) 交通流の構築 (7) 管制席間の調整業務				
4. 航空路管制方式	(1) ノンレーダー ア.位置通報 イ.管制承認発出 ウ.到着機の処理 エ.出発機の処理 オ.擦過の確認 (2) スペーシング ア.2機のスペーシング イ.航空機の要求への対応 ウ.業務の優先順位／状況認識 エ.プリプラン (3) 総合問題 ア.プリプラン イ.レーダー誘導等(高度処理) ウ.速度調整 エ.業務の優先順位／状況認識 オ.擦過の確認				

科目名称	略称	区別	種類	講師	時限数
科目演習(実技)	科目演習	実技	管制実習	管制科教官	8
教科書			使用教室	使用機材等	
			自教室 各管制実習室	☒ 校務情報システム ☒ 各管制実習装置	
位置づけ					
補講及び自主的な研修等により実技の研修効果を高める。					
受講の前提条件					
到達目標					
授業項目	要点		時限	備考	
1. 補講・自主研修等	(1) 実習室利用による演習 ア. 通信操作 イ. 機器操作 (2) IT教育システムの活用による演習 (3) 補講 (4) その他		8.0	各教官の調整により、シラバスを決定する。	